



Network Video Management System
Standard Edition 2016 R3

管理者マニュアル

目次

著作権、商標、および免責条項.....	10
はじめに	11
最低限のシステム要件について	11
ホスト名の命名について	11
重要なポート番号について	11
夏時間について	12
タイムサーバーについて	12
ウイルススキャンについて	13
システム概要.....	14
ソフトウェアとシステムコンポーネント.....	14
クライアント	15
Network Video Management System Smart Client	16
NVMS Mobile クライアント	16
Network Video Management System Web Client.....	18
Recording Server Manager	19
Network Video Management System Download Manager	20
ライセンス	22
ライセンスについて	22
ライセンス情報の概要	23
アクティベーションなしのデバイスの変更	24
ハードウェアデバイスの概要	25
ハードウェアデバイスの交換について	25

追加ライセンスの取得	26
ライセンス認証について	26
インストールとアップグレード.....	28
システムソフトウェアのインストール.....	28
Network Video Management System Smart Client のインストール	28
ビデオデバイスドライバのインストール	30
アップグレード	31
更新について	31
ある製品バージョンから、別の製品バージョンへのアップグレード.....	31
システムコンポーネントの削除について.....	31
初めての使用.....	32
Management Application のシステムの構成	32
推奨事例.....	34
録画データベースの破損からの保護について	34
設定に関する変更の保存について	35
組み込みヘルプの使用について	35
サービスの再起動について.....	36
モニターストレージ容量の使用率	36
Management Application でカメラからビデオを再生する.....	36
使用開始	38
スタートページについて	38
自動設定ウィザード.....	38
自動設定ウィザード：1 ページ目	38
自動設定ウィザード：スキャンオプション	38

自動設定ウィザード：スキャン対象のハードウェアのメーカーの選択	38
自動設定ウィザード：ハードウェアデバイスのスキャン	39
自動設定ウィザード：スキャン後の続き	39
ハードウェアの追加ウィザード	39
高速	40
手動	41
ストレージの設定ウィザード	43
ストレージの設定：ビデオ設定とプレビュー	43
ストレージの設定：オンラインスケジュール	44
ストレージの設定：(Motion-JPEG カメラ) ライブ設定および録画設定	45
ストレージの設定：H.264/MPEG4 カメラのライブ設定および録画設定	46
ストレージの設定：ドライブの選択	47
ストレージの設定：録画およびアーカイブの設定	49
モーション検知の調整ウィザード	50
モーション検知の調整：領域の除外	51
モーション検知の調整：モーション検知	51
ユーザーアクセスの管理ウィザード	53
ユーザーアクセスの管理：基本ユーザーと Windows ユーザー	54
ユーザーアクセスの管理：アクセスの概要	54
詳細設定	55
ハードウェアデバイス	55
ハードウェアデバイスについて	55
マイクについて	55
スピーカーについて	55
音声録音について	55
専用入力/出力デバイスについて	56
マイクやスピーカーの表示/非表示	56

ハードウェアデバイスの設定	56
ハードウェアデバイスの削除/無効化.....	57
ハードウェアデバイスの交換について.....	57
ハードウェアデバイス交換ウィザードについて.....	58
スピーカープロパティ	59
ハードウェアプロパティ	60
カメラとストレージの情報	62
ビデオや録画の設定について.....	62
データベースのサイズ変更について	62
モーション検知について	63
モーション検知および PTZ カメラについて	64
特定カメラスケジュールの構成	64
カメラがいつ、何を必要があるかを設定する	66
モーション検知の設定	66
カメラの無効化または削除.....	67
PTZ タイプ 1 および 3 を、必要な位置へ移動する.....	67
録画およびストレージのプロパティ	68
カメラプロパティ	82
MJPEG コーデック	83
MPEG コーデック.....	85
マイク	98
マイクについて	98
マイクまたはスピーカーの設定	99
マイクやスピーカーの表示/非表示	99
マイク (プロパティ)	99
イベントおよび出力.....	100
入力および出力について	100
イベントおよび出力について.....	100

イベントおよび出力の概要.....	100
アナリティックイベントの追加.....	102
ハードウェア入力イベントの追加.....	102
ハードウェア出力の追加.....	103
手動イベントの追加.....	104
ジェネリックイベントの追加.....	104
タイマーイベントの追加.....	105
イベントでのハードウェア出力の設定.....	105
一般的なイベント処理の設定.....	105
アナリティックイベントに基づくアラームの生成.....	107
ジェネリックイベントのテスト.....	107
ジェネリックイベントプロパティ.....	108
イベントおよび出力プロパティ.....	109
スケジュールおよびアーカイブ.....	117
スケジュールについて.....	117
アーカイブについて.....	117
一般的なスケジュールおよびアーカイブの設定.....	122
一般的なスケジュールのプロパティ.....	122
カメラ固有のスケジュールプロパティ.....	125
ログ.....	126
ログについて.....	126
システム、イベント、監査ログの設定.....	129
ログプロパティ.....	129
通知.....	130
通知について.....	130
E メール.....	131
SMS.....	133
スケジューリング.....	135

サーバーアクセス.....	136
サーバーアクセスについて.....	136
登録済みサービスについて.....	136
サーバーアクセスの設定	136
サーバーアクセスプロパティ	137
マスター/スレーブ.....	138
マスターおよびスレーブについて	138
マスターおよびスレーブサーバーの設定.....	139
マスター/スレーブプロパティ	139
ユーザー.....	140
ユーザーについて.....	140
基本ユーザーの追加.....	140
Windows ユーザーの追加.....	141
ユーザーグループの追加	141
ユーザーおよびグループの権限の設定.....	142
ユーザープロパティ	142
サービス.....	146
サービスについて.....	146
トレイアイコンについて	147
サービスを開始および停止する	148
Event Server サービスの開始、停止、再起動	148
サーバー.....	148
NVMS Mobile	149
アラーム.....	165
アラームについて.....	165
マップについて	167
アラームの追加	167

(アラームの) 時間プロファイルの追加	167
アラームプロパティ	168
オプション	172
自動デバイス検出について	172
デフォルトのファイルパスの変更	172
設定	173
一般	173
ユーザーインターフェース	173
ハードウェアデバイスの接続	173
デフォルトのファイルパス	175
オーディオ・レコーディング (音声記録)	176
アナリティックイベント (プロパティ)	176
イベントサーバー設定	177
システムのメンテナンス	178
バックアップおよび復元の設定	178
設定のバックアップおよび復元について	178
システム設定のバックアップ	178
システム設定の復元	178
アラームおよびマップ設定のバックアップと復元	179
Management Application 設定のエクスポートとインポート	182
復元ポイントからのシステム設定の復元	183
設定に対する変更のインポート	184
設定に対する変更のインポートについて	184
変更を構成にインポートするときに必要な CSV ファイルのフィールドについて	184
設定に対する変更のインポート	185
用語集	186

索引	193
----------	-----

著作権、商標、および免責条項

著作権 : © 2016 Sony Corporation

商標

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の登録商標です。App Store は Apple Inc. のサービスマークです。Android は Google Inc. の商標です。

本書に記されているその他の商標はすべて、それぞれ該当する所有者の商標です。

免責条項

このマニュアルは一般的な情報を提供するためのものであり、その作成には細心の注意が払われています。

この情報を使用することにより発生する危険の責任はすべてその使用者にあるものとします。また、ここに記載されている内容はいずれも、いかなる事項も保証するものではありません。

Sony Corporation は、事前の通知なしに変更を加える権利を有するものとします。

本書の例で使用されている人物および組織の名前はすべて架空のものです。実在する組織や人物に対する類似性は、それが現存しているかどうかにかかわらず、まったくの偶然であり、意図的なものではありません。

この製品では、特定の契約条件が適用される可能性があるサードパーティ製ソフトウェアを使用することがあります。その場合、詳細は Sony 監視システムのインストールフォルダにあるファイル

3rd_party_software_terms_and_conditions.txt にあります。

はじめに

最低限のシステム要件について

各種システムコンポーネントの最低システム要件については、Sony Web サイト <http://www.sony.net/CameraSystem/Product-info> をご覧ください。

ホスト名の命名について

VMS システムに関連して使用するホスト名は、Microsoft 命名標準に従う必要があります。つまり、すべてのホスト名は、ASCII 文字「a」から「z」（大文字と小文字を区別しない）、数字「0」から「9」、およびハイフン（「-」）のみ使用する必要があります。国または地域固有の文字が VMS で使用するコンポーネントのホスト名に含まれている場合は、システムとホストコンピュータ間で接続を確立できない場合があります。

監視システムを実行するコンピュータで管理者権限が必要です。管理者権限がない場合は、監視システムを設定できません。

重要なポート番号について

システムがコンピュータ、カメラ、その他のデバイスと通信するときには、特定のポートが使用されます。システムが可能な限りスムーズに動作することを保証するためには、システムを使用するときにネットワーク上でデータトラフィック用に次のポートが開いていることを確認してください。

名前	詳細
ポート 20 および 21 (インバウンドおよびアウトバウンド)	FTP トラフィックに使用。 FTP (File Transfer Protocol) は、ネットワークでのファイル交換プロトコルの標準です。FTP はデータ転送で TCP/IP 標準を使用し、サーバーとの間でのファイルのアップロードやダウンロードで使用されます。
ポート 25 (インバウンドおよびアウトバウンド)	SMTP トラフィックに使用。 SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) はサーバー間での E メールメッセージ送信の標準です。一部のカメラは E メールで監視システムに画像を送信するので、このポートが開いている必要があります。
ポート 80 (インバウンドおよびアウトバウンド)	監視サーバー、カメラ、Network Video Management System Smart Client の間での HTTP トラフィックに使用。 監視システムの Image Server サービスのデフォルト通信ポートです。
ポート 554 (インバウンドおよびアウトバウンド)	H.264 ビデオストリーミング接続時、RSTP トラフィックに使用します。
ポート 1024 (アウトバウンドのみ)	カメラと監視サーバーの間での HTTP トラフィックに使用。
ポート 1234 (インバウンドおよびアウトバウンド)	イベントの処理で使用。

名前	詳細
ポート 8081 および 8082	Mobile サービスとの通信で使用。
ポート 22331	Event Server サービスとの通信で使用。

他のポート番号も使用できます。たとえば、サーバーアクセス 『137ページ』 ポートをデフォルトの 80 番ポートから別のポート番号に変更できます。

夏時間について

夏時間(DST)は、夕方の日照時間を長く、朝の日照時間を短くするために、時計を進める制度です。DST の使用は、国/地域によって異なります。

監視システムでの作業では、本質的に時間が重要であるため、システムがどのように DST に対応するかを知っておくことが重要です。

春：標準時間から DST へ切り替える

標準時間から DST への変更は、時計を 1 時間進めるのであまり問題ではありません。

例：

時計は 02:00 (標準時間) から 03:00 (DST) へと進められるので、その日は 23 時間となります。その場合、その朝の 02:00 から 03:00 の間にデータはありません。その日にはその時間は存在しなかったためです。

秋：DST から標準時間へ切り替える

秋に DST から標準時間へ切り替えるとき、時計を 1 時間戻します。

例：

時計は 02:00 (DST) から 01:00 (標準時間) に戻されるので、その日は 25 時間となります。01:59:59 に達すると、すぐに 01:00:00 に戻ります。システムが応答しなかった場合、基本的にはその時間を再録画します。最初の 01:30 は、2 回目の 01:30 によって上書きされます。

この問題が発生しないようにするために、システム時刻が 5 分以上変更された場合、現在のビデオがアーカイブされます。クライアントでは 01:00 時間の最初の発生を直接表示できませんが、データは録画され、安全です。Network Video Management SystemSmart Client でこのビデオを参照するには、アーカイブされたデータベースを直接開きます。

タイムサーバーについて

システムがカメラから画像を受信するときには、これらの画像にはすぐにタイムスタンプが付けられます。ハードウェアデバイスは別個のユニットであり、別個のタイミングデバイスを持っているので、ハードウェアデバイスの時刻と使用しているシステムの時刻が完全に同期しないことがあります。結果として、ハードウェアデバイス時刻とシステム時刻間で不一致がある場合は、ハードウェアデバイスの録画をすべて一緒に停止することがあります。

これを防止するには、時刻サーバーを使用して、カメラとシステム時刻を自動的に同期します。これにより、時刻同期を一貫させることができます。タイムスタンプをサポートしないカメラがあるため、時刻サーバーを使用する前に、カメラがこれをサポートすることを確認してください。

必要に応じて、時刻サーバーとして録画サーバーを使用できます『173ページ の"ハードウェアデバイスの接続"参照』。

ウイルススキャンについて

他のデータベースソフトウェアの場合と同様に、Network Video Management System ソフトウェアを実行しているコンピュータにアンチウイルスプログラムがインストールされている場合は、特定のファイルのタイプや場所、ならびに特定のネットワーク通信を除外することが重要になります。このような例外を設定しておかないと、ウイルススキャンで大量のシステムリソースが消費されてしまいます。さらに、スキャンプロセスによってファイルが一時的にロックされ、その結果として録画プロセスが中断されたり、データベースが破損する場合もあります。

ウイルススキャンを実行する必要がある場合は、録画データベースを含んでいる Recording Server ディレクトリをスキャンしないでください。録画サーバーディレクトリはデフォルトで c:\¥mediadatabase¥ に設定されています。すべてのフォルダもその場所にあります。

また、アーカイブ保存ディレクトリでもウイルススキャンは実行しないでください。以前のバージョンのソフトウェアでは、デフォルトで、データベースはインストールフォルダに配置され、それぞれが録画されるデバイスの MAC アドレスを持つサブフォルダとなっています。

以下を除外に追加してください。

- ファイルのタイプ : .blk、.idx、.pic、.pqz、.sts、.ts
- C:\¥Program Files¥Sony または C:\¥Program Files (x86)\¥Sony およびすべてのサブディレクトリ。
- 次の TCP ポートでのネットワークスキャンを除外：

製品	TCP ポート
Network Video Management System Standard Edition 製品	80, 25, 21, 1234, 1237, 22331
NVMS Mobile	8081

または

- 以下のプロセスのネットワークスキャンを除外：

製品	プロセス
Network Video Management System Standard Edition 製品	RecordingServer.exe、ImageServer.exe、ManagementApplication.exe、ImageImportService.exe、RecordingServerManager.exe、VideoOS.ServiceControl.Service.exe、VideoOS.Event.Server.exe
NVMS Mobile	VideoOS.MobileServer.Service.exe

組織によってはウイルススキャンに関する厳密な方針があるかもしれませんが、上記の場所やファイルをウイルススキャンから除外することが重要です。

システム概要

ソフトウェアとシステムコンポーネント

このシステムは多数のコンポーネントにより構成されており、それぞれ特定のタスクやユーザータイプをターゲットとしています。

ソフトウェアコンポーネント

Management Application	<p>Management Application はカメラを追加し、ユーザーを設定し、システムを構成するメインアプリケーションです。</p> <p>ライブ、再生、またはアーカイブビデオの表示には、Management Application を使用しません。代わりに、表示クライアントのいずれかを使用します。</p>
Network Video Management System Smart Client	<p>Network Video Management System Smart Client は、セキュリティインストールの日常的な操作のためのクライアントです。合理化されたインターフェースにより、あらゆるサイズのインストールの監視、セキュリティインシデントの管理、ライブまたは録画されたビデオへのアクセスやエクスポートが簡単に行えます。</p> <p>システムに接続し、ビデオを表示できるようにする任意のコンピュータで、Network Video Management System Smart Client をインストールする必要があります。</p> <p>Sony では、監視システムに含まれている新しい特徴や機能を最大限に利用できるように、必ず最新バージョンの Network Video Management System Smart Client を使用することを推奨しています。</p>
NVMS Mobile	<p>Sony によって設計された、システムのビデオを表示できる無料のアプリケーションで、スマートフォンやタブレットで、ほぼどこからでも監視映像を見ることができます。</p> <p>システムに接続し、ビデオを表示できるようにするすべてのデバイスで、NVMS Mobile をインストールする必要があります。</p> <p>また、ドアの開閉や照明のオン/オフなどの出力を制御することができ、システムでのインシデントをコントロールし、ダイナミックに応答することができます。</p>
Network Video Management System Web Client	<p>大半のオペレーティングシステムや Web ブラウザからのビデオを表示、再生、共有できる、Network Video Management System 監視システム用の簡素化された Web ベースのクライアントアプリケーション。</p> <p>Network Video Management System Web Client にアクセスするには、ソフトウェアをインストールする必要はありません。Network Video Management System Web Client 経由でシステムにアクセスするには、監視システムのサーバーのアドレスを知っている必要があります。</p>

システムコンポーネント

Recording Server サービス	<p>Recording Server サービスを実行することで、デバイスから確実にビデオストリームがシステムに転送されます。Recording Server サービスのインストールは自動的に行われ、監視システムサーバーでバックグラウンドで実行されます。</p> <p>サービスは、Management Application で管理します。</p>
Event Server サービス	<p>組織全体でのマスター/スレーブ設定を含めて、監視システムがインストールされた、すべてのサーバーからのアラームやマップの設定を扱います。</p> <p>Event Server サービスにより、アラームおよびシステム内で発生する可能性がある技術的な問題のモニターが可能になり、その概要が即時に表示できます。</p> <p>イベントサーバーは、監視システムサーバーに自動的にインストールされ、バックグラウンドで実行されます。</p>
Microsoft® SQL Server Express データベース	<p>監視システムのアラームデータは、SQL Server Express データベースに保存されます。</p> <p>SQL データベースは、完全版 SQL Server と比較して軽量にもかかわらず強力なバージョンです。自動的に監視システムサーバーにインストールされ、バックグラウンドで実行されます。</p>
Image Server サービス	<p>クライアントにログインしているユーザーの監視システムへのアクセスを処理します。</p> <p>Image Server サービスのインストールは自動的に行われ、監視システムサーバーでバックグラウンドで実行されます。サービスは、Management Application で管理できます。</p>
Download Manager	<p>組織のユーザーが、監視システムサーバー上のようこそページからアクセス可能なシステム関連機能を管理します。</p>

クライアント

クライアントは、Management Application でセットアップしたハードウェアデバイスのライブビューおよび録画ビデオの再生に使用するアプリケーションです。

システムでは、次の 3 種類の異なるクライアントをサポートしています。

- Network Video Management System Smart Client
- NVMS Mobile クライアント
- Network Video Management System Web Client

Network Video Management System Smart Client

Network Video Management System Smart Client について

Sony Network Video Management System IP ビデオ管理ソフトウェア用に設計された Network Video Management System Smart Client は、セキュリティのインストールを直観的な方法で管理できる使いやすいクライアントアプリケーションです。Network Video Management System Smart Client でセキュリティのインストールを管理することで、ユーザーはライブおよび録画ビデオ、カメラおよび接続済みのセキュリティデバイスの即時制御、録画の概要表示にアクセスできます。Network Video Management System Smart Client は適応力の高いユーザーインターフェースを、複数の言語で使用できます。各オペレータの作業に応じて最適化し、特定のスキルや権限レベルに応じて調節が可能です。



このインターフェースで、部屋の照明やビデオの輝度に応じて、テーマの明暗を選択することで、特定の作業環境に合わせてカスタマイズすることができます。また、作業用に最適化されたタブや、統合ビデオタイムラインによって、監視の操作が簡単になります。

Network Video Management System Smart Client をユーザーのコンピュータにインストールする必要があります。監視システム管理者は、Management Application を通じて、クライアントの監視システムへのアクセスを管理します。クライアントが表示する録画データは、Network Video Management System システムの Management Application サービスによって配信されます。サービスは、監視システムサーバーのバックグラウンドで実行されます。別個のハードウェアは不要です。

Network Video Management System Smart Client をダウンロードするには、監視システムサーバーに接続する必要があります。接続すると、使用可能なクライアントの言語とバージョンを一覧表示するようこそページが表示されます。システム管理者は Network Video Management System Download Manager を使用して、Network Video Management System Download Manager のようこそページでユーザーに対して使用可能にするクライアントの言語とバージョンをコントロールできます。

NVMS Mobile クライアント

NVMS Mobile クライアントについて

NVMS Mobile クライアントは、モバイル監視ソリューションで、Network Video Management System システムの他の部分と密接に統合されます。クライアントは、Android タブレットまたはスマートフォン、Apple®タ

タブレットまたはスマートフォン、携帯ミュージックプレーヤー、Management Client でセットアップされたカメラ、ビュー、その他の機能にアクセスすることができます。

NVMS Mobile クライアントを使用して、複数のカメラのライブビューの確認および録画されたビデオの再生を行ったり、パン/チルト/ズーム(PTZ)カメラの制御や、出力やイベントを実行することができます。また、ビデオ配信機能を使用して、使用しているモバイルデバイスのビデオを Network Video Management System システムに送信します。



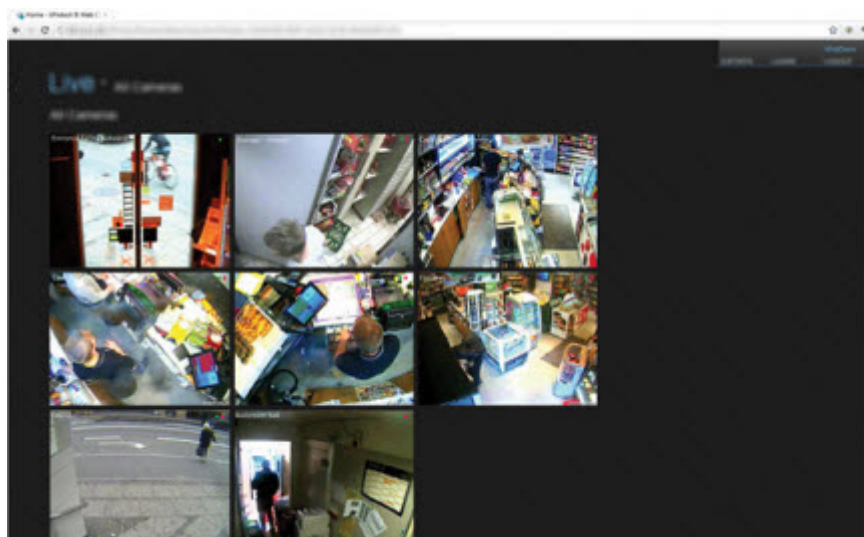
システムで NVMS Mobile クライアントを使用したい場合は、モバイルサーバーを追加して、NVMS Mobile クライアントと使用しているシステムの間での接続を確立する必要があります。モバイルサーバーをセットアップしたら、Google Play、App Store から NVMS Mobile クライアントを無料でダウンロードし、NVMS Mobile の使用を開始します。

ビデオを Network Video Management System システムにプッシュ配信するデバイスごとに必要なデバイスライセンスは 1 つです。

Network Video Management System Web Client

Network Video Management System Web Client について

Network Video Management System Web Client は、Web ベースのクライアントアプリケーションであり、ビデオを表示、再生、共有できます。ライブビデオの表示、録画ビデオの再生、証拠の印刷やエクスポートなど、最も頻繁に使用される監視機能に瞬時にアクセスできます。機能へのアクセスは、管理サーバーでセットアップされる個別のユーザー権限により異なります。



Network Video Management System Web Client へのアクセスを有効にするには、mobile サーバーをインストールして、Network Video Management System Web Client と使用しているシステムの間での接続を確立する必要があります。Network Video Management System Web Client 自体は、インストールを必要とせず、大半のインターネットブラウザで動作します。Mobile サーバーをセットアップしたら、インターネットアクセスが可能なコンピュータやタブレットで、どこからでも（適切な外部/インターネットアドレス、ユーザー名およびパスワードが分かっていることが必要）Network Video Management System システムを監視することができます。

Network Video Management System Web Client へのアクセス

NVMS Mobile サーバーがコンピュータにインストールされている場合、Network Video Management System Web Client を使用して、カメラとビューにアクセスできます。Network Video Management System Web Client をインストールする必要はないため、NVMS Mobile サーバーをインストールしたコンピュータまたはこの目的で使用するその他のすべてのコンピュータからアクセスできます。

1. Management Application で NVMS Mobile サーバーを設定します。
2. NVMS Mobile サーバーがインストールされているコンピュータを使用している場合、システムトレイの NVMS Mobile サーバーアイコンを右クリックし、**[Network Video Management System Web Client を開く]**を選択します。
3. NVMS Mobile サーバーがインストールされているコンピュータを使用しない場合は、ブラウザからアクセスできます。このプロセスで手順 4 を続行します。
4. インターネットブラウザ(Internet Explorer、Mozilla Firefox、Google Chrome、Safari)を開きます。

5. 外部 IP アドレスを入力します。これは、NVMS Mobile サーバーが実行されているサーバーの外部アドレスとポート番号です。

例 : NVMS Mobile サーバーが IP アドレス 127.2.3.4 のサーバーにインストールされ、ポート 8081 で HTTP 接続を許可し、ポート 8082 で HTTPS 接続を許可するように設定されます (インストーラのデフォルト設定)。

ブラウザのアドレスバーに、標準 HTTP 接続を使用するか、安全な HTTPS 接続を使用するかによって、http://1.2.3.4:8081 または https://1.2.3.4:8082 と入力します。これで、Network Video Management System Web Client を使用できます。

6. 今後、Network Video Management System Web Client に簡単にアクセスできるように、アドレスをブラウザのブックマークに追加します。NVMS Mobile サーバーをインストールしたローカルコンピュータで Network Video Management System Web Client を使用する場合は、インストーラで作成されたデスクトップショートカットも使用できます。ショートカットをクリックしてデフォルトのブラウザを起動し、Network Video Management System Web Client を開きます。

Network Video Management System Web Client の新しいバージョンを使用するには、Network Video Management System Web Client を実行しているインターネットブラウザのキャッシュをクリアする必要があります。システム管理者は、アップグレードの際に Network Video Management System Web Client ユーザーにブラウザのキャッシュのクリアを依頼するか、この操作をリモートで強制的に実行する必要があります (この操作を実行できるのは、ドメインでの Internet Explorer だけです)。

Recording Server Manager

Recording Server サービスは、監視システムの重要な部分です。ビデオストリームがシステムに転送されるのは、Recording Server サービスが実行されている間だけです。Recording Server Manager が、Recording Server サービスの状態を通知します。また、サービスの管理も行います。

通知エリア (システムトレイ) で、Recording Server Manager のアイコンが Recording Server サービスが実行中であるかどうかを示します。



- 通知エリアのアイコンが緑色であれば、Recording Server サービスは実行中です。



- 通知エリアのアイコンが赤色であれば、Recording Server サービスは停止中です。

このアイコンを右クリックすると、Management Application の起動、Recording Server サービスの開始や停止、ログファイルの表示、バージョン情報の表示などを行うことができます。

システムステータスの監視

通知エリアの Recording Server アイコンを右クリックし、**システムステータスの表示** を選択すると、**ステータスウィンドウ** にアクセスできます。

ステータスウィンドウ では、画像サーバーや接続されているカメラのステータスを表示できます。それぞれのサーバー/カメラのステータスは、色によって示されます。

- **緑色** は、サーバーまたはカメラが正しく実行されていることを示しています。
- **灰色** は、**カメラ** (サーバーではなく) が実行中でないことを示しています。通常、以下の状況では、カメラが灰色で示されます。
 - カメラがオンラインでない (カメラのオンライン期間のスケジュールで指定)。
 - Recording Server サービスが停止している。

- **赤色**は、サーバーまたはカメラが実行されていないことを示しています。これは、接続の問題か、ネットワークまたはハードウェアエラーの可能性があります。エラーは、Recording Server ログファイルにリスト化されます。

ステータスウィンドウでマウスポインタをカメラの上へ移動させると、関連するカメラの詳細が表示されます。情報はポップアップとして表示され、約 10 秒毎に更新されます。

解像度	カメラの解像度。
FPS	現在カメラが使用している 1 秒あたりのフレーム数（フレームレート）。カメラが 50 フレームを受信する毎に、この数が更新されます。
フレームカウント	Recording Server サービスの起動後、カメラから受信したフレームの数。
受信(KB)	Recording Server サービスの起動後、カメラが送信したキロバイト数。
オフライン	エラーによってカメラがオフラインになった回数。

Network Video Management System Download Manager

Network Video Management System Download Manager では、組織がアクセスできるシステム関連機能を管理できます。監視システムサーバーの対象ウェルカムページから、Network Video Management System Download Manager にアクセスできます。

- Windows のスタートメニューから Download Manager Network Video Management System にアクセスするには**すべてのプログラム > Sony Network Video Management System Download Manager > Download Manager** を選択します。

ユーザーがアクセスできる機能の例

- **Network Video Management System Smart Client**。ユーザーは、インターネットブラウザを通じて監視サーバーに接続します。ようこそページが表示されます。ようこそページで、Network Video Management System Smart Client ソフトウェアをダウンロードし、使用しているコンピュータにインストールすることができます。
- **さまざまなプラグイン**。組織で監視システムと共にアドオン製品を使用している場合、このようなプラグインのダウンロードがユーザーにとって必要な場合があります。

ようこそページ（監視サーバーWeb サイトのトップページ）

ようこそページには、さまざまな機能のダウンロードのリンクがあります。ユーザーは、ようこそページの右上のメニューで言語を選択できます。

ようこそページを表示するには、インターネットブラウザ（例、Internet Explorer バージョン 6.0 かそれ以上）を起動して、以下のアドレスに接続します。

http://[監視サーバーの IP アドレスまたはホスト名]

デフォルトのポート 80 以外のポート番号で Image Server サービスを設定（サーバーアクセスプロパティの一部として設定）している場合、ユーザーは以下のように IP アドレスまたはホスト名に加えて、コロンで区切ったポート番号も指定する必要があります。

http://[監視サーバーの IP アドレスまたはホスト名]:[ポート番号]

ようこそページの内容は、Network Video Management System Download Manager によって管理されており、組織によって内容は異なります。

システムをインストールすると、ようこそページから、すぐにすべての言語で Network Video Management System Smart Client にアクセスできます。64 ビットのオペレーティングシステムを実行している場合は 32 ビットまたは 64 ビット、32 ビットのオペレーティングシステムを実行している場合は 32 ビットの Network Video Management System Smart Client をダウンロードすることができます。ようこそページの最初の表示内容は、Network Video Management System Download Manager のデフォルト設定によって自動的に決まります。

Network Video Management System Download Manager のデフォルト設定

Network Video Management System Download Manager には、デフォルトの設定があります。これによって、監視システム管理者が何も設定しなくても、組織のユーザーは標準の機能にアクセスできます。Network Video Management System Download Manager の構成は、ツリー構造で表現されます。

Download Manager のツリー構造の説明：

- ツリー構造の 1 番目のレベルは、現在作業をしているシステムを示しています。
- 2 番目のレベルは、これがデフォルトの設定であることを示します。
- 3 番目のレベルは、ようこそページで使用できる言語を示しています。この例では、ようこそページは多くの言語で使用できます（英語、アラビア語、デンマーク語、オランダ語、フランス語など）。
- 4 番目のレベルは、ユーザーが使用できる機能を示します。たとえば、これらの機能を Network Video Management System Smart Client に限定することができます。
- 5 番目のレベル（5）は、それぞれの機能のバージョンを示しています。たとえば、バージョン 4.0、32 ビットなどをユーザーが使用できるようにすることができます。
- 6 番目のレベル（6）は、ユーザーが使用できる機能の言語バージョンを示します。すべての言語が組み込まれている Network Video Management System Smart Client では、唯一のオプションは**すべての言語**です。

標準機能だけが使用できるように初期設定されていることで、インストール時間が短縮でき、サーバーの容量が節約できます。誰も使用しない機能や言語バージョンをサーバーで有効にする必要はありません。必要であれば、より多くの機能および言語を使用可能にすることができます。

新しい機能を使用可能にする

新しい機能をインストールすると、これらの機能は Network Video Management System Download Manager でデフォルトで選択され、ようこそページを通じてすべてのユーザーがただちに使用できるようになります。

ツリー構造でチェックボックスを選択または選択解除することで、ようこそページで機能を表示または非表示にすることができます。項目をドラッグして、関連する位置へドロップすることで、機能や言語がようこそページで表示される順番を変更することができます。

機能の非表示および削除

機能は、複数の方法で削除できます。

Network Video Management System Download Manager のツリー構造のチェックボックスをクリアして、ようこそページで**機能を非表示に**することができます。この操作を行っても、その機能は依然として監視システムサーバーに存在しており、ツリー構造でチェックボックスを選択すれば、すぐに再度使用可能にすることができます。

以前に Network Video Management System Download Manager で使用可能であった機能を削除することができます。この操作は、監視システムサーバーにある機能をアンインストールします。機能は Network Video Management System Download Manager で表示されなくなりますが、その機能のインストールファイルは監視システムサーバーのインストーラまたは関連する言語フォルダに保持されているので、必要に応じて、後から再インストールすることも可能です。操作方法：

1. Network Video Management System Download Manager で、**機能の削除...**をクリックします。
2. **機能の削除**ウィンドウで、削除したい機能を選択します。
3. **OK** をクリックしてから、**はい**をクリックします。

ライセンス

ライセンスについて

インストールが完了し、ライセンスを認証した時点で、**スタートページ**で現在のインストールのライセンス概要『23ページ の"ライセンス情報の概要"参照』を確認できます。

少なくとも 2 つのライセンスを購入しています。

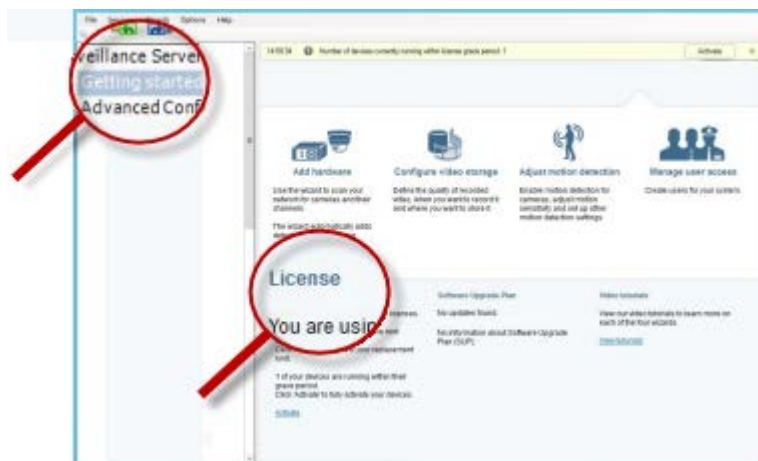
基本ライセンス：最低限、Network Video Management System 製品のいずれかの基本ライセンスがあります。Network Video Management System アドオン製品には 1 つ以上の基本ライセンスがある場合もあります。

ハードウェアデバイスライセンス：Network Video Management System システムに追加するすべてのハードウェアデバイスには、ハードウェアデバイスライセンスが必要です。カメラに接続されたスピーカー、マイク、または入出力デバイスのハードウェアデバイスライセンスは不要です。複数のカメラをビデオエンコーダーに接続している場合でも、必要なハードウェアデバイスライセンスはビデオエンコーダー IP アドレスにつき 1 つだけです。ビデオエンコーダーには 1 つ以上の IP アドレスがある場合があります。

詳細については、SonyWeb サイト <http://www.sony.net/CameraSystem/NVMS/Technical-documents> でサポートされているハードウェアの一覧を参照してください。NVMS Mobile でビデオプッシュ機能を使用する場合は、システムに動画をプッシュするモバイルデバイスまたはタブレットごとに 1 つのハードウェアデバイスライセンスも必要です。ハードウェアデバイスライセンスが不足している場合、あまり重要ではないハードウェアデバイスを無効『67ページ の"カメラの無効化または削除"参照』にして、代わりに新しいカメラデバイスを実行させることもできます。カメラに接続されていない一部のデバイス用のハードウェアデバイスライセンスが必要になる場合もあります。カメラ非依存デバイスの例は、周辺検出装置、一部のタイプの音声デバイスや入出力ボックスなどです。Sony Web サイトの「サポートされているハードウェアサイト」<http://www.sony.net/CameraSystem/NVMS/Technical-documents> を参照してください。

ライセンス情報の概要

左下端の【ライセンス】の下の【スタート】ページで、ハードウェアデバイスライセンスに関する次の情報を参照してください。



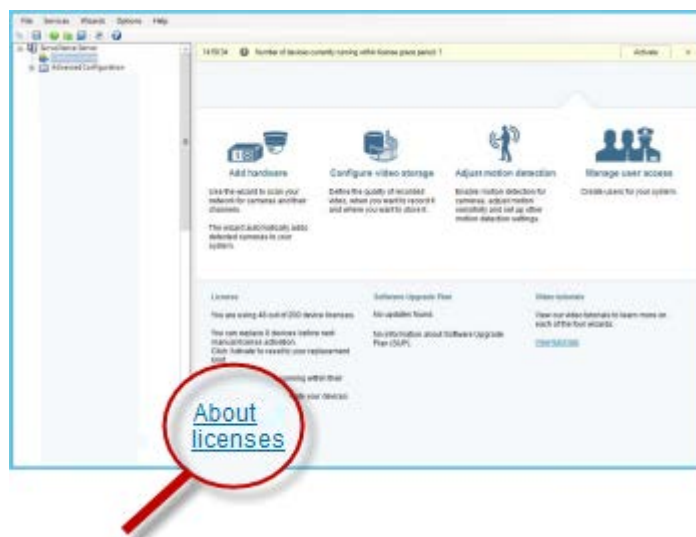
- このサーバーで人法されたハードウェアデバイスライセンス数と、同じソフトウェアライセンスファイルの一部として購入したハードウェアデバイスライセンスの合計数。
- マスター/スレーブ設定の複数の監視システムで、同じソフトウェアライセンスファイルが共有される場合は、ライセンス概要には、すべてのシステム用に購入したライセンスの同じ合計数が表示されます。

空きライセンス数を確認するには、すべてのシステムで認証済みのライセンス数を追加し、この数を購入済みライセンスの合計数から差し引きします。

- VMS システムの各サーバーに追加できるハードウェアデバイスの最大数。この最大値を超えるには、より高度な Network Video Management System VMS 製品にアップグレードする必要があります。この場合は、詳細について、リセラーまでお問い合わせください。
- 認証せずに交換または追加した認証済みハードウェアデバイス数。
【アクティベーションなしの変更】列には、ハードウェアデバイスライセンスを認証せずに交換または追加できるハードウェアデバイス数と、前回の認証以降に行った変更数が示されます。アクティベーションなしのデバイスの変更数内で追加されたハードウェアデバイスは完全に認証されたハードウェアデバイスライセンスとして実行され、【ハードウェアデバイス概要】『25ページ』の“ハードウェアデバイスの概要”参照』テーブルに【ライセンス】ステータスが表示されます。
- 30 日間の猶予期間で実行中のハードウェアデバイス数。認証なしのデバイス変更数を使い切った場合、または購入したライセンスより多いハードウェアデバイスを追加した場合は、追加されたハードウェアデバイスが猶予期間で実行されます。猶予期間が終了すると、カメラが無効になり、システムへのビデオの送信を停止します。ハードウェアデバイスの最初の猶予期間が終了する日時を確認することもできます。

メンテナンスの容易性と柔軟性のため、VMS システムは、ハードウェアデバイスを追加または削除するたびに、自動的にオンラインでライセンスを認証するように設定されています。当然、自動ライセンス認証では、システムがインターネットに接続されている必要があります。

システムがインターネットに接続していない状態で、認証なしのデバイス変更数内でハードウェアデバイスを追加または交換したり、猶予期間で実行中のハードウェアデバイスを追加したりした場合は、**【認証】**リンクをクリックして、ハードウェアデバイスライセンスを認証してください。アクティベーションなしのデバイスの変更数は、新しい数の認証済みライセンスを反映します。十分なライセンスを購入すると、以前に猶予期間であったハードウェアデバイスは認証済みになります。詳細については、「ライセンス認証について 『26ページ』」を参照してください。



アクティベーションなしのデバイスの変更

アクティベーションなしのデバイスの変更数の計算方法

アクティベーションなしのデバイスの変更は、3つの変数に基づいて計算されます。Sony ソフトウェアの複数のインストールがある場合は、変数はそれぞれに個別に適用されます。変数は以下のとおりです。

- 認証済みライセンスの合計数の固定割合を示す **C%**。
- アクティベーションなしのデバイスの変更数の固定最小値を示す **Cmin**。
- アクティベーションなしのデバイスの変更数の固定最大値を示す **Cmax**。

アクティベーションなしのデバイスの変更数は、**Cmin** 値より低くしたり、**Cmax** 値より高くすることはできません。**C%** 変数に基づいて計算された値は、システムの各インストールにある認証済みデバイス数に応じて変化します。アクティベーションなしのデバイスの変更によって追加されたデバイスは、**C%** 変数による認証としてカウントされません。

Sony は 3 つのすべての変数の値を定義し、値は通知なく変更される場合があります。変数の値は製品によって異なります。

C% = 15%、Cmin = 10、Cmax = 100 に基づく例

お客様が 100 個のハードウェアデバイスライセンスを購入します。100 台のカメラをシステムに追加します。アクティベーションなしのデバイスの変更が 15 になります。

お客様が 100 個のハードウェアデバイスライセンスを購入します。100 台のカメラをシステムに追加し、ライセンスを認証します。アクティベーションなしのデバイスの変更は現在 15 です。お客様は、システムからハードウ

ウェアデバイスを削除することになりました。現在 99 台のデバイスが認証され、アクティベーションなしのデバイスの変更数は 14 まで減りました。

お客様が 1000 個のハードウェアデバイスライセンスを購入します。1000 台のカメラを追加し、ライセンスを認証します。アクティベーションなしのデバイスの変更数は現在 100 です。**C%**変数に従い、アクティベーションなしのデバイスの変更数が 150 になりましたが、**Cmax** 変数のためアクティベーションなしのデバイスの変更数は 100 以下に制限されています。

お客様が 10 個のハードウェアデバイスライセンスを購入します。10 台のカメラをシステムに追加し、ライセンスを認証します。**Cmin** 変数により、アクティベーションなしのデバイスの変更数は現在 10 です。数が **C%**変数にのみ基づいて計算されている場合は、1 (10 の 15% = 1.5、1 に切り捨て) しかありません。

お客様が 115 個のハードウェアデバイスライセンスを購入します。100 台のカメラをシステムに追加し、ライセンスを認証します。アクティベーションなしのデバイスの変更は現在 15 です。認証せずに別の 15 台のカメラを追加します。アクティベーションなしのデバイスの変更 15 のうち 15 を使用します。50 台のカメラをシステムから削除し、アクティベーションなしのデバイスの変更は 7 まで下がります。つまり、アクティベーションなしのデバイスの変更 15 を使用して前に追加したカメラ 8 台が猶予期間になります。お客様は 50 台の新しいカメラを追加します。前回ライセンスを認証したときにシステムで 100 台のカメラを認証したため、アクティベーションなしのデバイスの変更は 15 に戻ります。猶予期間になった 8 台のカメラはアクティベーションなしのデバイスの変更として元の状態に戻ります。50 台の新しいカメラは猶予期間になります。

ハードウェアデバイスの概要

ハードウェアデバイスライセンスとチャネルのステータスの概要は、**詳細設定 > ハードウェアデバイス**を展開することで確認できます。**[ハードウェアデバイスの概要]**テーブルには次の情報が含まれます。

名前	詳細
ハードウェアデバイス名	ハードウェアデバイスの名前
ライセンス	ハードウェアデバイスのライセンスステータス。以下のステータスを表示できます。 ライセンス済み 、 猶予期間 、 評価試用期間 、または 期限切れ の[日数]。
ビデオ チャネル	ハードウェアデバイスで使用可能なビデオ チャネルの数。
スピーカー チャネル	ハードウェアデバイスで使用可能なスピーカー チャネルの数。
マイク チャネル	ハードウェアデバイスで使用可能なマイク チャネルの数。
アドレス	ハードウェアデバイスの HTTP アドレス
WWW	ハードウェアデバイスの Web アドレスへのリンク。
ポート	ハードウェアデバイスが使用するポート。
デバイスドライバー	ハードウェアデバイスに関連付けられているデバイスドライバーの名前。

ハードウェアデバイスの交換について

レコーディングサーバーからハードウェアデバイスを取り外し、構成を保存すると、デバイスライセンスに空きができます。デバイスを無効にするだけでは、ライセンスが解放されません。ライセンスが適用されたハードウェアデバイスを新しいハードウェアデバイスと交換し、新しいデバイスを認証してライセンスを付与できます。購入したハードウェアデバイスライセンスの総数は、監視システムで同時に実行できるハードウェアデバイスの合計数に対応します。

ハードウェアデバイスを交換する場合、**ハードウェアデバイスの交換**ウィザード『58ページ』の"ハードウェアデバイス交換ウィザードについて"参照』を使用して、カメラ、マイク、入力、出力などのすべての関連するデータベースを割り当てる必要があります。これが完了したら、ライセンスをアクティベートすることを忘れないでください。

追加ライセンスの取得

現在所有していないライセンスが必要なその他のハードウェアデバイスまたはその他のコンポーネントを追加する場合は、追加ライセンスを購入し、猶予期間中にデバイスがシステムにデータを送信できるようにする必要があります。

- 使用しているシステムの追加ライセンスを入手するには、Network Video Management System 製品の代理店にお問い合わせください。

既存の監視システムバージョンの新しいライセンス：

- ライセンスを手動で認証し、新しいライセンスを入手します。

詳細については、「ライセンスを認証（オフライン）」を参照してください。

新しいライセンスとアップグレードされた監視システムバージョン：

- 更新されたソフトウェアライセンスファイル(.lic)、新しいライセンス、新しいバージョンを受け取ります。新しいバージョンのインストール中には、新しいソフトウェアライセンスファイルを使用する必要があります。

ライセンス認証について

VMS をインストールし、ハードウェアデバイスを追加すると、30 日間の猶予期間でハードウェアデバイスが実行されます。30 日の猶予期間が終了する前に、ハードウェアデバイスライセンスを認証する必要があります。そうでない場合は、ハードウェアデバイスはビデオを監視システムに送信しなくなります。

Sony は、システムおよびハードウェアデバイスに最終調整を加える前に、ライセンスを認証することをお勧めしています。詳細については、「ライセンスを認証（オンライン）」『26ページ』の"ライセンスをオフラインで認証"参照』）または「ライセンスを認証（オフライン）」を参照してください。

購入したハードウェアデバイスライセンス数を超えるハードウェアデバイスを追加した場合は、ハードウェアデバイスが猶予期間で実行されます。猶予期間が終了した後にこれらのハードウェアデバイスからビデオを表示する場合は、追加のライセンスを購入『26ページ』の"追加ライセンスの取得"参照』する必要があります。重要性の低いカメラは無効『57ページ』の"ハードウェアデバイスの削除/無効化"参照』にし、新しいハードウェアデバイスを実行できるようにすることもできます。

マスター/スレーブ設定で複数の VMS 製品がインストールされている場合は、各インストールからライセンスを認証し、各インストールで更新および認証された.lic ファイルを取得します。これは、すべての VMS 製品が同じソフトウェアライセンスファイルを共有する場合にも当てはまります。

ライセンスをオフラインで認証

次の場合にはライセンスを手動で認証する必要があります。

- 追加ライセンスを購入した、アップグレードしたい
- Sony から付与されたアクティベーションなしのデバイスの変更『24ページ』数が増えた

1. **【ファイル】**メニューで**【ライセンスを認証(オフライン)】**を選択します。
2. **【エクスポート】**をクリックして、ライセンスリクエストファイルをエクスポートします。
3. ライセンスリクエストファイルには、自動的に SLC と同じ名前が付けられます。複数のサイトがある場合は、必ず名前を一意にし、どのファイルがどのサイトに属しているのかを簡単に識別できるようにしてください。
4. インターネットに接続しているコンピュータにライセンスリクエストファイルをコピーし、Web サイトにログインして、認証済みのソフトウェアライセンスファイル(.lic)を取得します。ライセンスガイドを参照してくださいに Web サイト <http://www.sony.net/CameraSystem> 。
5. ライセンスリクエストファイルと同じ名前の認証済みソフトウェアライセンスファイル(.lic)を Management Application がインストールされたコンピュータにコピーします。
6. 手順 1 で開いたダイアログボックスで、**【参照】**をクリックして、認証済みのソフトウェアライセンスファイルを使用します。
7. **実行**をクリックします。

Management Application を実行するコンピュータがインターネットに接続していない場合、ライセンスをオフラインで認証できます。

インストールとアップグレード

システムソフトウェアのインストール

監視ソフトウェアは、マウントしたドライブにはインストールしないでください。マウントしたドライブとは、ドライブ文字の代わりにラベルまたは名前が付いている、NTFS（NT ファイルシステム）ボリュームの空のフォルダにマップされたドライブです。マウントしたドライブを使用すると、重要なシステム機能が想定どおりに作動しないことがあります。たとえば、システムがディスクの空き容量を超えて実行されても、警告が表示されません。

はじめに：既存の監視ソフトウェアをすべて停止します。

1. インストールファイルを実行します。
2. 以前のシステムがインストールされている場合、または他の Network Video Management System Standard Edition 製品がインストールされている場合、システムがこのインストールを検知して、新しいバージョンのインストール後に以前のバージョンが削除されることを通知します。これを承諾する場合は、**はい**をクリックして、インストールを続行します。以前のバージョンでの記録や設定は、すべて新しいバージョンで使用できます。
3. インストーラで使用する言語を選択してから、**続行**をクリックします。
4. SLC に関連する名前のソフトウェアライセンスファイルがない場合は、**試行**を選択して、システムソフトウェアの 30 日試行版をインストールします。ソフトウェアライセンスファイルがある場合は、まずローカルドライブに保存します。ネットワークドライブまたは USB スティックから直接インポートしないでください。ソフトウェアライセンスファイルの保存場所を入力するか、**【参照】**をクリックしてインポートします。
5. 使用許諾契約を読み、同意します。
6. **標準**または**カスタム**インストールを選択します。**カスタム**インストールを選択した場合、アプリケーション言語、インストールする機能、およびインストール場所を選択できます。インストールウィザードが完了するのを待ちます。

これで、システムの設定 『32ページ の"Management Application のシステムの構成"参照』を始めることができます。

Network Video Management System Smart Client のインストール

Network Video Management System Smart Client を使用するには、事前にコンピュータにインストールする必要があります。Network Video Management System Smart Client を監視システムサーバーからダウンロードして使用するコンピュータへインストールするか、DVD から直接インストールします。

開始する前に、Sony の Web サイトにアクセスし、使用している PC が Network Video Management System Smart Client の最低限のシステム要件 <http://www.sony.net/CameraSystem/Product-info> を満たしていることを確認して下さい。

管理サーバーからの Network Video Management System Smart Client のインストール

1. Internet Explorer を開き、URL またはサーバーの IP アドレスを使用して管理サーバーに接続します。
2. ようこそページで、言語をクリックして、使用する言語を選択します。
3. **Network Video Management System Smart Client 設定**ウィザードが起動されます。ウィザードで、インストール手順に従ってください。

ウィザードがインストールパスを推奨します。通常は、推奨されたインストールパスを使用します。ただし、アドオン製品を以前に使用したことがある場合、このパスが有効ではなくなっていることがあります。

Network Video Management System Smart Client のサイレントインストール

監視システム管理者は、Microsoft Systems Management Server (SMS)などのツールを使用して、システムまたは Network Video Management System Smart Client をユーザーのコンピュータに展開できます。このツールを使って、ローカルネットワークにあるハードウェアとソフトウェアのデータベースを構築できます。このデータベースを使用することによって、ソフトウェアアプリケーションをローカルネットワークを通じて配布、インストールすることができます。

サイレントインストールを行うには：

1. Network Video Management System Smart Client .exe ファイル **Sony – Network VMS Smart Client 2016 R3 Installer x64.exe** を探します。このファイルを、**httpdocs** フォルダの下サブフォルダで検索します。**httpdocs** フォルダは、Sony 監視ソフトウェアがインストールされているフォルダの下にあります。

通常のパスは(英語版の Network Video Management System Smart Client を使用している場合)、**C:\Program Files (x86)\Sony\Sony Surveillance\httpdocs\Network VMS Smart Client Installer\[バージョン番号] [ビットバージョン]\All Languages\en-US** です。

例:

C:\Program Files (x86)\Sony\Sony Surveillance\httpdocs\Network VMS Smart Client Installer\2016 (64-bit)\All Languages\en-US

2. 以下の 2 つのオプションのいずれかを使用してサイレントインストールを実行してください。
 - a) デフォルトパラメータ設定を使用して実行する:

すべてのパラメータにデフォルト値を使用してサイレントインストールを実行するには、インストールプログラムが保存されているディレクトリでコマンドプロンプト(cmd.exe)を起動して、以下のコマンドを実行します。

- Network Video Management System Smart Client:

Sony – Network VMS Smart Client 2016 R3 Installer x64.exe --quiet

使用しているシステム：

Sony - Network VMS Standard Edition Products 2016 R3 System Installer.exe --quiet

このコマンドでは、ターゲットディレクトリなどのパラメータにデフォルト値を使用して Network Video Management System Smart Client のサイレントインストールが実行されます。デフォルト設定を変更する方法については、以下を参照してください。

- b) XML 引数ファイルを入力として使用して、デフォルトパラメータをカスタマイズします：

デフォルトインストールの設定をカスタマイズするには、値が変更された XML ファイルを入力として提供する必要があります。デフォルト値が記述された XML ファイルを生成するには、インストールプログラムが保存されているディレクトリでコマンドプロンプトを起動して、以下のコマンドを実行します:

- Network Video Management System Smart Client:

Sony – Network VMS Smart Client 2016 R3 Installer x64.exe --generateargsfile=[パス]

- 使用しているシステム:

Sony - Network VMS Standard Edition Products 2016 R3 System Installer.exe --generateargsfile=[パス]

生成された arguments.xml ファイルをテキストエディタで開き、必要な変更を行います。次に、同じディレクトリで以下のコマンドを実行して、修正されたバージョンのサイレントインストールを実行します。

- Network Video Management System Smart Client:

Sony – Network VMS Smart Client 2016 R3 Installer x64.exe --arguments=[完全パス]args.xml --quiet

- 使用しているシステム:

Sony - Network VMS Standard Edition Products 2016 R3 System Installer.exe --arguments= [完全パス]args.xml --quiet

ビデオデバイスドライバのインストール

ビデオデバイスドライバは、システムの初回のインストール時に自動的にインストールされます。Network Video Management System Device Pack という新しいバージョンのビデオデバイスドライバが適宜リリースされ、Sony の Web サイト <http://www.sony.net/CameraSystem> で提供されています。Sony では、常に最新バージョンのビデオデバイスドライバを使用することを推奨しています。ビデオデバイスドライバを更新するときには、インストール済みのバージョンに最新バージョンを上書きインストールできます。

新しいビデオデバイスドライバのインストールを開始すると、インストールが完了して Recording Server サービスを再起動するまで、システムはカメラデバイスと通信できなくなります。通常、この処理は数分程度で完了しますが、Sony では、重要な事象が発生する可能性が低いときに更新処理を行うことを強くお勧めしています。

ビデオデバイスドライバをインストールするには:

1. 新しいバージョンのビデオデバイスドライバをインストールするシステムサーバーで、実行中の Recording Server サービスを含む、実行中のすべての監視ソフトウェアを停止します。
2. Network Video Management System Device Pack インストールファイルを実行し、ウィザードの指示に従います。
3. ウィザードが完了すると、Recording Server サービスが再起動します。

ウィザードで CSV ファイルからインポートしたハードウェアデバイスを追加するオプションを使用する場合、カメラとサーバーがオフラインであれば、まず追加したいそれぞれのハードウェアのハードウェアドライバIDを指定する必要があります。ID の現在のリストを表示する方法は、組織で使用している Network Video Management System Device Pack のリリースノートを参照してください。あるいは、Sony の Web サイト <http://www.sony.net/CameraSystem> で最新情報ご確認ください。

アップグレード

更新について

Sony では、サービスアップデートをリリースし、機能を向上させ、新しいデバイスをサポートしています。新しいバージョンの VMS ソフトウェアが使用可能な場合は、黄色の通知バーにメッセージが表示され、ソフトウェアを更新できることが通知されます。

Sony は、最新バージョンの監視ソフトウェアを常にインストールし、ソフトウェアが極力スムーズに動作するように保証することをお勧めします。

ある製品バージョンから、別の製品バージョンへのアップグレード

たとえば Network Video Management System Standard Edition 2013 から Network Video Management System Standard Edition 2014 へのアップグレードなど、システム構成全体をある製品バージョンから別の製品バージョンに極めて迅速で簡単にアップグレードすることができます。以前のバージョンを削除する必要なく、古いバージョンの上に新しい製品をインストールします。

新しいバージョンのシステムをインストールすると、以前にインストールされているバージョン/製品から設定が継承されます。Sony では、障害時の復旧手段として、使用しているサーバー設定のバックアップを定期的に行うことを推奨しています。サーバーのアップグレード時にも、この手順を実行することをお勧めします。設定（カメラ、スケジュール、ビューなど）が失われることはまれですが、発生する**可能性はあります**。幸い、1 分程度で設定をバックアップできます。

新しいバージョンをインストールする前に、旧バージョンを手動で削除する必要はないことに注意してください。新しいバージョンをインストールするとき、旧バージョンは削除されます。

システムコンポーネントの削除について

監視システム全体（つまり、監視サーバーソフトウェア、関連するインストールファイル、ビデオデバイスドライバ、Network Video Management System Download Manager、Network Video Management System Smart Client、Event Server サービス、NVMS Mobile サーバーのすべて）をサーバーから削除するには、標準の Windows でのプログラムのアンインストール手順に従ってください。詳細については、Windows ヘルプを参照してください。

また、Network Video Management System Smart Client やビデオドライバなどの個々のコンポーネントを、通常の Windows でのプログラムのアンインストール手順で削除することもできます。

重要：監視システムを削除しても、録画は削除されません。サーバーソフトウェアを削除した後でも、録画はサーバーに残ります。また、設定ファイルもサーバーに残ります。このため、後でシステムを再インストールした場合、設定を再使用することができます。

初めての使用

Management Application のシステムの構成

このチェックリストは、システムを設定するときに通常必要となるタスクを概説しています。

情報はチェックリストとして提供されますが、チェックリストが完了しても、それだけでシステムが完全に要件に一致することを保証しているわけではありません。システムを組織の必要性に一致させるために、Sony では、システムの起動後も、システムを継続的にモニターし、調整することをお勧めしています。

異なる物理的条件（昼/夜、強風/無風など）で個々のカメラのモーション検知感度の設定をテストし、調整することに時間をかけることをお勧めします。システムの実行中にこのようなテストを実行します。イベントや関連するアクションの設定も、組織の必要性に依存します。

このチェックリストを印刷して、常に携帯してください。

<input type="checkbox"/>	システムのインストール 「システムソフトウェアのインストール 『28ページ 』」を参照してください。 既存のバージョンのシステムをアップグレードする場合は、「ある製品バージョンから、別の製品バージョンへのアップグレード 『31ページ 』」を参照してください。
<input type="checkbox"/>	ソフトウェアライセンスファイルの認証 多くの場合、ベンダーがこのプロセスを行うので、ユーザー自身がこのステップを実行する必要はありません。 ソフトウェアライセンスファイルを認証するには、「ライセンス認証について 『26ページ 』」を参照してください。
<input type="checkbox"/>	Management Application を開きます インストール後に Management Application を開きます。ここでは、システムと機能の構成および管理を行います。
<input type="checkbox"/>	ハードウェアデバイスをシステムに追加 システムを初めて起動すると、 詳細設定 ウィザードが立ち上がり、システムにハードウェアデバイス（カメラ、エンコーダー、専用 I/O ボックス）を追加し、適切なユーザー名およびパスワードで設定できるようにサポートします。「自動設定ウィザード 『38ページ 』」を参照してください。
<input type="checkbox"/>	ハードウェアデバイスライセンスを認証 多くの場合、ベンダーがこのプロセスを行うので、ユーザー自身がこのステップを実行する必要はありません。監視システムがオンラインの場合、この手順もスキップできます。 ハードウェアデバイスを追加したため、ハードウェアデバイスライセンスを認証 『26ページ の"ライセンス認証について"参照 』する必要があります。
<input type="checkbox"/>	カメラの設定 システムに接続されている各カメラの様々な設定を指定できます。設定には、コーデック、解像度、モーション検知の感度、録画の保存およびアーカイブ場所、PTZ（パン/チルト/ズーム）のプリセット位置、マイクおよびスピーカーとの関連付けなどが含まれます。ビデオや録画の設定について 『62ページ 』を参照してください。

<input type="checkbox"/>	<p>イベント、入力、出力の設定</p> <p>センサーからの入力に基づくシステムイベントを使用すると、システム上のアクションを自動的にトリガすることができます。</p> <p>アクションの例：録画の開始・停止、ビデオフレームレートの切り替え、PTZ カメラのプリセット位置への移動。また、イベントを使用して、照明やサイレンなどのハードウェア出力を有効にすることも可能です。イベントの概要 『100ページ』の"イベントおよび出力の概要"参照』を参照してください。</p>
<input type="checkbox"/>	<p>スケジュールの設定</p> <p>いつアーカイブを行うか、カメラが常にビデオをシステムへ転送するか、特定のイベント発生時や指定された時間帯だけビデオを転送するか、などを設定します。また、いつシステムから通知を受信するかも指定します。一般的なスケジュールおよびアーカイブの設定 『122ページ』およびカメラ固有のスケジュールの設定 『64ページ』の"特定カメラスケジュールの構成"参照』を参照してください。</p>
<input type="checkbox"/>	<p>クライアントによるシステムへのアクセス設定</p> <p>システムには、多数の異なるクライアントアプリケーションが含まれています。クライアントからのインターネット経由でのシステムへのアクセス可否や、同時接続クライアント数などを指定します。サーバーアクセスの設定 『136ページ』を参照してください。</p>
<input type="checkbox"/>	<p>マスター/スレーブサーバーの設定</p> <p>複数のサーバーを実行するには、以下の手順に従うだけです。この機能は Network Video Management System Standard Edition または Network Video Management System Standard Edition を実行している場合のみ使用できます。</p> <p>マスター/スレーブ設定 『138ページ』の"マスターおよびスレーブについて"参照』により、複数のサーバーを組み合わせ、使用できるカメラの合計数を単一のサーバーの許容最大数以上に拡大できます。</p> <p>このような設定でも、クライアントの接続は、1 つだけに維持されます。クライアントは、マスターサーバーに接続されますが、スレーブサーバーのカメラや録画にも自動的にアクセスできます。マスター/スレーブサーバーの設定 『139ページ』の"マスターおよびスレーブサーバーの設定"参照』を参照してください。</p>
<input type="checkbox"/>	<p>ユーザーの設定</p> <p>誰が、どのようにシステムにアクセスできるかを指定します。必要であれば、Management Application を保護するパスワードを設定します。誰がどのような権限を持つクライアントアクセスを行えるかを決定します。ユーザーアクセスの管理ウィザード 『53ページ』、基本ユーザーの追加 『140ページ』、ユーザーグループの追加 『141ページ』、ユーザーおよびグループの権限の設定 『142ページ』を参照してください。</p>
<input type="checkbox"/>	<p>Network Video Management System Download Manager の設定</p> <p>ユーザーがシステムサーバーに接続した時に、ようこそページに表示される機能を管理します。含まれる機能としては、クライアントアプリケーションへのアクセス、追加クライアントの言語バージョン、プラグインなどがあります。Network Video Management System Download Manager は、システムサーバーと同じ言語でユーザーが Network Video Management System Smart Client にアクセスできるよう、デフォルト設定が行われています。Network Video Management System Download Manager 『20ページ』の使用を参照してください。</p>

上記のリストは、一般的に管理者が行う必要のある設定手順を示しています。システムの設定を設定、編集して、正確に組織のニーズにマッチさせることができます。

推奨事例

録画データベースの破損からの保護について

カメラデータベースが破損した場合に実行するアクションを選択できます。アクションにはさまざまなデータベース修復オプションがあります。このようなオプションは便利ですが、Sony は、カメラデータベースが破損しないことを保証する手順を導入することをお勧めします。

停電 : UPS の使用

データベースが破損する最大の原因として、ファイルが保存されず、オペレーティングシステムが適切に終了されずに、レコーディングサーバーが突然にシャットダウンすることが挙げられます。これは、停電、または誰かが誤ってサーバーの電源コードを抜いてしまった場合などに発生することがあります。

レコーディングサーバーが突然シャットダウンしないように保護するための最善の方法は、各レコーディングサーバーに UPS（無停電電源装置）を備え付けることです。

UPS は、電池駆動の第 2 電源として動作して、電源異常が発生した場合に、開いているファイルを保存して安全にシステムの電源を切るために必要な電源を提供します。UPS の仕様はさまざまですが、多数の UPS には、開いているファイルの自動保存、システム管理者へのアラート発行などを行うソフトウェアが含まれています。

組織の環境に適した種類の UPS を選択することは、個別のプロセスです。ニーズを評価する際には、停電時に UPS が提供する必要がある実行時間を考慮に入れてください。開いているファイルを保存し、オペレーティングシステムを正しくシャットダウンするには、数分かかる場合があります。

Windows タスクマネージャ : プロセスの終了時に注意する

Windows タスクマネージャで作業するときには、監視システムに影響を与えるプロセスを終了させないように注意してください。Windows タスクマネージャで**プロセスの終了**をクリックして、アプリケーションまたはシステムサービスを終了すると、プロセスには、終了される前にその状態またはデータを保存する機会が与えられません。その結果として、カメラデータベースが破損する可能性があります。

Windows タスクマネージャは通常、プロセスを終了しようとする警告を表示します。プロセスを終了しても監視システムに影響がないことに確信が持てない場合は、警告メッセージでプロセスを終了するか尋ねられた場合に**いいえ**をクリックします。

ハードディスクの故障 : ドライブを保護する

ハードディスクドライブは機械装置であり、外的な要因に対して脆弱です。以下は、ハードディスクドライブを傷つけ、カメラデータベースの破損を引き起こす可能性がある外部要因の例です。

- 振動（監視システムサーバーとその周囲が安定していることを確認してください）
- 高温（サーバーが適切に換気されていることを確認してください）
- 強力な磁場（避けてください）
- 停電（必ず UPS 『188ページ』を使用してください）
- 静電気（ハードディスクドライブを取り扱う場合には、必ず接地してください）
- 火、水など（避けてください）

設定に関する変更の保存について

システムをセットアップする際、システムに適用するために、設定に対して行った変更は必ず保存してください。Management Application で設定を変更する場合、たとえば**カメラの概要**や**ユーザープロパティ**で、黄色の通知バーによって設定を変更したことが通知されます。このバーは、変更がシステムに適用されたことを確認するために表示されます。変更を適用する場合は、**保存**をクリックします。変更を保存したくない場合は、**破棄**をクリックします。

設定を変更し、行った変更を保存すると、システムはシステムサービス（Recording Server サービスや Image Server サービスなど）に通知します。たとえば、カメラの名前を変えたり、モーション検知の設定を変更するなどの設定を変更すると、関連するシステムサービスに新しい設定がロードされ、ただちにクライアントに変更が表示されます。一方、たとえば、新しいイベントを追加するなど、リソースを多く必要とする設定変更を行った場合は、適切に動作させるために関連するサービスを再起動する必要があります。

サービスを再起動する必要がある場合、変更を保存すると、システムが自動的に再起動を実行します。NVMS Mobile サーバーで設定を変更した場合、NVMS Mobile サーバーのサービスを再起動せずに**保存**をクリックすると、システムにすべての変更が適用されます。

重要： システムがサービスを再起動している間は、ビデオを再生したり、録画することはできません。通常は、サービスの再起動は数秒で完了しますが、中断を最小限に抑えるために、重要な事象が発生しないと予想される時間帯にサービスを再起動することをお勧めします。クライアントを通じてシステムに接続しているユーザーは、サービスの再起動中もログインしたままになりますが、短い間ビデオが停止することがあります。

システムは、変更を復元ポイント 『183ページ の"復元ポイントからのシステム設定の復元"参照』 に保存します（そのため、エラーが生じた場合などにも作業設定を復帰することができます）。

組み込みヘルプの使用について

システムの組み込みヘルプを使用するには、Management Application の**ヘルプ**ボタンをクリックするか、キーボードの **F1** キーを押します。

すると既定のインターネットブラウザでヘルプシステムが開きます。このヘルプシステムと Management Application はアクティブ状態を切り替えることができます。このヘルプシステムは、コンテキスト依存ヘルプです。つまり、特定のダイアログでの作業中に F1 キーを押してヘルプを呼び出すと、ヘルプシステムはそのダイアログに応じたヘルプを表示します。

組み込みヘルプシステムの使用

ヘルプタブ**目次**、**索引**、**検索**を使用するか、ヘルプトピック内のリンクを使用します。

- **内容：** ヘルプシステムをツリー構造で表示します。
- **索引：** ヘルプトピックのアルファベット順の索引があります。
- **検索：** 特定のキーワードを含むヘルプトピックを検索できます。たとえば、「**ズーム**」という言葉を検索すると、「**ズーム**」が含まれているすべてのヘルプトピックが検索結果に表示されます。検索結果のリストでヘルプトピックのタイトルをダブルクリックすると、関連するトピックが表示されます。

ヘルプトピックの印刷

トピックの印刷が必要な場合は、インターネットブラウザの印刷機能を使用します。ヘルプトピックの印刷時は、画面上の表示がそのまま印刷されます。つまり、クリックすると展開されるリンク（ドロップダウンリンク）がトピックに含まれていて、表示されるドロップダウンリンクも印刷出力に含めたい場合、関連するドロップダウンリンクをクリックして、テキストが印刷に含まれるように表示させる必要があります。そうすることで、必要な情報がすべて含まれたページを印刷することができます。

サービスの再起動について

Management Application での変更設定の際、いくつかの項目では、Image Server サービスや Recording Server サービスの再起動が要求されます。サービスの再起動が必要な設定項目については、以下のリストを参照してください。

Image Server	Recording Server
ポート番号の変更	ライセンスの変更
最大クライアント数	イベントデータベースのパスの変更
マスターサーバーの有効化または無効化	手動レコーディングの有効化
スレーブサーバーの追加または削除	リモートでの起動
ログのパスの変更	通知の有効化または無効化
ライセンスの変更	イベントの変更
プライバシーマスクの変更	出力の変更
ハードウェアデバイスの削除	ダイナミックアーカイブ パスの追加または削除
	アーカイブ時刻の追加または削除
	スケジュールの変更
	ハードウェアデバイスの交換
	カメラドライバーの変更
	カメラの IP アドレスの変更
	すべてのデバイスの削除

モニターストレージ容量の使用率

使用しているシステムにどの程度のストレージ容量があるか、そしてそのうち空き容量がどの程度あるかを確認するには、次の手順を実行してください。

1. **詳細設定**を展開し、**カメラおよびストレージの情報**を選択します。
2. **ストレージ使用の概要**で、どのドライブが使用可能であるか、どのドライブを何に使用しているか、それぞれのドライブのサイズ、ならびにそれぞれのドライブにビデオデータ、その他のデータ、空き容量がどの程度あるかに関する情報を確認できます。

Management Application でカメラからビデオを再生する

Management Application で、単一のカメラから直接ライブビデオを再生できます。

1. **詳細設定**を展開し、**カメラおよびストレージの情報**を展開します。

2. 関連するカメラを選択して、そのカメラからのライブビデオを表示します。ライブビデオの上には、選択したカメラの最も重要なプロパティの概要が表示されます。ライブビデオの下には、カメラの解像度や平均の画像ファイルサイズなどの情報が表示されます。MPEG または H.264 を使用しているカメラの場合、ビットレートは Mbit/秒でも表示されます。

重要： 特定の状況において Management Application でライブビデオを表示すると、関連するカメラからの同時録画に影響することがあります。

次の 3 つのシナリオに特に配慮することが重要です。

マルチストリームをサポートしている一部のカメラでは、2 番目のストリームを開くと、半分のフレームレートになったり、応答にマイナスの影響が出る場合があります。

カメラが非常に高い画質でライブビデオを配信している場合、画像のデコーディングによって Recording Server サービスへの負荷が高まり、録画に対して継続的に悪影響を与える場合があります。

複数の同時ビデオストリーム出力に対応しないカメラは、監視サーバーと Management Application に同時に接続することはできません。Sony では、そうしたデバイスでモーション検知や PTZ を設定する場合、Recording Server サービスを停止 『148ページ の"サービスを開始および停止する"参照』することを推奨しています。

Management Application でカメラからのビデオを表示する 『36ページ の"Management Application でカメラからビデオを再生する"参照』も参照してください。

使用開始

スタートページについて

Management Application を開くと、スタートウィンドウが必ず表示されます。スタートページは、ユーザーの参照場所です。監視システムを迅速に構成するための別のウィザードもあります。ウィザードを実行した後、多くの場合、さらにシステムを微調整する必要があります。詳細については、ヘルプの「詳細設定 『55ページ』」の章を参照してください。

ページの左下端の【ライセンス】見出しの下で、システムのハードウェアデバイスライセンス 『22ページ』 の概要と、アクティベーションなしのデバイスの変更 『24ページ』 数を確認できます。

また、お使いのシステムのウィザードの各ステップを完了する方法を説明しているビデオチュートリアルにアクセスして表示することができます。ビデオチュートリアルにアクセスするには、ページの右下の**チュートリアル**の表示リンクをクリックします。このリンクで、お使いのシステムのビデオチュートリアルのある外部 Web ページに移動します。

自動設定ウィザード

自動設定ウィザードにより、システムを初めてご利用になる際に設定を簡単に行うことができます。ウィザードの段階的な手順に従って、システムに自動的にカメラを追加できます。

自動設定ウィザード：1 ページ目

Management Application の初回起動時には、自動設定ウィザードが開き、システムへのハードウェアデバイスの追加をガイドします。

システムを初めて使用する場合、**はい、設定します**をクリックし、ネットワークで利用可能なカメラをスキャンして、システムを設定します。終了して、より詳細な方法でお使いのシステムへデバイスを追加するには、**スキップ**をクリックしてウィザードを閉じ、Management Application へ移動すると、より多くのオプションを使用してシステムのデバイスを設定できます。

自動設定ウィザード：スキャンオプション

お使いのシステムからカメラやデバイスをスキャン（検索）する場所を選択します。

デフォルトでは、**ローカルネットワークをスキャン**チェックボックスが選択されているため、ローカルネットワーク内にあるデバイスのみをスキャンします。ただし、カメラやデバイスの IP アドレスまたはそれらの範囲が分かる場合、**スキャンする IP アドレスまたは IP 範囲を追加する**の隣にある[プラス]アイコンをクリックして指定してください。必要な場合、2 つ以上の IP アドレス範囲を追加することができます。

自動設定ウィザード：スキャン対象のハードウェアのメーカーの選択

お使いのハードウェアデバイスのメーカーが分かっている場合、このページのドロップダウンリストから選択します。必要な数のメーカーを選択できます。

注意：デフォルトでは、すべてのメーカーが選択されています。スキャン時間を短縮する場合、あるいはお使いのカメラのうち特定メーカーのデバイスのみを確認したい場合、ご希望のメーカーを表すチェックボックスのみを選択してください。

自動設定ウィザード：ハードウェアデバイスのスキャン

選択したメーカーに一致するハードウェアデバイスのスキャンが開始します。ステータスバーに、スキャン処理の進捗状況が示されます。カメラやデバイスのスキャンが完了した後で、選択したデバイスやカメラのユーザー名とパスワードの入力を求められる場合があります。それらの資格情報を入力した場合、デバイスを追加するには**確認**ボタンをクリックしてください。

注意：デバイスやカメラによっては、ユーザー名とパスワードが不要な場合もあります。そのような場合、資格情報を入力することなくデバイスを追加できます。

自動設定ウィザード：スキャン後の続き

追加するデバイスやカメラの数を追加すると、お使いのシステムがストレージを設定します。ここで、ストレージとは、お使いのシステムが記録を保存する場所のことです。デフォルトでは、空きディスク容量が最も多く利用できる場所がシステムにより選択されます。

ストレージの設定が終了した後は、新しいカメラがネットワーク上で検出されたときに、システムにこれらのカメラを自動的に追加するオプションを設定することができます。これを有効にすると、以後、あるデバイスやカメラがネットワークに接続・認識された時点で、それらをシステムへ自動的に追加・設定されるようになります。すべてのデバイスやカメラが自動検出に対応しているわけではない点にご注意ください。ネットワークに接続したデバイスやカメラが自動的に表示されない場合は、手動で追加する必要があります。

Network Video Management System Smart Client に直接移動するには、ウィザードを完了してから、ウィザードページの左下にあるチェックボックスを選択してください。

ハードウェアの追加ウィザード

カメラ、およびビデオエンコーダーなどその他のハードウェアデバイスは、**ハードウェアの追加ウィザード**を使用してシステムに追加します。ハードウェアデバイスにマイクやスピーカーが付いている場合は、ツールによりこれらも自動的に追加されます。

システムで使用できるカメラ数には制限があります。使用可能な数を超えるカメラを追加することができることに注意してください。システムでビデオエンコーダーデバイスを使用する場合、ビデオエンコーダーデバイスに複数のカメラを接続できます。たとえば、すべて使用されている 4 ポートビデオエンコーダーは 4 台のカメラと認識されます。

このウィザードでは、次の 2 種類の方法でカメラを追加することができます。

ハードウェアのスキャン	<p>必要な IP 範囲、検出方法、ドライバー、およびデバイスのユーザー名とパスワードに関する指定に基づいて、ネットワーク上にある関連ハードウェアデバイスをスキャンします。</p> <p>ハードウェアの追加: ハードウェアのスキャン 『40ページ の"高速"参照』を参照してください。</p>
-------------	--

追加するハードウェアを手動で指定します	<p>それぞれのハードウェアデバイスの詳細を個別に指定します。</p> <p>数台のハードウェアデバイスを追加したい場合で、かつそれぞれの IP アドレス、必要なユーザー名やパスワードなどを知っている場合に適しています。</p> <p>ハードウェアの追加：追加するハードウェアを手動で指定します 『41ページ の"手動"参照』。</p> <p>あるいは、カメラに関するデータを、カンマ区切り値ファイルからインポートします。複数のシステムを設定する場合に効率的な方法です。</p> <p>ハードウェアの追加：CSV ファイルからインポートします 『42ページ の"CSV ファイルからインポート"参照』。</p>
---------------------	---

高速

デバイス検出は、ハードウェアデバイスがそれ自体の情報をネットワーク上に提供する方法です。この情報に基づいて、システムは関連ハードウェアデバイス（カメラ、ビデオエンコーダーなど）を迅速に認識し、スキャン対象に含めることができます。

ハードウェアのスキャン方法により、わずか数ステップで、関連ハードウェアデバイスをネットワークでスキャンし、システムに迅速に追加できます。

以下の 2 つのオプションから、ハードウェアを追加する方法を選びます。

- **ローカルネットワークをスキャン**：システムのサーバー自体が位置するネットワークの一部（サブネット）である、デバイス検出をサポートしているローカルネットワークで、使用可能なハードウェアを自動スキャンします。
- **スキャン対象の IP アドレスまたは IP 範囲の追加**：システムがハードウェアのスキャンを開始する IP 範囲およびポートを指定して、ハードウェアをシステムに追加します。

ローカルネットワークをスキャン方法を使用するには、使用しているシステムのサーバーとカメラが同じレイヤー 2 ネットワークに存在する必要があります。これはすべてのサーバーやカメラなどが、ルーターを必要とせずに通信できるネットワークに存在することを意味します。理由はデバイス検出がシステムのサーバーとカメラの間での直接通信に依存しているためです。

ネットワークでルーターを使用している場合は、**スキャン対象の IP アドレスまたは IP 範囲の追加オプション**を使用してハードウェアが存在している IP 範囲を指定するか、追加するハードウェアを手動で指定 『41ページ の"手動"参照』方法のいずれか 1 つを選びます。

ハードウェアの追加：スキャンオプション

お使いのシステムからカメラやデバイスをスキャン（検索）する場所を選択します。

デフォルトでは、**ローカルネットワークをスキャン**チェックボックスが選択されているため、ローカルネットワーク内にあるデバイスのみをスキャンします。ただし、カメラやデバイスの IP アドレスまたはそれらの範囲が分かる場合、**スキャンする IP アドレスまたは IP 範囲を追加する**の隣にある[プラス]アイコンをクリックして指定してください。必要な場合、2 つ以上の IP アドレス範囲を追加することができます。

ハードウェアの追加：スキャン対象のハードウェアのメーカーの選択

お使いのハードウェアデバイスのメーカーが分かっている場合、このページのドロップダウンリストから選択します。必要な数のメーカーを選択できます。

注意：デフォルトでは、すべてのメーカーが選択されています。スキャン時間を短縮する場合、あるいはお使いのカメラのうち特定メーカーのデバイスのみを確認したい場合、ご希望のメーカーを表すチェックボックスのみを選択してください。

ハードウェアの検出と検証

選択したメーカーに一致するハードウェアデバイスのスキャンが開始します。ステータスバーに、スキャン処理の進捗状況が示されます。カメラやデバイスのスキャンが完了した後で、選択したデバイスやカメラのユーザー名とパスワードの入力を求められる場合があります。それらの資格情報を入力した場合、デバイスを追加するには**確認**ボタンをクリックしてください。

注意：デバイスやカメラによっては、ユーザー名とパスワードが不要場合もあります。そのような場合、資格情報を入力することなくデバイスを追加できます。

追加するデバイスやカメラの数を追加すると、お使いのシステムがストレージを設定します。ここで、ストレージとは、お使いのシステムが記録を保存する場所のことです。デフォルトでは、空きディスク容量が最も多く利用できる場所がシステムにより選択されます。

手動

追加するハードウェアを手動で指定方法では、それぞれのハードウェアデバイスの詳細を個別に指定できます。

このオプションは、少数のハードウェアデバイスだけを追加する場合で、それらの IP アドレス、ユーザー名とパスワードなどが分かっている場合に適しています。同様に、**ハードウェアのスキャン**オプションを使用するローカルネットワークでの自動検索は、たとえばシステムの**ユニバーサルドライバー**を使用しているカメラなど、一部のカメラでは機能しないことがあります。このようなカメラについては、手動でシステムに追加する必要があります。

あるいは、**CSV ファイルのインポート** 『42ページ の"**CSV ファイルからインポート**"参照』を選択します。このオプションでは、ハードウェアデバイスに関するデータを、カンマ区切り値ファイル(CSV)からインポートします。複数の類似のシステムを設定する場合、これは非常に効率的な方法です。

情報、ドライバーの選択と検証

追加したいハードウェアデバイスのそれぞれの情報を指定します。

名前	詳細
IP アドレス	ハードウェアデバイスの IP アドレスまたはホスト名。
ポート	スキャンするポート番号。デフォルトポートは 80 です。 ハードウェアデバイスが NAT 対応のルーターまたはファイアウォールの背後にある場合、別のポート番号の指定が必要になることがあります。この場合、ハードウェアデバイスが使用しているポートや IP アドレスをマップするように、ルーター/ファイアウォールを設定する必要もあることに留意してください。

名前	詳細
ユーザー名	<p>ハードウェアデバイスの管理者アカウントのユーザー名。</p> <p>多くの組織では、ハードウェアデバイスの製造元によるデフォルトのユーザー名をハードウェアデバイスで使用しています。あなたの組織の場合であれば、"<デフォルト>"を選択します。システムがメーカーのデフォルトユーザー名を知っていると誤解の原因となるため、メーカーのデフォルトユーザー名は入力しないでください。</p> <p>たとえば admin や root など、リストから他の一般的なユーザー名を選択することもできます。リストにないユーザー名を使用するときは、新しいユーザー名を入力します。</p>
パスワード	<p>管理者アカウントにアクセスするために必要なパスワードです。一部のハードウェアデバイスでは、アクセスにユーザー名/パスワードを必要としません。</p>
ドライバー	<p>ハードウェアデバイスをスキャンするドライバー。デフォルトでは、ウィザードは自動検出オプションを表示します。自動検出オプションは、関連するドライバーを自動的に検索します。スキャン時間を短縮するため、メーカーが分かっている場合はメーカーを選択します。</p>

追加するデバイスやカメラの数を追加すると、お使いのシステムがストレージを設定します。ここで、ストレージとは、お使いのシステムが記録を保存する場所のことです。デフォルトでは、空きディスク容量が最も多く利用できる場所がシステムにより選択されます。

CSV ファイルからインポート

ハードウェアデバイスやカメラに関するデータを、カンマ区切り値ファイル(CSV)からインポートします。複数の類似のシステムを設定する場合、これは非常に効率的な方法です。

ハードウェアデバイスの追加ウィザード - CSV ファイルからインポート - CSV ファイルの例

以下は、カメラやサーバーがオンラインである場合に使用する CSV ファイルの例です。

HardwareAddress、**HardwarePort**、**HardwareUsername**、**HardwarePassword**、**HardwareDriverID** などのパラメータを含んでいます。**HardwareUserName** および **HardwareDriverID** は、オプションのパラメータです。

デバイスについて、デフォルトの **HardwareUsername** を変更していない場合は、**HardwareUsername** をそのままにすることもできます。**HardwareDriverID** は、オプションのフィールドです。空白の場合、自動的に自動検出に設定されます。

```
HardwareAddress;HardwarePort;HardwareUsername;HardwarePassword;HardwareDriverID;
192.168.200.220;80;root;pass;128;
192.168.200.221;80;user;password;165;
192.168.200.222;80;r00t;pass;172;
192.168.200.223;80;;p4ss;
192.168.200.224;80;usEr;pASs;
```

ハードウェアの追加:CSV ファイルからインポート - CSV ファイル形式および要件

CSV ファイルには、ヘッダー行（以後の行にあるそれぞれの値が何に関するものであるかを決定する）が必要であり、以後の行にはそれぞれ 1 つのハードウェアデバイスに関する情報だけが含まれている必要があります。それぞれのハードウェアデバイスに対して、以下の情報が必要になります。

HardwareAddress	ハードウェアデバイスの IP アドレス。
HardwareUsername	ハードウェアデバイスの管理者アカウントのユーザー名。
HardwarePassword	ハードウェアデバイスの管理者アカウントのパスワード。
HardwareDriverID	カメラとサーバーがオフラインの場合: 追加したいそれぞれのハードウェアデバイスについて、 HardwareDriverID を指定します。 例 : ACTi ACD-2100 105 は、ACTi ACD-2100 ハードウェアデバイスを追加する際に、 105 を ID として使用する必要があることを示しています。

CSV ファイルで指定されていない既存の設定パラメータは変更されないままになります。CSV ファイルで個々のカメラのパラメータ値が空白であれば、そのカメラの既存のパラメータ値は変更されないままです。

ハードウェアデバイス情報を、たとえば Microsoft Excel などのスプレッドシートに保存してから、CSV ファイルにカンマ区切り値で保存することができます。

以下は、CSV ファイルに存在する情報に適用されます。

- CSV ファイルの最初の行にはヘッダーが必要であり、以後の行にはそれぞれ 1 つのハードウェアデバイスに関する情報が含む必要があります。
- 区切り記号としてはカンマ、セミコロン、タブが使えますが、混在させることはできません。
- すべての行に有効な値が含まれる必要があります。カメラの名前、ユーザー名や類似のアイテムなどはすべて一意でなければなりません。また、以下の特殊文字が含まれないように注意してください。 < > & ' " ¥ / : * ? | []
- 値の順番は固定ではなく、オプションのパラメータは完全に削除することもできます。
- ブーリアン型フィールドは、0、false、no に設定しなければ、真であるとみなされます。
- 区切り記号しか含まない行は無視されます。
- 空白の行も無視されます。

CSV ファイル形式は一般には ASCII のみですが、Unicode 識別子も許可されます。Unicode 識別子がなくても、ファイル全体あるいは個々の文字が Unicode 文字列であることは可能です。

ストレージの設定ウィザード

ビデオストレージのステップは、カメラのビデオや録画のプロパティを迅速に設定するのに便利です。

ストレージの設定：ビデオ設定とプレビュー

ビデオ設定では、帯域、輝度、圧縮、コントラスト、解像度、回転などをコントロールできます。ウィザードウィンドウの左にあるリストを使って、カメラを選択し、ビデオ設定を調整します。その後、次のカメラを選択し

て、設定を調整します。ビデオ設定の大部分はカメラに固有であるため、これらの設定はそれぞれのカメラに対して個別に設定する必要があります。

設定ダイアログを開くをクリックして、別のダイアログでカメラを設定します。ビデオ設定を変更した場合、すぐに変更が適用されます。つまり、大半のカメラでは、設定の効果をプレビュー画像ですぐに確認することができます。ただし、ウィザードを終了しても、行った変更を元に戻すことができません。ビデオ形式に **MPEG** または **H.264** を使用するように設定されているカメラでは、通常、そのカメラでどのライブフレームレートを使用するか選択します。

ビデオ設定機能に、**日時を含む**設定がある場合があります。**はい**に設定すると、カメラからの日付と時刻がビデオに含まれます。ただし、カメラは別個のユニットであり、別個のタイミングデバイスや電源などで機能しています。したがって、カメラの時刻と **Network Video Management System** システムの時刻が完全に対応していないことがあり、これが混乱につながる場合があります。受信したすべてのフレームにシステムがタイムスタンプを付けるため、それぞれの画像の正確な日付と時刻は既に分かっていることから、**Sony** では**いいえ**に設定することを推奨しています。

注意： 一貫性のある時間の同期を行うために、使用しているカメラがサポートしている場合、カメラとシステムの時刻をタイムサーバーで自動同期することができます。

ストレージの設定：オンラインスケジュール

それぞれのカメラをいつオンラインにするかを指定します。オンラインのカメラとは、ライブでの再生やその他の処理のためにビデオをサーバーに転送するカメラです。カメラがオンラインであるという事実だけでは、システムがカメラからのビデオを録画していることを意味しません（録画の設定は、以後のページで行います）。デフォルトでは、システムに追加するカメラは自動的にオンライン（**常にオン**）になるので、特定の時刻やイベントに際してのみカメラをオンラインにしたい場合にだけオンラインスケジュールを変更します。ただし、この既定の状態を、スケジュールオプション『**124ページ**』の一部として変更できることに注意してください。

それぞれのカメラに対して、初期設定で次の 2 種類のオンラインスケジュールのいずれかを選択できます。

- **常にオン：** カメラは、常にオンラインになります。
- **常にオフ：** カメラは、決してオンラインになりません。

これら 2 種類のオプションでは単純過ぎる場合は、**作成/編集...** ボタンを使って、必要に応じたオンラインスケジュールを指定してから、カメラに対してスケジュールを選択します。このようにして、特定の期間でカメラがオンラインであるかどうか、あるいは特定の期間内で特定のイベントが発生した場合にカメラがビデオの転送を開始または停止するかを指定することができます。

テンプレートを使用すると、類似のプロパティが迅速に設定できて便利です。たとえば、20 台のカメラがあり、それらすべてに特定のフレームレートを設定したい場合、テンプレートに一度入力するだけで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。

名前	詳細
テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2 つの 設定 ボタンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメラを選択解除します。
選択したカメラにテンプレートを適用する	テンプレートの値を、選択したカメラに適用します。

ストレージの設定：（Motion-JPEG カメラ）ライブ設定および録画設定

このウィザードページが表示されるのは、1 台または複数のカメラが MJPEG コーデックを使用している場合だけです。

モーションの検知や指定したイベントの前後の期間の録画を保存できるプリレコーディングやポストレコーディングを選択します。また、それぞれのカメラで使用するフレームレートを指定します。

プリレコーディング	検出したモーションおよび開始イベントの前の期間からの録画を保存できます。このチェックボックスを選択すると、この機能が有効になります。隣接する列で、任意の秒数を指定します。
秒数【プリレコーディングの】	録画開始条件（モーションまたは開始イベント）が満たされる前から、ビデオを録画する秒数を指定します。通常、プリレコーディングが必要になるのは数秒のみですが、最長で 65,535 秒（18 時間 12 分 15 秒）まで指定できます。ただし、非常に長いプリレコーディング時間を指定すると、プリレコーディング時間がスケジュールされた、あるいはスケジュールされていないアーカイブ『117ページ』の"アーカイブについて"参照』時間にかかることもあります。アーカイブ中は、プリレコーディングが適切に機能しないため、問題の原因となりかねません。
ポストレコーディング	検出したモーションおよび停止イベントの後の期間の録画を保存できます。このチェックボックスを選択すると、この機能が有効になります。隣接する列で、必要な秒数を指定します。
秒数【ポストレコーディングの】	録画停止条件（モーションまたは停止イベント）が満たされた後で、ビデオを録画する秒数を指定します。通常、ポストレコーディングが必要になるのは数秒のみですが、最長で 65,535 秒（18 時間 12 分 15 秒）まで指定できます。ただし、非常に長いポストレコーディング時間を指定すると、ポストレコーディング時間がスケジュールされた、あるいはスケジュールされていないアーカイブ時間にかかることもあります。アーカイブ中は、ポストレコーディングが適切に機能しないため、問題の原因となりかねません。
フレームレート	カメラの映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。
ライブフレームレート	カメラからのライブ映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。 カメラがデュアルストリームをサポートし、デュアルストリームを有効にした場合、 ライブフレームレート 列はデュアルストリーム値で読み取り専用です。これは変更できません。
録画フレームレート	カメラの録画ビデオに必要な平均フレームレート。フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。このフレームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くなければなりません。

テンプレートを使用すると、類似のプロパティが迅速に設定できて便利です。たとえば、20 台のカメラがあり、それらすべてに特定のフレームレートを設定したい場合、テンプレートに一度入力するだけで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。

テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2 つの 設定 ボタンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。
-----------	---

全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレート を 適用 列にあるすべてのカメラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレート を 適用 列にあるすべてのカメラを選択解除します。
選択したカメラにテンプレートを適用する	テンプレートの値を、選択したカメラに適用します。

ストレージの設定 : H.264/MPEG4 カメラのライブ設定および録画設定

このウィザードページが表示されるのは、1 台または複数のカメラが H.264/MPEG4 コーデックを使用している場合だけです。

それぞれのカメラでどのフレームレートを使用するか、すべてのフレームを録画するか、あるいはキーフレームだけを録画するかを指定します。また、プリレコーディングやポストレコーディングを選択して、モーションの検知や指定したイベントの前後の期間の録画を保存することも可能です。

それぞれのカメラに対して、すべてのプロパティを個別に指定することも可能であることに注意してください。

ライブフレームレート	<p>カメラからのライブ映像に必要な平均フレームレート。 フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。</p> <p>カメラがデュアルストリームをサポートし、デュアルストリームを有効にした場合、ライブフレームレート列はデュアルストリーム値で読み取り専用です。これは変更できません。</p>
録画オン	<p>カメラからのビデオを録画する条件を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 常時 : カメラが有効 『82ページ の"一般"参照 』で、オンラインになるようにスケジュール 『125ページ の"オンライン期間"参照 』されている場合は常に録画します。後者のオプションでは、時間ベースの録画ができます。 ● 設定しない : 録画しません。ライブビデオが表示されますが、ビデオがデータベースに保持されていないため、ユーザーはカメラからビデオを再生できません。 ● イベント : これを選択すると、モーション 『91ページ の"モーション検知&と領域の除外"参照 』が検知された時にビデオを録画します。後の録画を追加しなければ、最後のモーションが検知された後すぐに録画が停止します。 <p>他のフィールドの下にあるイベントの設定リストを使用して、必要に応じたイベントを定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● モーション検知およびイベント : これを選択すると、モーションを検知した場合、あるいはイベントが発生していから、別のイベントが発生するまでの間、ビデオが録画されます。隣の列で、開始イベントおよび停止イベントを選択することを忘れないでください。
プリレコーディング	<p>検出したモーションおよび開始イベントの前の期間からの録画を保存できます。このチェックボックスを選択すると、この機能が有効になります。隣接する列で、必要な秒数を指定します。</p>

秒数【プリレコーディングの】	録画開始条件（モーションまたは開始イベント）が満たされる前から、ビデオを録画する秒数を指定します。通常、プリレコーディングが必要になるのは数秒のみですが、最長で 65,535 秒（18 時間 12 分 15 秒） まで指定できます。ただし、非常に長いプリレコーディング時間を指定すると、プリレコーディング時間がスケジュールされた、あるいはスケジュールされていないアーカイブ『 117ページ の"アーカイブについて"参照』時間にかかることもあります。アーカイブ中は、プリレコーディングが適切に機能しないため、問題の原因となりかねません。
ポストレコーディング	検出したモーションおよび停止イベントの後の期間の録画を保存できます。このチェックボックスを選択すると、この機能が有効になります。隣接する列で、必要な秒数を指定します。
秒数【ポストレコーディングの】	録画停止条件（モーションまたは停止イベント）が満たされた後で、ビデオを録画する秒数を指定します。通常、ポストレコーディングが必要になるのは数秒のみですが、最長で 65,535 秒（18 時間 12 分 15 秒） まで指定できます。ただし、非常に長いポストレコーディング時間を指定すると、ポストレコーディング時間がスケジュールされた、あるいはスケジュールされていないアーカイブ時間にかかることもあります。アーカイブ中は、ポストレコーディングが適切に機能しないため、問題の原因となりかねません。
キーフレームだけ	ビデオストリームのキーフレームのみでモーション検知を行うことで、モーション検知で使用するシステムのリソースを減らしたい場合は、 キーフレームだけ を選択します。

テンプレートを使用すると、類似のプロパティが迅速に設定できて便利です。たとえば、20 台のカメラがあり、それらすべてに特定のフレームレートを設定したい場合、テンプレートに一度入力するだけで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。

名前	詳細
テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2 つの 設定 ボタンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメラを選択解除します。
選択したカメラにテンプレートを適用する	テンプレートの値を、選択したカメラに適用します。

ストレージの設定：ドライブの選択

どのドライブに、カメラの録画を保存するかを指定します。録画およびアーカイブ『**117ページ** の"アーカイブについて"参照』に対して、別個のドライブ/パスを指定することができます。

ドライブ	たとえば、C:¥ドライブです。
------	-----------------

目的	<p>ドライブを使用する目的を選択します。</p> <p>使用しない： ドライブは使用しません。</p> <p>録画： ドライブが監視システムサーバーのローカルドライブの場合のみ使用可能です。ネットワークドライブは録画には使用できません。システムのデータベース録画に使用するドライブです。</p> <p>アーカイブ： ドライブをアーカイブで使用します。アーカイブには、空き容量が十分にあるドライブを使用することをお勧めします。アーカイブでダイナミックパスを選択した場合、ドライブの空き容量について心配する必要はありません。</p> <p>録画& アーカイブ： ドライブが監視システムサーバーのローカルドライブの場合のみ使用可能です。ネットワークドライブは録画には使用できません。システムの通常のデータベースに録画およびアーカイブを保存するドライブを使用します。</p>
録画パス	<p>カメラのデータベースを保存するフォルダへのパス。デフォルトパスは C:¥MediaDatabase です。</p> <p>他のフォルダを参照する場合は、該当するセルの横にあるアイコンをクリックしてください。指定できるのは、ローカルドライブにあるフォルダへのパスのみです。ネットワークドライブへのパスを指定することはできません。ネットワークドライブを使用している場合、ネットワークドライブが使用不能になると、録画は保存できません。</p> <p>録画パスを変更し、元の場所に既存の録画がある場合、録画を新しい場所に移動するか（推奨）、元の場所に残すか、削除するかを選択するよう確認されます。</p> <p>複数のカメラがあり、複数のローカルドライブが使用可能な場合、個別のカメラのデータベースを複数のドライブに分散させることでパフォーマンスを改善できます。</p>
アーカイブ パス	<p>アーカイブ 『117ページ の"アーカイブについて"参照』の動的パスを使用しない場合のみ、これを編集できます。カメラのアーカイブされた録画を保存するフォルダへのパス。デフォルトは、C:¥MediaDatabase です。</p> <p>他のフォルダを参照する場合は、関連するセルの横にあるアイコンをクリックしてください。アーカイブ パスを変更し、古い場所に既存のアーカイブされた録画がある場合、アーカイブされた録画を新しい場所へ移動するか（推奨）、古い場所に残すか、あるいは削除するかを選択する必要があります。アーカイブされた録画を移動すると、システムは現在カメラのデータベースにあるものもアーカイブすることに注意してください。そのため、アーカイブされた録画を移動した直後に、カメラのデータベースは空になります。</p>
合計サイズ	ドライブの合計サイズ。
空きスペース	ドライブに残っている未使用の容量。

アーカイブのダイナミックパス選択	<p>このオプションを使用する場合（強く推奨）、アーカイブ用に複数のローカルドライブを選択する必要があります。監視システムデータベースを含んでいるパスが、アーカイブ用に選択したドライブのいずれかにあれば、システムは常にまずそのドライブにアーカイブしようと試みます。そうでない場合、そのドライブを使用するカメラデータベースが存在しない限り、システムは自動的にその時点で最も使用可能な容量が大きいアーカイブドライブにアーカイブします。</p> <p>使用可能な容量が最も大きいドライブはアーカイブプロセス中も変化するので、同一プロセスで複数のアーカイブドライブに対してアーカイブされることがあります。これにより、ユーザーがアーカイブされた録画を検索し、表示する方法には影響を与えません。</p>
アーカイブ時刻	<p>システムで自動的に録画をアーカイブパスへ移動させる時刻を指定します。1 日に最大で 24 件のアーカイブ時刻を指定できますが、最低でも 1 時間の間隔が必要です。時間、分、秒の値を選択してから、上および下ボタンをクリックして値を増減させるか、単に選択した値に上書きして、追加をクリックします。大量の録画が予想される場合ほど、頻繁にアーカイブする必要があります。</p>
ネットワークドライブ	<p>ネットワークドライブをドライブのリストに追加します。まずネットワークドライブを指定してから、追加をクリックします（ネットワークドライブを指定すると、ボタンが使用可能になります）。ネットワークドライブは録画には使用できず、アーカイブ用のみであることに注意してください。</p>

ストレージの設定：録画およびアーカイブの設定

個々のカメラについて、それぞれ録画およびアーカイブ 『117ページ の"アーカイブについて"参照 』のパスを選択します。

白い背景のすべてのプロパティを編集できます。**水色**の背景のプロパティは編集できません。

名前	詳細
録画パス	<p>カメラのデータベースを保存するフォルダへのパス。デフォルトは、C:\¥MediaDatabase です。他のフォルダを参照する場合は、該当するセルの横にあるアイコンをクリックしてください。指定できるのは、ローカルドライブにあるフォルダへのパスのみです。ネットワークドライブへのパスを指定することはできません。ネットワークドライブを使用している場合、ネットワークドライブが使用不能になると、録画は保存できません。</p> <p>録画パスを変更し、元の場所に既存の録画がある場合、録画を新しい場所に移動するか（推奨）、元の場所に残すか、削除するかを選択するよう確認されます。</p> <p>複数のカメラがあり、複数のローカルドライブが使用可能な場合、個別のカメラのデータベースを複数のドライブに分散させることでパフォーマンスを改善できます。</p>

名前	詳細
アーカイブ パス	<p>アーカイブ 『117ページ』の"アーカイブについて"参照』で動的パスを使用していない場合にのみ、編集可能です。カメラのアーカイブされた録画を保存するフォルダへのパス。デフォルトは、C:¥MediaDatabase です。</p> <p>他のフォルダを参照する場合は、関連するセルの横にあるアイコンをクリックしてください。アーカイブ パスを変更し、古い場所に既存のアーカイブされた録画がある場合、アーカイブされた録画を新しい場所へ移動するか（推奨）、古い場所に残すか、あるいは削除するかを選択する必要があります。アーカイブされた録画を移動すると、システムは現在カメラのデータベースにあるものもアーカイブすることに注意してください。そのため、アーカイブされた録画を移動した直後に、カメラのデータベースは空になります。</p>
保持期間	<p>カメラからの録画（つまり、カメラのデータベースにある録画ならびにアーカイブされている録画）を保持しておく合計時間です。デフォルトの保持期間は 7 日間です。</p> <p>保持期間は、録画を保持しておく合計時間です。以前のバージョンの監視システムでは、データベースとアーカイブで別個に制限時間を指定していました。</p>

テンプレートを使用すると、類似のプロパティが迅速に設定できて便利です。たとえば、20 台のカメラがあり、それらすべてに特定のフレームレートを設定したい場合、テンプレートに一度入力するだけで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。

名前	詳細
テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2 つの 設定 ボタンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメラを選択解除します。
選択したカメラにテンプレートを適用する	テンプレートの値を、選択したカメラに適用します。

モーション検知の調整ウィザード

モーション検知の調整ウィザードは、カメラのモーション検知のプロパティを迅速に設定するのに便利です。

複数の同時ビデオストリーム出力に対応しないカメラは、監視サーバーと Management Application に同時に接続することはできません。Sony では、そうしたデバイスでモーション検知や PTZ を設定する場合、Recording Server サービスを停止 『148ページ』の"サービスを開始および停止する"参照』することを推奨しています。

Management Application でカメラからのビデオを表示する 『36ページ』の"Management Application でカメラからビデオを再生する"参照』も参照してください。

モーション検知の調整：領域の除外

ウィザードの領域の除外セクションで、カメラのビューの特定のエリアでモーション検知を無効にできます。特定エリアのモーション検知を無効にすると、たとえば、カメラの撮影範囲に、風で揺れる木がある、または背景に定期的に自動車が通過する場合など、不適切なモーションの検知を避けることができます。

複数の同時ビデオストリーム出力に対応しないカメラは、監視サーバーと Management Application に同時接続することはできません。Sony では、そうしたデバイスでモーション検知や PTZ を設定する場合、Recording Server サービスを停止 『148ページ の"サービスを開始および停止する"参照』することを推奨しています。Management Application でカメラからのビデオ表示 『36ページ の"Management Application でカメラからビデオを再生する"参照』も参照してください。

同じ除外領域を表示する各カメラでは、ウィザードウィンドウの左側にあるリストを使ってカメラを選択し、領域の除外を定義します。領域の除外は各カメラに固有であるため、必要なそれぞれのカメラで個別にモーション検知を設定する必要があります。

カメラを選択すると、カメラのプレビューを確認できます。プレビューで除外する領域を定義し、グリッドで小さいセクションに分割します。

- グリッドを表示するには、**グリッドを表示**チェックボックスを選択します。
- 除外領域を定義するには、マウスのボタンを押下した状態で、プレビュー画像の必要な部分にマウスのポインタをドラッグします。左マウスボタンでグリッドを選択します。右マウスボタンでグリッドをクリアします。選択されたエリアが、青色で強調表示されます。

すべて除外ボタンを使用すると、プレビュー画像にあるすべてのグリッドセクションを迅速に選択することができます。これは、プレビュー画像の大半のエリアでモーション検知を無効にする場合にお勧めします。その場合は、モーション検知を無効にしない部分をクリアします。**すべてを含む**ボタンを使うと、素早くすべてのセクションを選択解除できます。

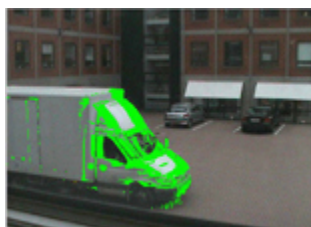
モーション検知の調整：モーション検知

モーション検知は、ほとんどの監視システムで非常に重要な要素です。モーション検知の設定によって、いつビデオを録画するか（監視システムサーバーに保存）、いつアラーム通知を送信するか、いつ出力（照明やサイレン）をトリガするかなどを決定することができます。

不要な録画やアラーム通知などを避けるために、それぞれのカメラに対して、可能な限り最適なモーション検知の設定をすることが重要になります。カメラの物理的な位置ごとに、さまざまな物理的条件（昼/夜、強風/無風および同様の条件）で設定をテストすることをお勧めします。

複数の同時ビデオストリーム出力に対応しないカメラは、監視サーバーと Management Application に同時接続することはできません。Sony では、そうしたデバイスでモーション検知や PTZ を設定する場合、Recording Server サービスを停止 『148ページ の"サービスを開始および停止する"参照』することを推奨しています。Management Application でカメラからのビデオを表示する 『36ページ の"Management Application でカメラからビデオを再生する"参照』も参照してください。

モーション検知の設定は、それぞれのカメラに対して行うこともできますし、複数のカメラについて同時に行うことも可能です。ウィザードウィンドウの左側のペインにあるリストを使って、カメラを選択します。一度に複数のカメラを選択する場合は、**CTRL** または **SHIFT** を押しながら選択します。カメラを選択すると、カメラのプレビューを確認できます。複数のカメラを選択した場合、最後に選択したカメラからのプレビューを確認できます。プレビュー画像の緑色のエリアがモーションを示しています。



名前	詳細
感度	<p>感度 スライダーを調整して、不要なバックグラウンドノイズをフィルタし、実際のモーションだけが緑色で表示されるようにします。または、スライダーの横のフィールドで 0~256 の値を指定して、感度設定を制御します。</p> <p>スライダーによって、モーションとして認識するために必要な変化するピクセル数を決定します。感度が高いと、モーションとして認識するために必要なピクセルの変化は非常に小さくなります。スライダーを左へ移動させるほど、プレビューの緑色部分が増えます。これは、感度が高いほどわずかなピクセルの変化でもモーションとして認識されるためです。</p>
モーション	<p>必要なレベルのモーションによってのみ、モーション検知がトリガされるように モーション スライダーを調整します。選択されたモーションレベルは、スライダーの上にある レベル バーの黒い垂直線で示されます。黒い垂直線は、閾値になります。モーションが選択されたレベルを超える場合（右側）、バーの色が緑から赤に変わり、モーションが検知されたことを示します。</p> <p>または、左のフィールドで 0~10000 の値を指定して、モーション設定を制御します。</p> <p>スライダーを左へドラッグするほど、モーション検知に必要な変化が小さくなるので、よりモーション検知が表示されます。モーション検知の回数も録画するビデオの量、受信する通知の量などに影響を与えます。</p>
検知間隔	<p>カメラからのビデオで、どれくらいの頻度でモーション検知分析を行うかを指定します。デフォルトは 240 ミリ秒ごとです（1 秒にほぼ 4 回）。この間隔は、使用しているカメラのフレームレート設定には関係なく適用されます。</p> <p>この設定を調整すると、モーション検知で使用されるシステムのリソースを低減できます。</p>
検知解像度	<p>画像全体を分析するか、選択した部分の画像を分析するかを指定します。たとえば 25% と指定すると、すべてのピクセルを分析する代わりに 4 ピクセルごとに分析するので、使用するシステムのリソースは低減しますが、モーション検知の正確度も低下します。</p>
キーフレームだけ	<p>ビデオストリームのキーフレームのみでモーション検知を行うことで、モーション検知で使用するシステムのリソースを減らしたい場合は、キーフレームだけ を選択します。</p>

ユーザーアクセスの管理ウィザード

ユーザーアクセスの管理手順を使用して、システムやそのクライアントにアクセスできるように個々のユーザーを追加します。ウィザードの最後にあるアクセスの概要には、アクセス権があるカメラがリスト化されます。

重要： このウィザードを使用すると、後の段階で追加される新しいカメラを含めて、すべてのカメラに対して、追加したすべてのユーザーがアクセスできるようになります。一方、アクセスの設定、ユーザー、ユーザー権限『142ページ の"ユーザーおよびグループの権限の設定"参照』を別個に指定することができます。サーバーアクセスの設定『136ページ』を参照してください。ユーザーをグループ『141ページ の"ユーザーグループの追加"参照』に追加することはできません。

ユーザーアクセスの管理：基本ユーザーと Windows ユーザー

クライアントユーザーは、次の 2 種類の方法で追加できます。必要に応じて、これらを組み合わせることができます。

名前	詳細
基本ユーザー	それぞれの個別のユーザーについて、基本ユーザー名とパスワード認証で、監視システム専用のユーザーアカウントを作成します。
Windows ユーザー	サーバーでローカルで定義されたユーザーをインポートし、それらのユーザーの Windows ログインに基づいて認証します。

ユーザーは、サーバー上でローカル PC ユーザーとして定義し、サーバーの簡易ファイル共有を無効にする必要があります。

基本ユーザーの追加

1. ユーザー名とパスワードを指定して、**基本ユーザーの追加**ボタンをクリックします。必要に応じて、操作を繰り返します。

Windows ユーザーの追加

1. **Windows ユーザーの追加**をクリックして、**ユーザーまたはグループの選択**ダイアログを開きます。**場所**ボタンをクリックしても、選択できるのはローカルコンピュータからだけになります。
2. **選択するオブジェクト名**を入力してくださいの欄にユーザー名を入力してから、**名前の確認**機能を使用して、ユーザー名を確認します。複数のユーザー名を入力する場合は、それぞれの名前をセミコロンで区切ります。例：**Brian; Hannah; Karen; Wayne**。
3. 完了したら、**OK** をクリックします。

重要：ローカルデータベースから追加されたユーザーがクライアントにログインする場合、ユーザーはユーザー名の一部としてサーバー名、PC の名前または IP アドレスを指定してはなりません。正しく指定したユーザー名の例：**USER001**。正しくない例：**PC001/USER001**。もちろん、ユーザーはパスワードや関連するサーバーの情報も指定する必要があります。

ユーザーアクセスの管理：アクセスの概要

アクセスの概要には、ユーザーがアクセスできるカメラが一覧されます。ウィザードを使用すると、後の段階で追加した新しいカメラを含めて、すべてのカメラに対して、追加したすべてのユーザーがアクセスできるようになります。ただし、個々の権限『142ページ の"ユーザーおよびグループの権限の設定"参照』を変更して、個々のユーザーのカメラへのアクセスを制限することもできます。

詳細設定

ハードウェアデバイス

ハードウェアデバイスについて

カメラ、およびビデオエンコーダーなどその他のハードウェアデバイスは、**ハードウェアデバイスの追加...**ウィザード『39ページ の"ハードウェアの追加ウィザード"参照』を使用してシステムに追加します。マイクやスピーカーがハードウェアデバイスに付属している場合は、これらも自動的に追加されます（使用している Network Video Management System のバージョンでサポートされている場合）。

マイクについて

システムで、**マイク**は通常はハードウェアデバイスに取り付けられるので、物理的にカメラの次に位置します。そこで、必要な権限を持つオペレータは、Network Video Management System Smart Client (Network Video Management System Smart Client を実行しているコンピュータにスピーカーが取り付けられている場合)を通じて録音を聴くことができます。マイクはシステムで管理します。つまり、Network Video Management System Smart Client のオペレータのコンピュータに取り付けられているマイクではなく、カメラに取り付けられているマイクを常に管理できます。

必要以上のマイクをシステムに追加した場合、関連するマイクやスピーカーを右クリックして、**非表示**を選択すると、不要なものを非表示にすることができます。非表示にしたマイクを再度表示したい場合は、マイク全体のアイコンを右クリックして、**非表示の項目を表示**を選択します。

スピーカーについて

スピーカーはデバイスに取り付けられ、通常は物理的にカメラの横に配置します。通常、スピーカーはカメラの近くにいる人に情報を通知します。必要な権限を持つオペレータは、Network Video Management System Smart Client (Network Video Management System Smart Client を実行しているコンピュータにマイクが装備されている場合)を使用して、スピーカーで話しかけることができます。

例：エレベーターが止まってしまいました。エレベーターに取り付けられたカメラを通じて、Network Video Management System Smart Client のオペレータは、年配の女性がエレベーターに乗っていることを確認できます。カメラに取り付けられたマイクから、女性が次のように話すのが録音されます。「怖いわ。助けてください！」カメラに取り付けられたスピーカーを通じて、オペレータが女性に語りかけます。「間もなく救助が到着しますよ。あと 15 分以内にいられます。」

必要以上のスピーカーをシステムに追加した場合、関連するスピーカーを右クリックして、**非表示**を選択すると、不要なスピーカーを非表示にすることができます。非表示にしたスピーカーを再度表示したい場合は、スピーカー全体のアイコンを右クリックして、**非表示アイテムの表示**を選択します。

音声録音について

音声を録音する場合、以下に注意することが重要です。

- システムが録音できるのは、（マイクから）入ってくる音声だけです。システムは、（スピーカから）出ていく音声は録音しません。

- 音声録音は、ビデオ保存容量に影響します。システムは、関連するカメラのデータベースに音声を録音します。したがって、ビデオだけを録画する場合に比べて、音声とビデオを記録する場合、より早くデータベースが満杯になることに留意する必要があります。データベースが満杯になると、システムは自動的にデータをアーカイブするので、データベースが満杯になること自体は問題ではありません。ただし、音声を録音する場合、追加のアーカイブ容量が必要になります。
- 例：MPEG4 を使用する場合、それぞれ 1 秒のビデオ GOP (Group Of Pictures) が、データベースの 1 レコードに保存されます。毎秒ごとの音声も、データベースの 1 レコードに保存されます。データベースのレコードの半分は音声の保存に使用されるので、データベースのビデオ保存容量が全体容量の半分に低減します。したがってデータベースはすぐに満杯になり、ビデオだけを録画する場合と比べて、より頻繁にアーカイブが発生します。
- 例：MJPEG を使用する場合、音声ブロックのサイズが JPEG 間の時間を超えない限り、すべての JPEG に対して音声は 1 レコードに保存されます。極端な場合は、データベースのレコードの半分が音声の保存で使用されるので、データベースのビデオ保存容量が全体容量の半分に低減します。非常に高いフレームレートを使用すると、各 JPEG 間の時間が短くなることを意味するので、音声の録音に使用するデータベースの割合が小さくなり、その結果ビデオの保存で利用できる部分は大きくなります。その結果として、データベースはすぐに満杯になり、ビデオだけを録画する場合と比べて、より頻繁にアーカイブが発生します。

上記では、単純化した例を示しています。正確な使用可能な保存容量は、GOP/JPEG および音声のキロバイト単位でのサイズにも依存します。

専用入力/出力デバイスについて

システムに、多数の専用の入力/出力(I/O)ハードウェアデバイスを追加することができます。システムがどの I/O ハードウェアデバイスをサポートしているかに関する情報は、リリースノートを参照してください。

I/O ハードウェアデバイスを追加すると、デバイスでの入力がシステムでイベントを生成するために使用され、システムでのイベントは I/O ハードウェアデバイスでの出力を有効化するのに使用されます。これは、カメラと同じ方法で設定されたイベントベースのシステムで I/O ハードウェアデバイスを使用できることを意味します。

一部の I/O ハードウェアデバイスでは、監視システムが定期的にハードウェアデバイスの入力ポートの状態をチェックして、入力を受信したかどうか検出しなければなりません。このような定期的な状態チェックを、**ポーリング**と呼びます。状態チェックの間隔は、**ポーリング頻度**と呼ばれ、一般的なポートとポーリングのプロパティ『108ページ の"ポートとポーリング"参照』の一部として指定されます。このような I/O ハードウェアデバイスの場合、ポーリング頻度を可能な限り低い値 (状態チェックの間隔を 10 分の 1 の秒数) に設定する必要があります。どの I/O ハードウェアデバイスがポーリングを必要とするかに関する情報は、リリースノートを参照してください。

マイクやスピーカーの表示/非表示

システムで必要とされる数以上のマイクやスピーカーを追加した場合、不要なマイクやスピーカーを右クリックして、**非表示**を選択すると、それらを非表示にすることができます。非表示にしたマイク/スピーカーを再度表示したい場合は、マイクやスピーカー全体のアイコンを右クリックして、**非表示アイテムの表示**を選択します。

ハードウェアデバイスの設定

ハードウェアデバイスを追加した後に、IP アドレス、どのビデオチャンネルを使用するか、どの COM ポートを取り付けられた PTZ カメラのコントロールで使用するか、魚眼レンズ技術を使用するかどうかなど、デバイス固有のプロパティを指定/編集することができます。

1. **詳細設定**を展開し、**ハードウェアデバイス**を展開し、関連するハードウェアデバイスを右クリックし、**プロパティ**を選択します。
2. 必要に応じて、名前とビデオチャンネル、ネットワーク、デバイスタイプおよびライセンス 『60ページの"ネットワーク、デバイスタイプ、ライセンス"参照』、PTZ デバイス 『61ページの"PTZ デバイス (プロパティ)"参照』、魚眼レンズのプロパティを指定します。
3. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

ハードウェアデバイスの削除/無効化

重要： ハードウェアデバイスを削除する場合、ハードウェアデバイスに取り付けられているすべてのカメラ、スピーカー、マイクが削除されるだけではありません。ハードウェアデバイスに取り付けられているカメラの録画もすべて削除されます。

1. **詳細設定**を展開し、**ハードウェアデバイス**を展開し、削除するハードウェアデバイスを右クリックし、**ハードウェアデバイスの削除**を選択します。
2. ハードウェアデバイスおよびそれらに含まれるすべての録画も削除されることを確認します。
3. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。
4. Recording Server サービスを再起動 『148ページの"サービスを開始および停止する"参照』します。

削除する代わりに、ハードウェアデバイスに取り付けられているカメラ、スピーカー、マイクを個別に無効化することも可能です。

1. **詳細設定**を展開し、**ハードウェアデバイス**を展開し、関連するハードウェアデバイスを展開します。
2. 無効にしたいカメラ、スピーカー、マイクを右クリックして、**無効**を選択します。
3. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。
4. Recording Server サービスを再起動 『148ページの"サービスを開始および停止する"参照』します。

ハードウェアデバイスの交換について

システムへ設定済みのハードウェアデバイスを新しいハードウェアデバイスと交換することができます。たとえば、ネットワーク内のカメラを物理的に交換できます。

ハードウェアデバイスの交換ウィザード 『58ページの"ハードウェアデバイス交換ウィザードについて"参照』開いてください。このウィザードは、以下の項目を含む監視システムサーバーでの交換プロセス全体を支援します。

- 新規ハードウェアデバイスの検出
- 新規ハードウェアデバイスに対するライセンスの指定
- 古いハードウェアデバイスによる既存の録画に対して何を行うかの決定

ハードウェアデバイス交換ウィザードについて

以前に追加して、監視システムに設定してあるハードウェアデバイスを交換するには、ハードウェアデバイス交換ウィザードを使用します。ハードウェアデバイス交換ウィザードを開くには、交換したいデバイスを右クリックし、**ハードウェアデバイスの交換**を選択します。このウィザードは、新規ハードウェアデバイスの情報ページとデータベースアクションページに分割されます。

新規ハードウェアデバイスの情報

新規ハードウェアデバイスに関する詳細を指定します。

IP アドレス	ハードウェアデバイスの IP アドレスまたはホスト名。
ポート	<p>スキャンするポート番号。デフォルトポートは 80 です。</p> <p>ハードウェアデバイスが NAT 対応のルーターまたはファイアウォールの背後にある場合、別のポート番号の指定が必要になることがあります。この場合、ハードウェアデバイスが使用しているポートや IP アドレスをマップするように、ルーター/ファイアウォールを設定する必要もあることに留意してください。</p>
ユーザー名	<p>ハードウェアデバイスの管理者アカウントのユーザー名。</p> <p>多くの組織では、ハードウェアデバイスの製造元によるデフォルトのユーザー名をハードウェアデバイスで使用しています。あなたの組織の場合であれば、"<デフォルト>"を選択します。システムがメーカーのデフォルトユーザー名を知っていると誤解の原因となるため、メーカーのデフォルトユーザー名は入力しないでください。</p> <p>たとえば admin や root など、リストから他の一般的なユーザー名を選択することもできます。リストにないユーザー名を使用するときは、新しいユーザー名を入力します。</p>
パスワード	管理者アカウントにアクセスするために必要なパスワードです。一部のハードウェアデバイスでは、アクセスにユーザー名/パスワードを必要としません。

デバイスドライバ

新規ハードウェアデバイスで、どのデバイスドライバを使用するかを指定する方法：

- ハードウェアデバイスタイプリストで、ビデオデバイスドライバを選択してから、**自動検知/ハードウェアデバイスタイプの確認**をクリックして、ドライバがハードウェアデバイスと一致しているか確認します。
- または -
- 自動検知/ハードウェアデバイスタイプの確認**をクリックして自動検出し、適切なドライバを確認します。

適切なドライバが見つかったら、**シリアル番号 (MAC アドレス)** フィールドに、新しいハードウェアデバイスの MAC アドレスが表示されます。完了したら、**次へ**をクリックします。

カメラおよびデータベースアクション

ハードウェア交換ウィザードの最後のページで、カメラおよび古いハードウェアデバイスに属しているカメラからの録画を含んでいるデータベースに対して何を行うかを決定します。ビデオエンコーダーなどのマルチカメラデバイスでは、新しいハードウェアデバイスの各チャンネルで何を行うかを決定する必要があります。

ウィザードページの左側にあるテーブルには、新しいハードウェアデバイスで利用できるビデオチャンネルのリストが表示されます。通常の単一カメラのハードウェアデバイスの場合は、ビデオチャンネルは1つだけになります。ビデオエンコーダーの場合は、通常は複数のビデオチャンネルがあります。

- それぞれのビデオチャンネルで、テーブルの**継承**列を使用して、古いハードウェアデバイスのどのカメラを新規ハードウェアデバイスで継承するかを選択します。
- カメラデータベースで何を行うか決定します。次の3つのオプションがあります。
 - 既存のデータベースを継承：** 新規ハードウェアデバイスで継承を選択したカメラは、古いハードウェアデバイスからカメラの名前、録画データベース、ならびにアーカイブを継承します。データベースとアーカイブの名前は、新しいハードウェアデバイスのMACアドレスとビデオチャンネルを反映するように変更されます。継承されたカメラに対するユーザーのアクセス権限は自動的に更新されるため、ユーザーは新旧の録画を表示できるようになります。カメラの名前は同じままであるため、ユーザーにはハードウェアデバイスの交換は認識されません。
 - 既存のデータベースを削除：** 新規ハードウェアデバイスで継承を選択したカメラのデータベースは削除されません。今後の録画用に新しいデータベースが作成されますが、ハードウェアの交換前の録画を表示することはできません。
 - 既存のデータベースを残す：** 新規ハードウェアデバイスで継承を選択したカメラのデータベースは削除されません。今後の録画用に新しいデータベースが作成されます。古いデータベースもシステムのサーバーに残りますが、ハードウェアの交換前の録画を表示することはできません。後で古いデータベースを削除したくなった場合は、手動で削除しなければなりません。
- 新規ハードウェアデバイスのビデオチャンネルの数が古いハードウェアデバイスのビデオチャンネルより少ない場合は、新規ハードウェアデバイスが古いハードウェアデバイスからすべてのカメラを継承することはできません。この場合、新しいハードウェアデバイスによって継承できなかったカメラのデータベースに関して、何を行うか質問されます。次の2つのオプションがあります。
 - 継承されていないカメラのデータベースを削除する：** 新規ハードウェアデバイスで継承できなかったカメラのデータベースは削除されます。ハードウェアの交換前の録画を表示することはできません。当然のことながら、新規ハードウェアデバイスによる今後の録画用に、新しいデータベースが作成されます。
 - 継承されていないカメラのデータベースを残す：** 新規ハードウェアデバイスで継承できなかったカメラのデータベースは削除されません。システムのサーバーに古いデータベースが残っていても、ハードウェアの交換前の録画を表示することはできません。後で古いデータベースを削除したくなった場合は、手動で削除しなければなりません。当然のことながら、新規ハードウェアデバイスによる今後の録画用に、新しいデータベースが作成されます。
- 終了**をクリックします。準備ができれば、Recording Server サービスを再起動します。ハードウェアの交換は、Recording Server サービスを再起動するまでクライアントには認識されません。

スピーカープロパティ

特定のカメラに対してビデオおよびレコーディングの設定 『62ページ の"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、音声を録音するタイミングを指定できます。この選択は、システムのすべてのカメラに適用されます。

有効	スピーカーはデフォルトで有効になっており、これはシステムに音声を転送できることを意味します。必要に応じて、個別のスピーカーを無効にすることができます。この場合、スピーカーからシステムへ音声は転送されません。
スピーカー名	Management Application およびクライアントで表示される名前です。既存の名前を、新しい名前の上書きすることができます。 名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []

ハードウェアプロパティ

ハードウェア名とビデオ チャンネル

ハードウェアデバイスを設定する時は、以下のプロパティを指定します。

ハードウェア名	Management Application およびクライアントで表示される名前です。既存の名前を、新しい名前の上書きすることができます。 名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []
有効にするビデオチャンネル番号	選択したハードウェアデバイスのそれぞれのビデオ チャンネルを有効/無効にします。多くのハードウェアデバイスには単一のビデオチャンネルではなく、この場合一覧されるチャンネルは 1 つだけです。 他のハードウェアデバイス（通常は、ビデオエンコーダーデバイス）には、複数のビデオ チャンネルがあります。

ネットワーク、デバイスタイプ、ライセンス

ハードウェアデバイスを設定 『56ページ の"ハードウェアデバイスの設定"参照 』する時は、以下のプロパティを指定します。

IP アドレス	ハードウェアデバイスの IP アドレスまたはホスト名。
HTTP ポート	ハードウェアデバイスとの HTTP 通信に使用するポート。デフォルトはポート 80 です。デフォルトのポートを使用するには、 デフォルト HTTP ポートの使用 を選択します。
FTP ポート	ハードウェアデバイスとの FTP 通信に使用するポート。デフォルトのポートは、ポート 21 です。デフォルトのポートを使用する場合は、 デフォルト FTP ポートの使用 を選択します。
ユーザー名	サーバーのログインが必要です を選択した場合にのみ必要です。SMTP サーバーがユーザ認証を必要とする場合、ユーザー名を指定します。

ユーザー名	<p>ハードウェアデバイスの管理者アカウントのユーザー名。</p> <p>多くの組織では、ハードウェアデバイスの製造元によるデフォルトのユーザー名をハードウェアデバイスで使用しています。この場合は、[<デフォルト>]を選択します。間違いの原因となるので、製造元によるデフォルトのユーザー名を入力しないでください。システムが製造元のデフォルトユーザー名を認識していることを確認します。</p> <p>たとえば admin や root など、リストから他の一般的なユーザー名を選択することもできます。リストにないユーザー名を使用するときは、新しいユーザー名を入力します。</p>
パスワード	<p>パスワードを編集します。入力確認のため、パスワードを再入力することを忘れないでください。</p> <p>これを編集できるのは、選択したユーザーが基本ユーザーである場合だけです。</p>
ハードウェアタイプ	ハードウェアデバイスとの通信で使用するビデオデバイスドライバのタイプを示す、読み取り専用のフィールド。
シリアル番号 (MAC アドレス)	デバイスのシリアル番号を示す、読み取り専用のフィールド。このシリアル番号は、通常はハードウェアデバイスの 12 桁/16 進数の MAC アドレスです。(例: 0123456789AF)。
ライセンス情報	ハードウェアの現在のライセンス状態。
ハードウェアデバイスの交換	<p>ウィザード『58ページ』の"ハードウェアデバイス交換ウィザードについて"参照』を開き、必要に応じて、選択したハードウェアデバイスを別のデバイスに交換します。</p> <p>この操作が必要になるのは、ネットワーク上で物理的なカメラを交換する場合のみです。このウィザードでは、接続されたカメラから古いハードウェアデバイスへの録画の処理方法の決定など、すべての関連する問題を考慮できます。</p>

PTZ デバイス (プロパティ)

PTZ を使用できるビデオエンコーダーハードウェアデバイスを設定『56ページ』の"ハードウェアデバイスの設定"参照』する場合にのみ、PTZ デバイスタブを使用できます。

接続されているカメラには、パン/チルト/ズームの機能があります	ビデオエンコーダーデバイスに接続されているいずれかのカメラが PTZ カメラである場合、チェックボックスを選択します。
COM#の PTZ タイプ	PTZ カメラが COM ポート経由で制御される場合、関連するオプションを選択します。オプションはデバイス固有で、デバイスがどの PTZ プロトコルを使用するかに応じて異なります。COM ポート経由で PTZ カメラを制御しない場合は、無しを選択します。

ダイアログの下半分にある表には、ハードウェアデバイスの各ビデオチャンネルに対応する行が表示されます。上から 1 番目の行がビデオチャンネル 1 に対応し、上から 2 番目の行はビデオチャンネル 2 に対応しています。以下も同様になります。

名前	対象となるビデオチャンネルに接続されているカメラの名前。
----	------------------------------

タイプ	<p>選択したカメラチャンネルにあるカメラが固定であるか、移動可能であるかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 固定：カメラは、固定位置に取り付けられた標準的なカメラです。 ● 移動可能：カメラは、PTZ カメラです。
ポート	<p>タイプ列で移動可能が選択されている場合のみ使用可能です。ビデオエンコーダーのどの COM ポートを PTZ カメラの制御で使用するかを選択します。</p>
ポートアドレス	<p>タイプ列で移動可能が選択されている場合のみ使用可能です。カメラのポートアドレスを指定してください。通常のポートアドレスは 1 です。デジチェーンで接続されている PTZ カメラを使用する場合、ポートアドレスはそれぞれを識別するため、カメラのマニュアルで推奨されている設定になっているか確認してください。</p>

カメラとストレージの情報

ビデオや録画の設定について

ハードウェアデバイスを追加して、カメラを設置したら、次の 3 つの方法でビデオや録画を設定できます。

名前	詳細
ウィザードによる設定	すべてのカメラに関するビデオ、録画、アーカイブの設定をガイドに従って行います。
一般	すべてのカメラに対して、ビデオ、録画、共有設定（ダイナミックアーカイブパスや音声を録音するかどうかなど）を指定します。
カメラの個別設定	個々のカメラのそれぞれについて、ビデオ、録画、カメラ固有の設定（イベント情報、PTZ プリセット位置、魚眼レンズビューエリア）を指定します。

データベースのサイズ変更について

カメラの録画が予想以上に大きくなった場合、その他の原因で使用可能なドライブスペースが別の理由で急に減少した場合、データベースのサイズ変更が自動的に行われます。

- カメラのデータベースと同じドライブにアーカイブ 『117ページ の"アーカイブについて"参照』が存在する場合、そのドライブでアーカイブされているすべてのカメラのうち最も古いアーカイブが別のドライブへ移動されるか、あるいは移動できない場合は削除されます（アーカイブの移動が可能になるのは、ダイナミックアーカイブ 『70ページ の"ダイナミックパスの選択（プロパティ）"参照』を使用していて、複数の異なるドライブへのアーカイブである場合のみ）。
- カメラのデータベースを含んでいるドライブにアーカイブが存在しない場合、最も古い録画の一部を削除し、すべてのデータベースのサイズを一時的に制限することにより、そのドライブのすべてのカメラデータベースのサイズが縮小されます。

このようなデータベースのサイズ変更に伴い、Recording Server サービス『146ページ の"サービスについて"参照』を再起動すると、元のデータベースのサイズが使用されます。したがって、まずドライブサイズの問題を解決する必要があります。データベースのサイズ変更の手順が行われた場合、Network Video Management System Smart Client の画面上や、ログファイルに情報が表示されます。また、設定されている場合には通知が送られます。

モーション検知について

モーション検知の設定はカメラの録画プロパティにリンクしており、選択したカメラのモーション検知を有効にして、設定することができます。モーション検知の設定は、システムの重要な部分です。モーション検知の設定により、システムでモーションイベントを生成するタイミング、さらに通常はビデオを録画するタイミングを決定します。

デフォルトでは、モーション検知が有効になっています。無効にすると、システムの CPU や RAM のパフォーマンスは改善しますが、同時にモーション検知、イベント、アラームの管理にも影響します。

それぞれのカメラに最適なモーション検知の構成が得られるようにあらかじめ調整しておくことで、不必要な録画などを避けるのに役立ちます。カメラの物理的な位置によっては、異なる物理的条件（昼/夜、強風/無風など）でモーション検知の設定をテストすることをお勧めします。

カメラのモーション検知を設定する前に、Sony では、カメラの画質の設定（例、ビデオコーデック、ストリーム設定など）を行っておくことをお勧めします。後で画質の設定を変更すると、必ずモーション検知の設定を変更後にテストしなくてはならないからです。

カメラに対して組み込みモーション検知を有効にした場合（表 1）と無効にした場合（表 2）の違いを以下の 2 つの表に示します。

モーション検知を有効にした場合

録画プロパティの設定	記録	モーション検知によるイベント	モーション検知によらないイベント	シーケンス
常時録音	はい	はい	はい	はい
設定しない	いいえ	はい	はい	いいえ
組み込みモーション検知	はい	はい	はい	はい
組み込みモーション検知 & イベントまたはイベントのみ	はい	はい	はい	はい

モーション検知を無効

カメラの録画の設定	記録	モーション検知によるイベント	モーション検知によらないイベント	シーケンス
常時録音	はい	いいえ	はい	いいえ
設定しない	いいえ	いいえ	はい	いいえ
組み込みモーション検知	いいえ	いいえ	はい	いいえ

カメラの録画の設定	記録	モーション検知によるイベント	モーション検知によらないイベント	シーケンス
組み込みモーション検知およびイベントまたはイベントのみ	はい（設定に依存）	いいえ	はい（設定に依存）	いいえ

モーション検知感度

デフォルトでは、モーション検知がダイナミック感度に設定されています。ただし、**モーション検知と除外エリア**プロパティにおいて、手動で感度レベルを調整することもできます。

次の理由により、Sony は手動感度を有効にしないことをお勧めします。

- ダイナミック感度の場合、システムは感度レベルを自動的に計算して最適化し、画像のノイズから発生するモーション検知を抑制します。
- 夜間には、画像のノイズにより誤ったモーションが頻繁にトリガされますが、ダイナミック感度によりモーション検知が改善します。
- 録画が多すぎることに起因するシステム過負荷は発生しません。

録画が少なすぎるために結果が見られなくなることもありません。 モーション検知および PTZ カメラ

モーション検知は、一般に、パン/チルト/ズーム (PTZ) カメラでも通常のカメラの場合と同様に機能します。ただし、PTZ カメラの各プリセット位置に対して個別にモーション検知を設定することはできません。

モーション検知および PTZ カメラについて

モーション検知は、一般に、パン/チルト/ズーム (PTZ) カメラでも通常のカメラの場合と同様に機能します。ただし、PTZ カメラの各プリセット位置に対して個別にモーション検知を設定することはできません。

不要な録画、通知などを行わないために、PTZ カメラが 2 つのプリセット位置の間で移動している間は、システムは自動的にモーション検知を無効にします。一定の秒数が経過すると、システムは再び自動的にモーション検知を有効にします。この期間は移行時間と呼ばれ、PTZ カメラの PTZ パトロールプロパティ 『95ページ』の"PTZ パトロール（プロパティ）"参照』で指定されます。

特定カメラスケジュールの構成

特定の期間内のイベントのスケジュールプロファイル、またはその一部に基づいている場合は、カレンダー選択の下から**開始イベント**および**停止イベント**を選択することを忘れないでください。

他のフィールドの下にあるイベントの**設定**リストを使用して、必要に応じたイベントを定義します。



貴方のシステムで、カメラがビデオの移行することは、必ずしも、カメラからビデオに記録されることではありません。記録は別に構成されています 「ビデオと記録の構成」 『62ページ の"ビデオや録画の設定について" 参照 』をご覧ください。

各カメラごとに、スケジュール・プロフィールを制作できます。

オンライン期間

- 時間の区分（例毎月曜日 8:30～17:45）ピンク色で示されます。
- 時間内の出来事（例：出来事 A は、出来事 B が起きるまで生じています毎月曜日 8:30～17:45）黄色で示されます。

二つの選択肢は一緒にできますが 、時間内で重複はできません。

スピードアップ

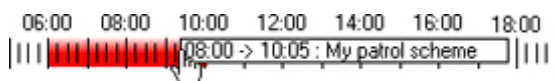
- 時間の区分（例毎月曜日 8:30～17:45）オリーブ緑色で示されます。

E メールのお知らせ

- 時間の区分（例毎月曜日 8:30～17:45）青色で示されます。

PTZ パトロール

- 時間の区分（例毎月曜日 8:30～17:45）赤色で示されます。
- 一つのパトロールを使用していて、すぐに他のパトロールが続く場合には、マウスのポインターを赤いバーにつけて、どのパトロールファイルが作動しているか見て下さい。



SMS のお知らせ

時間の区分（例毎月曜日 8:30～17:45）緑色で示されます。 プロフィールの設定

- スケジュール・プロフィール の中で、 **新規追加**を選んで下さい。

2. **プロフィールの追加** ダイアログで、プロフィールの名前を入れて下さい。 名前には、以下の特殊文字を含めることはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? | []
3. ダイアログのトップ右コーナーで、「**オンタイムでカメラ開始/停止の設定**」を設定し、次に、時間区分を設定し、**またはその時間内での出来事に関しては**、「出来事に関しカメラ開始/停止の設定」を設定して下さい。
4. カレンダーのセクションで、必要な開始日時へマウスポインタを移動させてから、左マウスボタンを押下し、マウスポインタをドラッグして、希望する終了日時でリリースします。
 - それぞれの日を個別に指定します。
 - 時間は5分刻みで指定します。システムではマウスポインタが位置している時間が表示され、操作を助けます。



特定の期間内のイベントのスケジュールプロファイル、またはその一部に基づいている場合は、カレンダー選択の下のリストから**開始イベント**および**停止イベント**を選択することを忘れないでください。

- 他のフィールドの下にあるイベントの**設定**リストを使用して、必要に応じたイベントを定義します。
- スケジュールプロファイルの不要な部分を削除するには、該当部分を右クリックし、**削除**を選択します。
- 終日を速やかに入力またはクリアしたい場合は、その日の名前をダブルクリックします。
- カレンダーのセクションの内側をドラッグする代わりに**開始時刻**、**終了時刻**、日のフィールドを使用し、必要に応じて**期間の変更**または**期間の設定**ボタンを使用することもできます。**開始時刻**および**終了時刻**のフィールドを使用する場合、時間を5分刻みで指定することを忘れないでください。5分より短い期間は指定できないため、使用できる時刻は12:00, 12:05, 12:10, 12:15 などとなります。5分間隔以外の時刻（たとえば12:13）を指定すると、エラーメッセージが表示されます。

カメラがいつ、何をする必要があるかを設定する

いつ実行するかを設定するには、スケジュール機能を使用します。

- カメラはオンラインであり、システムにビデオを転送する必要があります。
- カメラは、スピードアップを使用して、通常より高いフレームレートを使用する必要があります。
- カメラに関して E メールおよび/または SMS 通知を受信したい場合
- PTZ カメラは、パトロール設定に従って、パトロールを行う必要があります。
- アーカイブを発生する必要がある

一般的なスケジュールおよびアーカイブの設定 『122ページ』およびカメラ固有のスケジュールの設定 『64ページ』の"特定カメラスケジュールの構成"参照』を参照してください。

モーション検知の設定

モーション検知を設定するには、以下を行います。

詳細設定

1. **詳細設定 > カメラおよびストレージの情報**を展開し、関連するカメラを右クリック> **プロパティ**をクリックします。
2. **カメラのプロパティ**ウィンドウで、**録画プロパティ**タブを選択し、>関連する設定 『63ページ の"モーション検知について"参照 』を選択します。
3. **モーション検知**タブを選択します。モーション検知から除外する領域がある場合（たとえば、カメラの撮影範囲に風で揺れる木がある場合）、マウスで選択して、その領域を除外 『51ページ の"モーション検知の調整：領域の除外"参照 』することができます。
4. 関連するプロパティ 『91ページ の"モーション検知&領域の除外"参照 』を入力します。PTZ カメラ 『64ページ の"モーション検知および PTZ カメラについて"参照 』では、モーション検知の動作に違いがあることに注意してください。

カメラの無効化または削除

すべてのカメラは、デフォルトで有効になっています。つまり、カメラがオンラインになるようスケジュールされている 『125ページ の"オンライン期間"参照 』場合、カメラからビデオをシステムに転送できることを意味します。

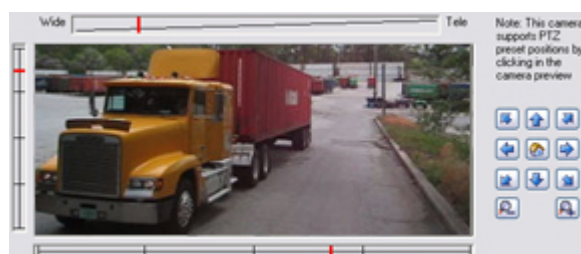
カメラを**無効にする**には：

1. **詳細設定**を展開し、**カメラおよびストレージの情報**を展開し、無効にしたいカメラをダブルクリックして、**有効**ボックスを選択解除します。
2. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

カメラを**削除**するには、ハードウェアデバイスを削除 『57ページ の"ハードウェアデバイスの削除/無効化"参照 』する必要があります。ハードウェアデバイスを削除する場合、取り付けられているマイクやスピーカーも削除されます。これを行いたくない場合は、代わりにカメラの無効化を検討してください。

PTZ タイプ 1 および 3 を、必要な位置へ移動する











PTZ タイプ 1 および 3 の場合、複数の異なる方法で、PTZ カメラを必要な位置へ移動することができます。



1. カメラプレビューの必要な位置をクリックする（カメラでサポートされている場合）。
2. カメラプレビューの近くにあるスライダーを使って、そのそれぞれの軸に沿って PTZ カメラを移動します。X 軸（左/右へのパン）、Y 軸（上/下へのチルト）、Z 軸（ズームインおよびズームアウト。ズームインするにはスライダーを**望遠**に移動し、ズームアウトするにはスライダーを**広角**に移動します）。
3. ナビゲーションボタンの使用：



PTZ カメラを左上へ移動

-  PTZ カメラを上へ移動
-  PTZ カメラを右上へ移動
-  PTZ カメラを左上へ移動
-  PTZ カメラをホームポジションへ移動（デフォルト位置）
-  PTZ カメラを右へ移動
-  PTZ カメラを左下へ移動
-  PTZ カメラを下へ移動
-  PTZ カメラを右下へ移動
-  ズームアウト（クリックごとに 1 ズームレベル）
-  ズームイン（クリックごとに 1 ズームレベル）

録画およびストレージのプロパティ

録画およびアーカイブのパス（プロパティ）

ビデオおよび録画を設定 『62ページ』の"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、多くのカメラに対して一定のプロパティを同時に指定することができます。 操作を迅速に行いたい場合や、対象となるプロパティが、個別のカメラではなく、すべてのカメラで共有されている場合が該当します。

白い背景のすべてのプロパティは編集可能で、水色の背景のプロパティは編集できません。 それぞれのカメラに対して、すべてのプロパティを個別に指定することも可能であることに注意してください。

テンプレート	<p>テンプレートを使用すると、類似のプロパティが迅速に設定できて便利です。</p> <p>たとえば、カメラが 20 台あり、録画パス、アーカイブパス、およびそれらすべての保持期間を変更したいとします。3 種類の同じ情報を 20 回入力する代わりに、テンプレートに一度だけ入力し、2 回クリックするだけで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。</p>
テンプレートを適用	<p>どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2 つの設定ボタンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。</p>
カメラ名	<p>Management Application およびクライアントで表示される名前です。既存の名前を、新しい名前の上書きすることができます。 名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []</p>

ショートカット	<p>Network Video Management System Smart Client のユーザーは、キーボードショートカットを活用できます。一例として、複数のカメラの再生を切り替えることができます。こうしたショートカットには数字も含まれており、各カメラを識別するために使用します。</p> <p>ショートカット番号は、それぞれのカメラで一意でなければなりません。カメラのショートカット番号には、文字または特殊文字を含んではならず、最大で 8 桁以内になるようにしてください。</p> <p>正しいカメラのショートカット番号の例：3, 12345678。 正しくないカメラのショートカット番号の例：Cam#3、123456789。</p> <p>キーボードショートカットの使用方法に関する詳細情報は、Network Video Management System Smart Client の他のマニュアルにあります。</p>
録画パス	<p>カメラのデータベースを保存するフォルダへのパス。デフォルトは、C:¥MediaDatabase です。他のフォルダを参照する場合は、該当するセルの横にあるアイコンをクリックしてください。指定できるのは、ローカルドライブにあるフォルダへのパスのみです。ネットワークドライブへのパスを指定することはできません。ネットワークドライブを使用している場合、ネットワークドライブが使用不能になると、録画は保存できません。</p> <p>録画パスを変更し、元の場所に既存の録画がある場合、録画を新しい場所に移動するか（推奨）、元の場所に残すか、削除するかを選択するよう確認されます。</p> <p>複数のカメラがあり、複数のローカルドライブが使用可能な場合、個別のカメラのデータベースを複数のドライブに分散させることでパフォーマンスを改善できます。</p>
アーカイブ パス	<p>アーカイブ 『117ページ の"アーカイブについて"参照 』で動的パスを使用していない場合にのみ、編集可能です。カメラのアーカイブされた録画を保存するフォルダへのパス。デフォルトは、C:¥MediaDatabase です。</p> <p>他のフォルダを参照する場合は、関連するセルの横にあるアイコンをクリックしてください。アーカイブ パスを変更し、古い場所に既存のアーカイブされた録画がある場合、アーカイブされた録画を新しい場所へ移動するか（推奨）、古い場所に残すか、あるいは削除するかを選択する必要があります。アーカイブされた録画を移動すると、システムは現在カメラのデータベースにあるものもアーカイブすることに注意してください。そのため、アーカイブされた録画を移動した直後に、カメラのデータベースは空になります。</p>
保持期間	<p>カメラからの録画（つまり、カメラのデータベースにある録画ならびにアーカイブされている録画）を保持しておく合計時間です。デフォルトの保持期間は 7 日間です。</p> <p>保持期間は、録画を保持しておく合計時間です。以前のバージョンの監視システムでは、データベースとアーカイブで別個に制限時間を指定していました。</p>
カメラ	<p>開く ボタンをクリックして、選択したカメラに対して、詳細およびカメラ固有の設定（例：イベント通知、PTZ プリセット位置、魚眼レンズビューエリア）を設定します。</p>
全て選択	<p>ボタンをクリックして、テンプレートを適用列にあるすべてのカメラを選択します。</p>

全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレート を適用列にあるすべてのカメラを選択解除します。
選択したカメラで、選択したテンプレートの値を設定する	テンプレートから選択した値だけを、選択したカメラに適用します。
選択したカメラですべてのテンプレート値を設定する	テンプレートのすべての値を、選択したカメラに適用します。

ダイナミックパスの選択（プロパティ）

ビデオおよび録画を設定 『62ページ』の"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、多くのカメラに対して一定のプロパティを同時に指定することができます。 動的パス選択の場合、すべてのカメラがプロパティを共有します。

ダイナミックアーカイブ 『117ページ』の"アーカイブについて"参照』パスでは、通常は複数のドライブに渡る、異なるアーカイブパスを指定します。システムデータベースを含んでいるパスが、アーカイブ用に選択したドライブのいずれかにあれば、システムは常にまずそのドライブにアーカイブしようと試みます。そうでない場合、そのドライブを使用するカメラデータベースが存在しない限り、システムは自動的にその時点で最も使用可能な容量が大きいアーカイブドライブにアーカイブします。使用可能な容量が最も大きいドライブはアーカイブプロセス中も変化するので、同一プロセスで複数のアーカイブドライブに対してアーカイブされることがあります。これにより、ユーザーがアーカイブされた録画を検索し、表示する方法には影響を与えません。

ダイナミックアーカイブパスは一般にすべてのカメラに適用されます。個別のカメラ用にダイナミックアーカイブパスを設定することはできません。

アーカイブ選択のダイナミックパスを有効にする	ダイナミックパス選択の使用を有効にし、使用したいパスを選択できるようにします。当初は、選択可能なパスのリストに、ローカルおよびマップ済みドライブの両方のサーバーのすべてのドライブが表示されます。リストの下にある 新規パス 機能で、さらにパスを追加することができます。
使用	ダイナミックアーカイブパスとして使用する特定のパスを選択します。また、以前に手動で追加したパス（以下の 削除 ボタンの説明を参照）を選択して削除することもできます。
ドライブ	たとえば、C:¥ドライブです。
パス	ファイルを保存する場所へのパス。例：C:¥ または ¥¥OurServer¥OurFolder¥OurSubfolder¥
ドライブ容量	ドライブの合計サイズ。
空きスペース	ドライブに残っている未使用の容量。
新規パス	新しいパスを指定し、追加ボタンを使用してリストに追加します。監視システムサーバーでパスに到達することが必要です。UNC（Universal Naming Convention）形式を使用して指定する必要があります。例：¥¥server¥volume¥directory¥。新しいパスが追加されると、それを選択して、ダイナミックアーカイブパスとして使用することができます。
追加	新規パス フィールドで指定したパスを、リストに追加します。
削除	手動で追加した選択済みのパスをリストから削除します。初期状態のリストにあるパスは、選択しても削除できません。

ビデオ録画（プロパティ）

ビデオおよび録画を設定 『62ページ の"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、多くのカメラに対して一定のプロパティを同時に指定することができます。 操作を迅速に行いたい場合や、対象となるプロパティが、個別のカメラではなく、すべてのカメラで共有されている場合が該当します。

録画という言葉はビデオ（該当する場合は、カメラからの音声）の監視システムサーバーのカメラのデータベースへの保存を意味します。ビデオ/音声は、保存する理由がある場合にだけ保存されます。たとえば、モーションが検知されている間、イベントが発生してから、他のイベントが発生するまでの間、または一定の期間内で保存されます。

白い背景のすべてのプロパティは編集可能で、水色の背景のプロパティは編集できません。

また、すべてのビデオ録画プロパティはそれぞれのカメラに対して個別に 『86ページ の"記録"参照』指定できることに注意してください。

テンプレート	テンプレートを 사용하면、類似のプロパティが迅速に設定できて便利です。たとえば、カメラが 20 台あり、録画パス、アーカイブパス、およびそれらすべての保持期間を変更したいとします。3 種類の同じ情報を 20 回入力する代わりに、テンプレートに一度だけ入力し、2 回クリックするだけで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。
テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2 つの 設定 ボタンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。
カメラ名	Management Application およびクライアントで表示される名前です。既存の名前を、新しい名前の上書きすることができます。名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []
録画オン	<p>カメラからのビデオを録画する条件を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 常時: カメラが有効で、オンラインになるようにスケジュールされている場合は常に録画します。後者のオプションでは、時間ベースの録画ができます。 ● 設定しない: 録画しません。ライブビデオが表示されますが、ビデオがデータベースに保持されていないため、ユーザーはカメラからビデオを再生できません。 ● モーション検知: これを選択すると、モーションが検知された時にビデオを録画します。後の録画を追加しなければ、最後のモーションが検知された後すぐに録画が停止します。 ● イベント: これを選択すると、イベントが発生してから、別のイベントが発生するまでの間、ビデオが録画されます。イベントによる録画を使用するには、そのイベント 『100ページ の"イベントおよび出力の概要"参照』が定義されていて、開始イベントおよび停止イベントを選択してあることが必要です。他のフィールドの下にあるイベントの設定リストを使用して、必要に応じたイベントを定義します。 ● モーション検知およびイベント: これを選択すると、モーションを検知した場合、あるいはイベントが発生してから、別のイベントが発生するまでの間、ビデオが録画されます。隣の列で、開始イベントおよび停止イベントを選択することを忘れないでください。

開始イベント	関連する開始イベントを選択します。開始イベントが発生すると（あるいは、プリレコーディングを使用する場合は、それ以前から。下記を参照）録画が開始します。
停止イベント	関連する停止イベントを選択します。停止イベントが発生すると（あるいは、ポストレコーディングを使用する場合は、それより後に。下記を参照）録画が停止します。
プリレコーディング	検出したモーションおよび開始イベントの前の期間からの録画を保存できます。このチェックボックスを選択すると、この機能が有効になります。隣接する列で、必要な秒数を指定します。
秒数【プリレコーディングの】	録画開始条件（モーションまたは開始イベント）が満たされる前から、ビデオを録画する秒数を指定します。通常、プリレコーディングが必要になるのは数秒のみですが、最長で 65,535 秒（18 時間 12 分 15 秒） まで指定できます。ただし、非常に長いプリレコーディング時間を指定すると、プリレコーディング時間がスケジュールされた、あるいはスケジュールされていないアーカイブ 『117ページ の"アーカイブについて"参照』 時間にかかることもあります。アーカイブ中は、プリレコーディングが適切に機能しないため、問題の原因となりかねません。
ポストレコーディング	検出したモーションおよび停止イベントの後の期間の録画を保存できます。このチェックボックスを選択すると、この機能が有効になります。隣接する列で、必要な秒数を指定します。
秒数【ポストレコーディングの】	録画停止条件（モーションまたは停止イベント）が満たされた後で、ビデオを録画する秒数を指定します。通常、ポストレコーディングが必要になるのは数秒のみですが、最長で 65,535 秒（18 時間 12 分 15 秒） まで指定できます。 非常に長いポストレコーディング時間を指定すると、ポストレコーディング時間がスケジュールされた、あるいはスケジュールされていないアーカイブ時間にかかるシナリオで実行されることもあります。アーカイブ中は、ポストレコーディングが適切に機能しないため、問題の原因となりかねません。
カメラ	開く ボタンをクリックして、選択したカメラに対して、詳細およびカメラ固有の設定（例：イベント通知、PTZ プリセット位置、魚眼レンズビューエリア）を設定します。
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレート を 適用 列にあるすべてのカメラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレート を 適用 列にあるすべてのカメラの選択を解除します。
選択したカメラで、選択したテンプレートの値を設定する	テンプレートから選択した値だけを、選択したカメラに適用します。
選択したカメラですべてのテンプレート値を設定する	テンプレートのすべての値を、選択したカメラに適用します。

カメラで MJPEG コーデックを使用する場合

MJPEG では、通常モードならびにスピードアップモードでフレームレートを指定できます。カメラがデュアルストリーム対応の場合は、これを有効にすることも可能です。

フレームレートを設定できる場所は 3 つあります。

- ライブフレームレート - 通常の録画ストリームで使します
- ライブフレームレート - モーション検知または類似の機能と一緒に、スピードアップ録画で使します。

FPS（1秒当りのフレーム数） - ライブを見るための追加のストリームで使します。通常のフレームレートモード：

フレームレート	カメラの映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。
ライブフレームレート	カメラからのライブ映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。 カメラがデュアルストリーム対応で、デュアルストリームが有効になっている場合、ライブフレームレート列は読み取り専用になり、変更できないデュアルストリーミングの値が入ります。
録画フレームレート	カメラの録画ビデオに必要な平均フレームレート。フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。このフレームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くなければなりません。

スピードアップフレームレートモード：

スピードアップフレームレートを有効にする	スピードアップ機能によって、モーションを検知した場合およびイベントが発生した場合に、通常より高いフレームレートを使用できます。スピードアップを有効にすると、スピードアップの詳細を指定するために、より多くの列が使用可能になります。
フレームレート	カメラのビデオを再生するときのスピードアップフレームレート。フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。このフレームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くなければなりません。
モーション時	このチェックボックスを選択すると、モーションを検知した時にスピードアップフレームレートを使用します。カメラは最後にモーション検知されてから2秒後に、通常のフレームレートに戻ります。
イベント発生時	このチェックボックスを選択すると、イベントが発生してから、別のイベントが発生するまでの間、スピードアップフレームレートを使用します。イベントによるスピードアップをオンするには、そのイベントが定義されていて、付随するリストで開始イベントおよび停止イベントが選択されている必要があります。 他のフィールドの下にあるイベントの設定リストを使用して、必要に応じたイベントを定義します。
開始イベント	必要な開始イベントを選択します。開始イベントが発生すると、カメラはスピードアップフレームレートの使用を開始します。
停止イベント	必要な停止イベントを選択します。停止イベントが発生すると、カメラは通常のフレームレートに戻ります。

ライブフレームレート	<p>カメラからのライブ映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。このフレームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くなければなりません。</p> <p>カメラがデュアルストリーム対応で、デュアルストリームが有効になっている場合、ライブフレームレート列は読み取り専用になり、変更できないデュアルストリーミングの値が入ります。</p>
録画フレームレート	<p>カメラの録画ビデオに必要な平均フレームレート。フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。このフレームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くなければなりません。</p>

モーションまたはイベントに基づいてスピードアップする必要はありません。スケジュール 『126ページ の"スピードアップ"参照 』を使用して、特定の期間に基づいてスピードアップを構成することもできます。特定期間のスピードアップを希望する場合も、**スピードアップの有効化**チェックボックスを選択して、スピードアップの使用を有効にする必要があります。

デュアルストリーム：

ライブストリーム専用で使用する	<p>この追加ストリーム機能で、カメラの別のストリームを使用することができます。この機能は、録画サーバーへの 2 つの独立したストリームを有効にします。1 つのストリームはライブビュー用であり、もう 1 つのストリームは（異なる解像度、エンコーディング、フレームレートでの）録画用です。</p>
ストリーム	<p>ライブストリームのタイプを選択します。ライブビューとビデオ録画では、最適な結果を得るためのストリーム設定が異なることがあります。</p>
解像度	<p>カメラの解像度を選択します。</p>
FPS	<p>カメラの 1 秒当たりのライブフレームレート（FPS）を選択します。</p>

重要：この機能が使用できるのは、デュアルストリームをサポートしているカメラのみです。

カメラが MPEG コーデックを使用する場合

MPEG では、フレームレートおよびその他の設定を指定できます。

1 秒当たりのフレームレート	<p>カメラからのライブビューおよび録画ビデオ再生のためのフレームレート。1 秒当たりのフレーム数を選択します。</p>
キーフレームのみの録画	<p>キーフレームでは指定された間隔でカメラのビュー全体のデータを保持しますが、他のフレームは変化したピクセルデータだけを保持します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。キーフレームだけを録画したい場合は、チェックボックスを選択します。モーションを検知した場合や、イベントが発生した場合など、例外を指定することができます。</p>

イベントのすべてのフレームの録画	<p>キーフレームのみの録画を選択している場合、例外を作成できます。このチェックボックスを選択すると、イベントが発生してから、別のイベントが発生するまでの間、すべてのフレームを録画します。この機能を使用するには、そのイベントが定義されていて、付随するリストで開始イベントおよび停止イベントが選択されている必要があります。</p> <p>他のフィールドの下にあるイベントの設定リストを使用して、必要に応じたイベントを定義します。</p>
開始イベント	イベントまたはモーション検知、およびイベントで録画する場合に使用します。関連する開始イベントを選択します。開始イベントが発生すると、カメラはすべてのフレームの録画を開始します。
停止イベント	関連する停止イベントを選択します。停止イベントが発生すると、カメラはキーフレームの録画を停止します。

デュアルストリーム：

ライブストリーム専用で使用する	この追加ストリーム機能で、カメラの別のストリームを使用することができます。この機能は、録画サーバーへの 2 つの独立したストリームを有効にします。1 つのストリームはライブビュー用であり、もう 1 つのストリームは（異なる解像度、エンコーディング、フレームレートでの）録画用です。
ストリーム	ライブストリームのタイプを選択します。ライブビューとビデオ録画では、最適な結果を得るためのストリーム設定が異なることがあります。
解像度	カメラの解像度を選択します。
FPS	カメラの 1 秒当たりのライブフレームレート（FPS）を選択します。

重要：この機能が使用できるのは、デュアルストリームをサポートしているカメラのみです。

手動録画

ビデオおよび録画を設定 『62ページ』の"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、多くのカメラに対して一定のプロパティを同時に指定することができます。手動録画の設定では、プロパティがすべてのカメラによって共有されます。

手動録画が有効であれば、必要な権限を持つ Network Video Management System Smart Client ユーザーは、録画中ではないカメラのライブビデオの表示中に、何か関心の対象が見えた場合、手動で録画を開始できます。必ず固定の時間（たとえば 5 分）で、ユーザー主導の録画を行います。

手動録画の有効化	チェックボックスを選択して手動録画を有効にし、詳細を指定します。
手動録画のデフォルト継続時間	ユーザーによる録画を実行する期間（秒単位）。デフォルトの期間は 300 秒で、5 分に相当します。

手動録画の最長継続時間	<p>ユーザーによる録画が可能な最長時間。こうした手動録画は必ず決まった時間で行われるため、この最長時間は、Network Video Management System Smart Client で開始される手動録画とは関係ありません。</p> <p>ただし、インストールによっては API または類似の機能でこれらをシステムと統合する場合に、手動録画をサードパーティのアプリケーションと組み合わせることもできます。このような状況では、最長時間の指定が関連します。</p> <p>単に手動録画を Network Video Management System Smart Client とだけ同時に使用する場合、このプロパティは無視してください。</p>
-------------	--

個々のカメラの録画 『86ページ の"記録"参照』が録画しないや条件付きで録画に設定されていても、有効であれば手動録画を行うことができます。

フレームレート - MJPEG

ビデオおよび録画を設定 『62ページ の"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、多くのカメラに対して一定のプロパティを同時に指定することができます。 操作を迅速に行いたい場合や、対象となるプロパティが、個別のカメラではなく、すべてのカメラで共有されている場合が該当します。

白い背景のすべてのプロパティは編集可能で、水色の背景のプロパティは編集できません。 すべてのフレームレート - MJPEG プロパティは、MJPEG を使用するそれぞれのカメラに対して個別に 『86ページ の"記録"参照』指定できることに注意してください。

テンプレートおよび共通プロパティ

名前	詳細
テンプレート	テンプレートを使用すると、類似のプロパティが迅速に設定できて便利です。たとえば、カメラが 20 台あり、録画パス、アーカイブパス、およびそれらすべての保持期間を変更したいとします。3 種類の同じ情報を 20 回入力する代わりに、テンプレートに一度だけ入力し、2 回クリックするだけで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。
テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2 つの 設定 ボタンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメラの選択を解除します。
選択したカメラで、選択したテンプレートの値を設定する	テンプレートから選択した値だけを、選択したカメラに適用します。
選択したカメラですべてのテンプレート値を設定する	テンプレートのすべての値を、選択したカメラに適用します。
カメラ名	Management Application およびクライアントで表示される名前です。既存の名前を、新しい名前の上書きすることができます。名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []

通常のフレームレートのプロパティ

以下のフレームレートプロパティを指定します。

フレームレート	カメラの映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。
時間単位	ライブおよび録画のフレームレートに必要な単位（秒、分、時間あたり）を選択します。フレームレートをスピードアップできる時間のみを選択することに注意してください。例：標準モードで、 秒 あたり 15 フレームを指定したとすると、スピードアップモードで 分 または 時間 あたり 16 フレームを指定することはできません。
カメラ	開く ボタンをクリックして、選択したカメラに対して、詳細およびカメラ固有の設定（例：イベント通知、PTZ プリセット位置、魚眼レンズビューエリア）を設定します。
ライブフレームレート	カメラからのライブ映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。 カメラがデュアルストリームをサポートし、デュアルストリームを有効にした場合、ライブフレームレート列はデュアルストリーム値で読み取り専用です。これは変更できません。
録画フレームレート	カメラの録画ビデオに必要な平均フレームレート。フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。このフレームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くなければなりません。

スピードアップフレームレートのプロパティ

名前	詳細
スピードアップを有効にする	スピードアップ機能によって、モーションを検知した場合およびイベントが発生した場合に、通常より高いフレームレートを使用できます。スピードアップを有効にすると、スピードアップの詳細を指定するために、より多くの列が使用可能になります。
フレームレート	カメラのビデオを再生するときのスピードアップフレームレート。フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。このフレームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くなければなりません。
時間単位	ライブおよび録画のフレームレートに必要な単位（秒、分、時間あたり）を選択します。 フレームレートをスピードアップできる時間のみを選択することに注意してください。 例：標準モードで、 秒 あたり 15 フレームを指定したとすると、スピードアップモードで 分 または 時間 あたり 16 フレームを指定することはできません。

名前	詳細
スピードアップ をオン	<ul style="list-style-type: none"> ● モーション検知： これを選択すると、モーション 『91ページ の"モーション検知&領域の除外"参照』が検知された時にスピードアップします。最後のモーションが検知されると、通常のフレームレートを使用します。 ● イベント： これを選択すると、イベントが発生してから、別のイベントが発生するまでの間、スピードアップします。イベントを定義した場合、および隣接する列で開始および停止イベントを選択した場合のみスピードアップを使用できます。 他のフィールドの下にあるイベントの設定リストを使用して、必要に応じたイベントを定義します。 ● モーション検知およびイベント： このオプションを選択すると、モーションを検知した場合、あるいはイベントが発生してから別のイベントが発生するまでの間、スピードアップします。隣の列で、開始イベントおよび停止イベントを選択することを忘れないでください。
スケジュールのみ	このオプションを選択すると、カメラのスピードアップをスケジュール 『126ページ の"スピードアップ"参照』のみに従ってスピードアップします。
開始イベント	関連する開始イベントを選択します。開始イベントが発生すると、カメラはスピードアップフレームレートの使用を開始します。
停止イベント	関連する開始イベントを選択します。停止イベントが発生すると、カメラは通常のフレームレートに戻ります。
カメラ	開く ボタンをクリックして、選択したカメラに対して、詳細およびカメラ固有の設定（例：イベント通知、PTZ プリセット位置、魚眼レンズビューエリア）を設定します。
ライブフレームレート	<p>カメラからのライブ映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。このフレームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くなければなりません。</p> <p>カメラがデュアルストリームをサポートし、デュアルストリームを有効にした場合、ライブフレームレート列はデュアルストリーム値で読み取り専用です。これは変更できません。</p>
録画フレームレート	カメラからの録画ビデオに必要な平均フレームレート。 フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。

フレームレート - MPEG

ビデオおよび録画を設定 『62ページ の"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、多くのカメラに対して一定のプロパティを同時に指定することができます。 操作を迅速に行いたい場合や、対象となるプロパティが、個別のカメラではなく、すべてのカメラで共有されている場合が該当します。

すべてのフレームレート H.264/MPEG4 プロパティは、H.264/MPEG4 を使用するそれぞれのカメラに対して個別に 『86ページ の"記録"参照』 指定できます。

テンプレート	テンプレートを 사용하면、類似のプロパティが迅速に設定できて便利です。たとえば、カメラが 20 台あり、録画パス、アーカイブパス、およびそれらすべての保持期間を変更したいとします。3 種類の同じ情報を 20 回入力する代わりに、テンプレートに一度だけ入力し、2 回クリックするだけで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。
テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2 つの 設定 ボタンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。
カメラ名	Management Application およびクライアントで表示される名前です。既存の名前を、新しい名前の上書きすることができます。名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []
デュアルストリーム	カメラでデュアルストリームが有効かどうかをチェックできます。この情報は読み取り専用であることに注意してください。デュアルストリームをサポートしているカメラの場合、個々のカメラのビデオ 『83ページ』 プロパティでこれを有効/無効にできます。
ライブ FPS	カメラの 1 秒当たりのライブフレームレート (FPS) を選択します。
カメラ	開く ボタンをクリックして、選択したカメラに対して、詳細およびカメラ固有の設定 (例: イベント通知、PTZ プリセット位置、魚眼レンズビューエリア) を設定します。
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメラを選択解除します。
選択したカメラで、選択したテンプレートの値を設定する	テンプレートから選択した値だけを、選択したカメラに適用します。
選択したカメラですべてのテンプレート値を設定する	テンプレートのすべての値を、選択したカメラに適用します。
キーフレームのみの録画	キーフレームでは指定された間隔でカメラのビュー全体のデータを保持しますが、他のフレームは変化したピクセルデータのみを記録します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に低減できます。キーフレームだけを録画したい場合は、チェックボックスを選択します。

すべてのフレームの 録画	<p>キーフレームのみの録画を選択している場合、例外を作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> モーション検知: これを選択すると、モーションが検知された時のフレームをすべて録画します。最後にモーション 『91ページ の"モーション検知&と領域の除外"参照 』が検知されてから 2 秒後に、カメラはキーフレームのみの録画に戻ります。 イベント: これを選択すると、イベントが発生してから別のイベントが発生するまでの間、すべてのフレームを録画します。そのイベント 『100ページ の"イベントおよび出力の概要"参照 』が定義されており、隣接する列で開始イベントおよび停止イベントを選択してあることが必要です。 <p>他のフィールドの下にあるイベントの設定リストを使用して、必要に応じたイベントを定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> モーション検知およびイベント: これを選択すると、モーションを検知した場合、あるいはイベントが発生してから別のイベントが発生するまでの間、すべてのフレームを録画します。隣の列で、開始イベントおよび停止イベントを選択することを忘れないでください。 スケジュールのみ: これを選択すると、カメラのスケジュールをスピードアップ 『126ページ の"スピードアップ"参照 』にのみ従ってすべてのフレームを録画します。
開始イベント	イベントまたはモーション検知、およびイベントで録画する場合に使用します。関連する開始イベントを選択します。開始イベントが発生すると、カメラはすべてのフレームの録画を開始します。
停止イベント	関連する停止イベントを選択します。停止イベントが発生すると、カメラはキーフレームの録画のみ停止します。

音声の録音

特定のカメラに対してビデオや録画を設定 『62ページ の"ビデオや録画の設定について"参照 』する場合、音声を録音するタイミングを指定できます。この選択は、システムのすべてのカメラに適用されます。

常時録音	すべての該当するカメラで、音声を常に録音します。
設定しない	どのカメラでも音声を録音しません。音声をまったく録音していなくても、Network Video Management System Smart Client からのライブ音声を聴くことができます。

音声録音とビデオ保存容量

音声を録音する場合、音声録音がビデオ保存容量に影響することを覚えておくことが重要です。

音声は、関連するカメラのデータベースに録音されます。ビデオだけを録画する場合に比べて、音声とビデオを記録する場合、より早くデータベースが満杯になります。データベースが満杯になると、システムは自動的にデータをアーカイブ 『117ページ の"アーカイブについて"参照 』するので、データベースが満杯になること自体は問題ではありません。ただし、音声を録音する場合、追加のアーカイブ容量が必要になります。

- 例: MPEG4 を使用する場合、それぞれ 1 秒のビデオ GOP (Group Of Pictures) が、データベースの 1 レコードに保存されます。毎秒ごとの音声も、データベースの 1 レコードに保存さ

れます。データベースのレコードの半分は音声の保存に使用されるので、データベースのビデオ保存容量が全体容量の半分に低減します。したがってデータベースはすぐに満杯になり、ビデオだけを録画する場合と比べて、より頻繁にアーカイブが発生します。

- 例：MJPEG を使用する場合、音声ブロックのサイズが JPEG 間の時間を超えない限り、すべての JPEG に対して音声は 1 レコードに保存されます。極端な場合は、データベースのレコードの半分が音声の保存で使用されるので、データベースのビデオ保存容量が全体容量の半分に低減します。非常に高いフレームレートを使用すると、各 JPEG 間の時間が短くなることを意味するので、音声の録音に使用するデータベースの割合が小さくなり、その結果ビデオの保存で利用できる部分は大きくなります。その結果として、データベースはすぐに満杯になり、ビデオだけを録画する場合と比べて、より頻繁にアーカイブが発生します。

上記では、単純化した例を示しています。正確な使用可能な保存容量は、GOP/JPEG および音声のキロバイト単位でのサイズにも依存します。

音声選択（プロパティ）

ビデオおよび録画を設定 『62ページ』の"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、多くのカメラに対して一定のプロパティを同時に指定することができます。 操作を迅速に行いたい場合や、対象となるプロパティが、個別のカメラではなく、すべてのカメラで共有されている場合が該当します。 カメラからのビデオを再生する時は、カメラに対してデフォルトのマイクおよび/またはスピーカーからの音声自動的に使用されます。それぞれのカメラに対して、すべてのプロパティを個別に指定することも可能であることに注意してください。

テンプレート	テンプレートを 사용하면、類似のプロパティが迅速に設定できて便利です。たとえば、カメラが 20 台あり、録画パス、アーカイブパス、およびそれらすべての保持期間を変更したいとします。3 種類の同じ情報を 20 回入力する代わりに、テンプレートに一度だけ入力し、2 回クリックするだけで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。
テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2 つの 設定 ボタンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。
カメラ名	Management Application およびクライアントで表示される名前です。既存の名前を、新しい名前の上書きすることができます。名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []
デフォルトのマイク	デフォルトのマイクを選択します。
カメラ	開く ボタンをクリックして、選択したカメラに対して、詳細およびカメラ固有の設定（例：イベント通知、PTZ プリセット位置、魚眼レンズビューエリア）を設定します。
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメラを選択解除します。
選択したカメラで、選択したテンプレートの値を設定する	テンプレートから選択した値だけを、選択したカメラに適用します。
選択したカメラですべてのテンプレート値を設定する	テンプレートのすべての値を、選択したカメラに適用します。
デフォルトのスピーカー	デフォルトのスピーカーを選択します。

ストレージ情報

ストレージ情報プロパティには、システムにどれだけのストレージ容量があり、そのうちのどの程度を使用できるかが示されます。ディスク容量を円グラフ形式で迅速に表示するには、対象となるドライブを表している行を選択します。

名前	詳細
ドライブ	対象となるドライブを表す文字、たとえば C: など。
パス	ファイルを保存する場所へのパス。例：C:¥ または ¥¥OurServer¥OurFolder¥OurSubfolder¥
使用	たとえば、録画やアーカイブで使用するストレージエリア。
ドライブ容量	ドライブの合計サイズ。
ビデオデータ	ドライブにあるビデオデータの量。
その他のデータ	ドライブにあるその他のデータの量。
空きスペース	ドライブに残っている未使用の容量。

カメラプロパティ

一般

特定のカメラについてビデオおよびレコーディングの設定 『62ページ の"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、以下のプロパティが含まれます。

有効	カメラはデフォルトで有効になっています。つまり、オンラインになるようスケジュールされており 『125ページ の"オンライン期間"参照』、ビデオをシステムに転送できます。個別のカメラを無効にすることができます。この場合、カメラからシステムへビデオ/音声は転送されません。
プレビュー	このチェックボックスを選択すると、カメラのビデオのプレビューが表示されます。チェックボックスを選択解除すると、システムはカメラのプレビューを表示しません。
カメラ名	Management Application およびクライアントで表示される名前です。既存の名前を、新しい名前の上書きすることができます。 名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []

カメラのショートカット番号	<p>Network Video Management System Smart Client のユーザーは、キーボードショートカットを活用できます。一例として、複数のカメラの再生を切り替えることができます。こうしたショートカットには数字も含まれており、各カメラを識別するために使用します。</p> <p>ショートカット番号は、それぞれのカメラで一意でなければなりません。カメラのショートカット番号には、文字または特殊文字を含んではならず、最大で 8 桁以内になるようにしてください。正しいカメラのショートカット番号の例：3, 12345678。正しくないカメラのショートカット番号の例：Cam#3、123456789。</p> <p>キーボードショートカットの使用に関する詳細情報は、Network Video Management System Smart Client の他のマニュアルにあります。</p>
---------------	--

これらのプロパティは、大半がカメラに固有です。こうしたプロパティはカメラによって大きく異なるため、以下の説明はあくまでもガイダンス目的です。選択したカメラにアクセスできると、ライブプレビューが表示されます。**カメラ設定中...** ボタンをクリックすると、選択したカメラのプロパティを表示する別個のウィンドウが開きます。

通常、ビデオプロパティでは、選択した新しい値で既存の値を上書きすることで、帯域、輝度、圧縮、コントラスト、解像度、回転などをコントロールできます。ビデオの設定を調整する場合、大半のカメラでは、その設定の効果をフィールドの下画像でプレビューすることができます。

ビデオ設定機能に、**日時を含む**設定がある場合があります。**はい**に設定すると、カメラからの日付と時刻がビデオに含まれます。ただし、カメラは別個のユニットであり、別個のタイミングデバイスや電源などで機能しています。したがって、カメラの時刻とシステムの時刻が完全に対応していないことがあり、これが混乱につながる場合があります。受信したすべてのフレームにシステムがタイムスタンプを付けるため、それぞれの画像の正確な日付と時刻は既に分かっていることから、**いいえ**に設定することを推奨しています。

カメラが時刻同期機能をサポートしている場合、一貫性のある時刻の同期のために、カメラとシステムの時刻をタイムサーバーで自動同期することができます。

ビデオ

特定のカメラについてビデオおよび録画の設定 『62ページ の"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、MJPEG コーデックまたは MPEG コーデックのいずれかを使用することができます。2 つのオプションのいずれかを選択するかによって、カメラに対して異なるオプションを設定できます。

MJPEG コーデック

MJPEG では、通常モードならびにスピードアップモードでフレームレートを指定できます。カメラがデュアルストリーム対応の場合は、これを有効にすることも可能です。フレームレートを設定できる場所は 3 つあります。

- ライブフレームレート - 通常の録画ストリームで使します
- ライブフレームレート - モーション検知または類似の機能と一緒に、スピードアップ録画で使します。

FPS (1 秒当りのフレーム数) - **ライブ**を見るための追加のストリームで使します。 **通常のフレームレートモード**

フレームレート	カメラの映像に必要な平均フレームレート。 フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。
ライブフレームレート	カメラからのライブ映像に必要な平均フレームレート。 フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。 カメラがデュアルストリームをサポートし、デュアルストリームを有効にした場合、 ライブフレームレート 列はデュアルストリーム値で読み取り専用です。これは変更できません。
録画フレームレート	カメラの録画ビデオに必要な平均フレームレート。フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。 このフレームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くなければなりません。

スピードアップフレームレートモード

スピードアップフレームレートを有効にする	スピードアップ機能によって、モーションを検知した場合およびイベントが発生した場合に、通常より高いフレームレートを使用できます。スピードアップを有効にすると、スピードアップの詳細を指定するために、より多くの列が使用可能になります。
フレームレート	カメラのビデオを再生するときのスピードアップフレームレート。フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。 このフレームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くなければなりません。
モーション時	このチェックボックスを選択すると、モーションを検知した時にスピードアップフレームレートを使用します。カメラは最後にモーション検知されてから 2 秒後に、通常のフレームレートに戻ります。
イベント発生時	このチェックボックスを選択すると、イベントが発生してから、別のイベントが発生するまでの間、スピードアップフレームレートを使用します。イベントによるスピードアップをオンするには、そのイベントが定義されていて、付随するリストで開始イベントおよび停止イベントが選択されている必要があります。
開始イベント	関連する開始イベントを選択します。 開始イベントが発生すると、カメラはスピードアップフレームレートの使用を開始します。
停止イベント	関連する停止イベントを選択します。 停止イベントが発生すると、カメラは通常のフレームレートに戻ります。
ライブフレームレート	カメラからのライブ映像に必要な平均フレームレート。 フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。 このフレームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くなければなりません。 カメラがデュアルストリームをサポートし、デュアルストリームを有効にした場合、 ライブフレームレート 列はデュアルストリーム値で読み取り専用です。これは変更できません。
録画フレームレート	カメラの録画ビデオに必要な平均フレームレート。フレーム数を選択してから、時間間隔の単位（秒、分、時間）を選択します。 このフレームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くなければなりません。

スピードアップは、モーションやイベントに関連付ける必要はありません。スケジュールを使用して、特定の期間にスピードアップを設定することもできます。特定期間のスピードアップを希望する場合も、**スピードアップの有効化**チェックボックスを選択して、スピードアップの使用を有効にする必要があります。

デュアルストリーム

ライブストリーム専用で使用する	この追加ストリーム機能で、カメラの別のストリームを使用することができます。この機能は、録画サーバーへの 2 つの独立したストリームを有効にします。1 つのストリームはライブビュー用であり、もう 1 つのストリームは（異なる解像度、エンコーディング、フレームレートでの）録画用です。
ストリーム	ライブストリームのタイプを選択します。ライブビューとビデオ録画では、最適な結果を得るためのストリーム設定が異なることがあります。
解像度	カメラの解像度を選択します。
FPS	カメラの 1 秒当たりのライブフレームレート（FPS）を選択します。

MPEG コーデック

フレームレート

1 秒当たりのフレームレート	カメラからのライブビューおよび録画ビデオ再生のためのフレームレート。1 秒当たりのフレーム数を選択します。
キーフレームのみの録画	キーフレームでは指定された間隔でカメラのビュー全体のデータを保持しますが、他のフレームは変化したピクセルデータだけを保持します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。キーフレームだけを録画したい場合は、チェックボックスを選択します。モーションを検知した場合や、イベントが発生した場合など、例外を指定することができます。
モーションのすべてのフレームの録画	キーフレームのみの録画を選択している場合、例外を作成できます。このチェックボックスを選択すると、モーションが検知された時のフレームをすべて録画します。最後にモーションが 検知 されてから 2 秒後に、カメラはキーフレームのみの録画に戻ります。
イベントのすべてのフレームの録画	キーフレームのみの録画を選択している場合、例外を作成できます。このチェックボックスを選択すると、イベントが発生してから、別のイベントが発生するまでの間、すべてのフレームを録画します。この機能を使用するには、そのイベントが定義されていて、付随するリストで開始イベントおよび停止イベントが選択されている必要があります。
開始イベント	イベントまたはモーション検知、およびイベントで録画する場合に使用します。 関連する開始イベントを選択します。開始イベントが発生すると、カメラはすべてのフレームの録画を開始します。
停止イベント	関連する停止イベントを選択します。停止イベントが発生すると、カメラはキーフレームのみの録画します。

デュアルストリーム

ライブストリーム専用で使用する	この追加ストリーム機能で、カメラの別のストリームを使用することができます。この機能は、録画サーバーへの 2 つの独立したストリームを有効にします。1 つのストリームはライブビュー用であり、もう 1 つのストリームは（異なる解像度、エンコーディング、フレームレートでの）録画用です。
ストリーム	ライブストリームのタイプを選択します。ライブビューとビデオ録画では、最適な結果を得るためのストリーム設定が異なることがあります。
解像度	カメラの解像度を選択します。
FPS	カメラの 1 秒当たりのライブフレームレート（FPS）を選択します。

音声（プロパティ）

特定のカメラについてビデオおよび録画の設定 『62ページ の"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、そのカメラのデフォルトのマイクおよび/またはスピーカーの選択がプロパティに含まれています。カメラからのビデオを再生する時は、カメラに対してデフォルトのマイクおよび/またはスピーカーからの音声自動的に使用されます。

マイクまたはスピーカーがカメラと同じハードウェアデバイスに取り付けられている場合、特に設定していなければ、そのマイク/スピーカーがカメラのデフォルトのマイク/スピーカーになります。

デフォルトのマイク	デフォルトのマイクを選択します。
デフォルトのスピーカー	デフォルトのスピーカーを選択します。

カメラに対してデフォルトのマイクやスピーカーを選択できるのは、監視システムのハードウェアデバイスに少なくとも 1 つのマイクおよび/またはスピーカーが取り付けられている場合だけです。

記録

録画という言葉はビデオ（該当する場合は、カメラからの音声）の監視システムサーバーのカメラのデータベースへの保存を意味します。

ビデオ/音声は、保存する理由がある場合にだけ保存されます。たとえば、モーションが検知されている間、イベントが発生してから、他のイベントが発生するまでの間、または一定の期間内で保存されます。

特定のカメラについてビデオおよびレコーディングの設定 『62ページ の"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、以下のレコーディングプロパティが含まれます。

常時録音	カメラが有効 『82ページ の"一般"参照』で、オンラインになるようにスケジュール 『125ページ の"オンライン期間"参照』されている場合は常に録画します。後者のオプションでは、時間ベースの録画ができます。
設定しない	録画しません。ライブビデオが表示されますが、ビデオがデータベースに保持されていないため、ユーザーはカメラからビデオを再生できません。

条件	<p>一定の条件を満たした場合に録画します。このオプションを選択する場合、モーションの検知や指定したイベントの前後の期間の録画を保存できるように、必要な条件（以下を参照）を指定します。</p> <p>例：ドアが開いている間、ビデオを保存するように定義した場合、ドアを開ける直前に発生した状況を確認できることが重要になる場合があります。たとえば、ドアが開いていますと呼ばれる開始イベントと、ドアが閉じていますと呼ばれる終了イベントで、イベントによる条件付きでビデオを保存するとします。プリレコーディングが 3 秒の場合、ドアが開いていますが発生する 3 秒前から、ドアが閉じていますが発生するまでの期間、ビデオが録画されます。</p>
組み込みモーション検知	<p>このチェックボックスを選択すると、モーション 『91ページ の"モーション検知&領域の除外"参照』が検知されたビデオを録画します。ポストレコーディング（以下を参照）を使用しない限り、最後にモーションが検知された後、録画はただちに停止します。</p>
イベント発生時	<p>このチェックボックスを選択すると、イベントが発生してから別のイベントが発生するまでの間、ビデオが録画されます。イベントによる録画を使用するには、そのイベント 『100ページ の"イベントおよび出力の概要"参照』が定義されていて、付随するリストで開始イベントおよび終了イベントが選択されていることが必要です。</p> <p>他のフィールドの下にあるイベントの設定リストを使用して、必要に応じたイベントを定義します。</p>
開始イベント	<p>関連する開始イベントを選択します。 開始イベントが発生すると（あるいは、プリレコーディングを使用する場合は、それ以前から）録画が開始します。以下を参照してください。</p>
終了イベント	<p>関連する停止イベントを選択します。 終了イベントが発生すると（あるいは、ポストレコーディングを使用する場合は、それより後に）録画が停止します。以下を参照してください。</p>
プリレコーディングの有効化	<p>オプション条件付きが選択されている場合だけ使用可能です。</p> <p>録画開始条件（モーションまたは開始イベント）が満たされる前から、ビデオを録画する秒数を指定します。</p>
ポストレコーディングの有効化	<p>オプション条件付きが選択されている場合だけ使用可能です。</p> <p>録画停止条件（モーション終了または終了イベント）が満たされた後で、ビデオを録画する秒数を指定します。</p>

手動レコーディング 『75ページ の"手動録画"参照』が有効である可能性があります。手動レコーディングは、必要な権限を持つ Network Video Management System Smart Client ユーザーが、録画中ではないカメラからのライブビデオの表示中に、何か関心の対象が見えた場合、手動で録画を開始できます。有効であれば、個々のカメラの録画が**録画しない**設定や**条件付き録画**に設定されていても、手動レコーディングを行うことができます。

録画およびアーカイブパス

特定のカメラについてビデオおよび録画の設定 『62ページ の"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、以下のプロパティが含まれます。

録画パス	<p>カメラのデータベースを保存するフォルダへのパス。デフォルトフォルダは C:\¥MediaDatabase です。他のフォルダを参照する場合は、該当するセルの横にあるアイコンをクリックしてください。指定できるのは、ローカルドライブにあるフォルダへのパスのみです。ネットワークドライブへのパスを指定することはできません。ネットワークドライブを使用している場合、ネットワークドライブが使用不能になると、録画は保存できません。</p> <p>録画パスを変更し、元の場所に既存の録画がある場合、録画を新しい場所に移動するか（推奨）、元の場所に残すか、削除するかを選択するよう確認されます。</p> <p>複数のカメラがあり、複数のローカルドライブが使用可能な場合、個別のカメラのデータベースを複数のドライブに分散させることでパフォーマンスを改善できます。</p>
データベースの削除	<p>ボタンをクリックすると、カメラのデータベースにあるすべての録画を削除します。アーカイブされている録画は影響を受けません。</p> <p>重要： 慎重に使用してください。カメラのデータベースにあるすべての録画が完全に削除されます。安全のため、データベースを削除するかを確認する必要があります。</p>
アーカイブ パス	<p>カメラのアーカイブされた録画を保存するフォルダへのパス。デフォルトフォルダは C:\¥MediaDatabase です。アーカイブの動的パスを使用しない場合のみ、これを編集できます。</p> <p>他のフォルダを参照する場合は、関連するセルの横にあるアイコンをクリックしてください。アーカイブ パスを変更し、古い場所に既存のアーカイブされた録画がある場合、アーカイブされた録画を新しい場所へ移動するか、古い場所に残すか、あるいは削除するかを選択する必要があります。</p> <p>Sony はアーカイブ録画を新しい場所に移動することをお勧めします。</p> <p>アーカイブされた録画を移動すると、システムは現在カメラのデータベースにあるものもアーカイブすることに注意してください。そのため、アーカイブされた録画を移動した直後に、カメラのデータベースは空になります。</p>
アーカイブの削除	<p>ボタンをクリックすると、カメラのアーカイブされた録画がすべて削除されます。カメラの通常のデータベースにある録画は影響を受けません。単一のアーカイブパスを使用しているか、ダイナミックアーカイブパスを使用しているかに関わらず、削除機能を使用できます。</p> <p>重要： 慎重に使用してください。カメラのすべてのアーカイブ録画が完全に削除されます。安全のため、アーカイブを削除するかを確認する必要があります。</p>
保持期間	<p>カメラからの録画（つまり、カメラのデータベースにある録画ならびにアーカイブされている録画）を保持しておく合計時間です。デフォルトの保持期間は 7 日間です。</p> <p>保持期間は、録画を保持しておく合計時間です。以前のバージョンの監視システムでは、データベースとアーカイブで別個に制限時間を指定していました。</p>

データベース修復アクション	<p>データベースが破損した場合に、どのアクションを行うか選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 修復。不可能な場合はスキャンし、消去します：デフォルトのアクションです。データベースが破損した場合、以下の2つの異なる修復方法を試みます。高速修復および徹底的な修復。両方の修復方法が失敗した場合は、データベースの内容を削除します。 ● 修復。不可能な場合は消去します：データベースが破損した場合、高速修復を試みます。高速修復が失敗した場合は、データベースの内容を削除します。 ● 修復。失敗した場合はアーカイブ：データベースが破損した場合、高速修復を試みます。高速修復が失敗した場合は、データベースの内容をアーカイブします。 ● 削除（修復せず）：データベースが破損した場合は、データベースの内容を削除します。 ● アーカイブ（修復せず）：データベースが破損した場合は、データベースの内容をアーカイブします。 ● スキャン。失敗した場合はアーカイブ：データベースが破損した場合は、データベースのすべてのファイルのエラーがスキャンされ、データベースの完全修復が試行されます。このアクションが完了するには、他の修復アクションよりも時間がかかりますが、データベースのすべてのコンテンツの復元が確実に実行されます。 <p>破損したデータベースを修復するアクションを選択した場合、修復中は破損したデータベースが閉じます。代わりに、新しいデータベースが作成され、録画を続行できます。</p> <p>Network Video Management System Smart Client では、アーカイブされている場合、破損したデータベースを修復できるケースが大半です。破損したデータベースを Network Video Management System Smart Client で開くと、Network Video Management System Smart Client は、可能な限り、自動的にデータベースを修復しようと試みます。</p>
ダイナミックパスを設定する	<p>ダイナミックアーカイブパスでは、通常は複数のドライブに渡る、異なるアーカイブパスを指定します。ダイナミックアーカイブ用に選択したパスにカメラのデータベースを保存しているドライブが含まれている場合、システムは常にまずそのパスでアーカイブしようと試みます。そうでない場合、そのドライブを使用するカメラデータベースが存在しない限り、システムは自動的にその時点で最も使用可能な容量が大きいアーカイブドライブにアーカイブします。</p> <p>ダイナミックパスの選択 『70ページ』の"ダイナミックパスの選択（プロパティ）"参照』も参照してください。</p>

イベント通知

特定のカメラについてビデオおよびレコーディングの設定 『62ページ』の"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、以下のイベント通知プロパティが含まれます。イベント通知は、Network Video Management System Smart Client のユーザーに、システムでイベントが発生したことを知らせます。イベントが発生したことを迅速に検知できるので、クライアントユーザーにとってイベント通知は重要です。それぞれのカメラに対してイベント通知を個別に設定していたとしても、イベントが手動であるかジェネリックであるか、あるいはイベ

ントがカメラ以外のハードウェアデバイスで発生するかに関わらず、すべてのイベントをシステムで選択することができます。

Network Video Management System Smart Client では、イベント通知は黄色のインジケータ■で表示され、関連するイベントが発生した時に点灯します。また、Network Video Management System Smart Client 自体で、イベント通知にオプションのサウンドを追加することもできます。

Network Video Management System Smart Client のそれぞれのカメラに対して、3種類のインジケータを使用できます。

- 黄色の■イベントインジケータ。関連するイベントが発生した時に点灯します。
- 赤色の■モーションインジケータ。モーションを検知すると点灯します。
- オプションで緑色の■ビデオインジケータ。カメラからビデオを受信すると点灯します。



Network Video Management System Smart Client で、インジケータが表示されるバーをオフにすることができます。

Network Video Management System Smart Client がイベント通知を必要とする場合は、オフにしないでください。

必要なイベントの選択

1. 使用可能なイベントリストで、関連するイベントを選択します。一度に選択できるイベントは1つだけです。
2. >>ボタンをクリックして、選択したイベントを選択したイベントリストにコピーします。
3. 必要なイベントについて繰り返します。

後で、選択したイベントリストからイベントを削除したくなった場合は、関連するイベントを選択して、<<ボタンをクリックします。

出力

特定のカメラについてビデオおよびレコーディングの設定 『62ページ の"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、たとえばサイレンのサウンドや照明のスイッチなどの特定のハードウェア出力 『103ページ の"ハードウェア出力の追加"参照』とカメラを関連付けることができます。

カメラからのビデオでモーションが検知された場合、あるいは、必要な権限 『142ページ の"ユーザーおよびグループの権限の設定"参照』を持つ Network Video Management System Smart Client ユーザーがカメラからのライブビデオを再生する場合などに、関連付けられた出力を起動することができます。

1. 使用可能な出力リストで、関連する出力を選択します。一度に選択できる出力は1つだけです。まだ適切な出力を定義していない場合、以下の方法で迅速に行うことができます。他のフィールドの下にある出力の設定ボタンを使用します。
2. >>をクリックして、選択した出力を以下にコピーします。
 - 手動制御によるリスト。この場合、出力は Network Video Management System Smart Client での手動起動で使用できます。

および/または

- **モーション検知によるリスト**。この場合、カメラからのビデオでモーションを検知した場合に出力が起動されます。該当する場合、両方のリストに同じ出力を表示することもできます。

3. 必要な出力について繰り返します。

後で、いずれかのリストから出力を削除したくなった場合は、該当する出力を選択して、<<ボタンをクリックします。

モーション検知&と領域の除外

特定のカメラについてビデオおよび録画の設定 『62ページ の"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、モーション検知を調整することが重要になります。これは、いつ録画するか、いつEメール通知をするか、いつハードウェア出力（照明やサイレンなど）を有効にするかなどを決定するためです。それぞれのカメラに最適なモーション検知が得られるように調整しておくことで、不必要な録画や通知などを避けることができます。カメラの配置によっては、異なる物理的条件（昼/夜、強風/無風など）でモーション検知をテストすることを強くお勧めします。

カメラのモーション検知を設定する前に、圧縮、解像度などのカメラのビデオプロパティ 『82ページ の"一般"参照』を設定する必要があります。

複数の同時ビデオストリーム出力に対応しないカメラは、監視サーバーと Management Application に同時に接続することはできません。Sony では、そうしたデバイスでモーション検知や PTZ を設定する場合、Recording Server サービスを停止 『148ページ の"サービスを開始および停止する"参照』することを推奨しています。

Management Application でカメラからのビデオを表示する 『36ページ の"Management Application でカメラからビデオを再生する"参照』も参照してください。

有効	組み込みモーション検知を有効または無効 『63ページ の"モーション検知について"参照』にします。
グリッドを表示する	<p>グリッドをオンまたはオフに切り替えます。</p> <p>グリッドをオフにすることで、プレビュー画像がよりはっきり見える場合もあります。グリッドが表示されている場合と同じ方法で、モーション検知から除外する領域を選択します。グリッドがオンであれば、プレビュー画像はグリッドによって小さいセクションに分割されます。</p> <p>モーション検知から除外する必要がある領域を定義するには、マウスボタンを押下した状態で、プレビュー画像の領域の上でマウスをドラッグします。左マウスボタンでグリッドを選択します。右マウスボタンでグリッドをクリアします。選択されたエリアが、青色で強調表示されます。</p>
すべてを含める	プレビュー画像で、すべてのグリッドで区切られた部分を迅速に選択できます。これは、画像の大半のエリアでモーション検知を除外したい場合に便利です。その場合、モーション検知を除外したくない部分をクリアします。
すべてを除外する	プレビュー画像で、すべてのグリッドで区切られた部分をクリアします。

手動感度	<p>この機能を有効にすると、モーションの感度スライドを自分で調整することもできます。</p> <p>スライダーを左に動かすと感度レベルが上がり、右に動かすと感度レベルが下がります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 感度レベルが高くなるほど、より少ない各ピクセルの変化でもモーションと見なされます。 感度レベルが低くなるほど、各ピクセルの変化がより多くなった際にモーションと見なされます。 <p>モーションが検知されたピクセルは、プレビュー画像で緑色に強調表示されます。</p> <p>次の理由により、Sony は手動感度を有効にしないことをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ダイナミック感度の場合、システムは感度レベルを自動的に計算して最適化し、画像のノイズから発生するモーション検知を抑制します。 夜間には、画像のノイズにより誤ったモーションが頻繁にトリガされますが、ダイナミック感度によりモーション検知が改善します。 録画が多すぎることに起因するシステム過負荷は発生しません。 録画が不十分なために結果が見られなくなることもありません。
感度	<p>この設定を使用して、モーションとして認識するために変化する必要があるピクセルの数を決定します。感度が高いと、モーションとして認識するために必要なピクセルの変化は非常に小さくなります。モーションが検知されたエリアは、プレビュー画像で緑色に強調表示されます。</p> <p>モーションと見なされたものだけが強調表示されるよう、スライダーの位置を選択します。スライダーを左へ移動させるほど、プレビューで強調表示される部分が増えます。これは、感度を非常に高くすると、各ピクセルのわずかな変化でさえモーションと見なされるからです。</p> <p>スライダーを使用する代わりに、スライダーの横のフィールドで 0~256 の値を指定して、感度設定を制御することもできます。</p>
モーション	<p>必要なレベルのモーションによってのみ、モーション検知がトリガされるようにモーションスライダーを調整します。選択されたモーションレベルは、スライダーの上にあるレベルバーの黒い垂直線で示されます。黒い垂直線は、閾値になります。モーションが選択されたレベルを超える場合（右側）、バーの色が緑から赤に変わり、モーションが検知されたことを示します。</p> <p>または、左のフィールドで 0~10000 の値を指定して、モーション設定を制御します。</p> <p>スライダーを左へドラッグするほど、モーション検知に必要な変化が小さくなるので、よりモーション検知が表示されます。モーション検知の回数も録画するビデオの量、受信する通知の量などに影響を与えます。</p>
キーフレームだけ	<p>ビデオストリームのキーフレームのみでモーション検知を行うことで、モーション検知で使用するシステムのリソースを減らしたい場合は、キーフレームだけを選択します。</p>

検知間隔	<p>カメラからのビデオで、どれくらいの頻度でモーション検知分析を行うかを指定します。デフォルトは 240 ミリ秒ごとです（1 秒にほぼ 4 回）。この間隔は、使用しているカメラのフレームレート設定には関係なく適用されます。</p> <p>この設定を調整すると、モーション検知で使用されるシステムのリソースを低減できます。</p>
検知解像度	<p>画像全体を分析するか、選択した部分の画像を分析するかを指定します。たとえば 25% と指定すると、すべてのピクセルを分析する代わりに 4 ピクセルごとに分析するので、使用するシステムのリソースは低減しますが、モーション検知の正確度も低下します。</p>

プライバシーマスク

プライバシーマスクには次のプロパティを設定します。

有効	プライバシーマスク機能を有効にします。
グリッドを表示する	<p>グリッドをオンまたはオフに切り替えます。グリッドをオフにすることで、プレビュー画像がよりはっきり見える場合もあります。グリッドを表示する場合と同様に、除外したいエリアを選択します。</p> <p>オンにすると、プレビュー画像は、グリッドで小さな部分に分割されます。プライバシーマスクから除外する必要がある領域を定義するには、マウスボタンを押下した状態で、プレビュー画像の領域の上でマウスをドラッグします。左マウスボタンでグリッドを選択します。右マウスボタンでグリッドをクリアします。選択されたエリアが、赤色で強調表示されます。</p>
プライバシーマスクの表示	<p>プライバシーマスクを示す赤色のエリアをオンまたはオフに切り替えます。赤色のエリアをオフにすることで、プレビュー画像がよりはっきり見える場合もあります。</p>
クリア	プライバシーマスクをクリアします。

魚眼レンズ（プロパティ）

魚眼レンズテクノロジーを使用すると、高度なレンズで魚眼レンズのパノラマビデオを再生できます。

魚眼レンズテクノロジーを使用する場合、まずテクノロジーを有効にし、場合によって特別なライセンスキーの入力が必要な場合があります。特別な魚眼ライセンスキーが必要であるかどうか不明な場合は、システムのベンダーに詳細をお問い合わせください。

魚眼サポートを有効にする	<p>チェックボックスを選択すると、魚眼レンズテクノロジーが使用可能となり、さらに多くのプロパティを指定できます。</p>
--------------	---

ImmerVision Enables® Panomorph RPL 番号	<p>Panomorph サポート機能を有効にする場合、ImmerVision Enables® Panomorph RPL 番号リストで登録済み Panomorph レンズ (RPL) 番号も選択し、レンズが正しく特定され、カメラで使用されるレンズで構成されることを保証する必要があります。RPL 番号は、通常はレンズ本体またはカメラが入っていた箱に記載されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 別のタイプのレンズが必要になった場合、ファイルへ移動し、新しいレンズタイプのインポートを選択します。レンズタイプに関する情報を含んでいる.xml ファイルを検索し、OK をクリックします。 <p>ImmerVision、panomorph (パノモーフ) レンズ、および RPL の詳細については、ImmerVision Enables Web サイト https://www.immervisionenables.com/ をご覧ください。</p>
カメラの位置/方向	カメラを天井、壁、地上のいずれに取り付けるかを選びます。

PTZ プリセット位置

PTZ 関連のプロパティが使用できるのは、PTZ (パン/チルト/ズーム) カメラを使用している場合だけです。

PTZ プリセット位置を使用すると、特定のイベントが発生したり、PTZ パトロールプロファイルを設定した場合に、PTZ カメラを自動的に特定の位置へ移動させることができます。また、クライアントでプリセット位置を使用して、複数のプリセット位置間で PTZ カメラを移動させる権限 『142ページ の"ユーザーおよびグループの権限の設定"参照』をユーザーに付与することもできます。プリセット位置の名前には、A-Z、a-z、数字 0-9 だけを含めます。カメラからプリセット位置をインポートした場合は、名前にこれら以外の文字が含まれていないか確認してください。含まれている場合は、インポートする前にプリセット位置の名前を変更してください。

複数の同時ビデオストリーム出力に対応しないカメラは、監視サーバーと Management Application に同時に接続することはできません。Sony では、そうしたデバイスでモーション検知や PTZ を設定する場合、Recording Server サービスを停止 『148ページ の"サービスを開始および停止する"参照』することを推奨しています。

Management Application でカメラからのビデオを表示する 『36ページ の"Management Application でカメラからビデオを再生する"参照』も参照してください。

PTZ タイプ	<p>設定オプションは、対象となる PTZ カメラのタイプによります。</p> <ul style="list-style-type: none"> タイプ 1 (サーバーに保存) : ウィンドウの上半分にあるコントロールを使用してカメラを移動させてから、必要な位置をそれぞれシステムサーバーに保存して、プリセット位置を定義します。この方法で、最大で 50 のプリセット位置を定義できます。 タイプ 2 (カメラからインポート) : 事前に定義され、PTZ カメラ自体に保存されているプリセット位置を、カメラ独自の設定インターフェースでインポートします。許可されるプリセット位置の数は、使用する PTZ カメラおよびドライバーにより異なります。 タイプ 3 (カメラに保存) : ウィンドウの上半分にあるコントロールでカメラを移動させてから、必要な位置をそれぞれカメラ独自のメモリに保存して、プリセット位置を定義します。この方法で、最大で 50 のプリセット位置を定義できます。カメラに対して既にプリセット位置が定義されている場合は、システムで使用するプリセット位置を簡単にインポートできます。
----------------	---

インポート/更新	<p>PTZ タイプ 2 または 3 を選択している場合のみ使用できます。カメラのメモリから、既に定義されているプリセット位置をインポートして、システムで使用することができます。</p> <p>この方法で既にプリセット位置をインポートした後で、カメラでプリセット位置を追加または変更している場合、このボタンを使用してインポートしたプリセット位置を更新することができます。</p>
新規追加	<p>PTZ タイプ 1 を選択している場合のみ使用できます。ウィンドウ上部のコントロールを使用して、必要な位置へカメラを移動させ、空白のフィールドに位置の名前を入力してから、ボタンをクリックしてその位置を定義済みのプリセット位置のリストに追加します。</p> <p>プリセット位置の名前には、文字 A～Z、a～z、数字 0～9 しか使用できないことに注意してください。</p>
新しい位置を設定	<p>PTZ タイプ 1 または 3 を選択している場合のみ使用できます。既に定義済みのプリセット位置が変更できます。リストで、変更したいプリセット位置を選択します。次に、ウィンドウ上部のコントロールを使用して、必要な位置へカメラを移動させます。次に、ボタンをクリックして、古い位置の代わりに新しい位置を上書きします。</p>
削除	<p>PTZ タイプ 1 または 3 を選択している場合のみ使用できます。既に定義済みのプリセット位置が削除できます。リストで、削除したいプリセット位置を選択してから、ボタンをクリックします。</p> <p>プリセット位置を削除する前に、その位置が PTZ パトロールやイベントでの PTZ で使用されていないか確認してください。プリセット位置はカメラに保存されているため、インポート/更新 ボタンをクリックすると、削除したプリセット位置をシステムに復元することができます。この方法でプリセット位置を復元して、PTZ パトロールやイベントでの PTZ で使用する場合、再度使用するには手動での設定が必要になります。</p>
テスト	<p>プリセット位置を試します。リストで、テストしたいプリセット位置を選択してから、ボタンをクリックして、カメラが選択した位置へ移動することを確認します。</p>
PTZ コントロールホイール	<p>リストで選択したプリセット位置を、上下に移動します。選択したプリセット位置は、一度のクリックで 1 ステップだけ移動します。プリセット位置を上下に移動することで、プリセット位置をクライアントに表示する順番を制御できます。</p>

PTZ パトロール (プロパティ)

複数の同時ビデオストリーム出力に対応しないカメラは、監視サーバーと Management Application に同時に接続することはできません。Sony では、そうしたデバイスでモーション検知や PTZ を設定する場合、Recording Server サービスを停止 『148ページ』の「サービスを開始および停止する"参照"』することを推奨しています。

Management Application でカメラからのビデオを表示する 『36ページ』の「Management Application でカメラからビデオを再生する"参照"』も参照してください。

PTZ 関連プロパティを設定できるのは、PTZ (パン/チルト/ズーム) カメラに対してだけです。PTZ パトロールとは、複数のプリセット位置間での PTZ カメラの連続的な移動です。パトロールを使用するには、関連する PTZ カメラに対して少なくとも 2 か所のプリセット位置を指定する必要があります。PTZ パトロールを設定するには、**パトロール設定** リストでパトロールのプロファイルを選択し、関連するプロパティを指定して、パトロール設定の正確な動作を定義します。パトロールプロファイルを定義したら、パトロールプロファイルの使用を忘れずに

スケジュールしてください。ユーザーが手動で PTZ カメラを操作すると、パトロール動作が上書きされることに注意してください。必要に応じて、プリセットが 1 つだけのパトロール設定を指定できます。このようなパトロール設定が役に立つのは、以下の 2 つのケースです。PTZ カメラを指定された時刻に指定された位置へ移動させる場合。および、PTZ カメラを手動操作で指定位置へ移動させる場合。





パトロールプロファイル

PTZ カメラは、複数の異なるパトロールプロファイルに従ってパトロールを行うことがあります。たとえば、スーパーマーケットにある PTZ カメラは、営業時間内はあるパトロール設定に従ってパトロールを行ない、閉店後は別のパトロール設定に従ってパトロールを行なうことができます。他のカメラに対して定義済みパトロールプロファイルの名前を再利用することができます。これにより、単一のパトロール設定名を複数の PTZ カメラで使い、PTZ パトロールのスケジューリングを簡単にすることができます。複数の PTZ カメラでパトロール設定名を共有している場合にも、プリセット位置間でのそれぞれのカメラの動きは個別になります。

パトロール設定リストから、設定したいパトロール設定を選択します。

新規追加	<p>新しいパトロール設定をリストに追加します。新しいパトロール設定を追加する場合、一意の名前を付けるか、PTZ パトロールを行っている別の PTZ カメラから既存の名前を再利用します。</p> <p>複数の同じ名前パトロールプロファイルを使用すると、後でスケジュールを設定する際に便利です。例：25 台の異なるカメラで同じ名前「夜間パトロール」のパトロールプロファイルを設定している場合、たとえ「夜間パトロール」が 25 台のカメラのそれぞれに対して個別のプリセット位置をカバーしていても、25 台のカメラのすべてで「夜間パトロール」の使用を一度にスケジュールできます。</p>
削除	<p>既存のパトロール設定を削除します。選択したパトロール設定は、警告なしでリストから削除されることに注意してください。</p>

パトロールリスト

パトロール設定リストでパトロール設定を選択すると、選択したパトロールのスキームでどの PTZ カメラのプリセット位置を使用するか指定できます。 ボタンを使用して、選択したプリセット位置をパトロールリストにコピーします。プリセット位置リストでのプリセット位置の順番を変更するには、プリセット位置を選択し、 または  ボタンを使用して、選択したプリセット位置をリスト内で上下に移動させます。選択したプリセット位置は、一度のクリックで 1 ステップだけ移動します。後で、パトロールリストからプリセット位置を削除したくなった場合は、プリセット位置を選択して、 ボタンをクリックします。

待ち時間（秒）	<p>PTZ カメラが、次のプリセット位置へ移動する前に、それぞれのプリセット位置で留まる時間を秒数で指定します。デフォルトは 10 秒です。待ち時間は、パトロール設定にあるすべてのプリセットに適用されます。PTZ カメラは、それぞれのプリセット位置に同じ秒数だけ留まります。</p>
---------	--

移行時間（秒）	<p>PTZ カメラが、あるプリセット位置から別のプリセット位置へ移動するのに必要な時間を秒数で指定します。デフォルトは 5 秒です。この移行時間に、カメラのモーション検知は自動的に無効になります。これは、カメラがプリセット位置間を移動するときに、不必要なモーションが検出されるためです。指定した秒数が経過すると、モーション検知は再び自動的に有効になります。</p> <p>移行時間は、パトロール設定にあるすべてのプリセットに適用されます。指定した秒数内で、カメラがパトロール設定のプリセット位置間を切り替えられることが重要です。できない場合、システムは間違ったモーションを検知する可能性があります。PTZ カメラは、物理的に近い位置より、物理的に離れた場所（たとえば、極端に左にある場所から、極端に右にある場所へ）への移動に時間がかかる点に注意してください。</p>
---------	--

PTZ パトロールの一時停止

ユーザーがカメラを手動で操作したり、システムがイベントでの PTZ を使用したりすると、PTZ パトロールは自動的に一時停止します。また、システムがモーションを検知すると、PTZ パトロールが一時停止することもあります。一時停止の設定は、選択したパトロール設定と連結しています。このため、同じカメラで、異なるパトロールプロファイルに異なる一時停止設定をするなど、柔軟性の高い設定ができます。

モーションが検知された場合のパトロール一時停止

システムがモーションを検知した時に PTZ カメラがその位置に特定期間だけ留まるようにするには（PTZ パトロールを一時停止するには）、以下の操作を実行します。

1. モーションが検知された場合のパトロール一時停止チェックボックスを選択します。
2. 以下の場合に、PTZ カメラでパトロールを再開する必要があるかどうかを選択します。
 - モーションを追加検知したかどうかに関わらず、最初にモーションを検知してから一定の秒数が経過した後

または

 - モーションを追加検知せずに、一定の秒数が経過した後
3. 選択したオプションに対する秒数（デフォルトはそれぞれ 10 秒と 5 秒）を指定します。
4. 移行時間をゼロに設定しない限り、カメラがプリセット位置間を移動する際に、システムは自動的にモーション検知を無効にします。無効にしないと、カメラがプリセット位置間を移動している間に、無意味なモーションを検知する可能性があるためです。

PTZ パトロールの再開

ユーザーがカメラを手動で操作したり、イベントでの PTZ が使用されたりすると、システムは自動的に PTZ パトロールを一時停止します。手動操作またはイベントベースの中断があった場合に、システムが通常のパトロールを再開するまでの秒数を指定できます。デフォルトは 30 秒です。

手動コントロールとは別に、Network Video Management System Smart Client のユーザーは、選択した PTZ カメラのパトロールを完全に停止することもできます。したがって、Network Video Management System Smart Client ユーザーの場合、ユーザーが手動で PTZ カメラを制御した場合にのみ、パトロール設定セクションで指定した秒数が適用されます。ユーザーが PTZ カメラのパトロールを完全に停止した場合はこれに該当しません。Network Video Management System Smart Client ユーザーが PTZ カメラのパトロールを完全に停止

した場合、カメラのパトロールが再開するのは Network Video Management System Smart Client ユーザーが再開を選択した場合だけです。

イベントでの PTZ

PTZ 関連のプロパティが使用できるのは、PTZ（パン/チルト/ズーム）カメラを使用している場合だけです。PTZ カメラがプリセット位置 『94ページ の"PTZ プリセット位置"参照 』をサポートしている場合、特定のイベントが発生 『100ページ の"イベントおよび出力の概要"参照 』した時に、PTZ カメラを自動的に特定のプリセット位置へ移動させることができます。PTZ カメラのプリセット位置にイベントを関連付ける場合、システムで定義されている**すべての**イベントを選択することができます。特定のハードウェアデバイスで定義されたイベントの選択を制限されることはありません。

コンポーネント	要件
イベント	関連するイベントを選択します。
PTZ プリセット位置	<p>関連するプリセット位置を選択します。この目的で、PTZ カメラでイベントを使用できるのは一度だけです。ただし、別のイベントを使用して、PTZ カメラを同じプリセット位置へ移動させることができます。</p> <p>例：</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント 1 は、PTZ カメラをプリセット位置 A へ移動させます。 イベント 2 は、PTZ カメラをプリセット位置 B へ移動させます。 イベント 3 は、PTZ カメラをプリセット位置 A へ移動させます。

後で、特定のイベントと特定のプリセット位置の間での関連付けを解消したくなった場合は、イベントを含んでいるフィールドをクリアします。PTZ 設定の変更を完了したら、サービスを再起動 『148ページ の"サービスを開始および停止する"参照 』します。

複数の同時ビデオストリーム出力に対応しないカメラは、監視サーバーと Management Application に同時に接続することはできません。Sony では、そうしたデバイスでモーション検知や PTZ を設定する場合、Recording Server サービスを停止 『148ページ の"サービスを開始および停止する"参照 』することを推奨しています。

Management Application でカメラからのビデオを表示する 『36ページ の"Management Application でカメラからビデオを再生する"参照 』も参照してください。

マイク

マイクについて

システムで、**マイク**は通常はハードウェアデバイスに取り付けられるので、物理的にカメラの次に位置します。そこで、必要な権限を持つオペレータは、Network Video Management System Smart Client (Network Video Management System Smart Client を実行しているコンピュータにスピーカーが取り付けられている場合)を通じて録音を聴くことができます。マイクはシステムで管理します。つまり、Network Video Management System Smart Client のオペレータのコンピュータに取り付けられているマイクではなく、カメラに取り付けられているマイクを常に管理できます。

必要以上のマイクをシステムに追加した場合、関連するマイクやスピーカーを右クリックして、**非表示**を選択すると、不要なものを非表示にすることができます。非表示にしたマイクを再度表示したい場合は、マイク全体のアイコンを右クリックして、**非表示の項目を表示**を選択します。

マイクまたはスピーカーの設定

1. **詳細設定** > **ハードウェアデバイス**を展開し、関連するマイクまたはスピーカーが取り付けられているハードウェアデバイスを展開します。
2. 関連するマイクまたはスピーカーを右クリックして、**プロパティ**を選択します。
3. 必要に応じてプロパティ 『59ページ の"スピーカープロパティ"参照』を指定します。

システムのマイクやスピーカーの設定は、非常に簡単です。音量や類似の設定は、マイクまたはスピーカーユニット自体でコントロールできます。

マイクやスピーカーの表示/非表示

システムで必要とされる数以上のマイクやスピーカーを追加した場合、不要なマイクやスピーカーを右クリックして、**非表示**を選択すると、それらを非表示にすることができます。非表示にしたマイク/スピーカーを再度表示したい場合は、マイクやスピーカー全体のアイコンを右クリックして、**非表示アイテムの表示**を選択します。

マイク（プロパティ）

特定のカメラに対してビデオおよび録画の設定 『62ページ の"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、音声録音するタイミングを指定できます。この選択は、システムのすべてのカメラに適用されます。

マイクのプロパティ

デバイスが有効	マイクはデフォルトで有効になっており、これはシステムに音声を転送できることを意味します。必要に応じて、個別のマイクを無効にすることができます。この場合、マイクからシステムへ音声は転送されません。
名前	Management Application およびクライアントで表示される名前です。既存の名前を、新しい名前の上書きすることができます。名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []

一部のハードウェアデバイスでは、ハードウェアデバイス自体で音声を有効/無効にすることもできます。通常は、ハードウェアデバイス自体の設定用 Web ページで行います。Management Application で有効にしてもハードウェアデバイスで音声機能が機能しない場合は、ハードウェアデバイス自体で音声が無効になっていることが原因かどうかを確認する必要があります。

録画設定

常時録音	すべての該当するカメラで、音声を常に録音します。
ビデオに従う	マイクが取り付けられている、カメラからビデオを録画する時だけ、音声を録音します。

設定しない	どのカメラでも音声を録音しません。システムが音声を録音しない場合でも、Network Video Management System Smart Client でライブオーディオを聴くことができます。
-------	--

イベントおよび出力

入力および出力について

ドアセンサーなどの**ハードウェア入力**を、ハードウェアデバイスの入力ポートに接続することができます。このような外部ハードウェア入力ユニットからの信号により、システムでイベントを生成することができます。

ハードウェア出力ユニットを、さまざまなハードウェアデバイスの出力ポートに接続して、照明、サイレンなどをシステムから起動することができます。こうしたハードウェア出力は、イベントによって自動的にアクティブにすることもできますし、クライアントから手動でアクティブにすることもできます。

ハードウェアデバイスでハードウェア入力ユニットおよびハードウェア出力ユニットの使用を指定する前に、そのセンサーの動作がハードウェアデバイスによって認識されていることを確認してください。大半のハードウェアデバイスは、設定用インターフェースか CGI スクリプトのコマンドで表示できます。また、システムのリリースノートをチェックして、使用するハードウェアデバイスおよびファームウェアが入力や出力の制御・操作に対応していることを確認してください。

ハードウェア入力ユニットを個別に設定する必要はありません。ハードウェアデバイスに接続されているハードウェア入力ユニットは、ハードウェアデバイスをシステムに追加した時点で自動的に検出されます。ハードウェア出力の場合も同様ですが、ハードウェア出力についてはシステムで簡単な設定を行う必要があります。

ハードウェア出力を設定して、たとえばドアが開いたタイミングや、ビデオでモーションが検知されたときに照明をオンにするなど、**イベント発生時に出力を自動的にトリガ**したい場合は、ハードウェア出力の追加 『103ページ』 およびイベントでのハードウェア出力の設定 『105ページ』 を参照してください。

イベントおよび出力について

さまざまなタイプのイベントや出力を使用して、システム上のアクションを自動的にトリガすることができます。アクションの例：録画の開始・停止、フレームレートの切り替え、通知のトリガ、PTZ カメラのプリセット位置への移動。また、イベントを使って、ハードウェアの出力をアクティブ化することもできます。さらに、イベントおよび出力を設定して、アラームを生成することができます。

イベントは、以下のように分類されます。

- **内部イベント（システム関連）**：例：モーション、サーバーの応答/非応答、アーカイブの問題、ディスク空き容量不足など。
- **外部イベント（統合）**：例：プラグインイベント。

イベントおよび出力の概要

イベントのタイプ：

名前	詳細
アナリティックイベント：	<p>アナリティックイベントは、アラームとして使用したり、シームレスにアラーム機能と統合したりすることができます。</p> <p>アナリティックイベントは、一般的に、外部のサードパーティのビデオコンテンツ分析(VCA)プロバイダから受信したデータです。VCA ベースのシステムの例として、アクセスコントロールシステムが挙げられます。</p>
ハードウェア入力イベント：	<p>ドアセンサーなどのハードウェア入力を、ハードウェアデバイスの入力ポートに割り当てることができます。このような外部ハードウェア入力ユニットからの信号により、システムでイベントを生成することができます。</p> <p>ハードウェアデバイスに取り付けられたハードウェア入力ユニットからの入力に基づくイベントを、ハードウェア入力イベントと呼びます。</p> <p>一部のハードウェアデバイスには、モーションの検知、移動および静止中の物体の検知などの独自の機能があります（この機能はハードウェアデバイス独自のソフトウェアで設定します。通常は、ハードウェアデバイスのIP アドレスによってアクセスできる、ブラウザベースの設定インターフェースで設定します）。この場合、システムは、このような検知をハードウェアからの入力とみなします。また、この検知を入力イベントとして使うことも可能です。</p> <p>最後に、ハードウェア入力イベントは、システムでのモーション検知の設定や、カメラからのビデオのシステムによるモーション検知に基づいて発生させることもできます。</p> <p>また、このタイプのハードウェア入力イベントは、システムモーション検知イベントまたは VMD（ビデオモーション検知）イベントと呼ばれます。以前のバージョンの監視システムでは、VMD イベントは独自のタイプのイベントでした。現在は、ハードウェア入力イベントのタイプのひとつとみなされます。</p>
ハードウェア出力：	<p>ハードウェア出力ユニットを、さまざまなハードウェアデバイスの出力ポートに割り当てて、照明、サイレン、その他をシステムから起動することができます。こうしたハードウェア出力は、イベントによって自動的にアクティブにすることもできますし、クライアントから手動でアクティブにすることもできます。</p>
手動イベント：	<p>イベントは、ユーザーがクライアントで選択することで、手動で生成することができます。これらのイベントは手動イベントと呼ばれます。</p> <p>手動イベントは、グローバルイベントまたはタイマーイベントのタイプになります。</p> <p>グローバルイベントはすべてのハードウェアに適用されますが、タイマーイベントは別個のイベントで、ハードウェア入力イベント、手動イベント、あるいは定義されたジェネリックイベントによってトリガされます。タイマーイベントは、定義されたイベントが発生した後、指定された時間（秒または分）の後に発生します。タイマーイベントは、幅広い目的で使用されますが、通常は前にトリガされたアクションを停止するために使用されます。</p> <p>例：</p> <p>たとえばドアが開くなどのハードウェア入力イベントに基づいて、カメラが録画を開始します。タイマーイベントにより、15 秒後に録画が停止します。</p>

名前	詳細
ジェネリックイベント：	入力を TCP または UDP のパケット形式で受信することも可能です。これはシステムによって分析され、指定された基準に一致する場合に、イベントが生成されます。このようなイベントは、ジェネリックイベントと呼ばれます。
イベントでの出力コントロール：	ハードウェア出力は、イベントが発生した時に自動的に起動できます。たとえば、ドアが開くと（ハードウェア入力イベント）、照明がオンになります（ハードウェア出力）。 出力コントロールを設定する場合、システムで定義されているすべての出力およびイベントの中から選択することができます。特定のハードウェアデバイスで定義された出力やイベントの選択に制限されることはありません。単一のイベントを使って、複数の出力をアクティブ化することができます。

いずれかのタイプのイベントを設定する前に、たとえば、イベントデータのためにどのポートを使用するかなどの**一般的なイベント処理を設定**します。通常は、単にデフォルト値を使用するだけで構いませんが、組織で他の目的でこのポートを使用していないか確認することをお勧めします。一般的なイベント処理の設定 『105ページ』を参照してください。

ハードウェアデバイスでハードウェア入力およびハードウェア出力ユニットの使用を指定する前に、そのセンサーの動作がデバイスによって認識されていることを確認してください。大半のハードウェアデバイスは、設定用インターフェースか CGI スクリプトのコマンドで表示できます。また、監視システムのリリースノートをチェックして、入力および出力によってコントロールされる動作が、使用しているハードウェアデバイスやファームウェアでサポートされているか確認してください。マスター/スレーブ設定で複数のサーバーを使用する場合、特定のハードウェアデバイスの入力および出力は1つのサーバーでのみ定義する必要があります。複数のサーバーで、同じハードウェアデバイス上の同じ入出力を定義しないでください。

ハードウェア入力ユニットを個別に設定する必要はありません。ハードウェアデバイスに接続されているハードウェア入力ユニットは、ハードウェアデバイスをシステムに追加した時点で自動的に検出されます。ハードウェア出力の場合も同様ですが、ハードウェア出力についてはシステムで簡単な設定を行う必要があります。

ハードウェア出力を設定して、たとえばドアが開いたタイミングや、ビデオでモーションが検知されたときに照明をオンにするなど、**イベント発生時に出力を自動的にトリガ**したい場合は、ハードウェア出力の追加 『103ページ』およびイベントでのハードウェア出力の設定 『105ページ』を参照してください。

イベントを設定する準備ができれば、ハードウェア入力イベントの追加 『102ページ』、ジェネリックイベントの追加 『104ページ』、手動イベントの追加 『104ページ』を参照してください。他のイベントでタイマーイベントを使用したい場合は、タイマーイベントの追加 『105ページ』を参照してください。

アナリティックイベントの追加

アナリティックイベントを追加するには、次の手順を実行してください。

1. イベントおよび出力を展開し、**アナリティックイベント**を右クリックして、**新規作成**を選択します。
2. 必要なプロパティを指定します。 **OK** をクリックします。
3. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

ハードウェア入力イベントの追加

ハードウェア入力イベントでは、ハードウェアデバイスに接続した入力ユニットから受信した入力をシステムでのイベント 『100ページ』の**"イベントおよび出力の概要"参照**』に変換することができます。

ハードウェアデバイスの入力を指定する前に、ハードウェアデバイスがセンサーの動作を認識できるか確認してください。大半のハードウェアデバイスは、設定用インターフェースか CGI スクリプトのコマンドで表示できません。使用しているハードウェアデバイスやファームウェアが入力制御に対応しているかについては、それらのリリースノートを確認してください。

ハードウェア入力イベントを追加・設定するには、次の手順を実行してください。

1. **詳細設定 > イベントと出力**を展開します。**ハードウェア入力イベント > 新しい入力イベントを有効にする**を右クリックします。
2. **ハードウェア入力イベントプロパティ**ウィンドウのハードウェアデバイスのリストで、関連するハードウェアデバイスを展開し、定義済みのハードウェア入力を表示します。
3. イベントとして使用する必要なタイプの入力を選択します。入力のタイプは、多くの場合、カメラによって異なります。関連するカメラに関して、**モーション検知** 『91ページ の"モーション検知&領域の除外"参照』がシステムで有効になっている場合、**システムモーション検知**の入力タイプをメモします。これによって、カメラのビデオストリームで検知したモーションをイベントにすることができます。

一部のタイプの入力は、相互に排他的であることに注意してください。ある入力タイプを選択した場合、それに対し排他関係にある入力タイプは選択できなくなります。
4. 選択した入力のそれぞれのタイプについて、必要なプロパティ 『111ページ の"ハードウェア入力イベント"参照』を選択します。準備が完了したら、**OK**をクリックするか、**追加**ボタンをクリックして、作成したイベントにタイマーイベントを追加 『105ページ の"タイマーイベントの追加"参照』します。
5. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

ハードウェア出力の追加

ハードウェア出力では、照明、サイレン、ドアの開放などの外部出力ユニットをシステムに追加できます。追加すると、イベント 『100ページ の"イベントおよび出力の概要"参照』または検知したモーションにより出力を自動的にアクティブ化したり、クライアントユーザーによって手動でアクティブ化することができます。

出力を指定する前に、出力を使用しようとしているハードウェアデバイスによって、センサーの動作が認識されることを確認してください。大半のハードウェアデバイスは、設定用インターフェースか CGI スクリプトのコマンドで表示できます。使用しているハードウェアデバイスやファームウェアが出力制御に対応しているかについては、それらのリリースノートを確認してください。

次の手順によりハードウェア出力イベントを追加できます。

1. **詳細設定 > イベントと出力**を展開します。**ハードウェア出力 > 新しい出力の追加**を右クリックします。
2. **ハードウェア出力プロパティ**ウィンドウのハードウェアデバイスのリストで、関連するハードウェアデバイスを選択します。その後、リストの下にある**追加**ボタンをクリックします。
3. 必要なプロパティ 『111ページ の"ハードウェア入力イベント"参照』を指定します。
4. **OK**をクリックします。
5. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

イベントが発生した時のハードウェア出力の自動アクティブ化の設定に関する詳細は、イベントでのハードウェア出力の設定 『105ページ』を参照してください。クライアントでの出力の手動アクティブ化、ならびにモーション検知時の自動アクティブ化は、それぞれのカメラに対して個別 『90ページ の"出力"参照』に設定します。

手動イベントの追加

手動イベントでは、必要な権限 『142ページ の"ユーザーおよびグループの権限の設定"参照』を持つユーザーは、クライアントから手動でイベントをトリガできます。手動イベントは、グローバル(すべてのカメラで共有)、または特定のカメラに関連付けられます(カメラを選択している場合だけ使用可能)。手動イベントは、以下のように様々な用途で使用できます。

- カメラのオンライン期間をスケジューリング 『125ページ の"オンライン期間"参照』する場合の開始および停止イベントとして。たとえば、手動イベントに基づいて、カメラから監視システムへのビデオの転送を開始または停止することができます。
- カメラのその他の設定をコントロールする開始および停止イベントとして。たとえば、手動イベントによりカメラでより高いフレームレートに切り替えたり、同様にイベントで PTZ 『98ページ の"イベントでの PTZ"参照』をトリガすることができます。
- 出力をトリガする場合。特定の出力を、手動イベントと関連付ける 『105ページ の"イベントでのハードウェア出力の設定"参照』ことができます。
- イベントベースの通知 『130ページ の"通知について"参照』をトリガする場合。
- 組み合わせで。たとえば、手動イベントによりカメラに監視システムへのビデオの転送を開始させると同時に、出力をトリガして E メール通知を関係者へ送信することができます。

手動イベントを追加するには、次の手順を実行してください。

1. **詳細設定 > イベントと出力**を展開します。**手動イベント > 新規手動イベントの追加**を右クリックします。
2. 手動イベントプロパティの左側にあるリストで、必要に応じて、グローバルまたはカメラを選択します。
3. **追加**ボタンをクリックして、必要なプロパティ 『111ページ の"ハードウェア入力イベント"参照』を指定します。準備が完了したら、**OK**をクリックするか、**追加**ボタンを再度クリックして、作成したイベントにタイマーイベントを追加 『105ページ の"タイマーイベントの追加"参照』します。
4. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

ジェネリックイベントの追加

システムは、受信した TCP または UDP またはその両方のデータパッケージを分析して、指定された基準が満たされたときに、イベント 『100ページ の"イベントおよび出力の概要"参照』を自動的にトリガできます。この方法で、監視システムを、アクセスコントロールシステムやアラームシステムなどの幅広い種類の外部ソースと簡単に統合することができます。

1. **【詳細設定】**を展開してから、**【イベントと出力】**を展開します。**【ジェネリックイベント】**を右クリックして、**【プロパティ】**を選択します。
2. **【ジェネリックイベントのプロパティ】**ウィンドウで、**【追加】**ボタンをクリックして、関連するプロパティを指定します。詳細は、のジェネリックイベント(イベントおよび出力固有のプロパティ) 『114ページ の"ジェネリックイベント"参照』を参照してください。
3. タイマーイベントをジェネリックイベントに追加するには、**【追加】**ボタンをクリックします。
4. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

タイマーイベントの追加

タイマーイベントとは、定義されたタイプによってトリガされる、別個のイベント 『100ページ の"イベントおよび出力の概要"参照』です。タイマーイベントは、定義されたイベントが発生した後、指定された秒数または分数の間に発生します。タイマーイベントは、幅広い目的で使用されますが、通常は前にトリガされたアクションを停止するために使用されます。例：

- たとえばドアが開くなどのハードウェア入力イベントに基づいて、カメラが録画を開始します。タイマーイベントにより、15 秒後に録画が停止します。
- 照明がオンになり、カメラは手動イベントに基づいて録画を開始します。1 分後にタイマーイベントにより録画が停止し、2 分後には別のタイマーイベントにより照明がオフになります。

タイマーイベントを追加するには、以前に設定した任意のイベントを選択し、**追加**ボタンをクリックして、必要なプロパティ 『113ページ の"タイマーイベント"参照』を指定します。システムには、2 つの基本スケジュールプロファイル（常にオンと常にオフ）があり、これらを編集または削除することはできません。これらが組織のニーズに合わない場合、それぞれのカメラに対してカスタマイズされたスケジュールプロファイルを複数作成できます。カスタマイズされたスケジュールプロファイルは、必要に応じて複数の目的で再利用できます。

Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

ヒント： あるイベントの下に、必要な数のタイマーイベントを追加できます。これにより、たとえばメインのイベントの 10 秒後にあるタイマーイベントをトリガし、メインのイベントの 30 秒後には別のタイマーイベントをトリガし、さらにメインのイベントの 2 分後に 3 番目のタイマーイベントをトリガすることができます。

イベントでのハードウェア出力の設定

照明、サイレン、ドアを開くなどのハードウェア出力を追加 『103ページ の"ハードウェア出力の追加"参照』すると、ハードウェア出力とイベント 『100ページ の"イベントおよび出力の概要"参照』を関連付けることができます。これにより、イベントが発生した時に、特定のハードウェア出力をアクティブ化することができます。例：ドアが開くと（ハードウェア入力イベント）、照明がオンになります（ハードウェア出力）。

関連付ける場合、監視システムサーバーで定義された**すべての**出力やイベントの中から選択することができます。特定のハードウェアデバイスで定義された出力やイベントの選択に制限されることはありません。

1. **詳細設定**を展開してから、**イベントと出力**を展開します。**イベントでの出力コントロール**を右クリックして、**プロパティ**を選択します。
2. 関連するプロパティ 『116ページ の"イベントでの出力コントロール（イベントおよび出力固有のプロパティ）"参照』を入力します。**OK**をクリックします。
3. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

単一のイベントを使って、複数の出力をアクティブ化することができます。関連付けを削除することはできませんが、選択を変更したり、必要であれば両方の列で**なし**を選択することも可能です。

注意： 適切なイベントや出力をまだ定義していない場合、以下の方法で迅速に行うことができます。**イベントの設定リスト**および/または関連付けのリストの下にある**出力の設定...**ボタンを使います。

一般的なイベント処理の設定

特定のタイプのイベントを設定する前に、たとえばシステムがイベントデータのためにどのポートを使用するかなどの一般的なイベント処理を設定します。通常は、単にデフォルト値を使用するだけで構いませんが、組織で他の目的でこのポートを使用していないか確認することをお勧めします。

1. **詳細設定**を展開し、**イベントと出力**を右クリックし、**プロパティ**を選択します。

2. 必要なプロパティ 『108ページ の"ポートとポーリング"参照 』を指定します。 システムには、2つの基本スケジュールプロファイル（常にオンと常にオフ）があり、これらを編集または削除することはできません。これらが組織のニーズに合わない場合、それぞれのカメラに対してカスタマイズされたスケジュールプロファイルを複数作成できます。カスタマイズされたスケジュールプロファイルは、必要に応じて複数の目的で再利用できます。
3. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

アナリティックイベントに基づくアラームの生成

アナリティックイベントに基づくアラームの生成には、通常は以下の 3 段階のプロセスがあります。

1. アナリティックイベント機能を有効にし、セキュリティを設定します。許可されたアドレスのリストを使用して、イベントデータをシステムに送信できるユーザーおよびサーバーがリスニングするポートを制御できます。
2. イベントの説明などを使用してアナリティックイベントを作成し、テストします。
3. アラーム定義『168ページ』のソースとしてアナリティックイベントを使用します。

上記のとおり、一般的に、システムにデータを渡すためにはサードパーティ VCA が必要です。使用する VCA ツールは、ツールが供給するデータが Sony アナリティックイベントの開発者マニュアルで説明されているフォーマットルールに適合する限り、任意の VCA ツールを使用できます。詳細については、Sony までお問い合わせください。

ジェネリックイベントのテスト

ジェネリックイベントを追加した場合、ジェネリックイベントをすばやく簡単にテストする方法は、まずイベント通知をセットアップして、ジェネリックイベント、さらにイベント通知をトリガするデータを **Telnet** を使用して送信することです。

Telnet は旧バージョンの Windows にはデフォルトでインストールされています。詳細は、
[https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc771275\(v=ws.10\).aspx](https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc771275(v=ws.10).aspx)
[https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc771275\(v=ws.10\).aspx](https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc771275(v=ws.10).aspx)を参照してください。

この例では、**Video** と呼ばれるジェネリックイベントを作成しています。このジェネリックイベントでは、受信した TCP データパッケージに **Video** という単語が出現すると、ジェネリックイベントをトリガするように指定しています。使用するジェネリックイベントでは異なるかもしれませんが、原則は次の通りです。

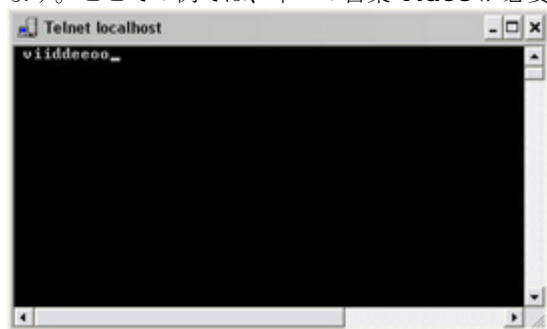
1. **【詳細設定】**を展開してから、**【カメラおよびストレージの情報】**を展開します。Network Video Management System Smart Client でアクセス権があるカメラを右クリックして、**【プロパティ】**を選択します。
2. **【イベント通知】**を選択して、必要なジェネリックイベントを選択します。テストを行っている間、ジェネリックイベントが、**【選択したイベント】**リストに表示される唯一のイベントであることを確認してください。そうでない場合、イベント通知をトリガしたのがそのジェネリックイベントであるかどうか判断できません。テストが終わると、一時的に削除したイベントを**【選択したイベント】**リストに戻すことができます。
3. Management Application のツールバーで**【設定の保存】**ボタンをクリックして、設定の変更を保存します。
4. Recording Server サービスが実行中であることを確認してください。また、イベント通知を設定したカメラが表示されており、Network Video Management System Smart Client でカメラのタイトルバーが有効になっていることも確認してください。その場合、黄色のイベントインジケータが表示されます。
5. Telnet を実行して、以下を入力します。
6. Windows の**【スタート】**メニューで、**【ファイル名を指定して実行】**を選択し、**【開く】**フィールドに以下を入力します。
 - システムサーバー自体でテストを実行している場合:telnet localhost 1234

- リモートコンピュータからテストを実行している場合:**localhost** の部分を、システムのサーバーの IP アドレスに置き換えます。例:監視システムサーバーの IP アドレスが 123.123.123.123 であれば、次のように入力します。telnet 123.123.123.123 1234

これにより、**Telnet** ウィンドウが開きます。

上の例で、数字 **1234** はシステムサーバーがジェネリックイベントをリスニングするポートを示しています。ポート **1234** がデフォルトのポートですが、ジェネリックイベント処理の設定 『105ページ の"一般的なイベント処理の設定"参照』の一部として別のポートを指定して、ポートを変更することができます。システムでアラートやジェネリックイベントのポート番号を変更した場合、**1234** の代わりにシステムのアラートおよびジェネリックイベントのポート番号を入力してください。

- Telnet** ウィンドウで、ジェネリックイベントのトリガに必要な言葉(イベントの文字列の一部)を入力します。ここでの例では、単一の言葉 **Video** が必要です。



Telnet ウィンドウでの入力中は、入力した内容がエコーされることがあります。これは、サーバーが受信した文字の一部または全部を繰り返しているためです。正しく入力している限り、これは問題になりません。

- Telnet** ウィンドウを閉じます。ウィンドウを閉じるまで、入力した内容が監視システムに送信されないで、ウィンドウを閉じてください。
- Network Video Management System Smart Client に移動します。対象のカメラについて、黄色のイベントインジケータが点灯していれば、ジェネリックイベントは予測通りに動作しています。

重要:ジェネリックイベントには最大 128 文字を入力できます。128 文字を超えて入力した場合、128 文字を超える文字列は破棄されます。

ジェネリックイベントプロパティ

ポートとポーリング

ジェネリックイベントプロパティウィンドウでは、イベント処理と一緒に使用するネットワークの設定を指定できます。

アラートポートおよびジェネリックイベントポート	イベントの処理で使用するポート番号を指定します。デフォルトポートは 1234 です。
SMTP イベントポート	ハードウェアデバイスからシステムへ SMTP 経由でイベント情報を送信する際に使用するポート番号を指定します。デフォルトのポートは、ポート 25 です。
FTP イベントポート	ハードウェアデバイスとの FTP 通信に使用するポート。デフォルトのポートは、ポート 21 です。

ポーリング間隔[1/10]秒	<p>少数のハードウェアデバイスを主に専用の入力/出力装置 『56ページ の"専用入力/出力デバイスについて"参照 』として使用する場合、システムは入力を検知するために、ハードウェアデバイスの入力ポートを定期的にチェックする必要があります。このような定期的な状態チェックを、ポーリングと呼びます。</p> <p>状態チェックの間隔（1/10 秒単位）を指定することができます。デフォルト値は 10（1 秒）です。専用の入力/出力装置の場合、ポーリングの頻度を可能な限り低い値にすることを強く推奨します（状態チェックの間隔を 1/10 秒）。</p> <p>どのハードウェアデバイスがポーリングを必要とするかに関する情報は、リリースノートを参照してください。</p>
----------------	--

イベントおよび出力プロパティ

分析種目のテスト

分析種目を設定した後、要件を 『109ページ の"アナリティックイベントをテストする(プロパティ)"参照 』例えば、分析種目特性が機能しているかどうかをテストできます Management Application。

1. 現行の分析種目を選んで下さい。
2. プロパティの中から、「種目テスト」 ボタンをクリックして下さい。可能なすべての種目を示すウィンドーが表示されます。
種目テストのソースを、例えば、カメラを選んで下さい。そのウィンドーは閉じられ、分析種目が機能するための四つの条件を満たす新しい画面が表示されます。

追加のテストとして、 Network Video Management System Smart Client 分析種目が種目サーバーに送信されたかどうか確認できます。そうするためには、 Network Video Management System Smart Client 警告マネージャー のタブを開いて種目を見て下さい 。

これも見てください。

分析種目について

アナリティックイベントをテストする(プロパティ)

アナリティックイベントの要件をテストする場合は、4 つの条件を確認し、エラーがある場合はエラーの説明と解決策を示すウィンドウが表示されます。

条件	説明	エラーメッセージと解決策
保存した変更	イベントが新しい場合は保存されますか？ または、イベント名を変更した場合は、変更内容は保存されますか？	アナリティックイベントをテストする前に変更を保存してください。解決策/説明:変更を保存してください。

条件	説明	エラーメッセージと解決策
アナリティックイベントが有効です	アナリティックイベント機能は有効ですか?	アナリティックイベントは有効ではありません。解決策/説明: アナリティックイベント機能を有効にしてください。これを実行するためには、 【ツール】 > 【オプション】 > 【アナリティックイベント】 をクリックし、 【有効】 チェックボックスを選択します。
許可されるアドレス	イベントを送信するマシンの IP アドレスまたはホスト名は許可(アナリティックイベントアドレスリストに登録)されていますか?	Analytic Event サービスに対して許可されているアドレスとして、ローカルホスト名を追加する必要があります。解決策/説明: 許可される IP アドレスまたはホスト名のアナリティックイベントアドレスリストに、使用しているマシンを追加します。 ローカルホスト名の解決中にエラーがありました。 解決策/説明: マシンの IP アドレスまたはホスト名が見つからないか無効です。
アナリティックイベントを送信する	テストイベントはイベントサーバーに正常に送信されましたか?	以下のテーブルを参照してください。

各ステップは失敗❌または成功でマークされます✅。

条件アナリティックイベントの送信に対するエラーメッセージと解決策:

イベントサーバーが見つかりません	イベントサーバーが登録済みサーバーのリストにありません。
イベントサーバーへの接続中にエラーが発生しました	指定されたポートでイベントサーバーに接続できません。一般的には、ネットワークの問題か、イベントサーバーサービスが停止しているため、エラーが発生します。
アナリティックイベントの送信エラーが発生しました	イベントサーバーサービスへの接続は確立しますが、イベントを送信できません。一般的には、タイムアウトなどのネットワークの問題のため、エラーが発生します。
イベントサーバーからの応答の受信中にエラーが発生しました	イベントサーバーにイベントが送信されましたが、応答が受信されません。一般的には、ネットワークの問題またはポートがビジー状態のため、エラーが発生します。 通常は <code>ProgramData\Sony\Network VMSEvent Server\logs</code> にあるイベントサーバーログを確認してください。
イベントサーバーには不明なアナリティックイベントです	イベントサーバーサービスがイベントを認識しません。エラーが発生する最も可能性の高い理由は、イベントまたはイベントの変更が保存されていないことです。
イベントサーバーが無効なアナリティックイベントを受信しました	イベントのフォーマットが正しくありません。
送信者はイベントサーバーによって承認されていません。	通常は、許可された IP アドレスまたはホスト名のリストにマシンがないためです。
イベントサーバーの内部エラーが発生しました。	イベントサーバーエラー。 通常は <code>ProgramData\Sony\Network VMSEvent Server\logs</code> にあるイベントサーバーログを確認してください。

イベントサーバーが無効な応答を受信しました。	<p>応答は無効です。ポートがビジー状態か、ネットワークに問題がある可能性があります。</p> <p>通常は <i>ProgramData¥Sony¥- Network VMSEvent Server¥logs¥</i>にあるイベントサーバーログを確認してください。</p>
イベントサーバーから不明な応答を受信しました	<p>応答は有効ですが、理解不能です。エラーが発生しているのは、ネットワークの問題またはポートがビジー状態のためである可能性があります。</p> <p>通常は <i>ProgramData¥Sony¥- Network VMSEvent Server¥logs¥</i>にあるイベントサーバーログを確認してください。</p>
予期しないエラーが発生しました	Sony サポートにお問い合わせください。

ハードウェア入力イベント

ハードウェア入力イベントを追加 『102ページ の"ハードウェア入力イベントの追加"参照』する場合、プロパティは選択した入力のタイプに依存する場合があります。

有効	選択したタイプの入力をシステムでイベントとして使用し、さらにプロパティを指定するには、このチェックボックスを選択します。
イベント名	<p>名前を指定します。名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []</p> <p>一部のカメラは、特定の長さおよび特定の構造のイベント名しかサポートしていません。詳細はカメラのマニュアルを参照してください。</p>
カメラからの画像	<p>システムでアラーム前後の画像を使用する場合のみ関係します。この機能は、選択したカメラでのみ使用可能であり、イベント発生の直前の画像をカメラから E メールで監視システムへ送信することができるようになります。</p> <p>アラーム前後の画像は、使用しているシステムに固有のプリレコーディングおよびポストレコーディングの機能 『86ページ の"記録"参照』と混同しないように注意してください。</p>
プリアラーム画像の数	<p>プリアラーム画像の必要数を指定します。許可された画像数は、カメラによって異なる場合があります。許可された範囲は、フィールドの右に表示されます。</p> <p>選択したカメラでのみ使用可能な機能であるプレアラーム画像を使用している場合のみ、これが該当します。</p>
1 秒当りのフレーム	プリアラーム画像を使用する場合にのみ関係します。プリアラーム画像は、選択したカメラでのみ使用可能な機能です。必要なフレームレートを指定します。このフィールドは、プリアラーム画像の数フィールドと組み合わせて使用し、イベントのどの程度前の期間からプリアラーム画像を受け取るかをコントロールできます。
このイベントが発生すると、E メールを送信します	E メール通知 『131ページ の"E メール通知の設定"参照』が有効である場合のみ使用可能です。イベントが発生したときにシステムによってメールを自動的に送信する必要がある場合に選択します。受信者は、E メール通知の設定の一部として定義します。E メール通知を使用する場合、個々のカメラのスケジュールを忘れないでください。

カメラからの画像を添付します	E メール通知 『131ページ の"E メール通知の設定"参照 』が有効な場合にだけ使用できます。選択すると、イベントがトリガされた時に録画された画像が E メール通知に含められます。次に、チェックボックスの横にあるリストで関連するカメラを選択します。
削除	選択したイベントを削除します。
追加	特定のハードウェア入力イベントを選択している場合、追加をクリックすると、選択したハードウェア入力イベントにタイマーイベントが追加『105ページ の"タイマーイベントの追加"参照 』されます。
イベント発生時、SMS を送信する	<p>イベントが発生したときにシステムによって SMS を自動的に送信する必要がある場合に、選択します。SMS 通知の受信者を、SMS 通知設定の一部として定義します。SMS 通知を使用する場合、個々のカメラのスケジュールが設定されている必要があることを忘れないでください。</p> <p>設定を使用できるのは、SMS 通知が有効になっている場合だけです。</p>

ハードウェア出力

ハードウェア出力を追加 『103ページ の"ハードウェア出力の追加"参照 』する時は、以下のプロパティを指定します。

出力名	<p>名前を指定します。</p> <p>ハードウェア出力をクライアントでの手動起動で使用できるようにする場合、これがクライアントユーザーに表示される名前となります。</p> <p>名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []</p> <p>一部のカメラは、特定の長さおよび特定の構造のイベント名しかサポートしていません。正確な情報については、当該カメラのマニュアルを参照してください。</p>
出力接続先	ハードウェアデバイスのどの出力ポートに出力を接続するかを選択します。多くのハードウェアデバイスには出力ポートが 1 つしかありません。この場合は、 出力 1 を選択します。
出力維持時間	<p>出力を適用する時間の長さを指定します。必要な時間の長さを、1/10 秒単位または秒単位で指定します。</p> <p>一部のハードウェアデバイスは、たとえば最長で 5 秒などの比較的短い期間だけ、出力を適用することができます。正確な情報については、ハードウェアデバイスのマニュアルを参照してください。</p>

ハードウェア出力が機能していることを確認するには、**出力のテスト**ボタンをクリックします。

手動イベント

手動イベントを追加 『104ページ の"手動イベントの追加"参照』する場合、以下のプロパティを指定します。

【定義済みのグローバルイベントおよびカメラのリスト】	グローバルノードおよびすべての定義済みカメラのリストを含みます。必要に応じた数の手動イベントを設定できます。グローバルイベントであるか、カメラ固有であるかは問いません。グローバルノードの横に「+」記号がある場合、1 つまたは複数のグローバル手動イベントが既に設定済みであることを意味します。カメラの横に「+」記号がある場合、そのカメラに対して、1 つまたは複数の手動イベントが既に設定済みであることを意味します。
イベント名	名前を指定します。名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? [] 一部のカメラは、特定の長さおよび特定の構造のイベント名しかサポートしていません。詳細はカメラのマニュアルを参照してください。
このイベントが発生すると、E メールを送信します	E メール通知 『131ページ の"E メール通知の設定"参照』が有効である場合のみ使用可能です。イベントが発生したときにシステムによってメールを自動的に送信する必要がある場合に選択します。受信者は、E メール通知の設定の一部として定義します。E メール通知を使用する場合、個々のカメラのスケジュールを忘れないでください。
カメラからの画像を添付します	E メール通知 『131ページ の"E メール通知の設定"参照』が有効な場合にだけ使用できます。選択すると、イベントがトリガされた時に録画された画像が E メール通知に含められます。次に、チェックボックスの横にあるリストで関連するカメラを選択します。
削除	選択したイベントを削除します。
追加	新規イベントを追加します。グローバルまたは特定のカメラが選択されている場合、 追加 をクリックして、新しい手動イベントを追加します。特定の手動イベントが選択されている場合、 追加 をクリックすると、選択した手動イベントにタイマーイベントが追加 『105ページ の"タイマーイベントの追加"参照』されます。
イベント発生時、SMS を送信する	イベントが発生したときにシステムによって SMS を自動的に送信する必要がある場合に、選択します。SMS 通知の受信者を、SMS 通知設定の一部として定義します。SMS 通知を使用する場合、個々のカメラのスケジュールが設定されている必要があることを忘れないでください。 設定を使用できるのは、SMS 通知が有効になっている場合だけです。

タイマーイベント

タイマーイベントを追加 『105ページ の"タイマーイベントの追加"参照』する場合、以下のプロパティを指定します。

タイマーイベント名	<p>名前を指定します。名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []</p> <p>一部のカメラは、特定の長さおよび特定の構造のイベント名しかサポートしていません。詳細はカメラのマニュアルを参照してください。</p>
タイマーイベント発生前	<p>メインイベントの発生からタイマーイベントまでに経過する必要がある時間の長さ（秒または分単位）を指定します。</p>

ジェネリックイベント

ジェネリックイベントを追加 『107ページ の"ジェネリックイベントのテスト"参照』する場合、以下のプロパティを指定します。

イベント名	<p>名前を指定します。名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []</p> <p>一部のカメラは、特定の長さおよび特定の構造のイベント名しかサポートしていません。詳細はカメラのマニュアルを参照してください。</p>
イベントポート	<p>読み取り専用のフィールドで、システムがジェネリックイベントを受信待ちするポート番号を表示します（デフォルトはポート 1234）。ポート番号は、一般的なイベント処理の設定 『105ページ』の一部として変更できます。</p>
イベントの部分列	<p>データパッケージを分析する際に、システムで探す個々の項目を指定することができます。1 つまたは複数の語を指定してから、追加ボタンをクリックして、指定した語をイベントメッセージの表現フィールドに追加すると、その内容が実際の分析で使用されます。例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 単一の語： User001（イベントメッセージの表現フィールドに追加すると、この語は「User001」と表示されます） ● 複数の語を 1 つのアイテムとして： User001 Door053 Sunday（イベントメッセージの表現フィールドに追加すると、この語は「User001 Door053 Sunday」と表示されます） <p>複数の語を 1 つのアイテムとして追加すると（例：イベントメッセージの表現フィールドでは「User001 Door053 Sunday」と表示）、引用符の間のすべてが、指定された順番でパッケージに表示され、条件との一致がチェックされます。語をパッケージとして表示する必要がある場合、それぞれを 1 つずつ追加します（つまり、イベントメッセージの表現フィールドでは「User001」「Door053」「Sunday」と表示されます）。</p> <p>ジェネリックイベントに使用する TCP および UDP パッケージには、分析する文字列で@、#、+、å、~等の特殊文字を使用することができます。</p>

イベントメッセージの表現	<p>実際のパッケージ分析で使用する文字列を表示します。このフィールドは、直接編集することはできません。ただし、追加ボタン、括弧、あるいは以下で説明するオペレータボタンをクリックする時に、カーソルをフィールド内に配置することで、新しいアイテムを含める場所を指定することができます。同様に、カーソルをフィールド内に配置することで、削除ボタンをクリックした時に、削除されるアイテムの場所を決めることもできます。削除ボタンをクリックすると、カーソルのすぐ左にあるアイテムが削除されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> （： 開始括弧文字をイベントメッセージの表現フィールドに追加することができます。括弧は、関連用語が論理単位として同時に処理されるようにする際に使用します。つまり、分析で特定の処理順序を強制するために使用します。例：("User001" OR "Door053") AND "Sunday" を使用すると、括弧内の 2 つの用語が先に処理され、その結果が文字列の最後の部分と結合されます。つまり、システムはまず「User001」または「Door053」という用語を含むパッケージを参照し、その後に結果を取得し、「Sunday」という用語を含むパッケージを検索します。 ）： 終了括弧文字をイベントメッセージの表現フィールドに追加することができます。 AND： AND 演算子をイベントメッセージの表現フィールドに追加することができます。AND 演算子により、AND 演算子の両側の用語が存在する必要があることを指定します。例：User001 AND Door053 AND Sunday を使用する場合、条件が満たされるためには、用語 User001 ならびに用語 Door053 ならびに用語 Sunday が存在しなければなりません。用語のいずれかまたは 2 つが存在するだけでは足りません。経験的に、AND で用語を結合すればするほど、復元結果は少なくなります。 OR： OR 演算子をイベントメッセージの表現フィールドに追加することができます。OR 演算子により、いずれか 1 つの語句が存在する必要があることを指定します。例：User001 OR Door053 OR Sunday を使用する場合、条件が満たされるためには、用語 User001 または用語 Door053 または用語 Sunday が存在しなければなりません。いずれか 1 つの用語が存在すれば基準を満たします。一般原則として、OR で用語を結合すればするほど、取得される結果は多くなります。 削除： イベントメッセージの表現フィールドに配置したカーソルのすぐ左にあるアイテムを削除することができます。カーソルをイベントメッセージの表現フィールドに配置していなければ、フィールドにある最後のアイテムが削除されます。
イベントの優先度	<p>同じデータパッケージが異なるイベントで分析される場合があります。各イベントに優先度を割り当てる機能により、受信したパッケージが複数のイベントの基準に一致したときに、どのイベントをトリガするか管理することができます。0（最低優先度）～1000（最高優先度）の数値によって優先度を指定してください。システムが TCP および UDP パッケージを受信した場合、そのパケットの分析が、最高優先度のイベントで開始されます。これにより、パッケージが複数のイベントの基準と一致する場合、最高優先度のイベントのみがトリガされます。パッケージが同じ優先度で複数のイベントの基準と一致した場合、たとえば、優先度 999 のイベントが 2 つある場合、その優先度のすべてのイベントがトリガされます。</p>

イベントプロトコル	<p>イベントを検知するために、システムが受信待ちしなければならないプロトコルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべて： TCP ならびに UDP のプロトコルを使用しているパッケージを受信待ち/分析します。 • TCP： TCP プロトコルだけを使用しているパッケージを受信待ち/分析します。 • UDP： UDP プロトコルだけを使用しているパッケージを受信待ち/分析します。
イベントルールタイプ	<p>受信したデータパッケージを分析する時に、システムがあるべき特定の状態を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 検索： イベントを発生させるには、受信したパッケージに、イベントメッセージの表現フィールドで指定したメッセージが含まれていなければなりません、他の内容も含まれている可能性があります。 例： 受信したパッケージに「User001」および「Door053」が含まれるよう指定すると、受信したパッケージに語句「User001」および「Door053」および「Sunday」が含まれる場合、受信したパッケージに 2 つの必要な語句が含まれるため、イベントがトリガされます。 • 一致： イベントを発生させるには、受信したパッケージに、イベントメッセージの表現フィールドで指定したメッセージが正確に含まれていなくてはならず、他の内容が含まれてはいけません。
このイベントが発生すると、E メールを送信します	<p>E メール通知 『131ページ の"E メール通知の設定"参照』が有効である場合のみ使用可能です。イベントが発生したときにシステムによってメールを自動的に送信する必要がある場合に選択します。受信者は、E メール通知の設定の一部として定義します。E メール通知を使用する場合、個々のカメラのスケジュールを忘れないでください。</p>
カメラからの画像を添付します	<p>E メール通知 『131ページ の"E メール通知の設定"参照』が有効な場合にだけ使用できます。選択すると、イベントがトリガされた時に録画された画像が E メール通知に含められます。次に、チェックボックスの横にあるリストで関連するカメラを選択します。</p>
イベント発生時、SMS を送信する	<p>イベントが発生したときにシステムによって SMS を自動的に送信する必要がある場合に、選択します。SMS 通知の受信者を、SMS 通知設定の一部として定義します。SMS 通知を使用する場合、個々のカメラのスケジュールが設定されている必要があることを忘れないでください。</p> <p>設定を使用できるのは、SMS 通知が有効になっている場合だけです。</p>
削除	<p>選択したイベントを削除します。</p>
追加	<p>新規イベントを追加します。ジェネリックイベントノードを選択中に追加をクリックすると、新しいジェネリックイベントが追加されます。特定のジェネリックイベントが選択されている場合、追加をクリックすると、選択したジェネリックイベントにタイマーイベントが追加 『105ページ の"タイマーイベントの追加"参照』されます。</p>

イベントでの出力コントロール（イベントおよび出力固有のプロパティ）

イベントでの出力コントロールを追加『105ページ の"イベントでのハードウェア出力の設定"参照』する場合、以下のプロパティを指定します。

イベント	必要なイベントを選択します。
出力	関連する出力イベントを選択します。

スケジュールおよびアーカイブ

スケジュールについて

スケジュール機能により、以下を指定できます。

- アーカイブを実行する時
- 一部のカメラから、常にシステムにビデオを転送する
- 一部のカメラから、特定の期間だけ、あるいは特定のイベントが発生した場合にだけビデオを転送する
- システムから通知を受信するタイミング

すべてのカメラに対して、一般的なスケジュールプロパティをセットアップしたり、カメラごとに個別のプロパティをセットアップしたりすることも可能です。セットアップできる場合：

- 1 台または複数のカメラがオンラインであり、システムにビデオを転送する必要があります。
- 1 台または複数のカメラがスピードアップを使用していて、そのカメラが通常より高いフレームレートを使用している必要があります。
- 1 台または複数のカメラに関する通知を受信する場合
- アーカイブが発生した場合
- PTZ カメラは、パトロール設定に従って、パトロールを行う必要があります。

アーカイブについて

アーカイブは、統合された自動機能であり、この機能によって録画を移動し、新しい録画容量が確保できます。デフォルトでは、録画はそれぞれのカメラのデータベースに保存されます。それぞれのカメラのデータベースは、最大で 600,000 レコードまたは 40 GB を保持することができます。カメラのデータベースが満杯になると、システムは自動的に録画をアーカイブします。したがって、十分にアーカイブできる容量があることが重要です。

アーカイブを有効にするための特別な操作は必要ありません。アーカイブはバックグラウンドで実行され、システムがインストールされた瞬間から自動的に有効になり、実行されます。保存処理中にネットワーク関連の問題が生じるのを防ぐため、最新の録画はローカルストレージに保存されます。

システムのデフォルト設定では、1 日に 1 回またはデータベースが満杯になった時にアーカイブを行います。Management Application で、アーカイブがいつ、どれくらいの頻度で発生するかの設定を変更できます。また、

アーカイブを最大で 1 日に 24 回まで、最低でも 1 時間の間隔でスケジュールすることもできます。こうすることで、データベースが満杯になる前に録画をアーカイブできます。大量の録画が予想される場合ほど、頻繁にアーカイブする必要があります。

また、個々のカメラのプロパティで、保持時間、すなわちカメラからの録画（カメラのデータベースにある録画ならびにアーカイブされた録画）を保持しておく時間を変更することも可能です。

カメラのデータベースが満杯になると、システムは自動的に録画をアーカイブします。一般的な**録画およびアーカイブ**パスのプロパティの一部として、**1 つ**の時間制限（保持時間）を指定するだけです。保持時間によって、いつアーカイブが発生するかが決まることに注意してください。保持時間は、カメラからの録画（つまり、カメラのデータベースにある録画ならびにアーカイブされている録画）を保持しておく合計時間です。

アーカイブのバックアップ

Sony では、共有違反やその他の誤動作の原因となることがあるため、カメラのデータベースの内容に基づいてバックアップを作成することは推奨していません。あるいは、アーカイブの内容に基づいてバックアップを作成します。個々のカメラに個々のアーカイブ場所を指定していない場合は、デフォルトのローカルアーカイブディレクトリである、**アーカイブ**にバックアップされます。

重要：バックアップをスケジュールする際は、バックアップジョブのアーカイブ時間が決して重複しないように注意してください。

アーカイブが失敗する場合

まれなケースとして、たとえばネットワークの問題によって、アーカイブが失敗することもあります。ただし、これはシステムに脅威とはなりません。システムは、新しいデータベースを作成し、この新しいデータベースでアーカイブを続行できるからです。他のデータベースの場合と同様に、この新しいデータベースと古いデータベースの両方を操作し、表示することができます。

アーカイブの場所について

デフォルトアーカイブフォルダ『175ページ の"デフォルトのファイルパス"参照 』（C:¥MediaDatabase）は、システムサーバーにあります。デフォルトアーカイブフォルダをローカルの別の場所に変更したり。アーカイブフォルダでは、それぞれのカメラのアーカイブを保存するための別個のサブフォルダが自動的に作成されます。これらのサブフォルダは、カメラが接続されるハードウェアデバイスの MAC アドレスに基づいて名前が付けられます。

複数日に渡る録画のアーカイブを保持したり、アーカイブが 1 日に数回発生することもあるため、アーカイブの日付と時刻を含む名前を付けられたサブフォルダも自動的に作成されます。

サブフォルダは、以下の構成により名前が付けられます。

...¥Archives¥CameraMACAddress_VideoEncoderChannel¥DateAndTime

ビデオエンコーダーに複数のチャンネルがない場合は、ビデオエンコーダーチャンネルは常に「_1」になります（例：00408c51e181_1）。

例：MAC アドレスが 00408c51e181 であるカメラのチャンネル 2 に関する、2012 年 12 月 31 日の 23:15 のアーカイブの保存名：

C:¥MediaDatabase¥Archives¥00408c51e181_2¥2012-12-31-23-15

ダイナミックアーカイブパスについて

ダイナミックアーカイブパスでは、通常は複数のドライブに渡る、複数の異なるアーカイブパスを指定します。Sony では、ビデオの録画設定ウィザードでカメラを設定する場合のデフォルト設定でもある、ダイナミックパス『43ページ の"ストレージの設定ウィザード"参照 』を使用することを推奨しています。

ダイナミックアーカイブ用に選択したドライブのいずれかにカメラの録画パスが含まれている場合、システムは常にまずそのドライブにアーカイブしようと試みます。そうでない場合、カメラデータベースがそのドライブを使用していない限り、システムは自動的にその時点で最も使用可能な容量が大きいアーカイブドライブにアーカイブします。

使用可能な容量が最も大きいドライブはアーカイブプロセス中も変化するので、同一プロセスで複数のアーカイブドライブに対してアーカイブされることもあります。これにより、アーカイブされた録画をユーザーが検索し、再生する方法には影響を与えません。

ダイナミックアーカイブパスは一般にすべてのカメラに適用されます。個別のカメラ用にダイナミックアーカイブパスを設定することはできません。

ダイナミックアーカイブでどのドライブを使用するかを決定する場合、以下の例の良い点と悪い点を考慮してください（デフォルトアーカイブパスはドライブ C: ですが、ドライブ文字はあくまでも一例であり、別のドライブ文字を指定することも可能です）。

- **カメラがドライブ C: に録画し、ドライブ C: にアーカイブする場合**

ダイナミックアーカイブ用に選択したドライブのいずれかにカメラの録画パスが含まれている場合、システムはまずそのドライブにアーカイブしようと試みます。アーカイブは迅速に行われますが、ドライブがデータで満杯になるのも早くなります。

- **カメラがドライブ C: に録画し、ドライブ D: にアーカイブする場合：**

録画とアーカイブは、別のドライブになります。アーカイブは、それほど迅速には行われません。システムは、まず一時的に C: ドライブにあるローカルデフォルトアーカイブディレクトリにアーカイブを保存し、その後すぐにアーカイブを D: ドライブにあるアーカイブ場所に移動させます。したがって、C: ドライブには、一時的アーカイブに対応できる十分な容量が必要です。

- **カメラ 1 がドライブ C: に録画し、ドライブ D: にアーカイブする場合：一方、カメラ 2 はドライブ D: に録画し、ドライブ C: にアーカイブする場合**

このパターンは避けてください。あるカメラのアーカイブが、他のカメラの録画に必要な容量を奪ってしまう可能性があります。上記の例では、カメラ 1 のドライブ D: へのアーカイブによって、ドライブ D: にはカメラ 2 の録画容量が無くなる可能性があります。ルールは、「録画およびアーカイブのドライブを交差させない」ということになります。

複数の監視サーバーをマスター/スレーブの設定で使用する場合、アーカイブが機能するために、それぞれの監視サーバーは独自に割り当てられた場所にアーカイブする必要があります。すべてのサーバーが同じマップ場所にアーカイブしようとすると、アーカイブは失敗します。

音声のアーカイブについて

ハードウェアデバイスで音声ソース（例、マイク）が有効になっている場合、音声録音は、ハードウェアデバイスに取り付けられたカメラからのビデオ録画と共にアーカイブされます。ハードウェアデバイスが、複数のチャンネルを持つビデオエンコーダーである場合、音声はチャンネル 1 のカメラと共にアーカイブされます。音声ソースが有効になっている場合、システムは関連するカメラのデータベースに音声を録音します。これは、データベースがビデオを保存できる容量に影響します。したがって、音声とビデオを記録する際は、ビデオだけを録画する場合より頻繁にアーカイブをスケジュールする必要があります。

アーカイブに必要なストレージ容量

アーカイブに必要なストレージ容量は、保存する予定の録画の容量と、どれだけの期間保存するか（保持時間）に完全に依存します。一部の組織では、多数のカメラからのアーカイブ録画を数か月または数年に渡って保存する必要があります。他の組織では、1 台または 2 台のカメラからの録画のアーカイブだけが必要であり、保存したい期間もより短い場合があります。

直後に他のドライブにあるアーカイブ場所に移動される場合にも、まずはアーカイブされた録画が必ず移動されるデフォルトアーカイブディレクトリを含んでいるローカルドライブの保存容量を常に検討する必要があります。基本的には、ローカルドライブの容量は、少なくともすべてのカメラのデータベースを保存するのに必要な容量の2倍が必要になります。

アーカイブする場合、システムは、アーカイブするデータに必要な容量に1 GBを加えた空きディスク容量がカメラのアーカイブ場所にあるか自動的にチェックします。それだけの空き容量がない場合、アーカイブする新しいデータに十分な空き容量が得られるまで、アーカイブの場所で、関連するカメラの最も古いデータが削除されます。

アーカイブに必要なストレージ容量を推定する場合、まず組織のニーズを考慮し、次にベストケースではなくワーストケースのシナリオを想定するようにしてください。

アーカイブスケジュールについて

アーカイブスケジュールを設定する方法には、次の2種類があります。

- ビデオおよび録画の設定ウィザード『43ページ の"ストレージの設定ウィザード"参照』でカメラを設定する場合、アーカイブスケジュールはウィザードの**ドライブ選択**ページで設定します。
- 一般的なスケジュールおよびアーカイブのプロパティの一部として、**詳細設定**を展開し、**スケジュールおよびアーカイブ**を右クリックして、**プロパティ**を選択します。ダイアログで**アーカイブ**を選択して、関連するプロパティ『124ページ の"アーカイブ"参照』を指定します。

ディスク空き容量が不足した場合の自動応答

アーカイブ中にシステムのディスク空き容量が不足した場合のために、自動応答をセットアップできます。カメラのデータベースドライブがアーカイブドライブとは異なる場合と、同じ場合によって、次の2つのシナリオが発生します。

同じドライブである場合：ドライブのディスク空き容量がなくなった場合、アーカイブを自動的に移動または削除

システムサーバーのディスク空き容量が不足し、アーカイブドライブがカメラのデータベースドライブと同一である場合、システムは自動的に空き容量を作るための試行を数回行います。こうした試行の大半では、アーカイブまたはデータベースからデータが失われます。

- まず、システムはアーカイブを移動させようとします。複数の異なるドライブにアーカイブできる、ダイナミックアーカイブを使用している場合にのみ、アーカイブを移動できます。これが発生するのは、以下の場合です。
 - 空きディスク容量が15%を下回っており、使用可能なディスク容量が40 GB + カメラ1台につき2 GBを下回っている。
- または -
- 使用可能なディスク容量が225 MB + カメラ1台につき30 MBを下回っている。例：10台のカメラで、使用可能なディスク容量が525 MB(225 MB + 10台のカメラのそれぞれで30 MB)を下回ると、サーバーの空きディスク容量が不足します。

この差によって、単に残りのディスク容量が15%未満となるので、非常に大きなディスクではディスク容量の不足を考える必要はありません。

- システムによりアーカイブを移動できない場合、最も古いアーカイブを削除しようとします。これが発生するのは、以下の場合です。

- 空きディスク容量が 10%を下回っており、使用可能なディスク容量が 30 GB + カメラ 1 台につき 1.5 GB を下回っている。

- または -

- 使用可能なディスク容量が 150 MB + カメラ 1 台につき 20 MB を下回っている（例：10 台のカメラで、使用可能なディスク容量が 350 MB (150 MB + 10 台のカメラのそれぞれで 20 MB) を下回ると、サーバーの空きディスク容量が不足します。

この差によって、単に残りのディスク容量が 10%未満となるので、非常に大きなディスクではディスク容量の不足を考える必要はありません。

- 削除できるアーカイブがない場合、システムは最も古い録画を削除してカメラのデータベースのサイズを変更しようとします。これが発生するのは、以下の場合です。
 - 空きディスク容量が 5%を下回っており、使用可能なディスク容量が 20 GB + カメラ 1 台につき 1 GB を下回っている。

- または -

- 使用可能なディスク容量が 75 MB + カメラ 1 台につき 10 MB を下回っている（例：10 台のカメラで、使用可能なディスク容量が 175 MB (75 MB + 10 台のカメラのそれぞれで 10 MB) を下回ると、サーバーの空きディスク容量が不足します。

この差によって、単に残りのディスク容量が 5%未満となるので、非常に大きなディスクではディスク容量の不足を考える必要はありません。

データベースのサイズを変更した後、システムがレコーディングサーバーを再起動した場合、ドライブのサイズの問題が解消されていることを確認するか、カメラのデータベースのサイズを調整して、変更されたドライブサイズを反映するようにしてください。

システムがデータベースのサイズ変更手順を実行すると、Network Video Management System Smart Client の画面、ログファイルに情報が表示されます。あるいは通知（セットアップされている場合）が送られます。

異なるドライブ：自動アーカイブ：データベースドライブのディスク容量が不足した場合。

システムサーバーのディスク容量が不足しており、アーカイブドライブがカメラのデータベースドライブと異なっており、過去 1 時間以内にアーカイブが行われていない場合、アーカイブは自動的にディスクの空き容量を開放しようとします。これは、アーカイブスケジュールに関わらず行われます。以下の場合、サーバーのディスクの空き容量が不足していると考えられます。

- 空きディスク容量が 10%を下回っており、使用可能なディスク容量が 30 GB + カメラ 1 台につき 1.5 GB を下回っている。
- 使用可能なディスク容量が 150 MB + カメラ 1 台につき 20 MB を下回っている。例：10 台のカメラで、使用可能なディスク容量が 350 MB (150 MB + 10 台のカメラのそれぞれで 20 MB) を下回ると、サーバーの空きディスク容量が不足します。

この差によって、単に残りのディスク容量が 10%未満となるので、非常に大きなディスクではディスク容量の不足を考える必要はありません。

アーカイブドライブで、システムは、カメラからのデータをアーカイブするのに必要な容量に、カメラ当たり 1 GB を加えた空きディスク容量があるかチェックします。それだけの空き容量がない場合、アーカイブする新しいデータに十分な空き容量が得られるまで、アーカイブドライブで、関連するカメラの最も古いデータが削除されます。

アーカイブされた録画の再生について

アーカイブされた録画は、Network Video Management System Smart Client で再生できます。たとえば、アーカイブされた録画に対してエクスポートやブラウズを行うことができます。

ローカルのドライブに保存されているアーカイブされた録画に対して、Network Video Management System Smart Client の再生機能を使用して、カメラの通常のデータベースに保存されている録画と同様に、関連する録画を検索や再生することができます。また、Network Video Management System Smart Client で、エクスポートされたアーカイブや、ローカルドライブ以外に保存されているアーカイブを使用することもできます。詳細については、マニュアルとガイドをダウンロードする Sony Web サイト <http://www.sony.net/CameraSystem/NVMS/Manuals> にある Network Video Management System Smart Client ドキュメントを参照してください。

一般的なスケジュールおよびアーカイブの設定

一般的なスケジュールおよびアーカイブを設定するには、次の手順を実行してください。

1. **詳細設定**を展開し、**スケジュールおよびアーカイブ > プロパティ**を右クリックします。
2. すべてのカメラのスケジュール 『122ページ』、スケジュールオプション 『124ページ』、アーカイブ 『124ページ』で必要なプロパティを指定します。
3. システムには、2つの基本スケジュールプロファイル（常にオンと常にオフ）があり、これらを編集または削除することはできません。これらが組織のニーズに合わない場合、それぞれのカメラに対してカスタマイズされたスケジュールプロファイルを複数作成できます。カスタマイズされたスケジュールプロファイルは、必要に応じて複数の目的で再利用できます。
4. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

アーカイブ時には、カメラのデータベースやアーカイブ場所でのウイルススキャン 『13ページ』の"ウイルススキャンについて"参照』を無効にしてください。




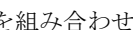



一般的なスケジュールのプロパティ

すべてのカメラのスケジュール

一般的なスケジュールおよびアーカイブ 『122ページ』の"一般的なスケジュールおよびアーカイブの設定"参照』を設定する場合、多くのカメラに対して一定のプロパティを同時に指定することができます。操作を迅速に行いたい場合や、対象となるプロパティが、個別のカメラではなく、すべてのカメラで共有されている場合が該当します。

オンライン期間、スピードアップ、通知（EメールおよびSMS）、PTZパトロールなどのプロパティは、それぞれのカメラに対して個別に指定することができます。

テンプレート	<p>複数のカメラがシステムに接続していると、テンプレートでカメラの類似したプロパティを設定し、設定を変更する時間を短縮できます。</p> <p>例：たとえば、カメラが 20 台あり、録画パス、アーカイブパス、およびそれらすべての保持期間を変更するとします。使用する設定を 1 回入力し、テンプレートを 20 台のカメラに適用し、すべてのカメラに同じ設定があることを確認します。</p>
テンプレートを適用	<p>どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2つの設定ボタンのいずれかを使用して、テンプレートに適用します。</p>

カメラ	Management Application およびクライアントで表示される名前です。
オンライン	<p>関連するカメラのオンラインスケジュール 『64ページ の"特定カメラスケジュールの構成"参照 』に必要なプロファイル（例：常にオン）を選択します。</p> <p>以下に基づいてスケジュールを作成して、カメラのオンライン期間を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 期間(例:月曜日の 08:30 から 17:45 まで)、ピンク色で表示:  期間内のイベント（例：イベント A の発生からイベント B の発生まで、月曜日の 08:30 から 17:45 まで）、黄色で表示：  <p>2つのオプション   を組み合わせることができますが、時間で重複することはできません。</p>
E メール	<p>対象となるカメラの E メール通知スケジュールに必要なプロファイルを選択します。</p> <p>期間に基づいてスケジュールプロファイルを作成することで、カメラの E メール通知の期間を指定します。</p> <p>例：月曜日の 08:30 から 17:45 まで、青色で表示： </p>
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレート を 適用 列にあるすべてのカメラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレート を 適用 列にあるすべてのカメラの選択を解除します。
選択したカメラで、選択したテンプレートの値を設定する	テンプレートから選択した値だけを、選択したカメラに適用します。
新規スケジュールプロファイル	作成... ボタンをクリックして、任意のタイプの新しいスケジュールプロファイルを作成します。
SMS	<p>対象となるカメラの SMS 通知スケジュールに必要なプロファイルを選択します。</p> <p>期間に基づいてスケジュールプロファイルを作成することで、カメラの SMS 通知期間を指定します。</p> <p>例：月曜日の 08:30 から 17:45 まで、緑色で表示： </p>
PTZ パトロール	<p>PTZ カメラのパトロールは、複数のプリセット位置の間での PTZ カメラの連続的な動きでのみ使用可能です。</p> <p>対象となるカメラの PTZ パトロールスケジュール 『126ページ の"PTZ パトロール"参照 』に必要なプロファイルを選択します。</p> <p>特定の期間内でのパトロールプロファイルに基づいて、カメラのパトロールスケジュールを指定します（例：月曜日の 08:30 から 17:45 まで）、赤色で表示： </p>

スケジュールオプション

一般的なスケジュールおよびアーカイブ『122ページ の"一般的なスケジュールおよびアーカイブの設定"参照』を設定する場合、多くのカメラに対して一定のプロパティを同時に指定することができます。スケジュールオプションを使用するのは、プロパティがすべてのカメラによって共有されているためです。

クライアント要求時のカメラ起動	<p>たとえば、オンライン録画スケジュール『125ページ の"オンライン期間"参照』の終了日時に達したなどの理由でカメラがオフラインになっている場合、クライアントユーザーはカメラからのライブビデオを表示することができません。</p> <p>クライアント要求時のカメラ起動を選択すると、クライアントユーザーは、オンラインスケジュール外でも、録画することなくカメラからのライブビデオを表示することができます。技術的には、オンラインスケジュール外で、カメラを強制的にオンラインにします。</p> <p>カメラの起動と連動して録画も開始したい場合は、クライアントからの要求で開始した際に録画を有効にするを選択する必要があります（以下を参照）。</p>
クライアントからの要求で開始した際に録画を有効にする	<p>クライアントからの要求によるカメラ起動を選択している場合に、カメラ起動時の録画連動を有効化できます（前項目を参照）。</p> <p>手動録画の権限『144ページ の"カメラアクセス"参照』を持たないユーザーの場合、クライアントからの要求で開始した際に録画を有効にするを有効化しても、そのユーザーによる手動録画を行うことができません。</p>
新規カメラのスケジュールプロファイル	<p>後でシステムに追加するカメラをデフォルトとして使用するオンラインスケジュールプロファイルを選択します。この選択が適用されるのはオンラインスケジュールだけであり、他のスケジュールには適用されないことに注意してください。デフォルトの選択は、常にオンです。つまり、新しいカメラは常にオンラインであり、ライブ表示やその他の処理のためにビデオをシステムのサーバーに転送します。</p>
再接続試行間の最大遅延	<p>再接続試行の積極性を調整します。システムがカメラへの接続を失うと、デフォルトでは、10 秒後に接続の再確立を試行します。</p> <p>ワイヤレス接続で車載カメラを使用している場合など、一部の環境ではカメラの接続が頻繁に失われる可能性があるため、再試行の試みの積極性を変更することを検討してください。</p>

オンライン録画スケジュール設定がない場合でも、ライブ映像を見たり、ビデオの録画を開始したりすることもできます。これを行うには、クライアント要求時のカメラ起動を選択し、必要に応じて、該当のカメラでスケジュールプロパティをセットアップする際に、以下のクライアントからの要求で開始した際に録画を有効にするオプションを選択します。

アーカイブ





システムがアーカイブするタイミングとエラー時にシステムが応答する方法を制御するには、次の設定を調整します。カメラのデータベースが満杯になると、システムは自動的に録画をアーカイブ『117ページ の"アーカイブについて"参照』します。

アーカイブ時刻	システムで自動的に録画をアーカイブパスへ移動させる時刻を指定します。1 日に最大で 24 件のアーカイブ時刻を指定できますが、最低でも 1 時間の間隔が必要です。時間、分、秒の値を選択してから、 上 および 下 ボタンをクリックして値を増減させるか、単に選択した値に上書きして、 追加 をクリックします。大量の録画が予想される場合ほど、頻繁にアーカイブする必要があります。
アーカイブ障害時に E メールを送信	これを選択した場合、アーカイブが失敗すると、システムは、選択した受信者に自動的に E メールを送信します。E メール通知機能も有効にする必要があります。受信者は、E メール通知のプロパティ 『131ページ の"Eメール (プロパティ)"参照』の一部として定義します。
アーカイブ障害時に SMS を送信	アーカイブが失敗した場合に、SMS を自動送信する必要があるらば選択します。SMS 通知の受信者を、SMS 通知設定の一部として定義します。 設定を使用できるのは、SMS 通知が有効になっている場合だけです。
イベントでのアーカイブ	選択すると、特定のイベントが発生したときに、システムによってアーカイブが開始されます。リストからイベントを選択します。

カメラ固有のスケジュールプロパティ

オンライン期間

特定のカメラのスケジュール 『64ページ の"特定カメラスケジュールの構成"参照』を設定する際に、次の項目を指定することができます。

オンライン	<p>関連するカメラのオンラインスケジュール 『64ページ の"特定カメラスケジュールの構成"参照』に必要なプロファイル（例：常にオン）を選択します。</p> <p>以下に基づいてスケジュールを作成して、カメラのオンライン期間を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 期間(例:月曜日の 08:30 から 17:45 まで)、ピンク色で表示: 期間内のイベント（例：イベント A の発生からイベント B の発生まで、月曜日の 08:30 から 17:45 まで）、黄色で表示：  <p>2つのイベントを組み合わせることは可能ですが、時間を重複することはできません。</p>
-------	---

ほとんどのユーザーにとって、**オンライン期間**設定は最も重要なスケジュール設定であると考えられます。スケジュール設定は、カメラがビデオをシステムに転送するタイミングを決定するためです。


デフォルトでは、システムに追加されたカメラは自動的にオンラインになるので、特定の時刻やイベントに際してのみカメラをオンラインにしたい場合にだけ、オンライン期間の設定を変更します。後で追加されたカメラが自動的にオンラインにならない場合は、一般的なスケジュールオプション 『124ページ の"スケジュールオプション"参照』の一部として、このデフォルト設定を変更することができます。

カメラが使用しているシステムにビデオを転送する事実は、必ずしもカメラからビデオが録画されることを意味しません。個別に録画を設定します。ビデオと録画の設定 『62ページ の"ビデオや録画の設定について"参照』を参照してください。

オンライン録画スケジュール以外のカメラからライブ映像を見たり、録画ビデオを再生したりする場合は、クライアント要求時のカメラ起動 『124ページ の"スケジュールオプション"参照』を選択し、クライアントからの要求で開始した際に録画を有効にする 『124ページ の"スケジュールオプション"参照』オプションで、関連するカメラのスケジュールプロパティをセットアップします。

スピードアップ


特定の MJPEG カメラのスピードアップ期間を指定します。このタイプのスケジュールを定義できるようにするためには、スピードアップを有効 『76ページ の"フレームレート - MJPEG"参照』にする必要があります。

スピードアップ	期間に基づいてスケジュールプロファイルを作成することで、カメラのスピードアップの期間を指定します (例: 月曜日の 08:30 から 17:45 まで)、オリーブグリーン色で表示: 
---------	---

スピードアップはイベントに基づいて実行される場合もありますが、他で設定されている場合に限りです。フレームレート - MJPEG (一般的な録画およびストレージのプロパティ) 『76ページ の"フレームレート - MJPEG"参照』およびビデオ (カメラ固有のプロパティ) 『83ページ の"ビデオ"参照』を参照してください。

PTZ パトロール

パトロール 『95ページ の"PTZ パトロール (プロパティ) "参照』に対応している PTZ (パン/チルト/ズーム) カメラのスケジュール 『64ページ の"特定カメラスケジュールの構成"参照』を設定する場合、特定の時刻にどのパトロールプロファイルを使用するかを指定できます。このタイプのスケジュールを設定する前に、関連するカメラのパトロールを設定する必要があります。

PTZ パトロール	<p>PTZ パトロール機能がある PTZ カメラでのみ使用できます。</p> <p>対象となるカメラの PTZ パトロールスケジュール 『126ページ の"PTZ パトロール"参照』に必要なプロファイルを選択します。</p> <p>特定の期間内でのパトロールプロファイルに基づいて、カメラのパトロールスケジュールを指定します (例: 月曜日の 08:30 から 17:45 まで)、赤色で表示: </p>
-----------	--

使用するパトロールプロファイルのすぐ後に、別のパトロールプロファイルの使用。例: 日中のパトロールプロファイルが月曜日の 08:30 から 17:45 まで、その後に夜間のパトロールプロファイルが月曜日の 17:45 から 23:00 まで続けることもできます。使用する 2 つのパトロールプロファイル時間を重複することはできません。

他のタイプのスケジュールとは違って、PTZ パトロールのスケジュールプロファイルには、常にオンや常にオフなどの事前に決められたスケジュールプロファイルはありません。それぞれのカメラに対して、任意の数のカスタマイズされたスケジュールプロファイルを作成できます。あるカメラに対してカスタマイズされたスケジュールプロファイルを作成 『64ページ の"特定カメラスケジュールの構成"参照』すると、必要に応じて、それを他のカメラで使用する事も可能です。

ログ

ログについて

システムは、システム機能の活動を示すさまざまなログを生成します。このシステムでは、以下のタイプのログが使用できます。

名前	詳細
Management Application ログファイル	<p>Management Application の活動を表示する。システムは、Management Application を一日使用するたびに新しいログを作成します。</p> <p>このタイプのログは無効にはできません。Management Application ログファイルの名前は、AdminYYYYMMDD.log という構造になります。たとえば、Admin20091231.log などです。</p>
Recording Server サービスログファイル	<p>Recording Server サービスの活動を示します。このサービスを使用すると、1 日ごとに新しいログファイルが作成されます。</p> <p>このタイプのログは無効にはできません。Recording Server サービスログファイルの名前は、RecordingServerYYYYMMDD.log という構造になります。たとえば、RecordingServer20091231.log などです。</p>
Image Server サービスログファイル	<p>Image Server サービスの活動を示します。このサービスを使用すると、1 日ごとに新しいログファイルが作成されます。</p> <p>このタイプのログは無効にはできません。Image Server サービスログファイルの名前は、ISLog_YYYYMMDD.log という構造になります。たとえば、ISLog_20091231.log などです。</p>
Image Import サービスログファイル	<p>Image Import サービスの活動が示されます。このサービスはプリアラーム画像を取り込んだり、取り込んだ画像をカメラのデータベースに保存したりする際に使用されます。</p> <p>プリアラーム画像は、選択したカメラでのみ使用可能な機能です。イベントが発生する直前の画像を、カメラから監視システムへ E メールで送信することができます。このサービスを使用すると、1 日ごとに新しいログファイルが作成されます。</p> <p>このタイプのログは無効にはできません。Image Import サービスログファイルの名前は、ImageImportLog_YYYYMMDD.log という構造になります。たとえば、ImageImportLog20091231.log などです。</p>
イベントログファイル	<p>登録されているイベントの活動を示します。イベントが発生した日ごとに、新しいログファイルが作成されます。</p> <p>このタイプのログは無効にはできません。イベントログファイルを表示するには、Network Video Management System Smart Client (再生タブのアラートセクションを使用) を使用する必要があります。</p>
監査ログファイル	<p>Network Video Management System Smart Client ユーザーの活動を示します (監査ログが有効である場合)。</p> <p>監査ログが有効であれば、毎日クライアントユーザーが活動した日ごとに、新しいログが作成されます。監査ログファイルの名前は、_auditYYYYMMDD.log という構造になります。たとえば、_audit20091231.log などです。「_」は、監査ログが Image Server サービスによって生成された事実を示す接頭辞です。</p>

ログの場所

すべてのログファイルは、デフォルトでは、使用しているオペレーティングシステムで該当するすべてのユーザーフォルダに配置されます。デフォルトでは、7 日間保存されます。ログを設定する際に、ログファイルの場所や、ログを保存しておく日数を変更することができます。

ログの構造

システムによって生成されるログファイルの大半は、W3C 拡張ログファイル形式に準拠した共有構造を使用しています。それぞれのログファイルは、ヘッダーおよび複数のログ行で構成されます。

- ヘッダーには、ログ行に含まれている情報の概要が示されます。
- ログ行は、主に 2 つの部分で構成されます。ログ自身の情報ならびに暗号化部分です。暗号化部分は、復号化し、比較することによって、ログファイルが改ざんされていないことを確認できます。

ログの整合性チェック

Management Application ログファイル以外のすべてのログファイルは、24 時間ごとに整合性チェックを受けます。整合性チェックは、システムの Log Check サービスによって実行されます。整合性チェックの結果は、LogCheck_YYYYMMDD.log というファイル名構造のファイルに自動的に書きこまれます。たとえば、LogCheck_20091231.log などとなります。ログファイルと同様、ログチェックファイルも、デフォルトでは、使用しているオペレーティングシステムの該当する**すべてのユーザーフォルダ**に配置されます。

矛盾があると、ログチェックファイルに書かれたエラーメッセージの形式でレポートされます。

考えられるエラーメッセージ：

名前	詳細
ログの整合性情報が見つかりませんでした。ログの整合性は保証できません。	ログファイルの整合性をチェックできませんでした。
ログ情報が、整合性情報と一致しません。ログの整合性は保証できません。	ログファイルは存在しますが、予期される情報が含まれていません。ログの整合性は保証できません。
[ログファイル名] が見つかりません	ログファイルが存在しませんでした。
[ログファイル名] が空白です	ログファイルは存在しましたが、空白でした。
[ログファイル名] の最後の行が変更/削除されています	ログファイルの最後の行が、検証基準を満たしません。
[ログファイル名] の[#]行近辺に暗号化されたデータがありません	関連するログファイルの暗号化部分がありませんでした。
[ログファイル名] の[#]行近辺で不一致が見つかりました	ログファイルが、暗号化部分と一致しません。
[ログファイル名] のログファイルの先頭部分で不一致が見つかりました	ログファイルのヘッダーが正しくありません。この状況が発生する可能性が高いのは、ユーザーがログファイルの先頭部分を削除しようとした場合です。

注意： ログチェックファイルには、エラー関連以外のメッセージも表示されます。

システム、イベント、監査ログの設定

システムは、さまざまなログを生成することができます。ログを設定するには、次の手順を実行してください。

1. **詳細設定**を展開し、**ログ**を右クリックし、**プロパティ**を選択します。
2. イベントログおよび監査ログを含む、システムログのプロパティ 『129ページ の"ログプロパティ"参照』を指定します。管理者は、監査ログの有効/無効のみ設定可能です。その他のすべてのログは必須となります。
3. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

ログプロパティ

システムは、さまざまなタイプのログを生成することができます。ログを設定する場合、以下を定義できます。

一般的なログ

Management Application ログ、Recording Server サービスログ、Image Server サービスログ、Image Import サービスログ

パス	これらのログファイルは、デフォルトでは、使用しているオペレーティングシステムで該当する すべてのユーザー フォルダに配置されます。 ログファイルに他の場所を指定するには、必要なフォルダへのパスを パス フィールドで入力するか、フィールドの横にある参照ボタンをクリックして、必要なフォルダを参照します。
ログ保存日数	イベントが発生した日ごとに、新しいログファイルが作成されます。このフィールドで指定されている日数よりも古いログファイルは、自動的に削除されます。デフォルトでは、ログファイルは 7 日間保存されます。他の日数（最長で 9999 日）を指定する場合は、フィールドの値を上書きしてください。たとえフィールドの値が 0 でも、当日のアクティビティは必ず記録されます。したがって、 0 を指定すると当日のアクティビティのみを記録し、 1 を指定すると当日のアクティビティに加えて過去 1 日分が保存されることとなります。

イベントログ

パス	これらのログファイルは、デフォルトでは、使用しているオペレーティングシステムで該当する すべてのユーザー フォルダに配置されます。 ログファイルに他の場所を指定するには、必要なフォルダへのパスを パス フィールドで入力するか、フィールドの横にある参照ボタンをクリックして、必要なフォルダを参照します。
----	---

ログ保存日数	イベントが発生した日ごとに、新しいログファイルが作成されます。このフィールドで指定されている日数よりも古いログファイルは、自動的に削除されます。デフォルトでは、ログファイルは7日間保存されます。他の日数（最長で9999日）を指定する場合は、フィールドの値を上書きしてください。たとえフィールドの値が0でも、当日のアクティビティは必ず記録されます。したがって、0を指定すると当日のアクティビティのみを記録し、1を指定すると当日のアクティビティに加えて過去1日分が保存されることになります。
--------	---

監査ログ

監査ログの有効化	監査ログは、システムのログで唯一強制的でないタイプのログです。チェックボックスを選択/選択解除すると、監査ログが有効/無効になります。
パス	これらのログファイルは、デフォルトでは、使用しているオペレーティングシステムで該当する すべてのユーザー フォルダに配置されます。 ログファイルに他の場所を指定するには、必要なフォルダへのパスをパスフィールドで入力するか、フィールドの横にある参照ボタンをクリックして、必要なフォルダを参照します。
ログ保存日数	監査ログが有効であれば、毎日クライアントユーザーが活動した日ごとに、新しいログが作成されます。このフィールドで指定されている日数よりも古いログファイルは、自動的に削除されます。デフォルトでは、ログファイルは7日間保存されます。他の日数（最長で9999日）を指定する場合は、フィールドの値を上書きしてください。当日のアクティビティは必ず記録されます（監査ログが有効で、ユーザーのアクティビティがある場合）。したがって、1を指定すると当日のアクティビティに加えて、過去1日分が保存されることになります。0（ゼロ）を指定すると、監査ログは無限に（ディスク容量が許す限り）保存されることに注意してください。
最小ログ間隔	イベントを記録する間隔の最小の秒数。イベントを記録する間隔の秒数を大きく設定することで、監査ログのサイズを小さくできます。デフォルトは60秒です。
シーケンス時間	同じシーケンス内とみなす表示画像の秒数です。秒数を大きくすることで、記録される表示シーケンス数を減らすことができ、監査ログのサイズを小さくできます。デフォルトは10秒です。

通知

通知について

ハードウェアの障害やカメラでのモーション検知が発生した場合に、SMS および E メールで通知されるように設定することができます。

E メール

E メールについて

E メール通知では、監視システムに異常が発生した場合にただちに通知を受けることができます。以下の場合に、任意の数の宛先へ E メール通知を送信できます：

- モーションが検知された場合
- イベントが発生した場合この場合、それぞれのイベントについて、E メール通知を受信するか否かを個別に選択できます。
- アーカイブが失敗した場合（アーカイブプロパティの一部として、E メール通知を選択している場合）

E メール通知の設定

E メール通知は次のように設定します。

1. **詳細設定**を展開し、**通知**を展開し、**E メール**を右クリックし、**プロパティ**を選択します。
2. **Eメールの有効化**チェックボックスを選択すると、Eメールの使用が有効化されます。
3. 必要なプロパティ 『131ページ の"メッセージ設定（Eメール）"参照 』を指定します。
4. Eメール通知に関連付けるスケジュールプロファイルを選びます。 システムには、2つの基本スケジュールプロファイル（**常にオン**と**常にオフ**）があり、これらを編集または削除することはできません。これらが組織のニーズに合わない場合、それぞれのカメラに対してカスタマイズされたスケジュールプロファイルを複数作成できます。カスタマイズされたスケジュールプロファイルは、必要に応じて複数の目的で再利用できます。

E メール（プロパティ）

メッセージ設定（Eメール）

E メール通知のメッセージ設定には以下の項目があります。

有効	E メール通知の使用を有効にして、さらにプロパティを指定できるようにします。
受信者	システムがメール通知を送信する E メールアドレスを指定します。2 つ以上の E メールアドレスを入力する場合は、セミコロンでアドレスを区切ってください（例：aa@aa.aa; bb@bb.bb; cc@cc.cc）。
件名	メール通知の件名を入力します。
メッセージテキスト	メール通知のメッセージ本文を入力します。カメラの情報ならびに日付や時刻の情報は、自動的にメール通知に含まれます。

変数	<p>通知に変数を含めるにはリンクをクリックします。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> トリガされたイベントの名前 カメラ名 トリガ時間（通知が登録された時刻） エラーテキスト（例：カメラの障害）
類似したメッセージを無視する期間：	類似した通知の送信を無視する秒数を指定します。この機能によって、関連する問題を解決する前に、何度も同じ通知を受け取ることを防げます。
スケジュールプロファイルを使用する	使用したいスケジュールプロファイルを選択します。デフォルトでは、 常にオン 、 常にオフ のいずれかを選択します。または 新規追加... を選択してカスタムスケジュールを設定 『135ページ の"通知スケジュールプロパティ"参照』します。

添付設定（E メール）

E メール通知の添付設定には以下の項目があります。

画像を含む	<p>チェックボックスを選択して、静止画を E メール通知に含めます。選択すると、それぞれの E メール通知に 1 件または複数の静止 JPEG 画像が含まれます。</p> <p>添付される画像は、インシデントの前、インシデントの後、実際のインシデントの画像であり、通知の原因となったインシデントが中央になります。</p> <p>重要：E メール通知がオンになっていても、デバイスに画像が記録されていなければ、送信される E メール通知には画像は含まれません。</p>
画像の数	E メールに含めたい画像の数。1～20 の画像を含めることができます。
画像間の時間（ミリ秒）：	各画像の間での最小時間（ミリ秒単位）。0～300 秒（5 分）の時間を設定できます。
E メールに画像を埋め込む	チェックボックスを選択して、画像を直接 E メールに埋め込みます。

サーバー設定（E メール）

E メール通知のサーバー設定には以下の項目があります。

送信者の E メールアドレス	E メール通知の送信者として使用したい E メールアドレスを入力します。
----------------	--------------------------------------

送信メールサーバーアドレス (SMTP)	<p>E メールによる通知の送信で使用する SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) サーバーの名前を入力します。</p> <p>他のメール転送方法と比較した際に、SMTP には、メールクライアントからトリガされる警告を自動的に回避できるという利点があります。それ以外の場合は、この警告により E メールクライアントが自動的に E メールメッセージを送信しようとしているという通知が送られます。</p> <p>TLS (Transport Layer Security) およびその前身である SSL (Secure Socket Layer) がサポートされています。</p>
送信メールサーバーのポート (SMTP)	メールサーバーのポートを入力します。デフォルトのポート番号は 25 です。
サーバーのログインが必要です	SMTP サーバーを使用する際にユーザー名とパスワードを使用する必要がある場合は、このチェックボックスを選択します。
セキュリティタイプ	使用したいセキュリティのタイプを選びます。
ユーザー名	SMTP サーバーがユーザ認証を必要とする場合、ユーザー名を指定します。 サーバーのログインが必要ですを選択した場合にのみ必要です。
パスワード	SMTP サーバーの使用に必要なパスワードを指定します。 サーバーのログインが必要ですを選択した場合にのみ必要です。
最大添付サイズ (MB)	添付する画像の最大サイズを指定します。

SMS

SMS について

SMS 通知により、監視システムに異常が発生した場合に、ただちにモバイルデバイスへ通知を送信することができます。SMS 通知機能を使用するには、システムがインストールされているサーバーに 3G/USB モデムを接続する必要があります。

以下の場合に、自動的に SMS 通知を送信することができます。

- モーションが検知された場合
- イベントが発生した場合それぞれのイベントについて、SMS 通知を受信するか否かを個別に選択できます。
- アーカイブが失敗した場合（アーカイブプロパティの一部として、SMS 通知を選択している場合）

SMS 通知の設定

SMS 通知は次のように設定します。

1. 詳細設定を展開し、通知を展開し、SMS 通知を右クリックし、プロパティを選択します。
2. SMS の有効化チェックボックスを選択すると、SMS 通知が有効化されます。

3. 必要なプロパティを指定します。
4. SMS 通知に関連付けるスケジュールプロファイルを選びます。

注意： システムには、2つの基本スケジュールプロファイル（常にオンと常にオフ）があり、これらを編集または削除することはできません。これらが組織のニーズに合わない場合、それぞれのカメラに対してカスタマイズされたスケジュールプロファイルを複数作成できます。カスタマイズされたスケジュールプロファイルは、必要に応じて複数の目的で再利用できます。

SMS プロパティ

メッセージ設定（SMS）

SMS 通知のメッセージ設定には以下の項目があります。

SMS を有効化	SMS 通知の使用を有効にして、さらにプロパティを指定できるようにします。
受信者	受信者の電話番号を示します。複数の宛先に SMS を送信するには、セミコロンで電話番号を区切ります。
メッセージテキスト	SMS 通知に必要なメッセージ本文を指定します。メッセージ本文には、以下の文字のみが使用できます。a～z、A～Z、0～9、カンマ（,）、ピリオド（.）。カメラの情報ならびに日付や時刻の情報は、すべて自動的に SMS 通知に含まれます。
変数	通知に変数を含めるにはリンクをクリックします。オプションは以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> トリガされたイベントの名前 カメラ名 トリガ時間（通知が登録された時刻） エラーテキスト（例：カメラの障害）
類似したメッセージを無視する期間：	類似した通知の送信を無視する秒数を指定します。この機能によって、関連する問題を解決する前に、何度も同じ通知を受け取ることを防げます。
スケジュールプロファイルを使用する	使用したいスケジュールプロファイルを選択します。デフォルトでは、常にオン、常にオフのいずれかを選択します。または新規追加... を選択してカスタムスケジュールを設定 『135ページ の"通知スケジュールプロパティ"参照』します。

サーバー設定（SMS）

SMS 通知のサーバー設定には以下の項目があります。

シリアルポート	USB/3G モデムで使用するシリアルポートを選択します。ポートを選択できるリストに、システムが動作しているコンピュータで空いているシリアルポートが示されます。
---------	--

スピード	使用している USB モデムデバイスのボーレート。デフォルト値は 9600 ボーです。ボーレートには任意のカスタム値を指定できますが、Sony では、非常に経験が豊富なユーザー以外はボーレートを変更しないことを推奨しています。
SIM カード PIN コード	USB/3G モデムに挿入されている SIM カードの PIN コードを指定します。
SMS エンコーディング	<p>世界中のさまざまな言語のニーズに対応するために、さまざまな種類の SMS エンコーディングがあります。使用しているシステムには、以下のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 7 ビット • 8 ビット (デフォルト) • 16 ビット <p>7 ビットの暗号化によって、最大 160 文字までを 1 件の SMS メッセージで使用できますが、使用できる文字の種類には制限があります。</p> <p>8 ビットの暗号化は、より特殊な文字の使用が可能な標準です。この場合、最大 140 文字までを 1 件の SMS メッセージで使用できます。</p> <p>ラテン系以外のアルファベット言語では、16 ビットの暗号化が必要です。たとえば、アラビア語、中国語、韓国語、日本語、キリル文字のアルファベット言語では 16 ビットの SMS エンコーディングが必要です。組織でこれらの言語のいずれかを使用している場合、16 ビットのエンコーディングを使用するようにシステムを設定する必要があります。16 ビットの場合、1 件の SMS メッセージで使用できる最大文字数は 70 文字です。</p>


スケジューリング

通知スケジュールについて

通知スケジュールによって、E メール 『131ページ の"メッセージ設定 (E メール) "参照』や SMS 『134ページ の"メッセージ設定 (SMS) "参照』による通知を使用する際のスケジュールプロファイルを設定できます。

通知スケジュールプロパティ

E メールまたは SMS による通知を使用する通知スケジュールの設定では、以下を指定します。

通知プロファイル	<p>通知スケジュールプロファイルの関連プロファイル (例: 常にオン) を選択します。</p> <p>以下に基づいて、スケジュールプロファイルを作成して、通知スケジュールプロファイルを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 期間 (例: 月曜日の 08:30 から 17:45 まで)、青色で表示: 
----------	--

サーバーアクセス

サーバーアクセスについて

以下の 2 通りの方法により、システムのサーバーへのクライアントアクセスを設定できます。

- ウィザードによる設定：** ガイドに従い、クライアントからのサーバーへのアクセス方法や、クライアントで使用するユーザーについて設定します。このウィザードを使用すると、すべてのカメラ（これ以降に追加するものを含む）に対し、追加したすべてのユーザーがアクセスできるようになります。これが望ましくない場合、アクセス設定、ユーザー、ユーザー権限を個別に指定してください。
- 詳細設定：** これは、以前のバージョンでは画像サーバー管理と呼ばれていました。

登録済みサービスについて

登録済みサービスには、システムにインストール済みで、実行中のサービスが表示されます。個々のサービスについて、以下の情報が表示されます。

名前	詳細
デバイスが有効	関連するサービスが有効であることを示します。
名前	サービスの名前。
詳細	サービスの説明。
アドレス	サービスが使用する内外部のアドレス。

サービスの内外部のアドレスは変更できます。これを行うには、**編集**ボタンをクリックして、関連する内外部のアドレスを入力します。すべてのサービスが編集できるわけではありません。**削除**ボタンをクリックして、システムからサービス登録を削除することもできます。サービスを削除する前に、確認メッセージが表示されます。

サーバーアクセスの設定

- 詳細設定**を展開し、**サーバーアクセス**を右クリックし、**プロパティ**を選択します。
- サーバーアクセス、ローカル IP 範囲、言語サポートおよび XML エンコーディングの必要なプロパティを指定します。システムには、2 つの基本スケジュールプロファイル（**常にオン**と**常にオフ**）があり、これらを編集または削除することはできません。これらが組織のニーズに合わない場合、それぞれのカメラに対してカスタマイズされたスケジュールプロファイルを複数作成できます。カスタマイズされたスケジュールプロファイルは、必要に応じて複数の目的で再利用できます。
- Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

このオプションを使用する場合は、クライアントのアクセスからクライアントユーザーを個別に設定します。個別のユーザーの追加、ユーザーグループの追加、ユーザーおよびグループの権限の設定を参照してください。

サーバーアクセスプロパティ

サーバーアクセス

システムサーバーまたはサーバーアクセスへのクライアントアクセスを設定できます。以下を指定します。

サーバー名	監視システムサーバーの名前は、クライアントに表示されるとおりです。クライアントを設定する権限を持っているクライアントユーザーは、ビューを作成した時にサーバーの名前をクライアントで確認できます。
ローカルポート	クライアントと監視サーバーの間での通信で使用するポート番号です。デフォルトのポート番号は 80 ですが、組織でポート 80 を他の目的で使用している場合には変更できます。
インターネットアクセスを有効にする	ルーターまたはファイアウォールを経由して、インターネットからサーバーにアクセスする必要がある場合は、このチェックボックスを選択します。 このオプションを選択する場合、以下のフィールドで、パブリック（外部）IP アドレスとポート番号も指定します。パブリックアクセスを使用する場合、使用するルーターまたはファイアウォールを、パブリック IP アドレスおよびポートに送信される要求が監視システムサーバーのローカル（内部）IP アドレスおよびポートに転送されるように設定する必要があります。
インターネットアドレス	システムサーバーをインターネットから使用できる必要がある場合、使用するパブリック IP アドレスまたはホスト名を指定します。
インターネットポート	システムをインターネットから使用できる必要がある場合、使用するポート番号を指定します。デフォルトのポート番号は 80 です。必要に応じて、ポート番号を変更できます。
最大クライアント数	<p>同時に接続できるクライアントの数を制限することができます。システムの設定や、使用しているハードウェアやネットワークの性能によって、同時に接続するクライアントの数を制限してサーバーの負荷を軽減できます。同時に接続を許可された数を超えるクライアントがログインを試みても、アクセスが許可されるのは指定された数のクライアントだけです。許可される数を超えると、クライアントにはログインを試みた時にエラーメッセージが送られます。</p> <p>デフォルトでは、最大で 10 のクライアントが同時に接続できます。異なる最大数を指定する場合は、値を上書きしてください。</p> <p>無制限の数のクライアントに同時接続を許可する場合は、最大クライアント数 フィールドに 0（ゼロ）を入力します。</p> <p>システムのクライアントセッションには、4 分 のセッションタイムアウト時間が適用されます。クライアントユーザーはこれに全く気付かない場合がほとんどです。ただし、最大クライアント数の値を 1 に設定すると、このセッションタイムアウト時間が非常に明確になります。この場合、許可される単一のクライアントユーザーがログアウトすると、再度ログインできるようになるまでに 4 分間経過する必要があります。</p>

ローカル IP 範囲

システムがローカルネットワークから受信したことを認識できるローカル IP 範囲を指定できます。これは、ローカルネットワークで異なるサブネットを使用している場合に関係します。

【追加】ボタンをすると、次の項目を設定できます。

開始アドレス	範囲の開始 IP アドレスを指定します。
終了アドレス	範囲の終了 IP アドレスを指定します。

他のローカル IP 範囲を追加するには、手順を繰り返します。

言語サポートと XML エンコーディング

システムのサーバーとクライアントで使用する言語/文字セットを選択できます。

文字エンコード/言語	必要な言語/文字セットを選択します。
	例：監視システムサーバーが日本語版 Windows で動作する場合は、日本語を選択します。アクセスクライアントも日本語版 Windows を使用する場合、これで必ずクライアントとサーバー間の通信で正しい日本語および文字エンコーディングが使用されます。
	マスター/スレーブ設定を使用する場合、すべての関連するサーバーで同じ言語/文字セットを指定するようにしてください。 Network Video Management System Standard Edition と Network Video Management System Standard Edition のみがマスター/スレーブ機能をサポートします。

マスター/スレーブ

マスターおよびスレーブについて

マスター/スレーブ設定により、複数のサーバーを組み合わせて、使用できるカメラの合計数を単一のサーバーの許容最大数以上に拡大できます。マスター/スレーブの設定を行うことで、リモートユーザーが同時に複数のサーバーに自動的に接続できます。リモートユーザーがマスターサーバーへ接続すると、即座にスレーブサーバーのハードウェアデバイスのフィールドにもアクセスできるようになります。

ソフトウェアライセンスファイルあなたはそれぞれの一方のマスターと 8 スレーブサーバの最大値を指定することができます。

マスターおよびスレーブサーバーでは異なる製品バージョンを使用できますが、マスターサーバーは最新バージョンのソフトウェアのみを使用する必要があります。スレーブサーバーは、マスターサーバーで実行中の製品と比較して 3 バージョン以上前のバージョンを実行してはなりません。

スレーブへの接続を確認するには、**【ステータス更新】**をクリックすると、接続されたスレーブ数が報告されます。

マスターおよびスレーブサーバーの設定

1. **詳細設定**を展開し、**マスター/スレーブ**を右クリックし、**プロパティ**を選択します。
2. **マスターサーバー**として**有効化**チェックボックスを選択します。
3. **追加**をクリックして、スレーブサーバーを追加します。
4. スレーブサーバーのプロパティを指定します。準備ができたなら **OK** をクリックします。

マスター/スレーブプロパティ

マスターサーバーおよびスレーブサーバーには、以下のプロパティを設定できます。

マスターサーバープロパティ

マスターサーバーとして有効化	マスターサーバーとして有効化を選択します。
タイムアウト	スレーブ更新のタイムアウトを設定します。詳細は、下記の スレーブでのステータスの更新 を参照してください。
追加	スレーブサーバーを追加できます。リストで マスターサーバー を選択し、 追加 ボタンをクリックします。
バージョン 8.0 以前のスレーブ	<p>これを選択すると、バージョン 8.0 以前のバージョンの Network Video Management System Standard Edition を実行するスレーブがサポートできます。</p> <p>バージョン 8.0 以前のスレーブを選択すると、すべてのスレーブ（8.0 以前およびそれ以降）のスレーブ状態更新機能が無効になります。</p>

マスターサーバーを選択すると、**削除**ボタンが無効になり、**追加**ボタンが有効になります（**マスターサーバーとして有効化**を選択している場合）。追加ボタンをクリックすることで、スレーブサーバーをマスターサーバーに追加できますが、マスターサーバーは削除できなくなります。

スレーブサーバープロパティ

アドレス	スレーブサーバーの IP アドレス。
ポート	スレーブサーバーのポート番号。
削除	スレーブサーバーのリストから、スレーブサーバーを削除します。リストでスレーブサーバーを選択し、 削除 ボタンをクリックします。

スレーブサーバーをマスターサーバーにしたい場合は、元のマスターサーバーで**マスターサーバーとして有効化**を選択解除して、**OK** をクリックします。ナビゲーションペインで、マスターサーバーにしたいスレーブサーバーを右クリックし、**プロパティ**を選択します。次に、**マスターサーバーとして有効化**を選択します。さらに、**追加**をクリックして、スレーブサーバーを新しいマスターサーバーに追加します。

スレーブでのステータス更新

マスター設定の概要およびスレーブ設定の概要のテーブルエリアで、**ステータス更新**をクリックすると、追加したスレーブサーバーを確認/更新できます。ステータスダイアログが起動され、その後、スレーブサーバーのステータスを通知します。



バージョン 8.0 以前のスレーブを選択すると、全スレーブでスレーブステータスの更新ができなくなります。そのためステータス更新が無効になります。スレーブ設定の概要テーブルでは全スレーブでスレーブサーバーのステータスが適用外となります。

バージョン 8.0 以前のスレーブを選択していなければ、バージョン 8.0 以前のスレーブのスレーブステータスはアクセス不能になります。バージョン 8.0 以降のスレーブのスレーブステータスには、実際のステータスが反映されます。

ユーザー

ユーザーについて

ユーザーという用語は、主にクライアントを通じて監視システムに接続するユーザーを意味します。こうしたユーザーは、次の 2 種類の方法で設定できます。

-  **基本ユーザー**として、ユーザー名/パスワードの組み合わせで認証。
-  **Windows ユーザー**として、Windows ログインに基づく認証。

ユーザーアクセス設定ウィザードでは、両方のタイプのユーザーを追加することも、別個に追加することも可能です（基本ユーザーの追加 『140ページ』 および Windows ユーザーの追加 『141ページ』を参照）。

ユーザーをグループ化することで、グループ内のすべてのユーザーに対して一度で権限を指定することができます。類似のタスクを実行するユーザーが多数存在する場合、これで大幅に作業量を削減できます。ユーザーグループは、あくまでも Management Application での実用的な目的のためだけに作成・使用します。いかなる方法でも、一元的ディレクトリサービスのユーザーグループと接続されることはありません。グループを使用したい場合、ユーザーを追加する前に必ずグループを作成してください。既存のユーザーをグループに追加することはできません。

最後に、管理者グループも、ユーザーの下にリスト化されます。これは、管理のためのデフォルトの Windows ユーザーグループであり、自動的に Management Application へのアクセス権が与えられます。

基本ユーザーの追加

基本ユーザーを追加する際、個別のユーザーについて、基本ユーザー名とパスワード認証で監視システム専用のユーザーアカウントを作成します。Windows ユーザーを作成することで、セキュリティが向上します。ユーザーをグループに含めたい場合、ユーザーを追加する前に必ず必要なグループを追加したことを確認してください。既存のユーザーをグループに追加することはできません。

基本ユーザーは、次の 2 種類の方法で追加できます。1 つは、**ユーザーアクセス設定**ウィザードによる方法です。あるいは、次の方法で基本ユーザーを追加します。

1. **詳細設定**を展開し、**ユーザー**を右クリックし、**新しい基本ユーザーの追加**を選択します。
2. ユーザー名を指定してください。パスワードを指定し、再入力して、パスワードが正しく入力されていることを確認します。**OK**をクリックします。

3. 一般アクセスおよびカメラアクセスのプロパティを指定します。これらのプロパティによって、ユーザーの権限が決まります。 **OK** をクリックします。
4. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

Windows ユーザーの追加

Windows ユーザーを追加する際、サーバーでローカルに定義されたユーザーをインポートして、Windows ログインに基づいて認証します。この方法は、基本ユーザーの概念より一般的にセキュリティが向上するため、Sony ではこの方法を推奨しています。ユーザーをグループに含めたい場合、ユーザーを追加する前に必ず必要なグループを追加したことを確認してください。既存のユーザーをグループに追加することはできません。

Windows ユーザーは、次の 2 種類の方法で追加します。1 つは、ユーザーアクセス管理ウィザードによる方法です。あるいは、Windows ユーザーを次の方法で追加します。

1. **詳細設定**を展開し、**ユーザー**を右クリックし、**新しい Windows ユーザーの追加**を選択します。この操作で、**ユーザーまたはグループの選択**ダイアログが開きます。
場所... ボタン。
2. **選択するオブジェクト名**を入力ボックスで、関連するユーザー名を入力してから、**名前のチェック**機能を使って、ユーザー名を確認します。複数のユーザー名を入力する場合は、それぞれの名前をセミコロンで区切ります。例：**Brian; Hannah; Karen; Wayne**
3. 完了したら、**OK** をクリックします。
4. 一般アクセスおよびカメラアクセスのプロパティを指定します。これらのプロパティによって、ユーザーの権限が決まります。
5. **OK** をクリックします。
6. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

クライアントでローカルデータベースのログから追加されたユーザーは、ユーザー名の一部として、サーバー名、PC 名、IP アドレスを指定してはなりません。正しく指定したユーザー名の例：**USER001**。正しく指定されていないユーザー名の例：**PC001/USER001**。さらに、ユーザーはパスワードや必要なサーバーの情報も指定する必要があります。

ユーザーグループの追加

ユーザーグループは、あくまでも Management Application での実用的な目的のためだけに作成・使用します。いかなる方法でも、一元的ディレクトリサービスのユーザーグループと接続されることはありません。

ユーザーをグループ化することで、グループ内のすべてのユーザーに対して一度で権限 『142ページ の"ユーザーおよびグループの権限の設定"参照』を指定することができます。類似のタスクを実行するユーザーが多数存在する場合、これで大幅に作業量を削減できます。ユーザーを追加する前に、グループを追加したことを確認してください。既存のユーザーをグループに追加することはできません。

1. **詳細設定**を展開し、**ユーザー**を右クリックし、**新しいユーザーグループの追加**を選択します。
2. 名前を指定します。 名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? | []
3. **OK** をクリックします。

4. 一般アクセス 『143ページ』 およびカメラアクセス 『144ページ』 のプロパティを指定します。これらのプロパティによって、以後グループに追加されるメンバーの権限が決まります。
5. **OK** をクリックします。
6. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存** をクリックして、設定の変更を保存します。
7. これで、ユーザーをグループに追加することができます。ナビゲーションペインで、作成したグループを右クリックし、必要に応じて基本ユーザーの追加 『140ページ』 または Windows ユーザーの追加 『141ページ』 をクリックします。

ユーザーおよびグループの権限の設定

ユーザー/グループの権限は、ユーザー/グループの追加プロセス中に設定します。基本ユーザーの追加 『140ページ』、Windows ユーザーの追加 『141ページ』、ユーザーグループの追加 『141ページ』 を参照してください。基本ユーザーおよび Windows ユーザーは、ユーザーアクセスの管理ウィザード 『53ページ』 でも追加できることに注意してください。このウィザードを使用すると、後の段階で追加されるカメラを含めて、すべてのカメラに対して、追加したすべてのユーザーがアクセスできるようになります。

ユーザーまたはグループの権限を編集する場合：

1. **詳細設定**を展開し、**ユーザー**を展開し、該当するユーザーまたはグループを右クリックして、**プロパティ**を選択します。
2. 表示される該当するタブの下に必要なユーザー権限を設定します。これらのプロパティによって、ユーザー/グループの権限が決まります。 **OK** をクリックします。
3. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存** をクリックして、設定の変更を保存します。

ユーザープロパティ

ユーザー情報

以下のユーザー情報を変更できます。

ユーザー名	ユーザー名を編集します。これを編集できるのは、選択したユーザーが基本ユーザーである場合だけです。名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []
パスワード	パスワードを編集します。入力確認のため、パスワードを再入力することを忘れないでください。 基本ユーザーのパスワードのみ編集できます。
ユーザータイプ	このフィールドは編集できません。選択したユーザーが基本ユーザーか、Windows ユーザーグループかどうかを示します。

グループ情報

グループ名	グループ名を編集します。名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []
-------	--

一般アクセス

基本ユーザー 『140ページ』の"基本ユーザーの追加"参照』や Windows のユーザー 『141ページ』の"Windows ユーザーの追加"参照』、グループ 『141ページ』の"ユーザーグループの追加"参照』を追加・編集する際に、一般アクセスの以下の設定を指定します。

クライアントのアクセス設定

ライブ	Network Video Management System Smart Client の ライブ タブへのアクセスを有効にします。
再生	Network Video Management System Smart Client の 再生 タブへのアクセスを有効にします。
設定	Network Video Management System Smart Client の設定モードへのアクセスを有効にします。
共有ビューの編集	Network Video Management System Smart Client の共有グループでユーザーがビューを作成、編集できるようにします。 すべてのユーザーが、共有グループに配置されたビューにアクセスできます。ユーザー/グループにこの権限がない場合、共有グループは保護され、Network Video Management System Smart Client では錠前アイコンで示されます。
プライベートビューの編集	Network Video Management System Smart Client のプライベートグループでユーザーがビューを作成、編集できるようにします。 プライベートグループに置かれたビューは、それを作成したユーザーしかアクセスできません。ユーザー/グループにこの権限がない場合、プライベートグループは保護され、Network Video Management System Smart Client では錠前アイコンで示されます。ユーザーに独自のビューを作成できる権限を拒否することが望ましい場合があります。たとえば、帯域の利用を制限するなどの特定のケースが考えられます。 共有およびプライベートビューに関する詳細情報は、別個の Network Video Management System Smart Client のマニュアルを参照してください。

ライブ、再生、設定のチェックボックスを選択解除して、ユーザー/グループが Network Video Management System Smart Client を使用できる機能を無効にします。ユーザー/グループが一定期間の間、アカウントを使用しない場合などに、ユーザー/グループを削除する代わりの一時的な代替として利用することができます。

Management Application アクセス

管理者アクセス	ユーザーによる Management Application へのアクセスや操作を有効にします。 管理者のメンバーが複数いる場合、このチェックボックスを選択解除して、他の管理者が Management Application にアクセスできないようにすることができます。
---------	--

ログイン認証

このユーザー/グループは、他のユーザーでログインするのに認証が必要です	ユーザー/グループに対する制約を有効にします。つまり、ユーザー/グループが Network Video Management System Smart Client または Management Application にログインするためには、第二のユーザーがログインを認証する必要があります。
このユーザー/グループは、他のユーザーからのログインを認証できる	このユーザー/グループが、他のユーザーの Network Video Management System Smart Client または Management Application へのログインを認証できるようにします。

システムで少なくとも 1 人は、ログインに認証が要らない完全な管理者アクセスを有する必要があります。そのため、管理者はシステムの他のユーザーに適切なユーザー権限がすべて付与されていることを確認する必要があります。認証すべきユーザーがいない場合、このユーザー/グループは、他のユーザーからログインする認証が必要チェックボックスは使用不可であり、その設定を変更することはできません。

システムに 1 人しかユーザーがいない場合、このユーザー/グループは、他のユーザーからのログインを認証できるチェックボックスは使用不可であり、その設定を変更することはできません。

カメラアクセス

基本ユーザー 『140ページ の"基本ユーザーの追加"参照』、Windows のユーザー 『141ページ の"Windows ユーザーの追加"参照』またはグループ 『141ページ の"ユーザーグループの追加"参照』を追加または編集する際に、カメラのアクセス設定を指定することができます。

カメラのリストで、操作したいカメラを選択します。リストの最後のアイテムである**新規カメラがシステムに追加された場合、そのカメラに対する権限**で、ユーザー/グループに対して今後追加するカメラへのアクセスを許可することができます。

ヒント：SHIFT または CTRL を使用して、複数のカメラのアクセスで同じ機能が使用できる複数のカメラを選択します。選択中にキーボードで SHIFT または CTRL を押すと、複数のカメラを選択できます。

選択したカメラについて、**アクセス**チェックボックスで、ユーザー/グループがライブ表示や再生にアクセスできるかどうかを指定します。許可する場合は、ライブ表示と再生の**両方**にアクセスできるかどうかを指定します。この場合、選択したカメラでどのサブ機能が使用可能であるかを指定します。サブ機能は、ウィンドウの下方にある 2 列にリスト化されます。左の列にはライブ表示に関連する機能が、右の列には再生に関連する機能がリスト化されます。

カメラアクセス設定チェックボックスは、権限の階層構造のように機能します。**アクセス**チェックボックスが選択解除されていると、他のすべてが選択解除され、無効になります。**アクセス**チェックボックスが選択されているが、たとえば**ライブ**チェックボックスが選択解除されていると、**ライブ**チェックボックスの下位にあるものはすべて選択解除され、無効になります。

選択した列によって、選択したカメラで、ライブまたは再生の以下のデフォルト機能が使用できます。

ライブ	機能
PTZ	PTZ（パン/チルト/ズーム）カメラのナビゲーション機能を使用します。 ユーザー/グループは、1 台または複数の PTZ カメラに対するアクセス権限がある場合にだけ使用できます。
PTZ プリセット位置	PTZ カメラを特定のプリセット位置へ移動させるナビゲーション機能を使用します。ユーザー/グループは、ユーザー/グループに、定義されたプリセット位置で 1 台または複数の PTZ カメラに対するアクセス権限がある場合にだけ使用できます。

ライブ	機能
PTZ プリセットの管理	Network Video Management System Smart Client で、PTZ 位置を管理します。
出力	選択したカメラに関連する出力をアクティブ化します。
イベント	選択したカメラに関連する手動トリガイイベントを使用します。この機能は、Network Video Management System Smart Client でのみ使用できます。
受信音声	選択したカメラに関連するマイクから入力された音声を聞きます。この機能は、Network Video Management System Smart Client でのみ使用できます。
手動録画	一定時間（監視システムの管理者が定義 『75ページ の"手動録画"参照 』）の間、録画を手動で開始します。
送信音声	選択したカメラに関連付けたスピーカーを通じて、相手と話します。この機能は、Network Video Management System Smart Client でのみ使用できます。

再生	機能
AVI /JPEG のエクスポート	AVI 形式のムービークリップや JPEG 形式の静止画として、エビデンスをエクスポートします。
データベースのエクスポート	エビデンスをデータベース形式でエクスポートします。この機能は、Network Video Management System Smart Client でのみ使用できます。
シーケンス	選択したカメラからのビデオを再生する際は、シーケンス機能を使用します。
スマートサーチ	選択したカメラの画像で、選択した 1 つまたは複数のエリアでモーションを検索します。この機能は、Network Video Management System Smart Client でのみ使用できます。
録音された音声	選択したカメラに関連するマイクから録音された音声を聞きます。

選択したカメラが関連する機能をサポートしていなければ、機能を選択することはできません。たとえば、PTZ 関連の権限が使用できるのは、関連するカメラが PTZ カメラである場合だけです。一部の機能は、ユーザー/グループの一般アクセス 『143ページ 』プロパティに依存しています。

複数のカメラを選択しており、一部のカメラではある機能が該当するが、すべてのカメラには該当しない場合、ウィンドウの下部に四角で埋められたチェックボックスが表示されます。

例：カメラ A では、イベントの使用を許可するように選択しており、カメラ B では許可していません。リストでカメラ A とカメラ B の両方を選択すると、ウィンドウの下部のイベントチェックボックスは四角で埋められています。別の例：カメラ C は PTZ カメラで、PTZ プリセット位置設定が許可されていますが、カメラ D は PTZ カメラではありません。リストでカメラ C とカメラ D の両方を選択すると、PTZ プリセット位置チェックボックスは四角で埋められています。

サービス

サービスについて

標準インストールを行うと、以下の機能はすべて自動的にインストールされます。デフォルトでは、サービスはシステムサーバーのバックグラウンドで自動的に実行されます。必要であれば、個別にサービスを起動・停止することもできます。詳細は、サービスの起動および停止 『148ページ』 の"サービスを開始および停止する"参照』を参照してください。

サービス	詳細
Sony Recording Server サービス	監視システムの重要な部分です。ビデオストリームがシステムに転送されるのは、Recording Server サービスが実行されている間だけです。
Sony Image Server サービス	Network Video Management System Smart Client にログインしているユーザーに、監視システムへのアクセスを提供します。 注意: Windows サービスで Image Server サービスが、「Local System」以外のアカウント（たとえばドメインユーザーなど）でログインするように設定されている場合、監視サーバー自体以外のコンピュータにインストールされている Network Video Management System Smart Client は、サーバーのホスト名を使用してサーバーにログインすることはできません。それらのユーザーは、サーバーの IP アドレスを入力する必要があります。
Sony Image Import サービス	アラーム前後の画像を取り込むため、および取り込んだ画像をカメラデータベースに保存するために使用します。 アラーム前後の画像は、選択したカメラでのみ使用可能な機能であり、これによってイベント発生の直前および直後の画像をカメラから監視システムへ、Eメールで送信できます。アラーム前後の画像と、システムの録画前後の機能 『86ページ』 の"記録"参照』を混同しないように注意してください。
Sony Log Check サービス	システムのログファイルで、整合性チェックを実行します。
Sony Event Server サービス	すべてのアラームやマップ関連の通信を管理します。イベント、画像ファイル、マップの設定を保存し、監視システムに関するステータス情報を利用可能にします。
通知サーバーサービス	システムからユーザーに送信される電子メールまたは SMS 通知を管理します。
NVMS Mobile サービス	Recording Server とモバイルデバイス（スマートフォンやタブレットなど）の間、ならびに Recording Server と Web ブラウザの間での通信を管理します。

カスタムインストールを実行する場合は、Event Server をインストールしないよう選択できます。そのような場合、Event Server サービスはサービス概要に表示されません。

トレイアイコンについて

表のトレイアイコンは、管理サーバー、レコーディングサーバー、イベントサーバーで実行されるサービスが取り得る状態を示します。これらはすべて、サービスがインストールされているコンピュータの通知領域に表示されます。

Management Server サービスアイコン	Recording Server サービスアイコン	Event Server サービスアイコン	詳細
			実行中 サーバーサービスが有効で開始したときに表示されます。
			停止 サーバーサービスが停止したときに表示されます。
			起動中 サーバーサービスが起動処理中である場合に表示されます。通常、しばらくするとトレイアイコンは 実行中 に変わります。
			停止中 サーバーサービスが停止処理中である場合に表示されます。通常、しばらくするとトレイアイコンは 停止 に変わります。
			不確定の状態 サーバーサービスを最初にロードして、最初の情報をまだ受信していない場合に表示されます。最初の情報を受信すると、通常、 起動中 アイコンに変わり、その後 実行中 アイコンに変わります。
			オフラインで実行中 通常は、Recording Server サービスが実行されているが、Management Server サービスが実行されていない場合に表示されます。
			管理者が承認する必要がある Recording Server サービスを初めてロードしたときに表示されます。管理者は、Management Client でレコーディングサーバーを承認します。サーバーリストを展開し、レコーディングサーバーノードを選択して、概要ペインで必要なレコーディングサーバーを右クリックしてから、レコーディングサーバーの承認を選択します。

サービスを開始および停止する

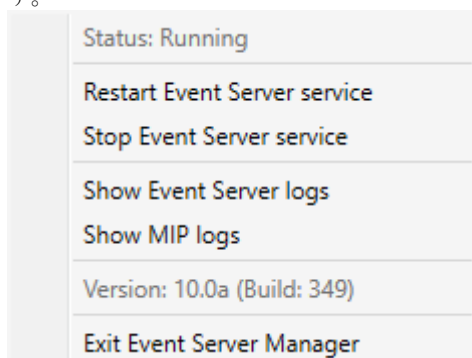
システムサーバーでは、デフォルトでいくつかのサービスがバックグラウンドで実行されています。必要に応じて、それぞれのサービスを個別に開始または停止することができます。

1. **詳細設定**を展開し、**サービス**を選択します。これで、それぞれのサービスのステータスが表示されます。
2. ここで、**停止**ボタンをクリックして、それぞれのサービスを停止することができます。サービスが停止すると、ボタンは**開始**に変わり、必要な時にサービスを再度開始することができます。

Event Server サービスの開始、停止、再起動

通知領域では、トレイアイコンが Event Server サービスの状態(**実行中**など)を示します。このアイコンを使用して、Event Server サービスを開始、停止、再起動できます。サービスを停止する場合は、イベントとアラームを含むシステムの一部が動作しません。ただし、ビデオの表示と録画はできます。詳細については、「Event Server サービスの停止」を参照してください。

1. 通知領域で、Event Server のトレイアイコンを右クリックします。コンテキストメニューが表示されます。



2. サービスが停止した場合は、**[Event Server サービスの開始]**をクリックして開始します。トレイアイコンが変わり、新しい状態を示します。
3. サービスを再起動または停止するには、**[Event Server サービスの再起動]**または**[Event Server サービスの停止]**をクリックします。

トレイアイコンの詳細については、「トレイアイコンについて 『147ページ』」を参照してください。

参照

Recording Server サービスの開始と停止

サーバー

NVMS Mobile

NVMS Mobile の概要

NVMS Mobile について

NVMS Mobile には次の 3 つのコンポーネントがあります。

- **NVMS Mobile クライアント**
- **NVMS Mobile サーバー**
- **NVMS Mobile プラグイン**

NVMS Mobile クライアントはモバイル監視アプリであり、Android デバイス、または Apple デバイスにインストールして使用できます。任意の数の NVMS Mobile クライアントのインストールを使用できます。

詳細については、Sony Corporation Web サイト <http://www.sony.net/CameraSystem/NVMS/Manuals> から NVMS Mobile クライアントユーザーガイドをダウンロードしてください。

NVMS Mobile サーバーと NVMS Mobile プラグインについては、このマニュアルで説明します。

NVMS Mobile を使用するための前提条件

NVMS Mobile の使用を開始する前に、次の項目が準備されていることを確認する必要があります。

- 1 つ以上のユーザーでインストールおよび構成された実行中の VMS。
- Network Video Management System Smart Client で設定されたカメラとビュー。
- Android、または iOS、を実行し、Google Play、App StoreSMにアクセスして NVMS Mobile クライアントアプリケーションをダウンロードできるモバイルデバイス。

NVMS Mobile 構成

NVMS Mobile サーバーについて

NVMS Mobile サーバーによって、モバイルデバイスや Network Video Management System Web Client の NVMS Mobile クライアントからシステムへのログインが処理されます。

NVMS Mobile サーバーはレコーディングサーバーから NVMS Mobile クライアントに動画ストリームを配信します。これにより、レコーディングサーバーはインターネットに接続しないため、安全性の高い環境を提供できます。NVMS Mobile サーバーがレコーディングサーバーからビデオストリームを受信すると、コーデックとフォーマットの複雑な変換を処理し、モバイルデバイス上でビデオストリーミングできます。

レコーディングサーバーへアクセスするためのコンピュータに、NVMS Mobile サーバーをインストールする必要があります。NVMS Mobile サーバーをインストールするときには、管理者権限があるアカウントを使用してログインしてください。そうでない場合、インストールは正常に完了しません。

およびマスター/スレーブサーバーについて

システムがおよびマスター/スレーブサーバーをサポートする場合は、NVMS Mobile クライアントを使用してこのようなサーバーにアクセスできます。この機能を使用して、マスターサーバーにログインし、すべてのスレーブサーバー上のすべてのカメラへのアクセスを取得します。

つまり、NVMS Mobile クライアントのユーザーがサーバーにログインして、システムのすべてのサーバーからカメラを表示する場合、マスターサーバーの IP アドレスに接続する必要があります。NVMS Mobile クライアントでカメラを表示するには、ユーザーはシステムのすべてのサーバーで管理者権限が必要です。

Mobile サーバーの追加または編集

1. サーバー > モバイルサーバーに移動します。表示されるメニューから**新規作成**を選択します。設定を入力または編集します。

重要： 自分または他のユーザーが NVMS Mobile クライアントに接続中に、**ログイン方法、すべてのカメラを表示、出力とイベント**の設定を編集する場合、新しい設定を有効にするには、NVMS Mobile クライアントを再起動する必要があります。

調査の設定

調査を設定し、Web Client と NVMS Mobile を使用して、録画されたビデオにアクセスし、インシデントを調査し、証拠ビデオを準備およびダウンロードできるようにします。

調査を設定するには、次の手順に従います。

1. Management Application では、モバイルサーバーをクリックしてから、**【調査】**タブをクリックします。
2. **【有効】**チェックボックスを選択します。デフォルトでは、チェックボックスが選択されています。
3. **【調査フォルダ】**フィールドで、調査のビデオを保存する場所を指定します。
4. **【調査のサイズを制限する】**フィールドで、調査フォルダが含むことができる最大メガバイト数を入力します。
5. オプション：ユーザーが他のユーザーが作成する調査にアクセスできるようにするには、**【他のユーザーが作成した調査を表示する】**チェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択しない場合、ユーザーは自分の調査のみを表示できます。
6. オプション：ビデオがダウンロードされた日時を含めるには、**【AVI エクスポートのタイムスタンプを含める】**チェックボックスを選択します。
7. **【AVI エクスポートで使用されたコーデック】**フィールドで、ダウンロード用に AVI パッケージを準備するときに使用する圧縮形式を選択します。

注意： リストのコーデックは、オペレーティングシステムによって異なる場合があります。使用するコーデックが表示されない場合は、Management Application が実行されているコンピュータにインストールすると、このリストに表示されます。

また、コーデックは異なる圧縮率を使用することがあり、動画品質に影響する場合があります。高圧縮率によりストレージ要件が減りますが、画質が低下する可能性があります。低圧縮率はストレージとネットワーク容量が増えますが、画質が上がります。選択する前にコーデックを調査することをお勧めします。

8. **【失敗したエクスポートデータ (MKV および AVI エクスポート)】**フィールドで、正常にダウンロードされ、不完全な可能性があるデータを保持するか、削除するかどうかを指定します。

9. ユーザーが調査を保存できるようにするには、次の権限をユーザーに割り当てられたセキュリティ役割に付与する必要があります。
- Network Video Management System Enterprise Edition 製品では、**エクスポート**権限を付与します。
 - Network Video Management System Standard Edition 製品では、**データベース**権限を付与します。

調査のクリーンアップ

保持する必要がない調査またはビデオエクスポートがある場合は、削除できます。たとえば、サーバーでより多くのディスク領域が使用できるようにする場合には、これが便利です。

- 調査と、調査用に作成されたすべてのビデオエクスポートを削除するには、リストの調査を選択し、**【削除】**をクリックします。
- 調査用にエクスポートされたビデオファイルを個別に削除、調査を保持するには、リストで調査を選択します。**【調査の詳細】**グループで、エクスポート用の**データベース**、**AVI**、**MKV** フィールドの右にある**削除**アイコンをクリックします。

ビデオプッシュを使用した動画のストリーミングについて

ビデオプッシュを設定すると、ユーザーはモバイルデバイスのカメラから Network Video Management System 監視システムに動画をストリーミングし、常に状況に関する通知を受信するか、動画を録画して後から調査できます。

ビデオを流すための「ビデオ・プッシュ」の設定

ユーザーが携帯デバイスから管理システムにビデオを流すためには、Network Video Management System サーバーで「ビデオ・プッシュ」を設定する必要があります NVMS Mobile 。

Management Application 次の手順で設定が可能です。

1. 携帯デバイスが記録サーバーにビデオを流すためのチャンネルを設定します。
2. 記録サーバー上のハードウェア・デバイスである「ビデオ・プッシュ・ドライバー」を追加します。このドライバーはカメラ・デバイスに影響して、記録サーバービデオを流すことができます。
3. 「ビデオ・プッシュ・ドライバー」デバイスをチャンネルに選定して下さい。

ここではこれらの各ステップを説明します。

ビデオを流すためのチャンネル設定

注各チャンネルは一つのハードウェア・デバイス・ライセンスを必要とします。

チャンネルを追加するためには、次のステップを踏んで下さい。

1. ナビゲーションの窓で **Mobile Server** を選んでから、携帯サーバーを選んで下さい。
2. 「ビデオ・プッシュ」のタブ上で、「ビデオ・プッシュ」を選択しボックス内を**チェック**して下さい。
3. 下の右コーナーの「**追加**」をクリックして、**チャンネル・マッピング**の下のビデオ・プッシュ・チャンネルを追加して下さい。

4. チャンネルを使用するには、ユーザー・アカウントのユーザー名を入れて下さい。ユーザー・アカウントは、 NVMS Mobile サーバーと記録サーバーにアクセスが許可されているはずです。

注「ビデオ・プッシュ」を使用するためには、携帯デバイスに、 NVMS Mobile 登録されたユーザー名とパスワードを使ってログインする必要があります。

5. ポート・ナンバーを書き留めておいて下さい。それは、記録サーバーにハードウェア・デバイスとして「ビデオ・プッシュ」を追加する時に必要です。
6. ボタンをクリックして、「ビデオ・プッシュ・チャンネル」ダイアログ・ボックスを閉じて、チャンネルを保存します。

記録サーバーにハードウェア・デバイスとして、「ビデオ・プッシュ・ドライバー」を追加します。

1. ナビゲーションの窓で、「記録サーバー」をクリックして下さい。
2. ビデオを流したいサーバーを右クリックして、「ハードウェアの追加」をクリックして、「ハードウェアの追加」ウィザードを開いて下さい。
3. ハードウェア探知方法として「手動」を選択し、「次へ」をクリックして下さい。
4. カメラの認定情報を以下の手順で入れて下さい。
 - カメラ工場からの工場設定認定を使用するには、「次へ」をクリックして下さい。典型的な工場設定が使用されています。
 - デバイスの設定を変えるには、その情報を入れて、「次へ」をクリックして下さい。

注これらはハードウェアのための認定設定で、ユーザーのためのものではありません。チャンネルのためのユーザー名とは関係ありません。

5. ドライバーズリストから「その他」を展開し、「ビデオ・プッシュ・ドライバー」を選択してボックス内をチェックしてから「次へ」をクリックして下さい。

注このシステムは「ビデオ・プッシュ・ドライバー」デバイスのために MAC アドレスを作成しています。このアドレスを使用することをお勧めしますそのアドレスは「ビデオ・プッシュ・ドライバー」デバイスに問題が生じた時だけ、変更して下さい。例えば、新しいアドレスやポートナンバーを追加する必要がある場合です。

6. 「アドレス」欄で、サーバーにインストールされているコンピューターの IP アドレスを入れて下さい NVMS Mobile 。
7. 「ポート」欄で、ビデオを流すために作成したチャンネル用のポートナンバーを入れて下さい。ポートナンバーはチャンネルを作成した時に割り当てられています。
8. 「ハードウェア・モデル」内で、「ビデオ・プッシュ・ドライバー」を選択し、「次へ」をクリックして下さい。
9. システムが新しいハードウェアを探知したら、「次へ」をクリックして下さい。
10. 「ハードウェア名テンプレート」欄で、ハードウェアのモデルとその IP アドレスを表示するか、またはモデルだけかを決めて下さい。
11. 関係するデバイスが作動するかどうかは、「作動可」チェックボックスを選択して決めて下さい。「ビデオ・プッシュ・ドライバー」の関連デバイスは、作動不可でも、追加することができます。後で、作動可にできます。

注ビデオを流す際にロケーション情報を使いたい場合は、「メタデータ・ポート」 を作動させる必要があります。

12. 左にある関連デバイスの既定グループを選択するか、あるいは「グループ追加」 欄の具体的なグループを選択して下さい。一つのグループにデバイスを追加すれば、同時にすべてのデバイスを設定したり、あるいはデバイスの入れ替えが簡単にできます。

「ビデオ・プッシュ・ドライバー」 デバイスをビデオ・プッシュのためのチャンネルに追加します。

1. 「サイト・ナビゲーション」 で、「携帯サーバー」 をクリックしてから、「ビデオ・プッシュ」 タブをクリックして下さい。
2. 「カメラを見つける」 をクリックして下さい。成功すれば、「カメラ名」 欄に、「ビデオ・プッシュ・ドライバー」 カメラの名前が表示されます。
3. 貴方の構成を保存して下さい。

必要のないチャンネルは削除して下さい。

もう使わないチャンネルは削除できます。

- 削除するチャンネルを選択し、下の右コーナーの「削除」 をクリックして下さい。

アクションについて

[モバイルサーバー] タブでこれを有効または無効にすると、NVMS Mobile クライアントの【アクション】タブを使用できるかどうかを管理できます。【アクション】はデフォルトで有効であり、接続されたデバイスのすべての使用可能なアクションがここに表示されます。

NVMS Mobile で使用する出力の名前について

アクションを現在のカメラとともに正しく表示するには、出力がカメラと正確に同じ名前を使用することが重要です。

例：

「AXIS P3301,P3304 - 10.100.50.110 - Camera 1」という名前のカメラがある場合は、アクションの名前も「AXIS P3301,P3304 - 10.100.50.110 - Camera 1」にする必要があります。

「AXIS P3301,P3304 - 10.100.50.110 - Camera 1 - Light switch」のような詳細説明を後からタイトルに追加することができます。

重要：これらの命名規則に従わない場合、アクションは関連付けられたカメラのビューのアクションリストで使用できません。代わりに、アクションは【アクション】タブの他のアクションのリストに表示されます。

自動エクスポートルールの追加

1. Management Application で、該当するモバイルサーバー > 【エクスポート】タブをクリックします。
2. 【自動エクスポート】の下で、【追加】をクリックして、【自動エクスポートルール】ウィンドウを開きます。
3. 該当する自動エクスポートルールウィンドウ設定を設定します。

4. 完了したら、**OK** をクリックします。

Mobile サーバーの設定

一般

次の表では、このタブの設定について説明します。

名前	詳細
サーバー名	NVMS Mobile サーバーの名前を入力します。
詳細	オプションで、NVMS Mobile サーバーの説明を入力します。
Mobile サーバー	特定のシステムに現在インストールされているすべての NVMS Mobile サーバーから選択します。リストには、実行中の NVMS Mobile サーバーだけが表示されます。
ログイン方法	ユーザーがサーバーにログインするときに使用する認証方法を選択します。以下のオプションから選択できます。 自動 、 Windows 認証 、または 基本認証 。
有効 Network Video Management System Web Client	Network Video Management System Web Client へのアクセスを有効にします。
すべてのカメラビューを有効化	すべてのカメラビュー を含めます。このビューには、ユーザーがレコーディングサーバーで表示できるすべてのカメラが表示されます。
アクションを有効化（出力およびイベント）	NVMS Mobile クライアントでアクションへのアクセスを有効にします。
キーフレームを有効化	動画をストリーミングするときにキーフレームのみをストリーミングします。これにより、帯域幅の使用が少なくなります。
フルサイズの画像を有効にする	NVMS Mobile サーバーが、フルサイズの画像を NVMS Mobile クライアントまたは Network Video Management System Web Client に送信することを有効にします。 フルサイズの画像を有効にすると、帯域幅の使用が増えることに注意してください。また、このオプションを有効にすると、 【パフォーマンス】 設定のすべてのルールが無効になります。
直接ストリーミングを有効化	Network Video Management System Web Client での直接ストリーミングの処理方法を選びます。ユーザーに直接ストリーミングを強制する、可能な場合にユーザーに直接ストリーミングを強制する、あるいは直接ストリーミングの使用をまったく強制しない、のいずれかを選択します。
デバイスが有効	NVMS Mobile クライアントのアクションの別個のログファイルでの記録を有効/無効にします。
ログファイルの場所	ログファイルが保存される場所へのパスです。
ログの保持期間	ログを保持する日数です(デフォルトは 3 日です)。
構成バックアップ	NVMS Mobile サーバーの構成をインポートまたはエクスポートします。システムは、構成を XML ファイルに保存しています。

接続

【全般】セクションで、次の設定を指定します。

名前	詳細
接続タイプ	<p>クライアントが NVMS Mobile サーバーに接続する方法を選択します。以下のオプションから選択できます。HTTP のみ、HTTP および HTTPS、または HTTPS のみ。</p> <p>注意：【HTTPS のみ】を選択する場合は、iOS 9.0 を実行するデバイスは、NVMS Mobile サーバーにインストールされた認証局(CA)が発行した証明書がある場合にのみ接続できます。CA は、インターネットでデータを交換するユーザーと Web サイトの身元を検証するデジタル証明書を発行します。CA の例は、Comodo、Symantec、GoDaddy などの企業です。安全な接続をオンにする前に、デジタル証明書の知識があることを確認してください。NVMS Mobile サーバーで証明書を追加する方法については、「証明書の編集 『160ページ』」を参照してください。</p>
クライアントタイムアウト(HTTP)	<p>モバイルサーバーが実行中であることを、NVMS Mobile クライアントで表示すべき時間枠を設定します。デフォルト値は 30 秒です。</p> <p>Sony では、この時間枠を長くしないことを推奨しています。</p>

【インターネットアクセス】セクションの設定は、次のタスクで使用されます。

- 接続設定の構成
- 電子メールメッセージを送信し、ユーザーがモバイルデバイスを NVMS Mobile サーバーに接続できるようにする
- 複雑なネットワークで NVMS Mobile サーバーへの接続を有効にする

サーバーステータス

Mobile サーバーのステータス詳細を表示します。詳細は読み取り専用です：

名前	詳細
サーバー有効化日	前回の停止後、Mobile サーバーが動作し続けている期間を示します。
CPU 使用	Mobile サーバーでの現在の CPU 使用状況を示します。
内部帯域幅	Mobile サーバーと関連するレコーディングサーバーの間で使用されている現在の帯域幅を示します。
外部帯域幅	モバイルデバイスと mobile サーバーの間で使用されている現在の帯域幅を示します。
ユーザー名列	Mobile サーバーのユーザーで、mobile サーバーに接続されているユーザー名を表示します。
状態列	Mobile サーバーと、対象となる NVMS Mobile クライアントのユーザーの間の現在の関係を表示します。ユーザーは接続されていますか(キーおよび暗号化用の認証資格情報を交換するサーバーの準備状態)、あるいはユーザーは実際にログインしていますか?考えられる状態: 接続中 および Network Video Management System にログイン中。

名前	詳細
帯域幅使用状況列	対象となる mobile サーバーのクライアントユーザーによる帯域幅の使用状況を表示します。
ライブストリーム列	対象となる NVMS Mobile クライアントのユーザーに対して現在開かれているビデオストリームの数を表示します。
ストリームの再生列	関連する mobile クライアントユーザーに対して現在開かれているビデオストリーム再生の数が表示されます。
ビデオプッシュストリーム	関連する mobile>クライアントユーザーに対して現在開かれているビデオプッシュストリームの数が表示されます。
直接ストリーム	関連する mobile のユーザーに対して現在開かれている直接ストリーミングを使用しているライブビデオストリームの数を表示します。

ビデオプッシュ

ビデオ配信を有効にする場合、以下の設定を指定します。

名前	詳細
ビデオプッシュ	Mobile サーバーでビデオ配信を有効にします。
チャンネル数	Network Video Management System システムで有効なビデオ配信チャンネルの数を指定します。
チャンネル列	関連するチャンネルのチャンネル数が表示されます。編集不可。
ポート	関連するビデオ配信チャンネルのポート番号。
MAC	関連するビデオ配信チャンネルの MAC アドレス。
ユーザー名	関連するビデオ配信チャンネルに関連するユーザー名を入力します。
カメラ名	カメラが特定されている場合、カメラの名前が表示されます。

必要なステップすべて 『151ページ の"ビデオを流すための「ビデオ・プッシュ」の設定"参照』が完了したら、**カメラの検索**をクリックして、関連するカメラを検索します。

調査

調査を設定し、Network Video Management System Web Client と NVMS Mobile を使用して、録画されたビデオにアクセスし、インシデントを調査し、証拠ビデオを準備およびダウンロードできるようにします。

次の表は、調査の設定を示します。

名前	詳細
調査フォルダ	調査用のビデオが保存される場所
調査のサイズを制限する	調査フォルダが含むことができる最大メガバイト数を入力します。
他のユーザーの調査を表示する	このチェックボックスを選択すると、ユーザーが自分が作成していない調査にアクセスできます。
AVI エクスポートのタイムスタンプを含む	このチェックボックスを選択すると、AVI ファイルがダウンロードされた日時が含まれます。

名前	詳細
AVI エクスポートで使用されたコーデック	ダウンロード用の AVI パッケージを準備するときに使用する圧縮形式を選択します。 選択するコーデックは、オペレーティングシステムによって異なる場合があります。必要なコーデックが表示されない場合は、NVMS Mobile が実行されているコンピュータにインストールすると、リストに追加されます。
失敗したエクスポートデータ (MKV および AVI エクスポート)	調査でダウンロード用に正常に準備されていないデータを保持するか、削除するかを選択します。

パフォーマンス

パフォーマンスタブで、NVMS Mobile サーバーのパフォーマンスに関して以下の制限を設定します：

レベル 1

レベル 1 は、NVMS Mobile サーバーにデフォルトで設定される制限です。ここで設定するすべての制限は、必ず NVMS Mobile のビデオストリームに適用されます。

名前	説明
レベル 1	チェックボックスを選択すると、NVMS Mobile サーバーのパフォーマンスに第一レベルの制限が適用されます。
最大 FPS	NVMS Mobile サーバーからクライアントへの送信のフレーム数/秒(FPS)の最大数について制限を設定します。
最大画像解像度	NVMS Mobile サーバーからクライアントへ送信される画像の解像度について制限を設定します。

レベル 2

レベル 1 でデフォルトである制限とは異なるレベルの制限を強制したい場合は、代わりにレベル 2 のチェックボックスを選択します。最初のレベルで設定したレベルより高い設定はできません。たとえば、レベル 1 で最大 FPS を 45 に設定すると、レベル 2 では、最大 FPS は 44 以下にしか設定できません。

名前	説明
レベル 2	チェックボックスを選択すると、NVMS Mobile サーバーのパフォーマンスに第二レベルの制限が適用されます。
CPU しきい値	システムがビデオストリームの制限を強制する前に、NVMS Mobile サーバーの CPU 負荷について閾値を設定します。
帯域幅しきい値	システムがビデオストリームの制限を強制する前に、NVMS Mobile サーバーの帯域負荷について閾値を設定します。
最大 FPS	NVMS Mobile サーバーからクライアントへの送信のフレーム数/秒(FPS)の最大数について制限を設定します。
最大画像解像度	NVMS Mobile サーバーからクライアントへ送信される画像の解像度について制限を設定します。

レベル 3

また、**レベル 3** チェックボックスを選択して、制限に関する第三レベルを作成することもできます。**レベル 1** および**レベル 2** で設定したレベルより高い設定はできません。たとえば、**レベル 1** で**最大 FPS** を 45 に、**レベル 2** で 32 に設定すると、**レベル 3** では**最大 FPS** は 31 以下にしか設定できません。

名前	説明
レベル 3	チェックボックスを選択すると、NVMS Mobile サーバーのパフォーマンスに第二レベルの制限が適用されます。
CPU しきい値	システムがビデオストリームの制限を強制する前に、NVMS Mobile サーバーの CPU 負荷について閾値を設定します。
帯域幅しきい値	システムがビデオストリームの制限を強制する前に、NVMS Mobile サーバーの帯域負荷について閾値を設定します。
最大 FPS	NVMS Mobile サーバーからクライアントへの送信のフレーム数/秒(FPS)について制限を設定します。
最大画像解像度	NVMS Mobile サーバーからクライアントへ送信される画像の解像度について制限を設定します。

システムは、あるレベルから別のレベルへすぐに切り替わることはありません。CPU または帯域の閾値の変動が指定されたレベルから 5 パーセント未満であれば、現在のレベルを使用し続けます。

全般タブでフルサイズの画像を有効にするを有効にすると、どのパフォーマンスレベルも適用されなくなります。

ログ設定

入力して、以下のログ設定を指定します：

名前	詳細
デバイスが有効	NVMS Mobile クライアントのアクションの別個のログファイルでの記録を有効/無効にします。
ログファイルの場所：	ログファイルが保存される場所へのパスです。
ログの保持期間：	ログを保持する日数です(デフォルトは 3 日です)。
CPU 使用状況：	ログでの警告をトリガする CPU 使用状況のデフォルトでのレベルです。
内部帯域幅：	ログでの警告をトリガする CPU 使用状況のデフォルトでのレベルです。
外部帯域幅：	ログでの警告をトリガする外部帯域幅使用状況のデフォルトでのレベルです。
確認頻度：	警告レベルを確認する時間枠のデフォルト(30 秒)です。

Mobile Server Manager

Mobile Server Manager について

Mobile Server Manager は、Mobile サーバーに接続されるトレイコントロール機能です。システムトレイで Mobile Server Manager のアイコンを右クリックすると、Mobile サーバーの機能に簡単にアクセスできるメニューが開きます。

次の操作に従ってください。

- Network Video Management System Web Client を開く 『18ページ の"Network Video Management System Web Client へのアクセス"参照 』
- Mobile サービスの起動、停止、再起動 『162ページ 』
- 監視サーバーの資格情報の入力または変更 『161ページ の"監視サーバーの資格情報の入力/編集"参照 』
- ポート番号の表示/編集 『162ページ 』
- 証明書の編集 『160ページ 』
- 今日のログファイルを開く 『160ページ の"ログへのアクセスおよびエクスポートについて"参照 』
- ログフォルダを開く 『160ページ の"ログへのアクセスおよびエクスポートについて"参照 』
- エクスポートフォルダを開く 『160ページ の"ログへのアクセスおよびエクスポートについて"参照 』
- Mobile サーバーのステータスを表示 『160ページ の"ステータスの表示について"参照 』

Network Video Management System Web Client へのアクセス

NVMS Mobile サーバーがコンピュータにインストールされている場合、Network Video Management System Web Client を使用して、カメラとビューにアクセスできます。Network Video Management System Web Client をインストールする必要はないため、NVMS Mobile サーバーをインストールしたコンピュータまたはこの目的で使用するその他のすべてのコンピュータからアクセスできます。

1. Management Application で NVMS Mobile サーバーを設定します。
2. NVMS Mobile サーバーがインストールされているコンピュータを使用している場合、システムトレイの NVMS Mobile サーバーアイコンを右クリックし、**[Network Video Management System Web Client を開く]**を選択します。
3. NVMS Mobile サーバーがインストールされているコンピュータを使用しない場合は、ブラウザからアクセスできます。このプロセスで手順 4 を続行します。
4. インターネットブラウザ(Internet Explorer、Mozilla Firefox、Google Chrome、Safari)を開きます。
5. 外部 IP アドレスを入力します。これは、NVMS Mobile サーバーが実行されているサーバーの外部アドレスとポート番号です。

例 : NVMS Mobile サーバーが IP アドレス 127.2.3.4 のサーバーにインストールされ、ポート 8081 で HTTP 接続を許可し、ポート 8082 で HTTPS 接続を許可するように設定されます (インストーラのデフォルト設定)。

ブラウザのアドレスバーに、標準 HTTP 接続を使用するか、安全な HTTPS 接続を使用するかによって、`http://1.2.3.4:8081` または `https://1.2.3.4:8082` と入力します。これで、Network Video Management System Web Client を使用できます。

- 今後、Network Video Management System Web Client に簡単にアクセスできるように、アドレスをブラウザのブックマークに追加します。NVMS Mobile サーバーをインストールしたローカルコンピュータで Network Video Management System Web Client を使用する場合は、インストーラで作成されたデスクトップショートカットも使用できます。ショートカットをクリックしてデフォルトのブラウザを起動し、Network Video Management System Web Client を開きます。

Network Video Management System Web Client の新しいバージョンを使用するには、Network Video Management System Web Client を実行しているインターネットブラウザのキャッシュをクリアする必要があります。システム管理者は、アップグレードの際に Network Video Management System Web Client ユーザーにブラウザのキャッシュのクリアを依頼するか、この操作をリモートで強制的に実行する必要があります（この操作を実行できるのは、ドメインでの Internet Explorer だけです）。

ステータスの表示について

Mobile Server Manager アイコンを右クリックし、**[ステータスの表示]**を選択するか、Mobile Server Manager アイコンをダブルクリックしてウィンドウを開き、Mobile サーバーのステータスを確認します。以下の情報を表示できます。

名前	詳細
サーバー実行日	Mobile サーバーが前回起動されたときの日付と時刻。
接続済みユーザー	現在 Mobile サーバーに接続されているユーザーの数。
ハードウェアのデコード	Mobile サーバーでハードウェアの高速デコードが実行中かどうかを示します。
CPU 使用	現在 Mobile サーバーが使用している CPU の%。
CPU 使用履歴	Mobile サーバーによる CPU 使用の履歴を詳しく示すグラフ。

ログへのアクセスおよびエクスポートについて

Mobile Server Manager により、その日のログファイルに迅速にアクセスし、ログファイルが保存されているフォルダを開き、エクスポートが保存されている先のフォルダを開くことができます。

これらのいずれかを開くには、Mobile Server Manager を右クリックし、**今日のログファイルを開く**、**ログフォルダを開く**、または**エクスポートフォルダを開く**を選択します。

重要：システムから NVMS Mobile をアンインストールする場合、そのログファイルは削除されません。適切な権限がある管理者は、後でこれらのログファイルにアクセスすることや、必要でなくなった場合に削除を決定することができます。ログファイルのデフォルトでの場所は、**[プログラムデータ]**フォルダです。ログファイルのデフォルトでの場所を変更する場合、既存のログは新しい場所へコピーされず、削除もされません。

証明書の編集

安全な HTTPS プロトコルを使用して、NVMS Mobile サーバーと、使用しているモバイルデバイスや Network Video Management System Web Client との間の接続を確立する場合、デバイスまたは Web ブラウザが接続を許可する有効な証明書が必要です。この証明書は、証明書所有者が接続を確立することを承認されていることを、裏付けます。

NVMS Mobile サーバーをインストールする場合、**標準**インストールを実行すると、自己署名証明書が生成されます。**カスタム**インストールを実行すると、自己署名証明書を生成するか、他の信頼済みサイトが発行した証明書が含まれているファイルをロードするかを、選択できます。

注意：iOS 9.0 を実行する安全な接続(HTTPS)デバイスを使用する場合は、NVMS Mobile サーバーにインストールされた認証局(CA)が発行した証明書がある場合にのみ接続できます。CA は、インターネットでデータを交換するユーザーと Web サイトの身元を検証するデジタル証明書を発行します。CA の例は、Comodo、Symantec、GoDaddy などの企業です。安全な接続をオンにする前に、デジタル証明書の知識があることを確認してください。

別の証明書を使用する場合は、次の手順を実行できます。

1. Management Application がインストールされているコンピュータで、**NVMS Mobile** サーバーアイコンを右クリックし、**【証明書の編集...】**を選択します。
2. 以下のいずれか 1 つを選択します。
 - 自己署名証明書を生成
 - 証明書ファイルの読み込み

自己署名証明書を生成

1. 自己署名証明書を生成オプションを選んで、**OK** をクリックします。
2. システムが証明書をインストールする間、数秒待ちます。
3. 完了すると、ウィンドウが開いて、証明書が正常にインストールされたことが知らされます。Mobile サービスが再起動し、変更が適用されます。

証明書ファイルを探す

1. 証明書ファイルを読み込むオプションを選びます。
2. 証明書ファイルのパスを入力するか、[...] ボックスをクリックすると、ファイルを参照できるウィンドウが開きます。
3. 証明書ファイルのパスワードを入力します。
4. 完了したら、**OK** をクリックします。

監視サーバーの資格情報の入力/編集

1. Mobile Server Manager を右クリックして、**監視サーバーの資格情報...**を選択します
2. サーバーの **URL** を入力します
3. 以下のどのユーザーでログインするかを選択します。
 - ローカルシステム管理者(資格情報は必要なし)、または
 - 指定されたユーザーアカウント(資格情報が必要)
4. 指定されたユーザーアカウントを選択した場合、**ユーザー名**と**パスワード**を入力します。
5. 完了したら、**OK** をクリックします。

ポート番号の表示/編集

1. Mobile Server Manager を右クリックして、**ポート番号の表示/編集...**を選択します。
2. ポート番号を編集するには、関連するポート番号を入力します。標準ポート番号(HTTP 接続用)および/または安全なポート番号(HTTPS 接続用)を指定できます。
3. 完了したら、**OK** をクリックします。

Mobile サービスの起動、停止、再起動

必要に応じて Mobile サービスを、Mobile Server Manager から起動、停止、再起動できます。

- これらのタスクのいずれかを実行するには、**Mobile Server Manager** を右クリックし、**Mobile サービスの起動**、**Mobile サービスの停止**、または **Mobile サービスの再起動** を選択します。

よくある質問(FAQ)

1. **NVMS Mobile クライアントからレコーディング/NVMS Mobile サーバーに接続できないのはなぜですか。**

録画に接続するには、お使いの Network Video Management System システムを実行しているサーバーか、専用サーバーに NVMS Mobile サーバーをインストールする必要があります。Network Video Management System ビデオ管理設定で、関連する NVMS Mobile 設定も行う必要があります。これらは、プラグインまたは製品インストールまたはアップグレードの一部としてインストールされます。NVMS Mobile サーバーを取得する方法および NVMS Mobile クライアント関連設定を Network Video Management System システムで統合する方法の詳細については、設定セクション 『149ページ の "NVMS Mobile 構成"参照』を参照してください。

2. **NVMS Mobile を Network Video Management System Enterprise Edition サーバーにインストールしたのですが、自分のデバイスからサーバーに接続できません。何が問題ですか。**

NVMS Mobile サーバーを Network Video Management System Enterprise Edition (4.0 以上)にインストールした後、NVMS Mobile プラグインをインストールし、Network Video Management System Enterprise Edition 設定で NVMS Mobile サーバーを表示する必要があります。NVMS Mobile プラグインをインストールした後、**[サーバー] > [モバイルサーバー]**の下でプラグインを見つけ、右クリックして新しいモバイルサーバーを追加します。ここでは、お使いの NVMS Mobile サーバーに関する詳細を追加します（サーバー名、説明（オプション）、サーバーアドレス、ポートなど）。完了したら、NVMS Mobile サービス(Windows Services)を再起動し、デバイスに再接続します。

3. **NVMS Mobile サーバー/ロケーション/サイトを NVMS Mobile クライアントに追加するにはどのようにするのですか。**

NVMS Mobile クライアントからこの手順を実行できます。初めて開くときには、カメラからビデオを取得するために、1 つ以上のモバイルサーバーを追加する必要があります。追加した NVMS Mobile サーバーがアルファベット順に一覧表示されます。必要なログイン資格情報がある場合は、任意の数の NVMS Mobile サーバーを追加できます。

4. **NVMS Mobile クライアントでビデオを表示するときに、時々画質が低下するのはなぜですか。**

NVMS Mobile サーバーは、サーバーとクライアント間で使用可能な帯域幅に従って、自動的に画質を調整します。Network Video Management System Smart Client より画質が低くなった場合、NVMS Mobile クライアントを通してフル解像度の画像を取得するには帯域幅が小さすぎる可能性があります。

この理由は、サーバーからのアップストリーム帯域幅が小さ過ぎるか、クライアントのダウンストリーム帯域幅が小さ過ぎるかのいずれかが考えられます。Web サイト

<http://www.sony.net/CameraSystem/NVMS/Manuals> からダウンロードできる **Network Video Management System Smart Client ユーザーマニュアル**を参照してください。

混合ワイヤレス帯域幅のエリアにいる場合は、より良い帯域幅のエリアに入ると、画質が改善される場合があります。

5. どのようにしてビューを作成するのですか？

NVMS Mobile クライアントでビューを作成または設定することはできません。既に Network Video Management System Smart Client で作成されたビューと関連する名前を使用します。ビューを設定していない場合は、**【すべてのカメラ】**ビューを使用して、システムのすべてのカメラを表示できます。後からいつでも Network Video Management System Smart Client にその他のビューを追加できます。

6. 新しい NVMS Mobile ユーザーを追加するにはどのようにするのですか。

NVMS Mobile ユーザーは他の Network Video Management System ユーザーとほとんど同じです。新しい NVMS Mobile ユーザーは、Management Application で新しいユーザーを追加する場合と同じ方法で追加します。ナビゲーションペインで**【ユーザー】**を右クリックし、**【新しい基本ユーザーの追加】**または**【新しい Windows ユーザーの追加】**を選択します。新しい基本ユーザーを選択した場合は、システムに応じて、サーバーログイン方法を**自動**または**基本のみに**変更する必要があります。Management Application の**【サーバー】** > **【モバイルサーバー】**の下にあるモバイルサーバーエントリの**【全般】**タブにある**【ログイン方法】**ドロップダウンメニューからサーバーログイン方法を変更します。

7. 自分のパン/チルト/ズーム (PTZ) カメラをコントロールして、NVMS Mobile クライアントのプリセットを使用することはできますか。

はい。NVMS Mobile クライアントでは、接続された PTZ カメラを制御し、ライブモードでプリセットを使用できます。

8. どうすれば録画を操作できますか。

Android: 再生モードで記録映像を操作することができます。再生モードで表示するカメラを選択し、**【メニュー】** > **【再生】**を選択します。再生モードでは、コントロールボタンを使って記録を検索することができます。また、**【メニュー】** > **【時間に移動】**を選択して、特定の時間に移動することもできます。**【時間に移動】**を選択したら、表示する日付と時刻を選択します。

iOS: 再生モードで記録映像を操作することができます。再生モードで表示するカメラを選択し、**【再生】**をタップします。再生モードでは、コントロールボタンを使って記録を検索することができます。また、**【メニュー】** > **【時間に移動】**を選択して、特定の時間に移動することもできます。**【時間に移動】**を選択したら、表示する日付と時刻を選択して、**【確認】**をクリックします。

9. ライブビデオと録画済みビデオを同時に見ることはできますか？

はい。再生モードでは、同じカメラから小さいピクチャインピクチャ (PiP) ビューを取得します。

10. 3G データプランなしで NVMS Mobile クライアントを使用することはできますか。

はい。Wi-Fi 経由で NVMS Mobile を使用できます。Network Video Management System システムと同じネットワークでローカルに使用するか、カフェの公共ネットワークや自宅ネットワークなどの別の場所で使用できます。公共ネットワーク上の帯域幅は変動することがあり、ビデオストリームの画質に影響を与える可能性があることにご注意ください。

11. 4G/LTE データプランで NVMS Mobile クライアントを使用することはできますか。

はい、お使いの Network Video Management System 動画管理システムに接続するインターネットにアクセスできるモバイルデバイスのすべてのデータ接続を使用することができます。

12. 複数のサーバーを NVMS Mobile クライアントに追加することはできますか。

初めて NVMS Mobile クライアントを開くときには、カメラからビデオを取得するために、1 つ以上のモバイルサーバーを追加する必要があります。これらのモバイルサーバーはアルファベット順に一覧表示されます。別のサーバーからビデオを取得する場合は、この手順を繰り返します。関連するログイン資格情報がある場合は、任意の数のモバイルサーバーを追加できます。

13. 自分のオフィスで Wi-Fi を使用して自宅で Network Video Management System 動画管理システムに接続する際の画質が悪いのはなぜですか。

ご自宅のインターネットの帯域幅を確認してください。多くの民間のインターネット接続は、ダウンロードおよびアップロードの帯域幅が異なります。例えば、20 Mbit/2 Mbit のように記載されています。これは、自宅でのインターネット利用者は大量のデータをインターネットにアップロードする必要がありますが、お使いの接続のアップロード速度による制限を受けます。NVMS Mobile クライアントのネットワークのダウンロード速度が良好であるのに、複数の場所で低画質のままである場合、ご自宅のインターネット接続のアップロード速度をアップグレードすることで問題が解決される可能性があります。

14. スクリーンショットはどこに保存されるのですか。

Android : スナップショットは、デバイスの SD カード (`/mnt/sdcard/Network Video Management System`) に保存されます。

iOS : スナップショットは、お使いのデバイスに保存され、お使いのデバイスの写真からアクセスすることができます。

Android または iOS のデフォルト設定は変更できません。

15. HTTPS 接続を使用して Network Video Management System Web Client を実行するときに、セキュリティ警告を表示させないようにするにはどのようにするのですか。

認証資格情報のサーバーアドレス情報が正しくないため、警告が表示されます。接続は暗号化されます。NVMS Mobile サーバーの自己署名証明書は、NVMS Mobile サーバーに接続するために使用されるサーバーアドレスと一致する独自の証明書で置換する必要があります。これらの証明書は、Verisign などの正式な証明書署名機関から取得されます。詳細については、選択した署名機関にお問い合わせください。NVMS Mobile サーバーは Microsoft IIS を使用しません。つまり、IIS を使用して署名機関によって証明書署名要求 (CSR) を生成するために提供されている手順は、NVMS Mobile サーバーには適用されません。コマンドライン証明書ツールまたは同様の他社製アプリケーションを使用して、CSR ファイルを手動で作成する必要があります。この手順は、システム管理者または上級ユーザーのみが実行してください。

16. 私のプロセッサはハードウェアアクセラレーションデコードをサポートしていますか。

Intel の新しいプロセッサのみがハードウェアアクセラレーションデコードをサポートしています。プロセッサがサポートされているかについては、Intel 社の Web サイト <http://ark.intel.com/search/advanced?s=t&MarketSegment=DT&QuickSyncVideo=true> を参照してください。

メニューで、**[技術] > [Intel Quick Sync Video]** が **[はい]** に設定されていることを確認します。

プロセッサがサポートされている場合は、ハードウェアアクセラレーションデコードがデフォルトで有効です。Mobile Server Manager の **[ステータスの表示]** 『160 ページ の“ステータスの表示について” 参照』で現在のステータスを確認できます。

17. 私のオペレーティングシステムはハードウェアアクセラレーションデコードをサポートしていますか。

Windows 8 および Windows Server 2012 以降のみがサポートされます。

Intel 社の Web サイトから取得した最新のグラフィックドライバをシステムにインストールしてください。これらのドライバは Windows Update から取得できません。

モバイルサーバーが仮想環境にインストールされている場合は、ハードウェアアクセラレーションデコードはサポートされません。

18. どのようにモバイルサーバーのハードウェアアクセラレーションデコードを無効にするのですか。(詳細)

モバイルサーバーのプロセッサがハードウェアアクセラレーションデコードをサポートする場合、デフォルトで有効です。ハードウェアアクセラレーションデコードをオフにするには、次の手順を実行します。

1. VideoOS.MobileServer.Service.exe.config ファイルを見つけます。標準的なパス : C:\Program Files\Sony\NVMS Mobile Server\VideoOS.MobileServer.Service.exe.config
2. メモ帳などのテキストエディタでファイルを開きます。必要に応じて、ファイルタイプ.config をメモ帳に関連付けます。
3. フィールド<add key="HardwareDecodingMode" value="Auto" />を見つけます。
4. "Auto"の値を"Off"に置換します。
5. ファイルを保存して閉じます。

19. ファイアウォールをオンにした後、モバイルデバイスを自分のサーバーに接続できません。なぜですか。

NVMS Mobile サーバーのインストール中にファイアウォールをオフにした場合、手動で TCP と UDP 通信を有効にする必要があります。

アラーム

アラームについて

アラーム機能は、に基づく機能であり、イベントサーバーによって処理される機能を使用します。組織全体での任意数のシステムのインストールにより、アラームを一元的に確認し、管理することができます。

以下のいずれかによりアラームが生成されるように設定できます：

- **内部イベント (システム関連)：** 例：モーション、サーバーの応答/非応答、アーカイブに関する問題、ディスク空き容量不足など。
- **外部イベント (統合)：** 例：プラグインイベント。

また、アラーム機能は一般的なアラームの設定やアラームのログの処理も含まれます。

アラームの設定

アラーム設定には以下が含まれます。

- ユーザーのアクセス権に基づくアラーム処理のダイナミックセットアップ
- 全コンポーネントの一元的確認：サーバー、カメラ、外部ユニット

- すべての受信アラームとシステム情報の一元的ログ設定

アラームの表示

以下に、誰がどの程度アラームを表示/制御/管理できるかなど、アラームについての役割を挙げます。これは、アラームを発生させるオブジェクトの視認性によりアラームが制御されるためです。

- ソース/デバイス視認性：アラームを発生させるデバイスが、ユーザーが認識できるように設定されていない場合、ユーザーは Network Video Management System Smart Client のアラームリストのアラームを確認することはできません。
- 手動で定義されたイベントをトリガできる権限：手動で定義されたイベントをシステムで利用できる場合、これらによって、手動で定義されたイベントをユーザーが Network Video Management System Smart Client でトリガできるかどうかが決まります。
- 外部プラグイン：外部プラグインがシステムで設定されている場合、これらがアラームを処理するユーザーの権限をコントロールする場合があります。
- 一般的なアクセス権限：ユーザーがアラームを確認できる（だけ）か、あるいはアラームを管理できるかを決定できます。

アラームの時間プロフィール：

アラームは、（アラームの）時間プロフィール 『167ページ の"（アラームの）時間プロフィールの追加"参照』に基づきます。アラームの時間プロフィールとは、アラームの定義を作成する際に使用する期間です。たとえば、月曜日の 2:30 PM から 3:30 PM までをカバーするアラームの時間設定を作成し、その時間設定を使ってこの期間内だけ特定のアラーム定義が有効にすることができます。

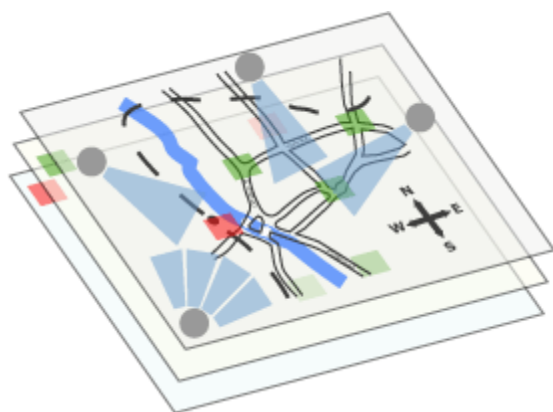
アラームおよび Network Video Management System Smart Client

アラームは、Network Video Management System Smart Client のアラームリストに表示されます。ここで、アラームを表示および管理して、アラームの処理の概要表示、委任、処理を簡単に行えます。

アラームをマップ機能 『167ページ の"マップについて"参照』に統合できます。このように、アラーム機能は強力な監視ツールであり、アラームおよび技術的な問題の可能性の概要を即座に提供できます。

マップについて

マップをアラームの一部として統合することにより、監視システムの物理的配置を把握できます。カメラをマップに配置する機能により、アラームの発生源、カメラの配置、向きなどをいつでも知ることができます。また、俯瞰マップから詳細マップへ（または反対方向へ）移動することもできます。都道府県マップを例として、このマップ上へ、都市・近隣・道路・見取り図などのより詳細なマップへ移動するためのホットゾーン（地図上の小さいアイコン）を配置できます。



例：マップの階層

マップについてのすべての対話処理（マップの追加・管理を含む）は Network Video Management System Smart Client 上で行います。

詳細については、Network Video Management System Smart Client のドキュメントを参照してください。マップを使用するには、Event Server サービスが動作中である必要があります。監視サーバーのインストール『28ページ の"システムソフトウェアのインストール"参照』で標準インストールを実行していれば、Event Server サービスは自動的に含まれています。

アラームの追加

アラームを追加または設定するには

1. アラームを展開し、**アラーム定義**を右クリックし、**新規作成**を選択します。
2. 必要なプロパティ 『168ページ の"アラーム定義"参照』を指定します。**OK** をクリックします。
3. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

アラームの詳細概要や機能の動作原理については、アラームについて 『165ページ』を参照してください。

（アラームの）時間プロファイルの追加

時間プロファイルは、アラーム機能でのみ使用される期間です。

アラームに時間プロファイルを追加するには、次の手順を実行してください。

1. アラームを展開し、**時間プロファイル**を右クリックし、**新規作成**を選択します。**時間プロファイルプロパティ**ウィンドウの右上の小さな月の概要には、時間プロファイルが対応する期間の概略が簡単に表示されます。指定された時間を含む日付が太字で強調表示されます。
2. カレンダーで、**日ビュー**、**週ビュー**、**月ビュー**のタブを選択してから、カレンダーの内側を右クリックして、1つの時間を追加... または**繰り返し時間を追加...**のいずれかを選択します。

3. **1つの時間を追加...**を選択した場合は、**開始時間**と**終了時間**を指定します。時間が終日に渡る場合は、**終日イベント**ボックスを選択します。

—あるいは—

繰り返し時間を追加...を選択する場合は、時間の範囲、繰り返しパターン、および繰り返し範囲を指定します。**OK** をクリックします。

4. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

既存の時間プロファイルを編集する場合、時間プロファイルには2つ以上の期間が含まれ、期間が繰り返される場合もあることに留意してください。

アナリティックイベントは、一般的に、外部のサードパーティのビデオコンテンツ分析(VCA)プロバイダから受信したデータです。VCA ベースのシステムの例として、アクセスコントロールシステムが挙げられます。

アラームプロパティ

アラーム定義

アラーム定義 『167ページ の"アラームの追加"参照 』を設定する際は、以下を指定します。

有効	アラーム機能を有効にします。
名前	名前を入力します。アラームが一覧表示されると、アラームの名前が表示されます。 アラーム名は一意である必要はありません。
詳細	説明（オプション）を入力します。
イベントのトリガ	この最初のリストは、システムレベルのイベントとプラグインからのイベント（たとえば、アクセスコントロールシステムなど）の両方を表示します。 2 番目のリストでは、アラームがトリガされた時に使用するイベントメッセージを選択します。
ソース	アラームをトリガするためのイベントが発生するカメラおよびその他のデバイスを選択します。 選択できるオプションは、選択したイベントのタイプによります。
時間プロファイル	時間プロファイル を選択した場合は、アラームのトリガがいつ有効になるかを選択しなければなりません。アラームの時間プロファイル 『167ページ の"（アラームの）時間プロファイルの追加"参照 』を指定していない場合は、 常時 だけが選択できます。1 つまたは複数の時間プロファイルを定義している場合、このリストから選択します。
対象のイベント	対象のイベント を選択する場合、アラームを開始および終了させるイベントを選択しなければなりません。選択できるイベントは、カメラ、ビデオサーバーおよび入力で定義されたハードウェアイベント 『100ページ の"イベントおよび出力の概要"参照 』です。グローバル/手動イベント定義 『104ページ の"手動イベントの追加"参照 』も使用できます。 対象のイベント を選択する場合、出力に基づいてアラームを定義することはできず、入力のみであることに注意してください。
時間制限	その制限内でオペレータがアラームに応答しなければならない時間制限を選択します。

イベントがトリガーされました	時間制限 で指定される限度内にオペレータが反応しなかった場合にトリガされるイベントを選択します。これには、たとえば E メール、SMS の送信などが挙げられます。
関連するカメラ	そのカメラ自体がアラームをトリガしなくても、アラームの定義に含めるカメラを選択します（最大で 15 台）。これは、例えば外部イベントメッセージ（ドアが開いているなど）をアラームのソースとして選択している場合に関係します。ドア付近のカメラ 1 台または複数を選択することで、カメラの録画のインシデントをアラームに関連付けることができます。
関連するマップ	アラーム定義と関連付けるマップを選択します。 選択したマップは、アラームがリストされるたびに、Network Video Management System Smart Client で自動的に表示されます。これによって、アラームの物理的位置をよりすばやく特定できます。
初期アラームの所有者	アラームに対して責任を負うデフォルトのユーザーを選択します。アラームの原因となったイベントのソースとして選択されている すべての カメラおよびその他のデバイスを表示できるユーザーからだけ選択できます。
初期アラームの優先度	アラームの優先度（ 高 、 中 または 低 ）を選択します。優先度は、Network Video Management System Smart Client での分類や、ワークフローの管理に使用できます。
初期アラームのカテゴリ	アラームを最初に割り当てるべきカテゴリを選択します。これには、たとえばどのカテゴリが定義されているかに応じて、 ビル 01 、 侵入 、 東エレベータ などになります。
アラームでトリガされるイベント	Network Video Management System Smart Client でアラームによってトリガされるイベントを定義できます（必要な場合）。
アラームを自動で閉じる	特定のイベントでアラームを自動的に閉じるかどうかを選択できます。これは、一部（全部ではない）のイベントによってトリガされるアラームで可能です。

また、アラーム設定の詳細情報については、アラームデータ設定 『169ページ』およびアラームサウンド設定 『170ページ の"サウンド設定"参照』も参照してください。

アラームデータ設定

アラームデータ設定を行う際には、以下を指定します。

アラームデータレベルタブ、プロパティ

レベル	選択したレベル番号の新しい優先度を追加するか、デフォルトの優先度レベル（ 1 、 2 、 3 などの数）を使用/編集します。これらの優先度レベルは、 初期アラームの優先度 設定 『168ページ の"アラーム定義"参照』を行うために使用されます。
名前	エンティティの名前を入力します。必要な数だけ作成できます。
サウンド	アラームに関連付けられる音声を選択します。デフォルトの音声を使用するか、音声の設定 『170ページ の"サウンド設定"参照』に追加します。

アラームデータレベルタブ、ステータス

レベル	選択したレベル番号の新しい状態を追加します。このような状態レベルは、Network Video Management System Smart Client のアラームリストにのみ表示されます。デフォルト状態レベル 1、4、9、11 は、編集や再利用ができません。
名前	エンティティの名前を入力します。必要な数だけ作成できます。

アラームデータレベルタブ、カテゴリ

レベル	選択したレベル番号の新しいカテゴリを追加します。これらのカテゴリレベルは、 初期アラームの優先度 設定『168ページ の"アラーム定義"参照』を行うために使用されます。
名前	エンティティの名前を入力します。必要な数だけ作成できます。

アラームリスト設定タブ

使用可能な列で、>を使用して、Network Video Management System Smart Client アラームリストでどの列を使用可能にするか選択します。<を使用して選択をクリアします。完了したら**選択した列**には、含める項目が表示されます。

終了の理由タブ

有効	すべてのアラームが閉じられる前に、閉じる理由を割り当てる必要があるようにするには、選択して有効にします。
理由	アラームを閉じる際にユーザーが選択できる、閉じる理由を追加します。例として、 解決済み-侵入者 または 偽警告 が挙げられます。必要な数だけ作成できます。

サウンド設定

サウンド設定を行う際には、以下を指定します。

音声	<p>アラームに関連付けられる音声を選択します。音のリストには、デフォルトの Windows 音が多数含まれています。これらは編集できません。ただし、パルス符号変調 (PCM) でエンコードされている場合のみ、ファイルタイプ .wav の新しい音を追加できます。</p> <p>デフォルト音は Windows のサウンドファイルですが、ローカル Windows 設定によっては、マシンによって音が異なる場合があります。ユーザーがこれらのサウンドファイルの一部を削除している場合、再生できない場合もあります。すべての状況で音が同一に再生されるためには、PCM でエンコードされた独自の .wav ファイルをインポートして使用する必要があります。</p>
追加	サウンドをシステムに追加します。1 つ以上の .wav ファイルをアップロードするための音をブラウズできます。
削除	<p>選択された音を、手動で追加された音の一覧から削除します。</p> <p>デフォルトのサウンドは削除できません。</p>
テスト	音をテストできます。リストから音を選択します。音が 1 回再生されます。

時間プロファイル

時間プロファイル 『167ページ の" (アラームの) 時間プロファイルの追加"参照 』の設定を行う際には、以下を指定します。

名前	時間プロファイルの名前を入力します。
詳細	説明 (オプション) を入力します。
1 つの時間を追加	カレンダーを右クリックして、 1 つの時間を追加 を選択します。 開始時間 と 終了時間 を指定します。時間が終日に渡る場合は、 終日イベント を選択します。
繰り返し時間を追加	カレンダーを右クリックして、 繰り返し時間を追加 を選択します。時間範囲、繰り返しパターン、および繰り返し範囲を指定します。
時間を編集	<p>カレンダーを右クリックし、時間を編集を選択します。開始時間と終了時間を指定します。時間が終日に渡る場合は、終日イベントを選択します。</p> <p>既存の時間プロファイルを編集する場合、時間プロファイルには 2 つ以上の期間が含まれ、期間が繰り返される場合もあることに留意してください。時間プロファイルに追加期間を含めたい場合は、1 つの時間または繰り返し時間を追加します。</p>

オプション

自動デバイス検出について

自動デバイス検出により、ネットワークへ接続したハードウェアデバイスを、直ちにかつ自動的にシステムへ追加することができます。自動デバイス検出を有効にすると、システムはユーザーによる操作を必要とせず自動的にハードウェアデバイスを設定します。自動インストールが完了したハードウェアデバイスは、すぐに Network Video Management System Smart Client でアクセス可能になります。

注意：

- すべてのハードウェアデバイスが、自動デバイス検出をサポートしているわけではありません。
- ハードウェアデバイスの自動デバイス検出への応答は異なります。システムは、一部のハードウェアデバイス（Axis モデル P3301 および P3304 など）は自動的にシステムに追加できますが、他のベンダーの一部のデバイス（ソニーのモデル SNC-EB520、EM520、E521 など）では、システムに自動的に追加されるためにカメラを一度オフにして、再度オンにする必要があります。
- システムがオンラインではない場合、必ず、ハードウェアデバイスライセンスをオフラインで認証してください。

デフォルトのファイルパスの変更

デフォルトのファイルパスを変更するには：

1. 設定パスを変更したい場合は、すべてのサービスを停止します。デフォルトの録画やアーカイブ パスを変更する場合は、このステップは不要です。
2. オプション > デフォルトのファイルパス...へ移動します。
3. これで、必要なパスが上書きされます。あるいは、フィールドの横にある参照ボタンをクリックして、場所を参照することも可能です。デフォルトの録画パスについては、**ローカル**ドライブのフォルダへのパスしか指定できません。

デフォルトの録画やアーカイブのパスを変更し、古い場所に既存の録画ある場合、録画を新しい場所へ移動するか、古い場所に残すか、あるいは削除するかを選択する必要があります。Sony は録画を新しい場所へ移動することをお勧めします。

4. 変更を確認したら、すべてのサービスを再起動します。

設定

一般

言語

MA>は、複数の言語で使用できます。言語のリストで、使用したい言語を選択します。Management Application を再起動すると、言語の変更が反映されます。

ユーザーインターフェース

Management Application の動作方法を変更することができます。

カメラプレビュー	Management Application でカメラをプレビューするときにライブビデオまたはスナップショットを表示するか、何も表示しないかを指定します。
動作設定	<p>自分または他の Management Application ユーザーが実行するさまざまなアクションに対して Management Application が動作する方法を指定します。</p> <p>Management Application はさまざまなアクションを確認するように要求します。これが不要であると思う場合、Management Application の動作を変更して、確認を求めないようにできます。</p> <p>変更できるアクションの例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ハードウェアデバイスを削除する場合に、Management Application にハードウェアデバイスの削除を確認させるか、確認なしでハードウェアデバイスを削除できるようにすることができます。 使用しているシステムに応じて、システムで使用できるカメラ数には制限があります。許可されるカメラの数を超えて、カメラを追加しようとした場合にシステムに警告させるように選択できます。 カメラをプレビューする際にライブビデオを表示するか、あるいはスナップショットを表示したり、カメラのプレビューを行わないようにできます。
デフォルトの復元の設定	すべての動作設定をデフォルト値に復元する場合は、このボタンをクリックします。

ハードウェアデバイスの接続

自動デバイス検出

自動デバイス検出 『172ページ の"自動デバイス検出について"参照』は、システムのデフォルトではオフになっています。この機能を有効にするには、チェックボックスを選択します。

検出されたカメラがデフォルトのユーザー名やパスワード以外に別のユーザー名やパスワードを使用する必要がある場合は、カメラのデフォルトのユーザー名とパスワードに加え、次の認証資格情報を使用するチェックボックスを選択して、関連する資格情報を入力します。

すべてのデバイスが、自動デバイス検出をサポートしているわけではありません。システムがデバイスを検出せず、システムに追加されない場合、デバイスを手動で追加する必要があります。

接続されたハードウェアデバイスでの時刻の同期

接続されたハードウェアデバイスとシステムのタイムスタンプが同じであることを保証するには、時刻サーバー『12ページ の"タイムサーバーについて"参照』の使用を有効にします。ハードウェアデバイスとシステムの時刻が同期されていることを保証する時刻サーバーに対して、ハードウェアデバイスがリンクアップしていない場合は、システムがハードウェアデバイスからの録画をすべて一緒に停止するリスクがあります。

設定	詳細
時刻サーバーとしての録画サーバーの使用（推奨）	<p>システムのソフトウェアの以前のインストールからアップグレードした場合のデフォルトシステム設定。</p> <p>録画サーバーを使用して、ハードウェアデバイスとシステム間で時刻を同期します。</p> <p>Sony は、この設定を使用することをお勧めします。</p>
このネットワーク時刻プロトコル（NTP）サーバーを使用する	<p>録画サーバーではなく、時刻同期用に NTP サーバーを使用します。</p> <p>使用するには、NTP サーバーの正確なアドレスを入力する必要があります。</p> <p>Sony は、上級者のシステム管理者のみがこの設定を使用することをお勧めします。</p>
接続されたハードウェアデバイスでの時刻を同期しない	<p>システムのソフトウェアの以前のインストールからアップグレードした場合のデフォルト設定。</p> <p>ハードウェアデバイスとシステム間で時刻同期を実行しない場合は、この設定を使用します。</p> <p>システムがハードウェアデバイスとシステム間で一貫した時刻を検出した場合は、ハードウェアデバイスは録画を停止することがあります。</p>

IP アドレス割り当て設定

ネットワークに接続するときに IP アドレスをハードウェアデバイスに割り当てるための 3 つの設定があります。各設定には固有の利点と問題点があります。DHCP サーバーの使用をサポートしていないカメラがあることにご注意ください。

設定	詳細	利点	問題点
IP アドレスを接続されたデバイスに割り当てするための DHCP サーバーの使用	<p>動的ホスト構成プロトコル (DHCP) サーバーを使用して、システムに接続するデバイスに自動的に IP アドレスを割り当てます。</p> <p>DHCP サーバーを使用しない場合は、デバイスはあらかじめ割り当てられた IP アドレスを保持するか、動作しない可能性がある自己構成された IP アドレスを使用します。</p>	<p>DHCP サーバーは使用可能な IP アドレスを追跡し、ネットワークに追加されたときにデバイスに追加します。</p> <p>再構成せずに、ネットワーク間でデバイスを移動できます。</p> <p>これはシステムのソフトウェアの以前のインストールからアップグレードした場合のデフォルトシステム設定です。</p>	<p>デバイスは IP アドレスを変更できるため、構成の IP アドレスは一致しなくなります。</p>
デバイスを接続するときに、IP アドレスを割り当てないでください。	<p>IP アドレスは、システムに接続されたデバイスに割り当てられません。デバイスは現在の設定を保持します。たとえば、固定 IP アドレスまたは DHCP で割り当てられた IP アドレスがあります。</p>	<p>IP アドレスの割り当てに関するあらゆることをご自分で制御してください。</p> <p>これはシステムのソフトウェアの以前のインストールからアップグレードした場合のデフォルトシステム設定です。</p>	<p>使用可能な IP アドレスを自分で追跡する必要があります。</p>
この範囲から固定 IP アドレスを接続されたデバイスに割り当てる：	<p>指定された範囲の固定 IP アドレスは、システムに追加された各個別のデバイスに割り当てられます。</p>	<p>割り当てられた IP アドレスは変更されません。</p>	<p>別のネットワークに移動する前に、デバイスを再構成する必要があるため、すべてのデバイスを再構成してネットワークを変更する必要があります。</p>

動的ホスト構成プロトコル (DHCP) サーバーは、動的にネットワーク構成パラメータを配布するために IP ネットワークで使用される標準ネットワークプロトコルです。DHCP では、デバイスは DHCP サーバーから自動的に IP アドレスとネットワークパラメータを要求します。DHCP サーバーの使用により、ネットワーク管理者またはユーザーがこのような設定を手動で構成する必要性が減ります。

デフォルトのファイルパス

システムでは、多数のデフォルトファイルパスを使用します。必要に応じて、これらのパスを変更できます。

新しいカメラのデフォルト録画パス	<p>追加するすべての新しいカメラは、デフォルトでは、録画の保存でこのパスを使用します。</p> <p>必要であれば、各カメラの録画パスを、各カメラの個別の設定『87ページの“録画およびアーカイブパス”参照』の一部として変更できますが、追加するすべての新しいカメラが選択したパスを使用するようにしたい場合は、デフォルトの録画パスを変更することもできます。</p>
------------------	---

新しいカメラのデフォルトアーカイブパス	追加するすべての新しいカメラは、デフォルトでは、アーカイブ 『117ページ の"アーカイブについて"参照 』 でこのパスを使用します。 必要であれば、各カメラのアーカイブパスを、各カメラの個別の設定の一部として変更できますが、追加するすべての新しいカメラが選択したパスを使用するようにしたい場合は、デフォルトの録画パスを変更することもできます。アーカイブでダイナミックパスを選択 『70ページ の"ダイナミックパスの選択（プロパティ）"参照 』 している場合、カメラ固有のアーカイブパスは関係しないことに注意してください。
設定パス	システム設定の保存に使用するデフォルトパスです。

オーディオ・レコーディング（音声記録）

新しいカメラをシステムに追加する際、既定の音声記録を特定して下さい。

決して	システムは、貴方のカメラから決して音声を記録しません。
ビデオを記録する場合だけ	貴方のシステムがビデオを記録する際にだけ、貴方のカメラの音声を記録します
常に	このシステムは、貴方のカメラの音声を常に記録します。

後で、各カメラの設定を個別に変更できます。

アナリティックイベント（プロパティ）

アナリティックイベントでは、以下を指定できます。

デバイスが有効	アナリティックイベント機能を有効にしてください。
ポート	このサービスで使用するポートを指定します。デフォルトポートは 9090 です。 関連する VCA ツールプロバイダもこのポート番号を使用するようにしてください。ポート番号を変更した場合、これらの VCA ツールプロバイダも各ポート番号を変更するようにしてください。
次によって許可されるイベント： すべてのネットワークアドレスまたは指定ネットワークアドレス	すべての IP アドレス/ホスト名からのイベントが使用可能か、またはリストにある IP アドレス/ホスト名からのイベントのみが許可されるかを指定できます。 アドレス リストで、このサービスに認識して欲しい信頼できる IP アドレス/ホスト名のリストを指定できます。このリストは、特定の IP アドレス/ホスト名からのイベントだけが許可されるように受信データをフィルタリングするために使用します。 リストでは、ドメインネームシステム（ DNS ）と IPv4 アドレス形式の両方を使用できます。 リストにアドレスを追加する方法は 2 種類あります。 <ul style="list-style-type: none">手動: アドレスリストに必要な IP アドレス/ホスト名を入力します。必要なアドレスを繰り返します。外部リストをインポート: 以下を参照してください。

インポート	インポート...ボタンをクリックして、必要なアドレスの外部リストを参照します。外部リストをインポートするには、.txt ファイル形式でリストを保存します。各 IP アドレスまたはホスト名はファイルの各行に表示される必要があります。
-------	---

イベントサーバー設定

イベントサーバーには、動作を変更できるさまざまな設定があります。以下のイベントサーバー設定を指定できます。

終了したアラームの保持期間	<p>システムで終了したアラーム保持する日数を指定します。終了したアラームは処理済み、無視、および拒否ステータスです。</p> <p>通常、この値は低い値に設定され、容量要件を低くしますが、サーバー領域に応じて最大 99999 日までの数値を定義できます。</p> <p>終了したアラームを無期限に保持するには、値 0 を使用します（サーバー領域による）。</p>
他のすべてのアラームの保持期間	<p>他のすべてのアラームの保存日数を指定できます（つまり、処理済、無視、および拒否ステータスでないアラーム）。</p> <p>これは通常、たとえば 30 日などのある程度大きい数に設定しますが、サーバーの領域に応じて、最大で 99999 日まで指定できます。</p> <p>すべての他のアラームを無期限に保持するには、値 0 を使用します（サーバー領域による）。</p>
ログの保持期間	<p>システムでアラームログを保持する日数を指定します。デフォルトは 30 日です。</p> <p>ログを無期限に保持するには、値 0 を使用します（サーバー領域による）。</p>
ログサーバー通信	<p>一定の日数、通常のログに加えサーバー通信のログを保存したい場合に指定します。</p>

重要： アラームは多くの場合、ビデオ録画と関連付けられています。アラーム情報自体はイベントサーバーに保存されますが、関連するビデオ録画は、ユーザーが表示したいときに関連する監視システムサーバーからフェッチできます。したがって、すべてのアラームからビデオ録画にアクセスできることが不可欠であり、関連カメラからのビデオ録画が、イベントサーバーにアラームを保存する期間以上、関連する監視システムサーバーに保存されるようにする必要があります。

システムのメンテナンス

バックアップおよび復元の設定

設定のバックアップおよび復元について

Sony では、障害時の復旧手段として、使用しているシステム設定（カメラ、スケジュール、ビューなど）のバックアップを定期的にとることを推奨しています。通常、設定が失われることはあまりありませんが、失われる可能性はあります。幸い、1 分程度で既存の設定をバックアップできます。

システム設定のバックアップ

以下では、Sony が、すべての対応オペレーティングシステムで実行中のサーバーのシステムデフォルトの設定パス『175ページ の"デフォルトのファイルパス"参照』（**C:\Program Data\Sony\Sony Surveillance**）をユーザーが変更していないことを前提としています。デフォルトの設定パスを変更した場合、以下に説明する方法を使用するとき、実施した変更を考慮する必要があります。

ここで説明するバックアップは、監視システムのセットアップ全体のバックアップです（ログファイル、イベントおよびの設定、復元ポイント、ビューグループならびに Management Application および Network Video Management System Smart Client の設定を含む）。あるいは、設定をバックアップとしてエクスポート『182ページ の"Management Application 設定のエクスポートとインポート"参照』することも可能ですが、これは Management Application の設定に限られます。

バックアップするには：

1. フォルダ **C:\Program Data\Sony\Sony Surveillance** とそのコンテンツすべてをコピーします。
2. **C:\Program Files\Sony\Sony Surveillance\devices** フォルダを開き、**devices.ini** ファイルが存在することを確認します。ファイルが存在する場合、これをコピーします。特定のタイプのカメラのビデオプロパティを設定している場合、このファイルが存在します。このようなカメラでプロパティを変更すると、カメラ自体ではなくファイルに保存されます。
3. コピーをサーバーから離れたところに保管して、サーバーが損傷を受けたり、盗難やその他の影響を受けたりした場合に喪失しないようにします。

バックアップは、使用しているシステム設定の、バックアップ時のスナップショットです。後で設定を変更した場合、手元にあるバックアップは、最も新しい変更を反映しなくなります。このため、使用しているシステム設定のバックアップを定期的に行います。説明に従って設定をバックアップする場合、バックアップには復元ポイントが含まれます。これにより、バックアップした設定を復元するだけでなく、必要に応じてその設定の前のポイントまで戻ることができます。

システム設定の復元

1. サポート対象オペレーティングシステムが実行されているサーバーでシステムを使用する場合、バックアップされた **Sony Surveillance** フォルダのコンテンツを **C:\Program Data\Sony\Sony Surveillance** にコピーします。

2. **devices.ini** ファイルのバックアップを取った場合、そのファイルを **C:\Program Files\Sony\Sony Surveillance\devices** にコピーします。

アラームおよびマップ設定のバックアップと復元

アラームおよびマップ設定を定期的にバックアップすることが重要です。これを行うには、アラームおよびマップ設定、ならびにアラームのデータを保存している Microsoft® SQL Server Express データベースを取り扱うイベントサーバーをバックアップします。この操作により、発生する可能性がある障害時の復旧手段として、アラームおよびマップ設定を復元することができます。また、バックアップには、SQL Server Express データベースのトランザクションログをフラッシュするという追加の利点もあります。

アラームおよびマップ設定をバックアップ・復元する場合は、必ず以下の順番で実行してください。

前提条件

- **SQL Server Express** でアラーム設定データベースをバックアップまたは復元する場合、**SQL Server Express** データベースの管理者権限が必要です。バックアップまたは復元を完了した後は、SQL Server Express データベースのデータベース所有者権限だけで十分です。
- **Microsoft® SQL Server Management Studio Express**、Microsoft Web サイト <http://www.microsoft.com/downloads> から無料でダウンロードできるツール。SQL Server Express データベースを管理するための多数の機能があり、使いやすいバックアップおよび復元機能が含まれます。既存の監視サーバーおよび将来の監視システムサーバーとなりうるサーバーに、ツールをダウンロードしてインストールします（バックアップおよび復元で必要になります）。

手順 1 : Event Server サービスの停止

設定の変更が行われないように、Event Server サービスを停止します。

1. 監視システムサーバーで、**スタート > コントロールパネル > 管理ツール > サービス**の順にクリックします。
2. イベントサーバーを右クリックして、**停止**をクリックします。

これは、バックアップを作成した時点から、復元する時点までの間に行われたアラーム設定が失われるため、重要な手順となっています。バックアップ後に変更を行った場合は、新しいバックアップを作成する必要があります。Event Server サービスが停止した状態ではシステムはアラームを生成しません。SQL データベースのバックアップが完了した後、必ずサービスを再起動する必要があります。

手順 2 : SQL Server Express データベースへのアラームデータのバックアップ

SQL Server Management Studio Express がない場合は、Microsoft Web サイト

<http://www.microsoft.com/downloads> から無料でダウンロードできます。

1. Windows のスタートメニューで、**すべてのプログラム > Microsoft SQL Server 2008 > SQL Server Management Studio Express** の順に選択して、Microsoft SQL Server Management Studio Express を開きます。
2. ツールが開くと、サーバーへ接続するように求められます。必要な SQL Server の名前を指定して、管理者ユーザーの資格情報で接続します。SQL server の名前を入力する必要はありません。サーバー名フィールド内をクリックして、**<詳細を参照...>**を選択すると、リストから SQL Server を選択できます。
3. 接続すると、ウィンドウの左側にある**オブジェクトエクスプローラ**にツリー構造が表示されます。SQL Server の項目を展開し、次にアラーム設定全体が含まれている**データベース**の項目を展開します。

4. **VIDEOOSDB** データベースを右クリックし、**タスク > バックアップ...**の順に選択します。
5. データベースのバックアップダイアログの**一般**ページで、以下を行います。
 - **ソース**で、選択したデータベースが **VIDEOOSDB** であり、そのバックアップのタイプが**フル**であることを確認します。
 - **保存先**で、バックアップの保存先パスは、自動的に推奨のパスが設定されます。そのパスで良いかどうか確認します。そのパス以外を設定したい場合、推奨されているパスを削除し、選択した別のパスを入力します。
6. データベースのバックアップダイアログの**オプション**ページの**信頼性**で、**終了時にバックアップの確認およびメディアに書き込む前のチェックサムの実行**を選択します。
7. **OK** をクリックすると、バックアップが始まります。バックアップが完了すると、確認が表示されます。
8. Microsoft SQL Server Management Studio Express を終了します。

手順 3 : システムの再インストール

監視ソフトウェアは、マウントしたドライブにはインストールしないでください。マウントしたドライブとは、ドライブ文字の代わりにラベルまたは名前が付いている、NTFS (NT ファイルシステム) ボリュームの空のフォルダにマップされたドライブです。マウントしたドライブを使用すると、重要なシステム機能が想定どおりに作動しないことがあります。たとえば、システムがディスクの空き容量を超えて実行されても、警告が表示されません。

はじめに : 既存の監視ソフトウェアをすべて停止します。

1. インストールファイルを実行します。セキュリティ設定によっては、1 つまたは複数のセキュリティ警告メッセージが表示される場合があります。警告が表示された場合は、**実行**ボタンをクリックします。
2. インストールウィザードが起動したら、インストーラの言語を選択して**続行**をクリックします。
3. システムの評価版のインストールを選択するか、ソフトウェアライセンスファイルの場所を指定します。
4. 使用許諾契約を読んで同意し、**Sony** データ収集プログラムに参加するかどうかを指定します。
5. **標準**または**カスタム**インストールを選択します。**カスタム**インストールを選択した場合、アプリケーション言語、インストールする機能、およびインストール場所を選択できます。インストールウィザードが完了するのを待ちます。

システムの構成を開始できます。「Management Application でのシステムの構成 『32ページ の "Management Application のシステムの構成"参照 』」を参照してください。

手順 4 : SQL Server Express データベースのアラームデータの復元

幸いにも大半のユーザーは、バックアップされたアラームデータを復元する必要がありませんが、必要になった場合、次の手順を実行します。

1. Windows のスタートメニューで、Microsoft SQL Server Management Studio Express を開きます。
2. サーバーに接続します。必要な SQL Server の名前を指定して、データベースを作成した時のユーザーアカウントで接続します。
3. 左側の**オブジェクトエクスプローラー**で、**SQL Server > データベース**を展開し、**VIDEOOSDB** データベースを右クリックしてから、**タスク > 復元 > データベース...**の順に選択します。

4. データベースの復元ダイアログの一般ページの復元のソースで、デバイスからを選択して、フィールドの右にある<詳細を参照...>をクリックします。バックアップの指定ダイアログで、ファイルがバックアップメディアのリストで選択されていることを確認します。追加をクリックします。
5. バックアップファイルを探すダイアログで、バックアップファイル VIDEOOSDB.bak を探して、選択します。次に OK をクリックします。これで、バックアップファイルへのパスは、バックアップの指定ダイアログに一覧表示されています。
6. これで、データベースの復元ダイアログの一般ページに戻ると、復元するバックアップの選択の下にバックアップが一覧表示されています。復元列のチェックボックスを選択して、バックアップが選択されていることを確認します。
7. ここで、データベースの復元ダイアログのオプションページに移動し、既存のデータベースを上書きするを選択します。他のオプションはそのままにして、OK をクリックすると、復元が始まります。復元が完了すると、確認が表示されます。
8. Microsoft SQL Server Management Studio Express を終了します。

注意：データベースが使用中であることを知らせるエラーメッセージが表示される場合は、Microsoft SQL Server Management Studio Express を完全に終了させてから、手順 1～8 を繰り返してください。

手順 5 : Event Server サービスの再起動

復元プロセス中は、Event Server サービスが停止して、完了するまで設定が変更されることを防ぎます。サービスを再起動することを忘れないでください。

1. 監視システムサーバーで、スタート > コントロールパネル > 管理ツール > サービスの順にクリックします。
2. イベントサーバーを右クリックして、開始をクリックします。

SQL Server Express トランザクションログと、それをフラッシュする理由について

システムのアラームデータの変更が発生するたびに、SQL Server はトランザクションログに変更を記録します。トランザクションログは基本的に、SQL Server Express データベースへの変更をロールバックして取り消すことができる機能です。SQL Server はデフォルトで、無期限にトランザクションログを保存するので、トランザクションログは時間の経過とともに、エントリが増え続けます。

SQL Server のトランザクションログはデフォルトで、システムドライブにあり、トランザクションログが増え続けると、Windows が正しく実行できなくなります。したがって、SQL Server のトランザクションログを時々フラッシュすることをお勧めします。フラッシュすること自体で、トランザクションファイルが小さくなることはありませんが、極端に大きくなることはありません。一方、システムでは、SQL Server のトランザクションログは特定の間隔で自動的にフラッシュされません。これは、ユーザーによってニーズが異なるからです。あるユーザーは非常に長い期間、変更を元に戻すことができる状態を保つことを望みますが、別のユーザーにはこのようなニーズはありません。

SQL Server 自体で複数の作業を行って、トランザクションログを切り取り、縮小したりして、トランザクションログのログのサイズが大きくなりないように抑えることができます（このトピックについては、support.microsoft.com <http://support.microsoft.com>へ移動し、SQL Server のトランザクションログを検索すると、多くの記事を確認することができます）。ただし、一般にシステムのデータベースをバックアップする方が良い選択となります。SQL Server のトランザクションログがフラッシュされ、予期せぬ事態が発生した場合にシステムのアラームデータを復元できるようにするためです。

Management Application 設定のエクスポートとインポート

設定のバックアップを取るための安全な手段として、あるいは他の場所で類似の Management Application 設定を使用するためのコピーとして、Management Application の現在の設定をエクスポートすることができます。後から、以前にエクスポートした Management Application 設定をインポートすることができます。

バックアップとして Management Application 設定をエクスポート

このオプションでは、関連するすべての Management Application 設定ファイルが単一の.xml ファイルに結合され、その場所を指定できます。設定に保存していない変更がある場合、設定をエクスポートする際にこれらは自動的に保存されます。

1. ファイルメニューで、**設定のエクスポート - バックアップ**を選択します。
2. エクスポートした設定を保存したい場所を参照し、適切なファイル名を指定し、**保存**をクリックします。

同一バージョンの監視システムを他の場所でセットアップする場合は、設定を**バックアップ**としてエクスポートしないでください。このような操作により、同じデバイス情報が二度使用され、クライアントに以下のエラーメッセージが表示される原因となります。**2 台 (以上) のカメラが同じ名前または ID を使用しているため、アプリケーションが起動できません。** 代わりに、設定を**コピー**としてエクスポートします。コピーとしてエクスポートする場合、たとえ新しいシステムが既存のシステムと同一であったとしても、エクスポートでは物理的に全く同じカメラなどを使用していないという事実が考慮されます。

この Management Application 設定のバックアップと、Sony 監視フォルダで行ったシステム設定のバックアップでは、これら 2 つは別物であるため、違いがあることに注意してください。ここで説明しているバックアップは、Management Application の設定のバックアップに限定されます。Sony 監視フォルダのバックアップを行った場合は、監視システムのセットアップ全体をバックアップします（ログファイル、イベントの設定、復元ポイント、ビューグループならびに Management Application および Network Video Management System Smart Client の設定を含む）。

クローンとして Management Application 設定をエクスポート

このオプションでは、すべての関連する Management Application の設定ファイルが収集されます。GUID (Globally Unique Identifiers、カメラなどの個々のシステムコンポーネントを識別するために使用される一意の 128 ビットの数値) はマークされ、後で置換されます。GUID は、特定のコンポーネント (カメラなど) を参照しているので、マークされて後で置換されます。類似のタイプのカメラを使用する新しい類似のシステムのセットアップで、コピーした設定を使用したい場合でも、新しいシステムはコピーされたシステムと全く同じ物理的なカメラは使用しません。後で新しいシステムでコピーされた設定を使用する場合、GUID は新しいシステムに固有のコンポーネントを表す GUID と置換されます。

置換用に GUID をマークした後、設定ファイルが単一の.xml ファイルに結合され、これを指定の場所に保存することができます。設定に保存していない変更がある場合、設定をエクスポートする際にこれらは自動的に保存されます。

1. ファイルメニューで、**設定のエクスポート - コピー**を選択します。
2. エクスポートした設定を保存したい場所を参照し、適切なファイル名を指定し、**保存**をクリックします。

以前にエクスポートされた Management Application 設定のインポート

Management Application の設定がバックアップとしてエクスポートされたか、コピーとしてエクスポートされたかに関わらず、同じインポート方法を使用します。

1. ファイルメニューで、**設定のインポート**を選択します。
2. 設定をインポートしたい場所を参照し、関連する設定ファイルを選択し、**開く**をクリックします。

3. 設定をインポートしようとしているシステムに、インポートされる設定に存在しないデバイス（例、カメラ）が含まれている場合にだけ関連します。影響を受けるデバイスからの録画の、削除または保持のいずれを希望するかが確認されます。録画を保持したい場合は、影響を受けるデバイスを再度システムに追加するまでは、それらの録画にはアクセスできないことに注意してください。必要なオプションを選択して、**OK** をクリックします。
4. **詳細設定 > サービス**を展開します。
5. Recording Server サービスおよび Image Server サービスのそれぞれに対して、**再起動**ボタンをクリックします。2つのサービスを再起動すると、インポートされた Management Application の設定が適用されます。

復元ポイントからのシステム設定の復元

復元ポイントにより、以前の設定状態に戻すことができます。Management Application で設定の変更を適用するたびに、新しい復元ポイントが作成されます。

復元ポイントは、最新のものから 5 つ前までのものがすべて保存され、再度選択することができます。Management Application を起動するたび、および設定全体を保存するたびに、新しいセッションが開始します。最新の 5 つのセッションより古いセッションについては、各セッションの最後の復元ポイントだけが保存されます。**維持する古いセッションの数**フィールドで、古いセッションをいくつまで保存するかを管理できます。

復元ポイントから設定を復元するよう選択すると、選択した復元ポイントからの設定が適用され、サービスを再起動すると使用されます。

復元ポイントの作成後に新しいカメラやその他のデバイスを追加した場合、復元ポイントをロードするとそれらは失われます。これは、復元ポイントが作成された時点でシステムに存在していなかったためです。このようなケースでは、影響を受けるデバイスからの録画の処理方法を決定するよう通知が表示されます。

1. **ファイルメニュー**で、**復元ポイントからの設定のロード...**を選択します。
2. **復元ポイントダイアログ**の左の部分で、該当する復元ポイントを選択します。
3. **復元ポイントのロード**ボタンをクリックします。
4. 選択した復元ポイントからの設定で、現在の設定を上書きしても構わない場合には、**OK** をクリックします。
5. 現在の設定に、選択した復元ポイントに存在しないカメラやその他のデバイスが含まれている場合のみ該当します。影響を受けるデバイスからの録画の、削除または保持のいずれを希望するかが確認されます。録画を保持する場合は、影響を受けるデバイスを再度システムに追加するまでは、それらの録画にはアクセスできないことに注意してください。関連するオプションを選択し、**OK** をクリックします。
6. 復元ポイントダイアログで **OK** をクリックします。
7. **詳細設定**を展開し、**サービス**を選択します。
8. Recording Server サービスおよび Image Server サービスのそれぞれに対して、**再起動**ボタンをクリックします。2つのサービスを再起動すると、選択した復元ポイントからの設定が適用されます。

注意： 復元ポイントを選択する際に、ダイアログの該当する部分で選択した時点での設定状態に関する情報を確認できます。この情報は、最善の復元ポイントを選択するのに役立ちます。

設定に対する変更のインポート

設定に対する変更のインポートについて

設定に対する変更をインポートすることができます。これは、たとえばある店舗チェーンの各店舗で同じタイプのサーバー、ハードウェアデバイス、カメラを使用する場合など、多数の類似のシステムをインストールする場合に該当します。こうしたケースでは、既存の設定を他のインストール用のテンプレートとして使用することができます。

これらのインストールは完全に同一ではないため（ハードウェアデバイスやカメラは同じタイプであるが、物理的には同一ではないので、MAC アドレスが異なる）、変更を簡単にテンプレート設定にインポートできる方法が必要になります。ハードウェアデバイスやカメラに関する変更を、カンマ区切り値ファイル(CSV)としてインポートすることができます。

段階的なガイドについては設定に対する変更のインポート 『185ページ』、CSV ファイルに含める必要があるフィールドについては、設定に対して変更をインポートするときの CSV ファイルの必須フィールドについて 『184ページ』の"変更を構成にインポートするときに必要な CSV ファイルのフィールドについて"参照』を参照してください。

変更をインポートする場合、ハードウェア検知も行われませんし、ソフトウェアもカメラのハードウェア機能を変更しません。たとえば、PTZ カメラを PTZ 以外のカメラに交換すると、ソフトウェアは引き続き交換されたカメラを PTZ カメラと表示します。

変更を構成にインポートするときに必要な CSV ファイルのフィールドについて

CSV ファイルには、ヘッダー行（以後の行にあるそれぞれの値が何に関するものであるかを決定する）が必要であり、以後の行にはそれぞれ 1 つのハードウェアデバイスに関する情報だけが含まれている必要があります。フィールド名は大文字と小文字を区別するため、以下のように正確にフィールドを記述したことを確認してください。

それぞれのハードウェアデバイスに対して、以下の情報が必要になります。

HardwareOldMacAddress	プロパティが変更されるデバイスを検出するために使用されます。これは必須フィールドであり、CSV ファイルの変更を構成にインポートするために入力する必要があります。
HardwareNewMacAddress	ハードウェアデバイスの新しい IP アドレス。
HardwareAddress	ハードウェアデバイスの IP アドレス。
HardwarePort	ハードウェアデバイスのポート。
HardwareUserName	ハードウェアデバイスの管理者アカウントのユーザー名。
HardwarePassword	ハードウェアデバイスの管理者アカウントのパスワード。
HardwareDriverID	カメラとサーバーがオフラインの場合：追加したいそれぞれのハードウェアデバイスについて、 HardwareDriverID を指定します。 例：ACTi ACD-2100 105 は、ACTi ACD-2100 ハードウェアデバイスを追加する際に、 105 を ID として使用する必要があることを示しています。

変更をインポートするときには、ハードウェアが検出されず、ハードウェア機能を変更されません。たとえば、PTZ 機能がないデバイスで PTZ デバイスを置換すると、新しいデバイスは PTZ デバイスとしてリスト表示されます。

以下は、CSV ファイルに存在する情報に適用されます。

- CSV ファイルの最初の行にはヘッダーが必要であり、以後の行にはそれぞれ 1 つのハードウェアデバイスに関する情報が含む必要があります。
- 区切り記号としてはカンマ、セミコロン、タブが使えますが、混在させることはできません。
- すべての行に有効な値が含まれる必要があります。カメラの名前、ユーザー名や類似のアイテムなどはすべて一意でなければなりません。また、以下の特殊文字が含まれないように注意してください。 < > & ' " ¥ / : * ? | []
- 値の順番は固定ではなく、オプションのパラメータは完全に削除することもできます。

設定に対する変更のインポート

1. メニューバーで、**ファイル > 設定に対する変更のインポート...**の順に選択します。
2. CSV ファイルにリスト化されている新しいハードウェアデバイスやカメラがサーバーに接続されていて、使用できることを確認したい場合は、**オンライン検証**を選択します。
3. CSV ファイルにカーソルを合わせて、**ファイルからの設定のインポート**ボタンをクリックします。

設定に対する変更のインポートについて 『184ページ』も参照してください。

用語集

A

ATM

現金自動預払機 — 個人情報が入コードされたカードを使って、お金を引き出す機械。

AVI

ビデオでよく使用されるファイル形式。この形式のファイルには.avi というファイル拡張子が付いています。

C

CSV

データをテーブル形式で保存するカンマ区切り値によるデータ形式。単純なファイルで、各行がテーブルの行を表し、カンマが列を定義します。たとえば、カメラに関するデータは.csv ファイルのカンマ区切り値として表示され、これをシステムにインポートできます。複数の類似のシステムを設定する場合、これは効率的な方法です。

D

DirectX

高度なマルチメディア機能を提供する Windows の拡張機能。

DNS

Domain Name System（ドメインネームシステム） — アルファベットによるホスト名（例、mycomputer）またはドメイン名（例、www.mydomain.com）および数字による IP アドレス（例、192.168.212.2）の間での変換を可能にするシステム。多くの人にとって、数字による IP アドレスより、アルファベットによる名前の方が覚えやすいようです。

DST

夏時間：夕方の日照時間を長く、朝の日照時間を短くするために、夏季の間は時計を進める制度。

F

FPS

秒当りのフレーム数 — 動画に含まれている情報量を示す測定単位です。各フレームは 1 つの静止画像を表しますが、数多くのフレームを連続して表示することで運動錯視を生じさせ、画像が動いているように見えます。FPS の値が高いほど、より滑らかな動きになります。ただし、FPS が高くなるとビデオを保存したときのファイルサイズも大きくなります。

G

GOP

画像グループ：個別のフレームをグループ化し、動画のシーケンスを形成します。

GUID

グローバル一意識別子（Globally unique identifier） — 一意の 128 ビットの番号であり、Windows システムでコンポーネントを識別するために使用されます。

H

H.264

ビデオデータを圧縮および解凍する際の標準規格（コーデック）です。H.264 は、以前のコーデックより効率的にビデオを圧縮できるコーデックであり、さまざまなネットワーク環境で利用できる柔軟性があります。

I

I/O

入力/出力：コンピュータとユーザー間での通信を意味します。入力とはシステムが受信する信号やデータであり、出力はシステムから送信される信号またはデータです。

Image Server

Network Video Management System Smart Client でリモートユーザーがログインするために、システムへのアクセスを処理するサービスです。

Image Server サービスは、監視システムサーバーのバックグラウンドで動作するので、別個のハードウェアは必要としません。Image Server サービスは、システムの Management Application で設定されているので、個別には設定しません。

IPIX

panomorph 魚眼画像を作成、表示できるテクノロジーです。

I フレーム

イントラフレーム (intra-frame) の略語。デジタルビデオ圧縮の MPEG 規格で使用されます。I フレームは、指定された間隔で保存された 1 つのフレームです。I フレームはカメラのビュー全体を記録しますが、その後のフレーム (P フレーム) は変化したピクセルだけを記録します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。I フレームはキーフレームと類似しています。

J

JPEG

(あるいは JPG) ジョイントフォトグラフィックエキスパートグループ (Joint Photographic Experts Group) は画像の不可逆圧縮方法で、幅広く使用されています。

M

MAC アドレス

メディアアクセスコントロールアドレス (Media Access Control address) — ネットワーク上の各デバイスを一意に識別する 12 文字の 16 進数です。

MJPEG

モーション JPEG (Motion JPEG) — 各フレームが個別に JPEG 画像に圧縮される圧縮ビデオ形式です。使用方法は、MPEG で使用する I フレームに極めて似ていますが、フレーム間予測が使用され

ません。これにより、編集が簡単になり、モーションの量によらず、圧縮することができます。

MPEG

動画専門家集団 (Moving Pictures Experts Group、MPEG) によって開発された、デジタルビデオの圧縮標準とファイル形式。MPEG 標準は不可逆圧縮を使用しており、フレーム間の変化だけを保存し、冗長な情報の多くを除去します。キーフレームでは指定された間隔でカメラのビュー全体を記録しますが、続くフレームは変化したピクセルだけを記録します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。

N

NTLM

Windows ネットワークでは、NT LAN Manager がネットワーク認証プロトコルです。

P

Panomorph

魚眼テクノロジー画像を作成・表示できるようなレンズの種類です。

PIN

個人識別番号 (Personal Identification Number または Personal Identity Number) — ユーザーの識別や認証を行うために使用する数値です。

Ping

IP アドレスが利用できるかどうか決定するコンピュータネットワーク管理ユーティリティ。応答するかどうか見るために少量のデータを送ります。Ping (ピング) という用語は、ソナーの発する音に由来しています。Ping コマンドは、Windows のコマンドプロンプトを使用して送信します。

POS

(あるいは PoS) 販売時点情報管理:たとえばレジなどの、販売が行われる具体的な場所。

PUK

パーソナルアンブロックキー (Personal Unblocking Key) または PIN アンロックキー (PIN Unlock Key) — SIM カード向けの特別なセキュリティ措置として使用される番号。

P フレーム

予測フレーム (Predictive Frame) — デジタルビデオ圧縮の MPEG 標準で、P フレームは I フレームと共に使用されます。I フレームはキーフレームとも呼ばれ、指定した間隔で保存される 1 つのフレームです。I フレームはカメラのビュー全体を記録しますが、その後のフレーム (P フレーム) は変化したピクセルだけを記録します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。

R

Recording Server サービス

ビデオの録画や再生で、システムによって使用される Windows サービス (ユーザーインターフェースなし)。ビデオが監視システムに転送されるのは、Recording Server サービスが実行されている間だけです。

S

SCS

クライアントのコントロールを目的とする種類のスクリプトに使用されるファイル拡張子 (.scs) です。

SIM

加入者識別モジュール (Subscriber Identity Module) — 携帯電話またはコンピュータに挿入される小さいカードに保存される回路または他のモバイル機器。SIM カードは、ユーザーを特定して、認証するのに用いられます。

SMTP

簡易メール転送プロトコル (Simple Mail Transfer Protocol) — メールサーバー間での E メールメッセージ送信の標準化されたプロトコルです。

T

TCP

通信制御プロトコル (Transmission Control Protocol) — ネットワーク上でデータパケットを送信する際に使用するプロトコル (標準) です。TCP は、多くの場合、別のプロトコルである IP (Internet Protocol) と組み合わせて使用されます。この組み合わせを TCP/IP と呼び、ネットワーク上の 2 つのポート間でデータパケットを長時間にわたって送受信することができます。コンピュータとインターネット上にある別のデバイスを接続するためにも使用します。

TCP/IP

通信制御プロトコル/インターネットプロトコル (Transmission Control Protocol/Internet Protocol) — インターネットを含むネットワーク上でコンピュータと他のデバイスを接続する際に使用するプロトコル (標準) の組み合わせです。

Telnet

TCP/IP ネットワークで使用する端末エミュレーションプログラムです。Telnet を使用することで、ネットワークのコンピュータからサーバーに接続し、サーバーに直接入っているかのように、Telnet からコマンドを実行することができます。Windows には、Telnet で使用するクライアントが含まれています。

U

UDP

ユーザーデータグラムプロトコル — ネットワークでデータパケットを送信するための無接続のプロトコルです。主に、メッセージのブロードキャストで使用します。UDP は、たとえば TCP プロトコルと比較してエラーリカバリ機能が少ない、極めて単純なプロトコルです。

UPS

UPS (無停電電源装置) は、電池駆動の第 2 電源として動作し、電源異常が発生した場合に、開いているファイルを保存して安全にシステムの電源を切るために必要な電源を提供します。UPS の仕様はさまざまですが、多数の UPS には、開いているファイルの

自動保存、システム管理者へのアラート発行などを行うソフトウェアが含まれています。

V

VCA

ビデオコンテンツ分析(VCA)は、人間や車両の両方について、事前に指定したさまざまなタイプの動作を検出するシステムです。VCAベースのシステムは、サードパーティ製ビデオコンテンツ分析を提供し、顔認識、先進モーション検知から、複雑な動作分析まで幅広い検知が可能です。VCA システムとその出力は、**アラーム**機能とシームレスに統合することができ、たとえばアラームのトリガなどで使用できます。VCA システムから発生するイベントはアナリティックイベントと呼ばれます。

サードパーティー製の VCA ツールは、Sony オープンプラットフォームに基づいてソリューションを提供する独立系パートナーによって開発されています。これらのソリューションは、システムのパフォーマンスに影響する場合があります。

アクティベーションなしのデバイスの変更

手動ライセンス認証を実行する前に Network Video Management System システムがオフラインの場合に、交換または追加できるハードウェアデバイス数。

アスペクト比

画像の縦横比。

アナリティック イベント

アナリティックイベントは、外部のサードパーティのビデオコンテンツ分析(VCA)プロバイダから受け取ったデータです。VCA ベースのシステムの例として、アクセスコントロールシステムが挙げられます。アナリティックイベントは、**アラーム**機能とシームレスに統合することが可能です。

イベントサーバー

すべてのシステムサーバーから受信するアラームデータやイベントを保存・処理するサーバーです。イベントサーバー機能により、強力なモニタリングが

可能になります。また、アラームやシステム内の技術的な問題について即時の概要表示が提供されます。

ウィザード

すべての関連するパラメータを確実に入力しながら、特定のタスクを迅速に実行することを支援するユーティリティです。たとえば、**[モーション検知の調整]**ウィザードは、重要なパラメータの設定を忘れることなく、システムのそれぞれのカメラのモーション検知を速やかに設定するのに役立ちます。

キーフレーム

デジタルビデオ圧縮の MPEG 標準で使用されます。キーフレームは指定間隔で保存される 1 つのフレームです。キーフレームはカメラのビュー全体を記録しますが、キーフレームに続くフレームは変化したピクセルだけを記録します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。

コーデック

エクスポートされた AVI ファイルなど、音声とビデオデータを圧縮および解凍する技術。よく使用されるコーデックとして、MPEG や Indeo があります。

サブネット

ネットワークの一部。ネットワークをサブネットに分けると、管理とセキュリティ上の理由で有利であり、場合によってはパフォーマンスが改善することもあります。TCP/IP ベースのネットワークで、サブネットは基本的にネットワークの一部であり、すべてのデバイスがその IP アドレスで同じ接頭辞を共有します。たとえば、123.123.123.xxx となり、ここで最初の 3 つの番号(123.123.123)が共有接頭辞です。ネットワーク管理者は、サブネットマスクを使用して、ネットワークをサブネットに分割します。

ジェネリックイベント

システムは、入力を TCP または UDP データパケットの形式で受信および分析することができます。指定された基準に一致する場合、これをイベントの生成で使用できます。このようなイベントは、ジェネリックイベントと呼ばれます。

ソフトウェアライセンスコード (SLC)

ソフトウェアライセンスコード(SLC)は、監視システムソフトウェアを使用するために必要な製品の登録コードです。ソフトウェアライセンスファイルの名前は、ソフトウェアライセンスコード(SLC)に関連付けられています。システム管理者の責任を担っている場合を除き、SLCを扱う必要はありません。システム管理者は、ソフトウェアのインストールおよび登録中にSLCを使用します。

ソフトウェアライセンスファイル

システム用に付与されたすべての権限（基本ライセンスとその他のライセンス）を含むファイル。

ファイルの名前はソフトウェアライセンスコード (SLC) に関連付けられています。

デバイス

Network Video Management System 監視システムで：録画サーバーに接続されているカメラ、ビデオエンコーダー、入力デバイス、出力デバイスなど。

デバイスライセンス

Network Video Management System システムでカメラまたはエンコーダーを実行する権限を付与するライセンス。モバイルデバイスまたはタブレットでビデオプッシュ機能を使用する場合は、デバイスごとにデバイスライセンスが必要です。

デュアル ストリーム

一部のカメラは2つの独立したストリーム（録画サーバーへ送信可能）をサポートしています：一方はライブビュー用であり、他方は再生用です。これらのストリームは、それぞれ独立した解像度・エンコーディング・フレームレート設定を持っています。

ドライバー

デバイスの制御/通信で使用するプログラム。

ハードウェアデバイス

システムにデジタルカメラを追加する場合、カメラ自体だけを追加するのではなく、ハードウェアデバイスを追加します。ハードウェアデバイスには独自

のIPアドレスやホスト名があります。システムはIPベースであるため、主にIPアドレスやホスト名に基づいて装置が認識されます。

各ハードウェアデバイスには独自のIPアドレスやホスト名がありますが、1つのハードウェアデバイスに複数のカメラ、マイクなどが付いている場合は、同じIPアドレスやホスト名を共有していることとなります。これは、ビデオエンコーダーデバイスに複数のカメラが付いている典型的なケースです。

1つのハードウェアデバイスに複数のカメラ、マイク、類似のチャンネルなどが接続されていても、それらを個別に設定して使用することができます。

パンチルトズーム(PTZ)

PTZ（パン/チルト/ズーム）動きと柔軟性に優れたカメラです。

ビデオエンコーダ

多数の接続されているクライアントカメラからビデオストリームを流すことができる、通常はスタンドアロンのデバイス。ビデオエンコーダには、画像デジタイザが含まれており、アナログカメラをネットワークに接続できます。

ビデオサーバー

ビデオエンコーダの別名。

ビデオモーション検知(VMD)

ビデオモーション検知。一連の画像で、画像データや相違点を分析して、シーンのアクティビティを定義する方法。

ビュー

1つまたは複数のカメラからのビデオ群で、Network Video Management System Smart Client で表示します。ビューには、カメラからのビデオに加えて、HTML ページや静止画像などのその他のコンテンツが含まれる場合もあります。

プライバシーマスキング

カメラのビューの選択した領域を配信前に非表示にするかどうかを定義し、非表示にする場合はその方法を定義できる機能。たとえば、カメラがある通りを録画する場合、住民のプライバシーを保護するた

めに、プライバシーマスクを使用して特定の建物(窓やドアなど)の領域を非表示にすることができます。

プリアラーム

プリアラーム画像は、選択したカメラでのみ使用可能な機能です。イベントが発生する直前の画像を、カメラからシステムへEメールで送信することができます。

プリレコーディング

検出したモーションや指定されたイベントの前の期間からの録画を保存する機能。この機能は、システムサーバーにバッファされている受信ビデオに基づいており、モーションやイベントでトリガされる録画が必要になります。

たとえば、ドアが開いている間、ビデオを録画するよう定義した場合に、ドアを開ける直前に発生した状況を確認できるのが重要になる場合があります。

フレームレート

動画に含まれている情報量を示す測定単位であり、通常はFPSで測定します。

プレバッファ

プリレコーディングの説明を参照してください。

ポート

データトラフィックの論理的終点。ネットワークでは、データトラフィックの異なる種類ごとに異なるポートが使用されます。そのため、場合によっては、特定のデータ通信でどのポートを使用するかを指定する必要があります。ほとんどのポートは、通信に含まれるデータの種類に基づいて自動的に使用されます。TCP/IP ネットワークの場合、ポート番号は0から65536ですが、0から1024までは特定用途のために予約されています。たとえば、ポート80はWebページの表示に使用されるHTTPトラフィック用です。

ポーリング

何かの状態を定期的にチェックすること。たとえば、入力デバイスの特定の入力ポートで受信されたかどうかなど。このような状態をチェックするための定義済みの間隔を、しばしばポーリング頻度と呼んでいます。

ホスト

TCP/IP ネットワークに接続されているコンピュータ。ホストには専用のIPアドレスがありますが、ネットワーク設定によっては、識別しやすくするためにホスト名が付いている場合があります。

ポストレコーディング

モーションや指定されたイベントの後の期間から記録を保存できる機能。

システムサーバーにバッファされている受信ビデオに基づいて、モーションやイベントでトリガされる録画が必要になります。

たとえば、ゲートが開いている間、ビデオを録画するよう設定した場合に、ゲートが閉められた直後に発生した状況を確認できるのが重要になる場合があります。

ホットスポット

Network Video Management System Smart Clientで、拡大または高品質で表示されているビデオの特定の位置。

マスター/スレーブ

あるサーバー(マスターサーバー)が、他のサーバー(スレーブサーバー)より重要であるサーバーのセットアップ形態。システムでのマスター/スレーブ設定により、複数の監視システムサーバーを組み合わせ、使用できるカメラの数を単一のサーバーの許容最大数以上に拡大できます。

このような設定でも、クライアントの接点は、1つだけに維持されます。クライアントは、マスターサーバーに接続されますが、スレーブサーバーのカメラや録画にも自動的にアクセスできます。

モニター

1) コンピュータの画面。2) 以前のバージョンのSony - Network Video Management System Smart Clientでビデオの録画や再生を行う際に使用するアプリケーション。モニターアプリケーションは現在は廃止されています。

漢字

画面自動切替

1つのカメラ位置で複数のカメラからのビデオを次々に表示することができる機能です。必要なカメラと切り替えの間隔は、システム管理者が指定します。この画面自動切替機能は、Network Video Management System Smart Clientでのみ使用できます。

管理者

1) システム管理者。2) システムの以前のバージョンの場合：システム管理者が、監視システムサーバーを設定するために使用するメインのアプリケーション。現在は、Management Applicationと呼ばれます。

基本ライセンス

Network Video Management System VMS 製品または Network Video Management System アドオン製品のソフトウェアを使用する権限を付与するライセンス。

記録

IP ビデオ監視システムの場合、記録（録画）とはビデオを保存することを意味し、場合によってはカメラからの音声を監視システムのデータベースへ保存することも意味します。多くの IP 監視システムでは、カメラから受信したビデオと音声のすべてを保存する必要はありません。ビデオと音声のカメラのデータベースへの保存は、多くの場合、モーションが検知された、イベントが発生した、あるいは特定の時刻になったなどの理由がある場合のみ開始されます。そのため、記録は、たとえばモーションが検知されなくなったり、あるイベントが発生したり、期間が終了したときなどに停止されます。元々**記録**とは、録画ボタンを押すまで画像をテープに保存できなかったアナログビデオの用語です。

魚眼

魚眼画像を作成・表示できるようなレンズの種類です。

手動イベント

イベントをクライアントから手動で生成することができます。これらのイベントは手動イベントと呼ばれます。

復元ポイント

復元ポイントにより、以前の設定状態に戻すことができます。システムで設定の変更が適用されると、復元ポイントが作成されます。設定でエラーが生じた場合、復元ポイントを参照して、適切な状態に戻すことができます。

猶予期間

システムをインストールおよび構成し、レコーディングサーバーとカメラを追加すると、ライセンスを認証するまで、異なるデバイスは試用期間で実行されます。この試用期間が猶予期間です。猶予期間が終了するか、システムの動作が停止する前に、ライセンスを認証する必要があります。システムがオンラインの場合、ライセンスは自動的に認証されます。

索引

(

(アラームの) 時間プロファイルの追加 - 166,
167, 168, 171

A

ATM - 186

AVI - 186

C

CSV - 186

CSV ファイルからインポート - 40, 41, 42

D

DirectX - 186

DNS - 186

DST - 186

E

Event Server サービスの開始、停止、再起動 - 148

E メール - 131

E メール (プロパティ) - 125, 131

E メールについて - 131

E メール通知の設定 - 111, 112, 113, 116, 131

F

FPS - 186

G

GOP - 186

GUID - 186

H

H.264 - 186

I

I/O - 186

Image Server - 187

IPIX - 187

I フレーム - 187

J

JPEG - 187

M

MAC アドレス - 187

Management Application でカメラからビデオを
再生する - 36, 37, 50, 51, 91, 94, 95, 98

Management Application のシステムの構成 - 28,
32, 180

Management Application 設定のエクスポートと
インポート - 178, 182

MJPEG - 187

Mobile Server Manager - 159

Mobile Server Manager について - 159

Mobile サーバーの設定 - 154

Mobile サーバーの追加または編集 - 150

Mobile サービスの起動、停止、再起動 - 159, 162

MPEG - 187

N

Network Video Management System
Download Manager - 20, 33

Network Video Management System Smart
Client - 16

Network Video Management System Smart
Client について - 16

Network Video Management System Smart
Client のインストール - 28

Network Video Management System Web
Client - 18

Network Video Management System Web
Client について - 18

Network Video Management System Web
Client へのアクセス - 18, 159

NTLM - 187

NVMS Mobile - 149

NVMS Mobile クライアント - 16

NVMS Mobile クライアントについて - 16

NVMS Mobile サーバーについて - 149

NVMS Mobile で使用する出力の名前について -
153

NVMS Mobile について - 149

NVMS Mobile の概要 - 149

NVMS Mobile を使用するための前提条件 - 149

NVMS Mobile 構成 - 149, 162

P

Panomorph - 187

PIN - 187

Ping - 187

POS - 187

PTZ タイプ 1 および 3 を、必要な位置へ移動する -
67

PTZ デバイス（プロパティ） - 57, 61

PTZ パトロール - 123, 126

PTZ パトロール（プロパティ） - 64, 95, 126

PTZ プリセット位置 - 94, 98

PUK - 188

P フレーム - 188

R

Recording Server Manager - 19

Recording Server サービス - 188

S

SCS - 188

SIM - 188

SMS - 133

SMS について - 133

SMS プロパティ - 134

SMS 通知の設定 - 133

SMTP - 188

T

TCP - 188

TCP/IP - 188

Telnet - 188

U

UDP - 188

UPS - 34, 188

V

VCA - 189

W

Windows ユーザーの追加 - 140, 141, 142, 143,
144

あ

アーカイブ - 120, 122, 124

アーカイブされた録画の再生について - 122

アーカイブスケジュールについて - 120

アーカイブについて - 45, 47, 48, 49, 50, 62,
69, 70, 72, 80, 117, 124, 176

アーカイブに必要なストレージ容量 - 119

- アーカイブの場所について - 118
- アクションについて - 153
- アクティベーションなしのデバイスの変更 - 24, 26, 38, 189
- アクティベーションなしのデバイスの変更数の計算方法 - 24
- アスペクト比 - 189
- アップグレード - 31
- アナリティック イベント - 189
- アナリティックイベント（プロパティ） - 176
- アナリティックイベントに基づくアラームの生成 - 107
- アナリティックイベントの追加 - 102
- アナリティックイベントをテストする(プロパティ) - 109
- アラーム - 165
- アラームおよびマップ設定のバックアップと復元 - 179
- アラームデータ設定 - 169
- アラームについて - 165, 167
- アラームの追加 - 167, 168
- アラームプロパティ - 168
- アラーム定義 - 107, 167, 168, 169, 170
- ある製品バージョンから、別の製品バージョンへのアップグレード - 31, 32
- イベントおよび出力 - 100
- イベントおよび出力について - 100
- イベントおよび出力の概要 - 33, 71, 80, 87, 98, 100, 102, 103, 104, 105, 168
- イベントおよび出力プロパティ - 109
- イベントサーバー - 189
- イベントサーバー設定 - 177
- イベントでの PTZ - 98, 104
- イベントでのハードウェア出力の設定 - 100, 102, 103, 104, 105, 117
- イベントでの出力コントロール（イベントおよび出力固有のプロパティ） - 105, 117
- イベント通知 - 89
- インストールとアップグレード - 28
- ウィザード - 189
- ウイルススキャンについて - 13, 122
- オーディオ・レコーディング（音声記録） - 176
- オプション - 172
- およびマスター/スレーブサーバーについて - 150
- オンライン期間 - 46, 67, 82, 86, 104, 124, 125
- か
- カメラアクセス - 124, 142, 144
- カメラおよびデータベースアクション - 59
- カメラが MPEG コーデックを使用する場合 - 74
- カメラがいつ、何をする必要があるかを設定する - 66
- カメラで MJPEG コーデックを使用する場合 - 72
- カメラとストレージの情報 - 62
- カメラの無効化または削除 - 22, 67
- カメラプロパティ - 82
- カメラ固有のスケジュールプロパティ - 125
- キーフレーム - 189

クライアント - 15

グループ情報 - 142

コーデック - 189

さ

サーバー - 148

サーバーアクセス - 12, 136, 137

サーバーアクセスについて - 136

サーバーアクセスの設定 - 33, 53, 136

サーバーアクセスプロパティ - 137

サーバーステータス - 155

サーバー設定 (E メール) - 132

サーバー設定 (SMS) - 134

サービス - 146

サービスについて - 63, 146

サービスの再起動について - 36

サービスを開始および停止する - 37, 50, 51, 57,
91, 94, 95, 98, 146, 148

サウンド設定 - 169, 171

サブネット - 189

ジェネリックイベント - 104, 114, 189

ジェネリックイベントのテスト - 107, 114

ジェネリックイベントの追加 - 102, 104

ジェネリックイベントプロパティ - 108

システム、イベント、監査ログの設定 - 129

システムコンポーネントの削除について - 31

システムソフトウェアのインストール - 28, 32,
167

システムのメンテナンス - 178

システム概要 - 14

システム設定のバックアップ - 178

システム設定の復元 - 178

スケジューリング - 135

スケジュールオプション - 44, 122, 124, 125,
126

スケジュールおよびアーカイブ - 117

スケジュールについて - 117

スタートページについて - 38

ステータスの表示について - 159, 160, 164

ストレージの設定: (Motion-JPEG カメラ) ライブ
設定および録画設定 - 45

ストレージの設定: H.264/MPEG4 カメラのライブ
設定および録画設定 - 46

ストレージの設定: オンラインスケジュール - 44

ストレージの設定: ドライブの選択 - 47

ストレージの設定: ビデオ設定とプレビュー - 43

ストレージの設定: 録画およびアーカイブの設定 -
49

ストレージの設定ウィザード - 43, 118, 120

ストレージ情報 - 82

スピーカーについて - 55

スピーカープロパティ - 59, 99

スピードアップ - 74, 78, 80, 126

スピードアップフレームレートのプロパティ - 77

すべてのカメラのスケジュール - 122

ソフトウェアとシステムコンポーネント - 14

ソフトウェアライセンスコード (SLC) - 190

ソフトウェアライセンスファイル - 190

た

ダイナミックアーカイブパスについて - 118

ダイナミックパスの選択（プロパティ） - 62, 70, 89, 176

タイマーイベント - 105, 114

タイマーイベントの追加 - 102, 103, 104, 105, 112, 113, 114, 116

タイムサーバーについて - 12, 174

ディスク空き容量が不足した場合の自動応答 - 120

データベースのサイズ変更について - 62

デバイス - 190

デバイスライセンス - 190

デフォルトのファイルパス - 118, 175, 178

デフォルトのファイルパスの変更 - 172

デュアル ストリーム - 190

テンプレートおよび共通プロパティ - 76

ドライバ - 190

トレイアイコンについて - 147, 148

な

ネットワーク、デバイスタイプ、ライセンス - 57, 60

は

ハードウェアデバイス - 55, 190

ハードウェアデバイスについて - 55

ハードウェアデバイスの交換について - 25, 57

ハードウェアデバイスの削除/無効化 - 26, 57, 67

ハードウェアデバイスの接続 - 13, 173

ハードウェアデバイスの設定 - 56, 60, 61

ハードウェアデバイスの追加ウィザード - CSV ファイルからインポート - CSV ファイルの例 - 42

ハードウェアデバイス交換ウィザードについて - 26, 57, 58, 61

ハードウェアの検出と検証 - 41

ハードウェアの追加 : CSV ファイルからインポート - CSV ファイル形式および要件 - 43

ハードウェアの追加 : スキャンオプション - 40

ハードウェアの追加 : スキャン対象のハードウェアのメーカーの選択 - 40

ハードウェアの追加ウィザード - 39, 55

ハードウェアプロパティ - 60

ハードウェア出力 - 112

ハードウェア出力の追加 - 90, 100, 102, 103, 105, 112

ハードウェア入力イベント - 103, 104, 111

ハードウェア入力イベントの追加 - 102, 111

ハードウェア名とビデオ チャンネル - 60

はじめに - 11

バックアップおよび復元の設定 - 178

ハードウェアデバイスの概要 - 23, 25

パフォーマンス - 157

パンチルトズーム(PTZ) - 190

ビデオ - 79, 83, 126

ビデオエンコーダ - 190

ビデオサーバー - 190

ビデオデバイスドライバのインストール - 30

ビデオプッシュ - 156

ビデオプッシュを使用した動画のストリーミングについて - 151

ビデオモーション検知(VMD) - 190

ビデオや録画の設定について - 32, 59, 62, 65, 68, 70, 71, 75, 76, 78, 80, 81, 82, 83, 86, 87, 89, 90, 91, 99, 125

ビデオを流すための「ビデオ・プッシュ」の設定 - 151, 156

ビデオ録画（プロパティ） - 71

ビュー - 190

プライバシーマスキング - 190

プライバシーマスク - 93

プリアラーム - 191

プリレコーディング - 191

フレームレート - 191

フレームレート - MJPEG - 76, 126

フレームレート - MPEG - 78

プレバッファ - 191

ポート - 191

ポートとポーリング - 56, 106, 108

ポート番号の表示/編集 - 159, 162

ポーリング - 191

ホスト - 191

ポストレコーディング - 191

ホスト名の命名について - 11

ホットスポット - 191

ま

マイク - 98

マイク（プロパティ） - 99

マイクについて - 55, 98

マイクまたはスピーカーの設定 - 99

マイクやスピーカーの表示/非表示 - 56, 99

マスター/スレーブ - 138, 191

マスター/スレーブプロパティ - 139

マスターおよびスレーブサーバーの設定 - 33, 139

マスターおよびスレーブについて - 33, 138

マップについて - 166, 167

メッセージ設定（Eメール） - 131, 135

メッセージ設定（SMS） - 134, 135

モーション検知&領域の除外 - 46, 67, 78, 80, 87, 91, 103

モーション検知およびPTZカメラについて - 64, 67

モーション検知について - 63, 67, 91

モーション検知の設定 - 66

モーション検知の調整：モーション検知 - 51

モーション検知の調整：領域の除外 - 51, 67

モーション検知の調整ウィザード - 50

モニター - 191

モニターストレージ容量の使用率 - 36

や

ユーザー - 140

ユーザーアクセスの管理：アクセスの概要 - 54

ユーザーアクセスの管理：基本ユーザーと Windows ユーザー - 54

ユーザーアクセスの管理ウィザード - 33, 53, 142

ユーザーインターフェース - 173

ユーザーおよびグループの権限の設定 - 33, 53,
54, 90, 94, 104, 141, 142

ユーザーグループの追加 - 33, 53, 141, 142,
143, 144

ユーザーについて - 140

ユーザープロパティ - 142

ユーザー情報 - 142

よくある質問(FAQ) - 162

ら

ライセンス - 22, 38

ライセンスについて - 22

ライセンスをオフラインで認証 - 26

ライセンス情報の概要 - 22, 23

ライセンス認証について - 24, 26, 32

ローカル IP 範囲 - 137

ログ - 126

ログについて - 126

ログプロパティ - 129

ログへのアクセスおよびエクスポートについて -
159, 160

ログ設定 - 158

漢字

一般 - 46, 82, 86, 91, 154, 173

一般アクセス - 142, 143, 145

一般的なイベント処理の設定 - 102, 105, 108,
114

一般的なスケジュールおよびアーカイブの設定 -
33, 66, 122, 124

一般的なスケジュールのプロパティ - 122

音声 (プロパティ) - 86

音声のアーカイブについて - 119

音声の録音 - 80

音声選択 (プロパティ) - 81

音声録音について - 55

夏時間について - 12

画面自動切替 - 192

監視サーバーの資格情報の入力/編集 - 159, 161

管理者 - 192

基本ユーザーの追加 - 33, 140, 142, 143, 144

基本ライセンス - 192

記録 - 71, 76, 78, 86, 111, 146, 192

魚眼 - 192

魚眼レンズ (プロパティ) - 93

言語サポートと XML エンコーディング - 138

更新について - 31

高速 - 39, 40

最低限のシステム要件について - 11

使用開始 - 38

時間プロファイル - 171

自動エクスポートルールの追加 - 153

自動デバイス検出について - 172, 173

自動設定ウィザード - 32, 38

自動設定ウィザード : 1 ページ目 - 38

自動設定ウィザード : スキャンオプション - 38

自動設定ウィザード : スキャン後の続き - 39

自動設定ウィザード：スキャン対象のハードウェア
のメーカーの選択 - 38

自動設定ウィザード：ハードウェアデバイスのスキ
ャン - 39

手動 - 40, 41

手動イベント - 113, 192

手動イベントの追加 - 102, 104, 113, 168

手動録画 - 75, 87, 145

重要なポート番号について - 11

出力 - 90, 103

初めての使用 - 32

証明書の編集 - 155, 159, 160

詳細設定 - 38, 55

情報、ドライバーの選択と検証 - 41

新規ハードウェアデバイスの情報 - 58

推奨事例 - 34

接続 - 155

設定 - 173

設定に関する変更の保存について - 35

設定に対する変更のインポート - 184, 185

設定に対する変更のインポートについて - 184,
185

設定のバックアップおよび復元について - 178

専用入力/出力デバイスについて - 56, 109

組み込みヘルプの使用について - 35

著作権、商標、および免責条項 - 10

調査 - 156

調査の設定 - 150

追加ライセンスの取得 - 26

通常のフレームレートのプロパティ - 77

通知 - 130

通知スケジュールについて - 135

通知スケジュールプロパティ - 132, 134, 135

通知について - 104, 130

添付設定（Eメール） - 132

登録済みサービスについて - 136

特定カメラスケジュールの構成 - 33, 64, 66, 123,
125, 126

入力および出力について - 100

復元ポイント - 192

復元ポイントからのシステム設定の復元 - 35,
183

分析種目のテスト - 109

変更を構成にインポートするときに必要な CSV フ
ァイルのフィールドについて - 184

猶予期間 - 192

録画およびアーカイブのパス（プロパティ） - 68

録画およびアーカイブパス - 87, 175

録画およびストレージのプロパティ - 68

録画データベースの破損からの保護について - 34